

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
学びのセーフティーネット機能の充実強化
高等専修学校の機能高度化に関する調査研究
成果報告書

2024 年 3 月

MIZUHO みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

本報告書は、文部科学省の教育推進事業委託費による委託事業として、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が実施した令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業 学びのセーフティネット機能の充実強化（高等専修学校の機能高度化に関する調査研究）」の成果をとりまとめたものです。

目次

1. 事業の趣旨・目的.....	1
2. 高等専修学校の実態把握に係る文献調査.....	2
2.1. 高等専修学校とは.....	2
2.2. 高等専修学校の現状.....	2
2.3. 高等専修学校の特色.....	2
2.4. 高等専修学校の認知度に係る課題.....	3
3. 高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度の調査.....	4
3.1. アンケート調査の実施概要.....	4
3.2. 中学校教員向けのアンケート調査票の配付先の選定の考え方.....	5
3.3. 中学校教員のアンケート調査結果.....	8
3.4. 中学生のアンケート調査結果.....	31
3.5. 中学生保護者のアンケート調査結果.....	53
3.6. 一般のアンケート調査結果.....	75
3.7. アンケート調査結果のまとめ.....	88
4. 高等専修学校の認知度向上策および振興に係る施策の調査・検討.....	101
4.1. アンケート調査.....	101
4.2. インタビュー調査.....	105
4.3. インタビュー調査結果.....	107
4.3.1. 学校法人豊野学園 豊野高等専修学校.....	108
4.3.2. 学校法人日本芸術学園 日本芸術高等学園.....	112
4.3.3. 学校法人栗原学園 北見商科高等専修学校.....	116
4.3.4. 学校法人星生学園 佐賀星生学園.....	119
4.3.5. 東京学芸大学 伊藤 秀樹 准教授.....	122
4.3.6. 全国高等専修学校協会／学校法人武蔵野東学園 武蔵野東高等専修学校 ...	125
4.3.7. 学校法人郡山学院 郡山学院高等専修学校.....	129
4.3.8. 札幌大谷大学 山田 千春 教授.....	132
4.3.9. 学校法人苫小牧学園 苫小牧高等商業学校.....	136
4.3.10. 学校法人有朋学園 有朋高等学院.....	139
4.4. 認知度向上策および振興に係る施策の検討.....	142
4.4.1. 認知度向上.....	142
4.4.2. 教育の質向上.....	146
4.4.3. 経済的支援.....	150
参考文献.....	153
付録.....	155
付録1 アンケート調査票（中学校教員向け）.....	155

付録 2	アンケート調査票（中学生向け）	162
付録 3	アンケート調査票（中学生保護者向け）	168
付録 4	アンケート調査票（一般向け）	174
付録 5	インタビュー調査票（高等専修学校の関係者向け）	179
付録 6	インタビュー調査票（有識者向け）	182

1. 事業の趣旨・目的

産業や社会構造の変化、グローバル化等が進む中で、経済社会の一層の発展を期するためには、経済再生の先導役となる産業分野の雇用拡大や人材移動を円滑に進めるとともに、日本再生・地域再生を担う中核的役割を果たす専門人材の養成が必要不可欠である。

こうした中、高等専修学校は、実践的な職業教育・専門技術教育に加えて、不登校・中途退学、発達障害など様々な困難を抱える生徒の自立支援等にも積極的に対応しており、中学校卒業後の生徒に多様な教育の選択肢を与え、後期中等教育における重要な役割を果たしている。このような高等専修学校の役割に対する正しい理解を促進し、学習者の適切な学習機会選択に資するためにも、広く周知を図ることが重要である。

一方で、高等専修学校の認知度は非常に低く、生徒数、学校数が年々減少しており、近い将来に学びのセーフティネット機能を十分に果たせなくなるとの懸念が生じている。

本事業では、全国の中学校等に対して高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度を調査するとともに、高等専修学校の認知度向上策、高等専修学校の振興に関する施策の検討を行った。

2. 高等専修学校の実態把握に係る文献調査

高等専修学校の実態、認知度、振興施策に関する現状と課題を文献調査およびデスクトップ調査により把握し、整理した。

2.1. 高等専修学校とは

- 「専修学校」は、「職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ること」を目的として、昭和 51 年に創設された学校種であり、学校教育法第 124 条に定められている。専修学校の課程の一つとして、「高等課程（高等専修学校）」は中学校卒業程度の生徒を入学者の対象としており、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として、多様な教育を行っている。
- 高等専修学校を卒業することで、「大学入学資格付与」や「技能連携」の制度の活用により、大学等の高等教育機関に進学することも可能。
- 教科・授業の内容は学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムとなっており、専門科目を通して職業に直結する専門的な知識を学びつつ、普通科目を通して社会人として必要となる基礎知識を学ぶことになる。
- 卒業後は、半数以上が関係分野を中心に就職、残りの約半数が大学や専門学校等へ進学している。
- 高等学校と同様に、高等専修学校の生徒も「高等学校等就学支援金」や「高校生等奨学給付金」等の国による経済的な支援制度を受けることができる。

2.2. 高等専修学校の現状

- 2022 年の高等専修学校（専修学校高等課程）の数は 396 校であり、内訳は国立が 1 校、公立が 6 校で、私立が 389 校と全体の 98.2%を占める。
- 生徒数は 33,634 人であり、少子化を背景にこの 10 年減少基調にある。
- 入学者数は 13,436 人で、うち私立が 98.8%を占める。修業年限別の学科分類では 522 学科中、5 割を超える 292 学科（55.9%）が 3 年制以上である。
- 分野別では「商業実務」（7,871 人）と「医療」（7,117 人）がそれぞれ 7 千人台の生徒数を集め、この 2 分野で全生徒数の 44.6%を占めている。前年よりプラス成長になったのは「商業実務」以外では、「文化・教養」「農業」「教育・社会福祉」の 3 分野であり、特に「文化・教養」（6,406 人）は 6 年連続で増加し、今年度は 6 千人台を記録。10 年間で 2 倍近く成長し、分野内の占有率も 19.0%と 2 割に迫っている。

2.3. 高等専修学校の特徴

- 「工業」「農業」「医療」「衛生」「教育・社会福祉」「商業実務」「服飾・家政」「文化・教養」の 8 つの分野から、興味のある専門分野を学ぶことができる。また、仕事に活かすことのできる様々な資格を取得することができる。

- 小・中学校時代に不登校を経験した生徒も学校生活をリスタートできるよう、様々な配慮がされている。多様な専門科目を設けることで、生徒は自分の希望や適性に合った専門知識・技術の習得に取り組むことができる。また、多くの高等専修学校で、カウンセラー資格・経験を持つ教員が生徒の生活・学習をサポートするなど、柔軟な対応を心がけている。
- 高等専修学校には発達障害や身体障害など、支援が必要な生徒も多く通っている。教員は少人数クラスでの個別指導や、学習指導要領に縛られない自由なカリキュラムを実施することで、支援が必要な生徒を広く受け入れる高等専修学校も多数あり、インクルーシブ教育や就労支援を通して、自立した生活のためのサポートを行っている。これらのことから、学びのセーフティネット機能としての重要な役割を担っている。
- 学習指導要領にとらわれない自由なカリキュラムにもとづいて、エンターテインメント系（演劇、音楽、ダンス等）やクリエイター系（デザイン、プログラミング、マンガ等）、語学・国際系（通訳、翻訳等）の授業が充実している高等専修学校も多く、才能や高い技術力が求められる職業に結びつく学びがある。

2.4. 高等専修学校の認知度に係る課題

- 中学校関係者（教員、保護者、生徒）、大学・専門学校等関係者、企業等をはじめとして、世の中一般に高等専修学校の社会的役割に対する正しい理解が不足しており、社会認知度は低いままであるのが実状である。
- 大学受験の推薦入試・AO入試などにおいても、高等専修学校の生徒には受験の機会が与えられないケースが一部に見られるなど、依然として高等学校との格差が解消されていない。
- 高校卒業資格が取得できるという観点から競合関係にあるといえる高等学校の通信制の拡大により、全国の高等専修学校の多くの学校で入学者が減少している傾向があり、近い将来に学びのセーフティネット機能を十分に果たせなくなるのではとの懸念が生じている。

3. 高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度の調査

3.1. アンケート調査の実施概要

高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度の現状について把握するために、一般の人および全国の中学校関係者を対象に可能な限り幅広くアンケート調査を行った。

表 3-1 に、アンケート調査の実施概要を示す。

表 3-1 アンケート調査の実施概要

項目	内容
調査名	高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度の調査
調査目的	一般の人（可能な限り幅広く）および全国の中学校関係者（教員、生徒、保護者）における、高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度を調査し、整理する。
調査対象・方法	<QR コード郵送> ・中学校教員 399 名 ※全国の高等専修学校が所在する市区町村から 2,001 校をランダムに抽出して QR コードを郵送、回収率 19.9% <Web モニター調査> ・中学生 1,076 名 ・中学生保護者 1,076 名 ・一般 1,117 名 合計 3,269 名
実施期間	2023 年 12 月 4 日～2024 年 1 月 15 日

3.2. 中学校教員向けのアンケート調査票の配付先の選定の考え方

中学校教員向けのアンケート調査票の配付先 2,001 校（全国の高等専修学校が所在する市区町村からランダムに抽出）の選定の考え方を以下に示す。

(1) 高等専修学校が所在する市区町村の中学校等の学校数

高等専修学校が所在する市区町村の中学校等の学校数は、表 3-2 の通りである。

表 3-2 高等専修学校が所在する市区町村の中学校等の学校数

	国立	公立	私立	小計	合計	
中学校	25	2,039	272	2,336	4,266	
	24	1,667	239	1,930		
中等教育学校 (中・高)	1	11	2	14	29	
	2	8	5	15		
義務教育学校 (小・中)	2	25	0	27	66	
	2	37	0	39		
特別支援学校 (中学部)	16	251	6	273	517	
	15	229	0	244		
小計	44	2,326	280	2,650	4,878	上段：東日本
	43	1,941	244	2,228		下段：西日本
合計	87	4,267	524	4,878		

(出所)

- ・文部科学省 学校コード (R5.5.1)

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

- ・(一社)全国障害学生支援センター 特別支援学校一覧

<https://www.nscsd.jp/Information/School/TokubetsuShienGakko.aspx>

(2) 学校種、設置区分ごとの割合

学校種、設置区分ごとの割合（ $B=A/\text{学校総数}(4,878)$ ）は、表 3-3 の通りである。

表 3-3 学校種、設置区分ごとの割合

	国立	公立	私立	小計	合計	
中学校	0.005	0.418	0.056	0.479	0.875	
	0.005	0.342	0.049	0.396		
中等教育学校 (中・高)	0.000	0.002	0.000	0.003	0.006	
	0.000	0.002	0.001	0.003		
義務教育学校 (小・中)	0.000	0.005	0.000	0.006	0.014	
	0.000	0.008	0.000	0.008		
特別支援学校 (中学部)	0.003	0.051	0.001	0.056	0.106	
	0.003	0.047	0.000	0.050		
小計	0.009	0.477	0.057	0.543	1.000	上段：東日本
	0.009	0.398	0.050	0.457		下段：西日本
合計	0.018	0.875	0.107	1.000		

(3) サンプルングした場合の学校数

サンプルングした場合の学校数（ $C=\text{サンプル数}(2,000) \times B$ ）は、表 3-4 の通りである。

ここで、サンプル数を 2,000 校とした理由は、全国中学校への個別の調査票の郵送作業は全て手作業になることから、過去の類似調査の経験にもとづいて実現可能（現実的）な最大限の発送数を 2,000 校程度と判断した。

表 3-4 サンプルングした場合の学校数

	国立	公立	私立	小計	合計	
中学校	10	836	112	958	1,749	
	10	683	98	791		
中等教育学校 (中・高)	1	5	1	7	13	
	1	3	2	6		
義務教育学校 (小・中)	1	10	0	11	27	
	1	15	0	16		
特別支援学校 (中学部)	7	103	2	112	212	
	6	94	0	100		
小計	19	954	115	1,087	2,001	上段：東日本
	18	796	100	914		下段：西日本
合計	37	1,749	215	2,001		

(4) アンケート配布先の中学校のサンプリングの考え方

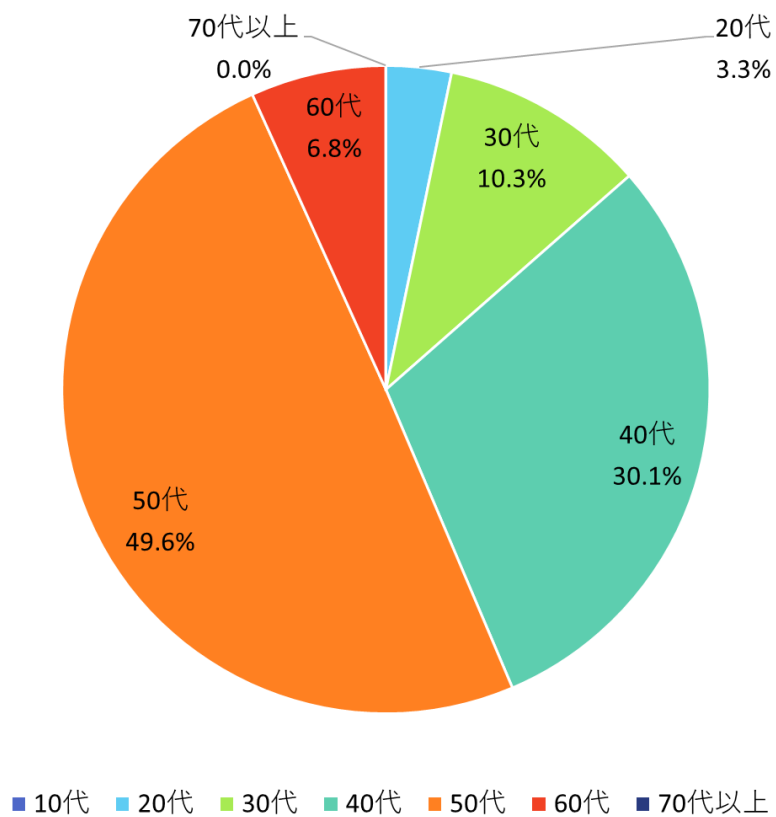
文部科学省 学校コード (R5.5.1) 一覧から、市区町村ごとに上記の学校数だけランダムにサンプリングした。ここで、黒囲み内の各セルごとに少なくとも 1 校はサンプリングすることとした (0 校の場合⇒1 校)。ただし、(A)で 0 校のセルはサンプリング 0 校とした。

3.3. 中学校教員のアンケート調査結果

【中学校教員】Q1. 年代について教えてください。

- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 代以上

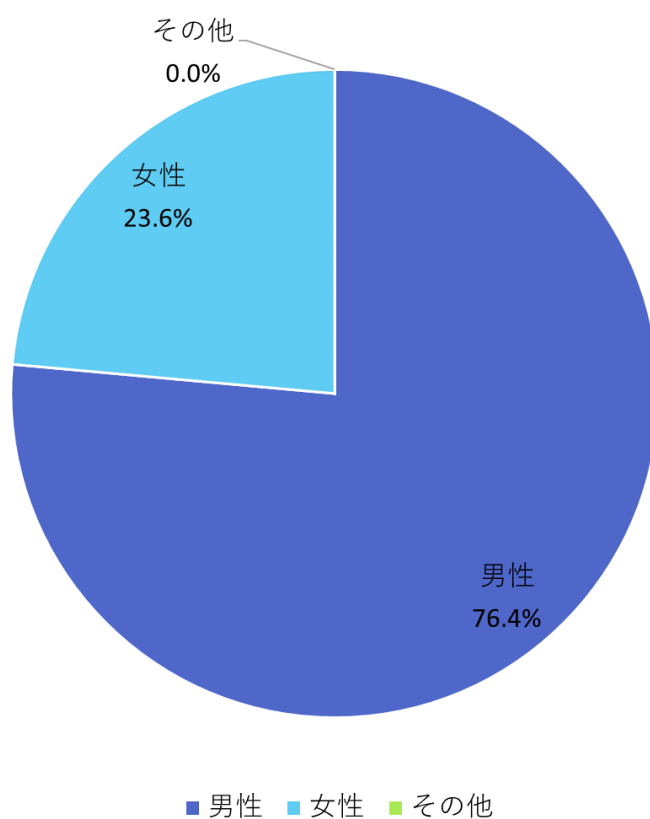
年代	実数	割合
10代		
20代	13	3.3%
30代	41	10.3%
40代	120	30.1%
50代	198	49.6%
60代	27	6.8%
70代以上	0	0.0%
全体	399	100.0%



【中学校教員】Q2. 性別について教えてください。

- ☐ 男性
☐ 女性
☐ その他

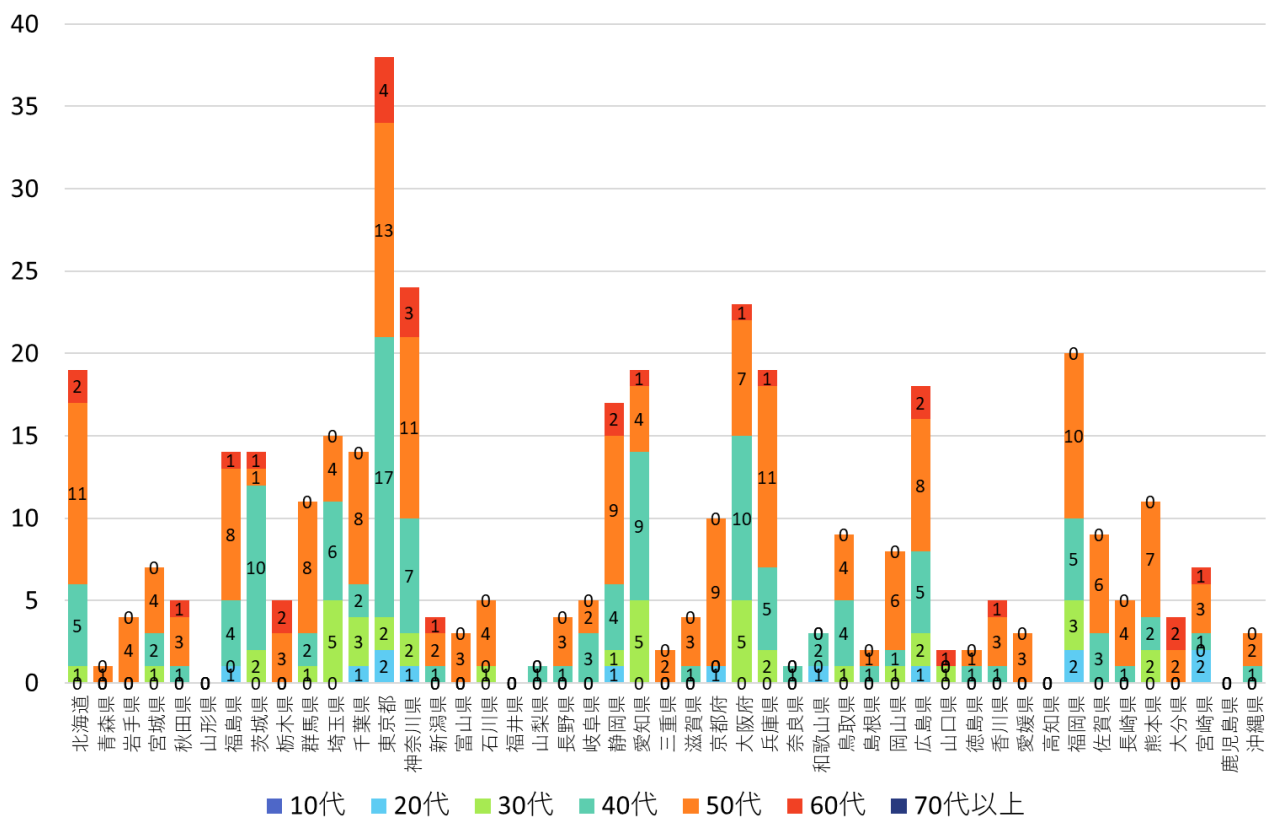
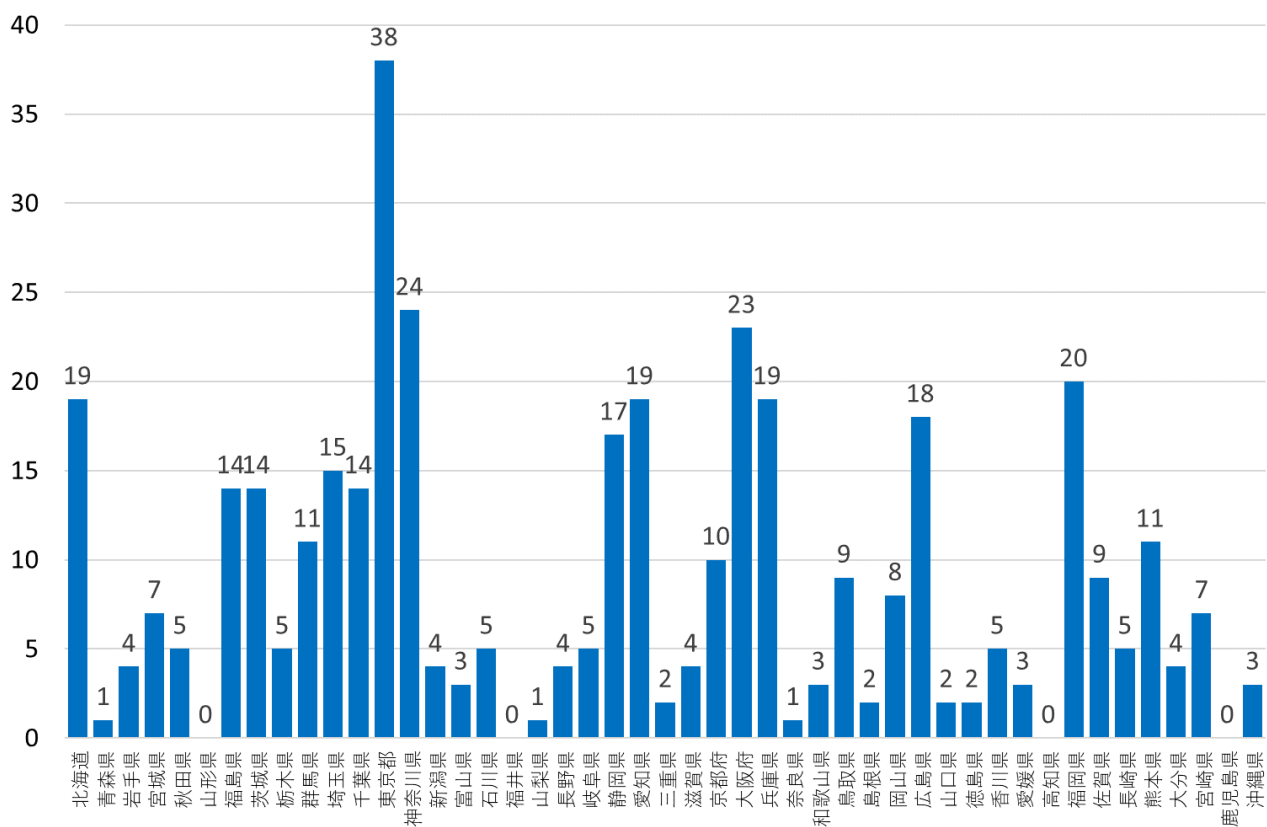
性別	実数	割合
男性	305	76.4%
女性	94	23.6%
その他	0	0.0%
全体	399	100.0%



【中学校教員】Q3. 勤務校の都道府県について教えてください。

☐北海道、☐青森県、☐岩手県、☐宮城県、☐秋田県、☐山形県、☐福島県、☐茨城県、☐栃木県、
☐群馬県、☐埼玉県、☐千葉県、☐東京都、☐神奈川県、☐新潟県、☐富山県、☐石川県、☐福井県、
☐山梨県、☐長野県、☐岐阜県、☐静岡県、☐愛知県、☐三重県、☐滋賀県、☐京都府、☐大阪府、
☐兵庫県、☐奈良県、☐和歌山県、☐鳥取県、☐島根県、☐岡山県、☐広島県、☐山口県、☐徳島県、
☐香川県、☐愛媛県、☐高知県、☐福岡県、☐佐賀県、☐長崎県、☐熊本県、☐大分県、☐宮崎県、
☐鹿児島県、☐沖縄県

No.	都道府県	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体	割合
1	北海道		0	1	5	11	2	0	19	4.8%
2	青森県		0	0	0	1	0	0	1	0.3%
3	岩手県		0	0	0	4	0	0	4	1.0%
4	宮城県		0	1	2	4	0	0	7	1.8%
5	秋田県		0	0	1	3	1	0	5	1.3%
6	山形県		0	0	0	0	0	0	0	0.0%
7	福島県		1	0	4	8	1	0	14	3.5%
8	茨城県		0	2	10	1	1	0	14	3.5%
9	栃木県		0	0	0	3	2	0	5	1.3%
10	群馬県		0	1	2	8	0	0	11	2.8%
11	埼玉県		0	5	6	4	0	0	15	3.8%
12	千葉県		1	3	2	8	0	0	14	3.5%
13	東京都		2	2	17	13	4	0	38	9.5%
14	神奈川県		1	2	7	11	3	0	24	6.0%
15	新潟県		0	0	1	2	1	0	4	1.0%
16	富山県		0	0	0	3	0	0	3	0.8%
17	石川県		0	1	0	4	0	0	5	1.3%
18	福井県		0	0	0	0	0	0	0	0.0%
19	山梨県		0	0	1	0	0	0	1	0.3%
20	長野県		0	0	1	3	0	0	4	1.0%
21	岐阜県		0	0	3	2	0	0	5	1.3%
22	静岡県		1	1	4	9	2	0	17	4.3%
23	愛知県		0	5	9	4	1	0	19	4.8%
24	三重県		0	0	0	2	0	0	2	0.5%
25	滋賀県		0	0	1	3	0	0	4	1.0%
26	京都府		1	0	0	9	0	0	10	2.5%
27	大阪府		0	5	10	7	1	0	23	5.8%
28	兵庫県		0	2	5	11	1	0	19	4.8%
29	奈良県		0	0	1	0	0	0	1	0.3%
30	和歌山県		1	0	2	0	0	0	3	0.8%
31	鳥取県		0	1	4	4	0	0	9	2.3%
32	島根県		0	0	1	1	0	0	2	0.5%
33	岡山県		0	1	1	6	0	0	8	2.0%
34	広島県		1	2	5	8	2	0	18	4.5%
35	山口県		0	1	0	0	1	0	2	0.5%
36	徳島県		0	0	1	1	0	0	2	0.5%
37	香川県		0	0	1	3	1	0	5	1.3%
38	愛媛県		0	0	0	3	0	0	3	0.8%
39	高知県		0	0	0	0	0	0	0	0.0%
40	福岡県		2	3	5	10	0	0	20	5.0%
41	佐賀県		0	0	3	6	0	0	9	2.3%
42	長崎県		0	0	1	4	0	0	5	1.3%
43	熊本県		0	2	2	7	0	0	11	2.8%
44	大分県		0	0	0	2	2	0	4	1.0%
45	宮崎県		2	0	1	3	1	0	7	1.8%
46	鹿児島県		0	0	0	0	0	0	0	0.0%
47	沖縄県		0	0	1	2	0	0	3	0.8%
	全体		13	41	120	198	27	0	399	100.0%



【中学校教員】Q4. 生徒の進路について検討する際に、どのような方法で情報収集をしていますか。
 <複数回答可>

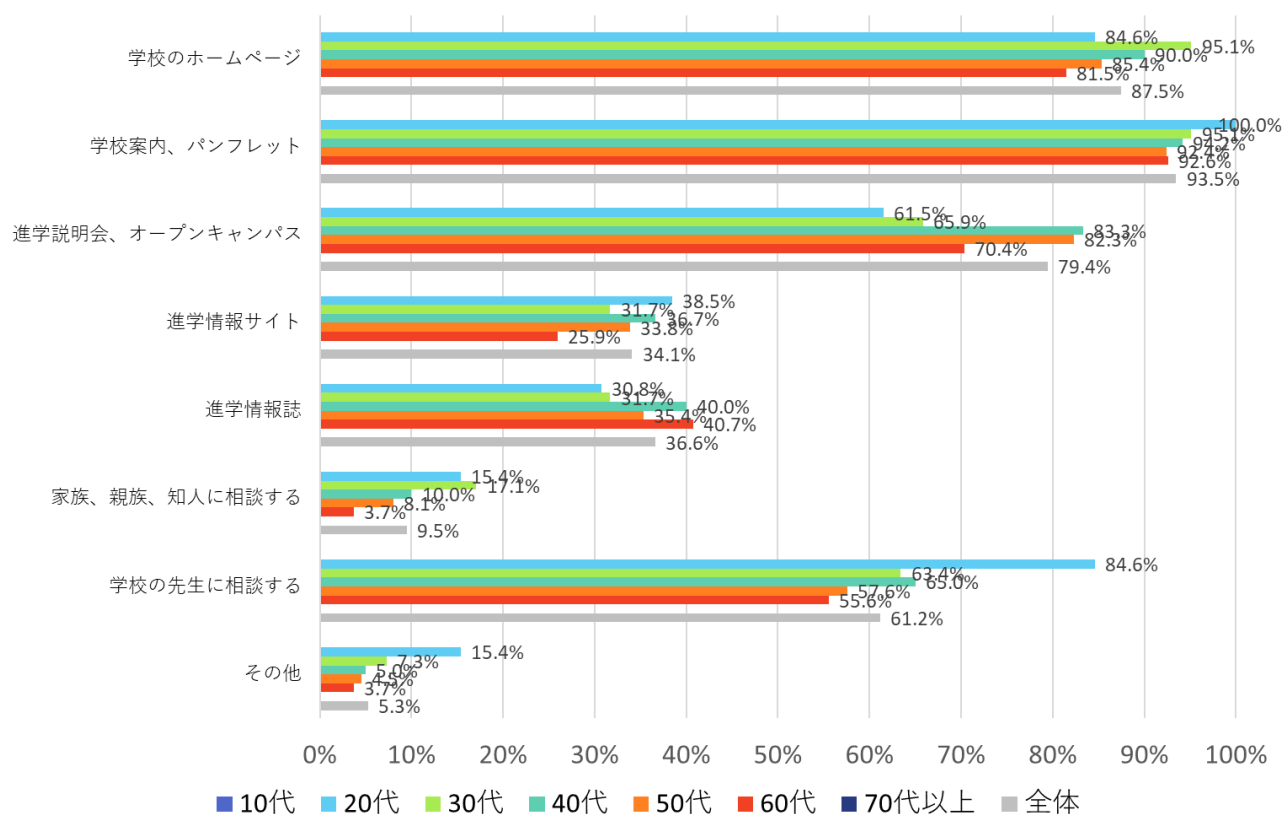
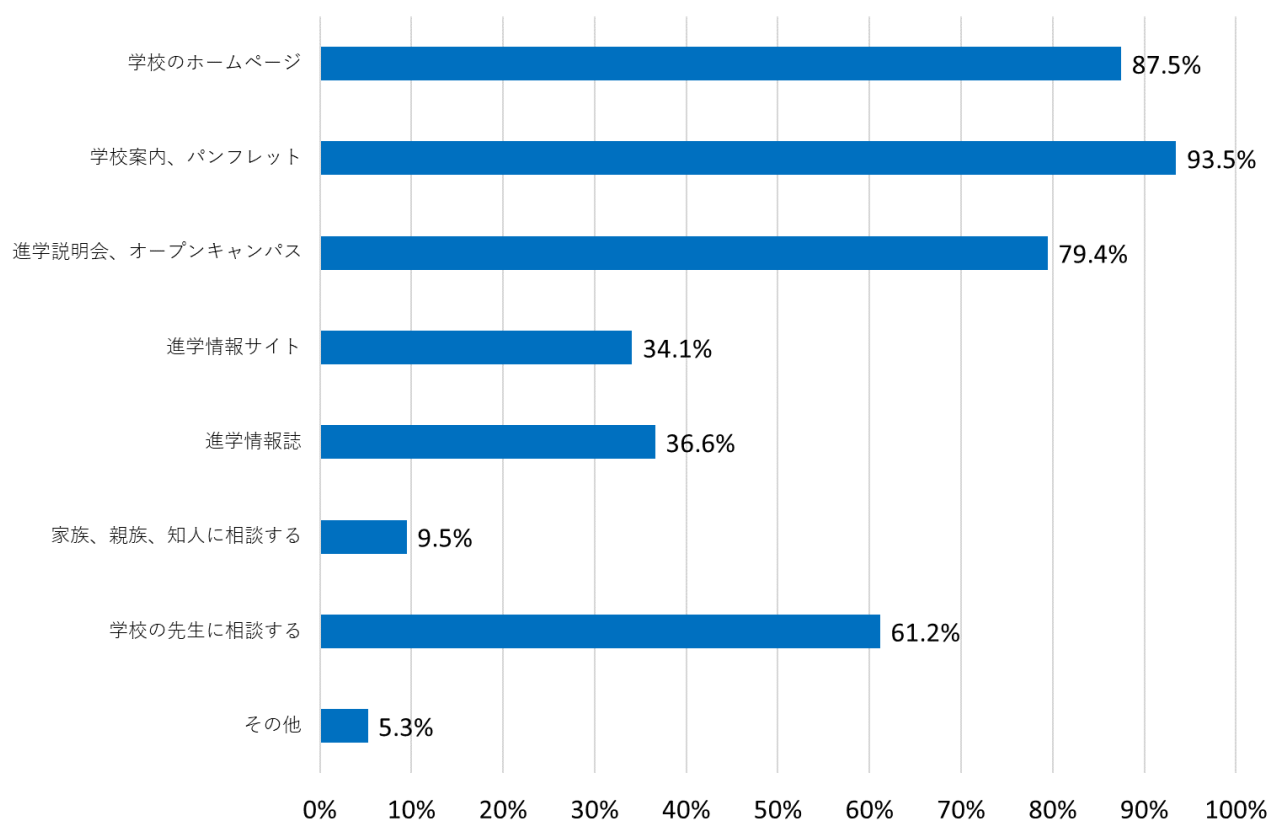
- ☐ 学校のホームページ
☐ 学校案内、パンフレット
☐ 進学説明会、オープンキャンパス
☐ 進学情報サイト
☐ 進学情報誌
☐ 家族、親族、知人に相談する
☐ 同僚の先生に相談する
☐ その他【自由記述】（

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校のホームページ		11	39	108	169	22	0	349
学校案内、パンフレット		13	39	113	183	25	0	373
進学説明会、オープンキャンパス		8	27	100	163	19	0	317
進学情報サイト		5	13	44	67	7	0	136
進学情報誌		4	13	48	70	11	0	146
家族、親族、知人に相談する		2	7	12	16	1	0	38
学校の先生に相談する		11	26	78	114	15	0	244
その他		2	3	6	9	1	0	21

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校のホームページ		84.6%	95.1%	90.0%	85.4%	81.5%		87.5%
学校案内、パンフレット		100.0%	95.1%	94.2%	92.4%	92.6%		93.5%
進学説明会、オープンキャンパス		61.5%	65.9%	83.3%	82.3%	70.4%		79.4%
進学情報サイト		38.5%	31.7%	36.7%	33.8%	25.9%		34.1%
進学情報誌		30.8%	31.7%	40.0%	35.4%	40.7%		36.6%
家族、親族、知人に相談する		15.4%	17.1%	10.0%	8.1%	3.7%		9.5%
学校の先生に相談する		84.6%	63.4%	65.0%	57.6%	55.6%		61.2%
その他		15.4%	7.3%	5.0%	4.5%	3.7%		5.3%

その他（自由記述）

- ・教育委員会のホームページ、県のホームページ・資料。
- ・高校の先生との情報交換。高校等の訪問による説明。直接見学させていただく。
- ・進学に関する職員会議。進路指導資料。
- ・生徒・保護者に確認。
- ・卒業生からの情報。

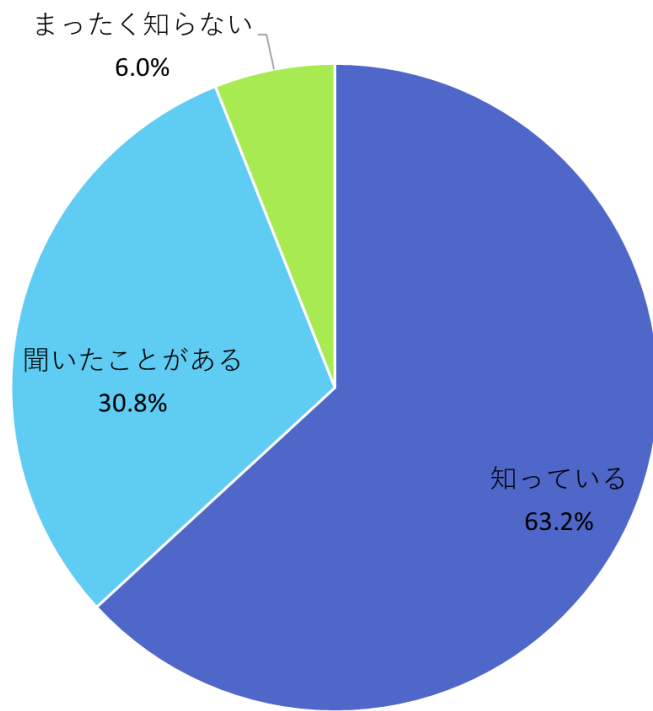


【中学校教員】Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

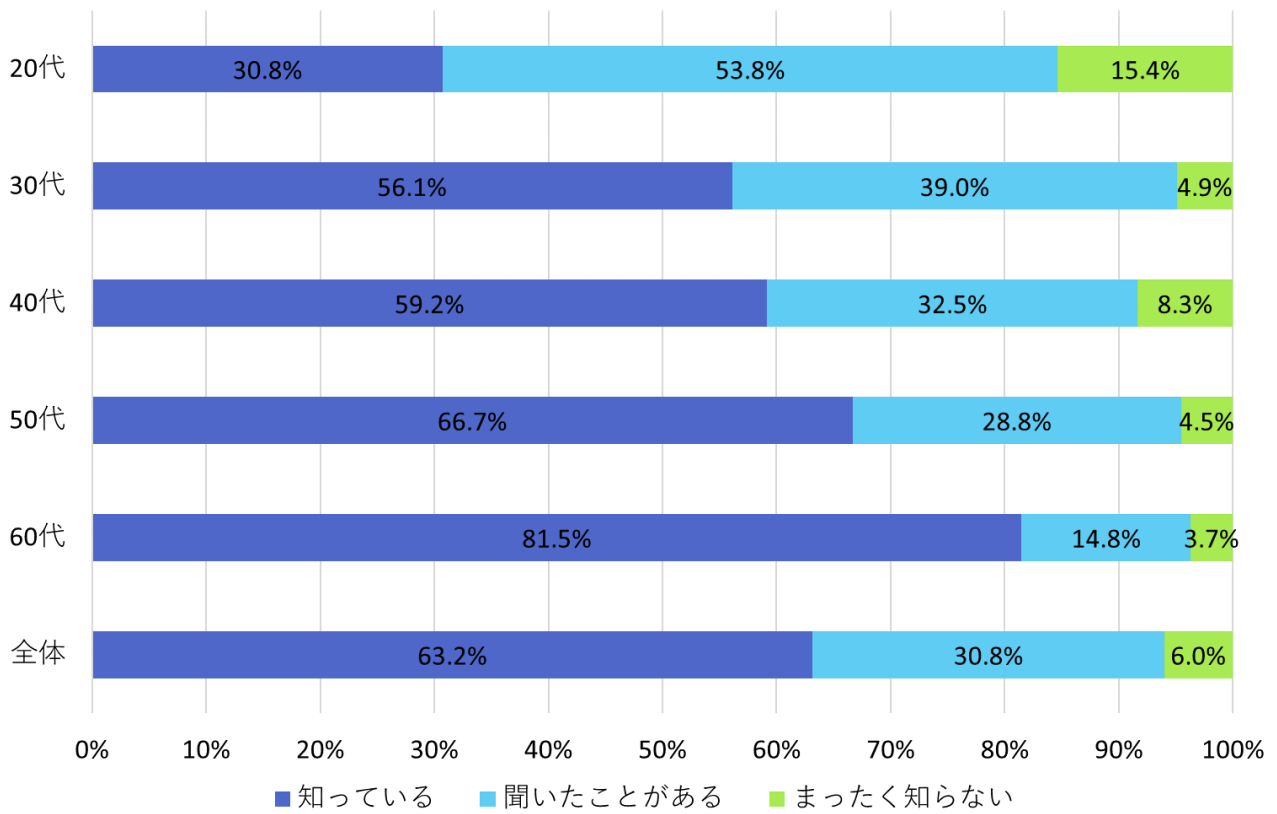
- ☐知っている
☐聞いたことがある
☐まったく知らない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
知っている		4	23	71	132	22	0	252
聞いたことがある		7	16	39	57	4	0	123
まったく知らない		2	2	10	9	1	0	24
全体		13	41	120	198	27	0	399

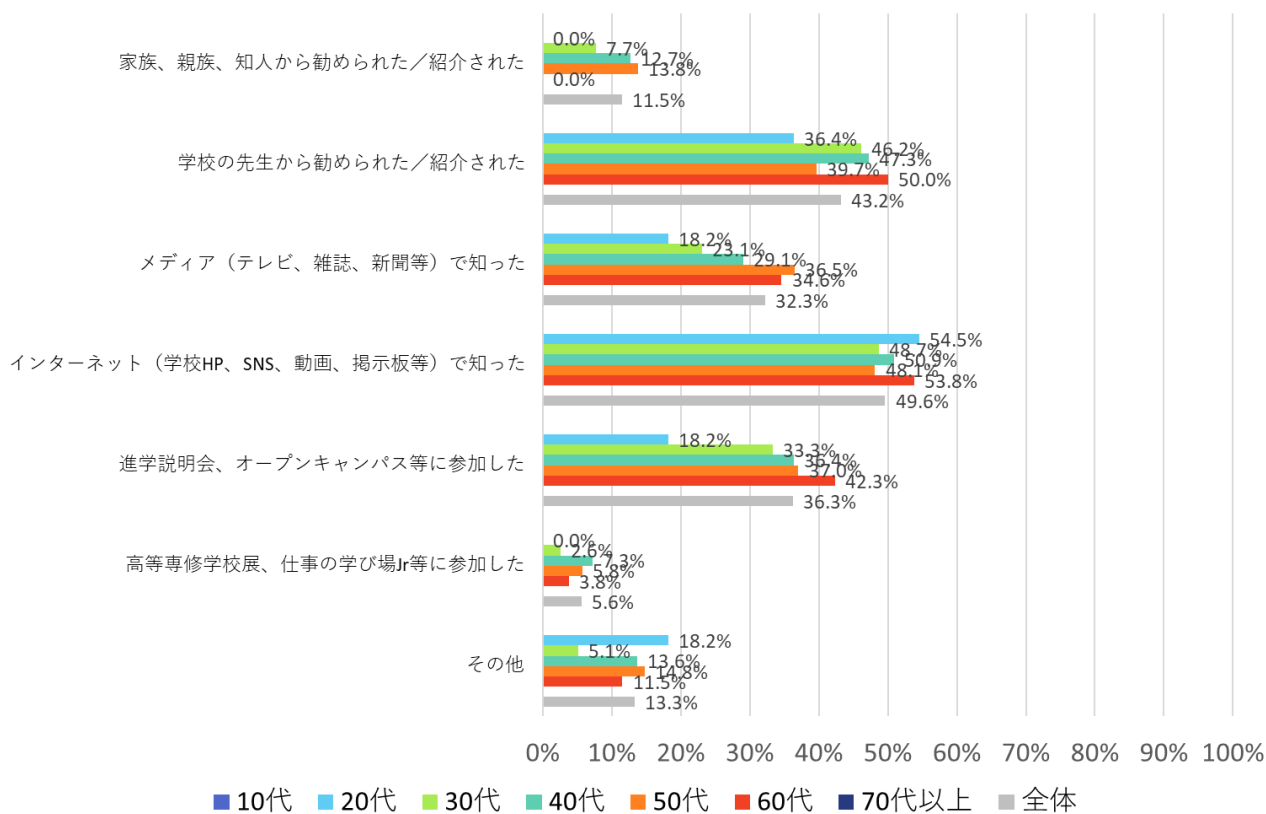
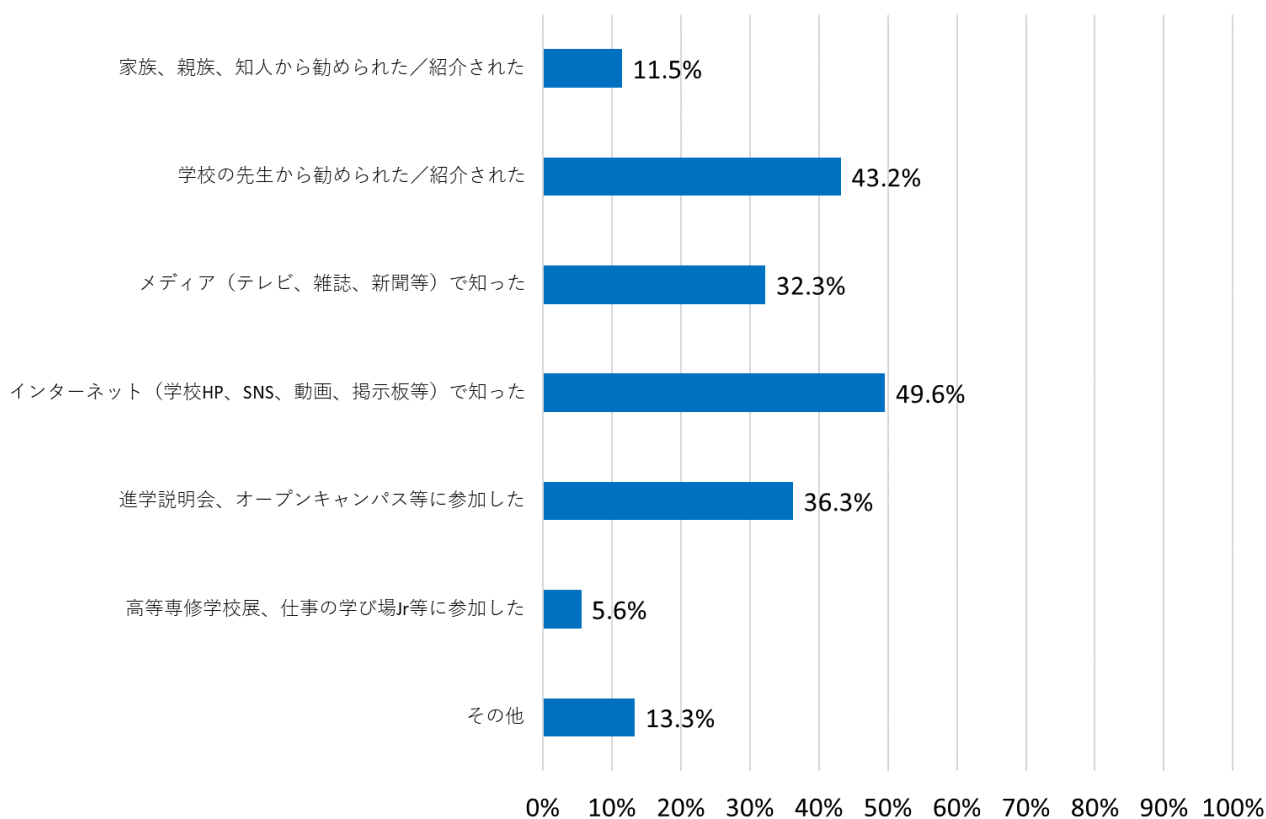
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
知っている		30.8%	56.1%	59.2%	66.7%	81.5%		63.2%
聞いたことがある		53.8%	39.0%	32.5%	28.8%	14.8%		30.8%
まったく知らない		15.4%	4.9%	8.3%	4.5%	3.7%		6.0%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ まったく知らない



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ まったく知らない



【中学校教員】Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。
 <複数回答可>

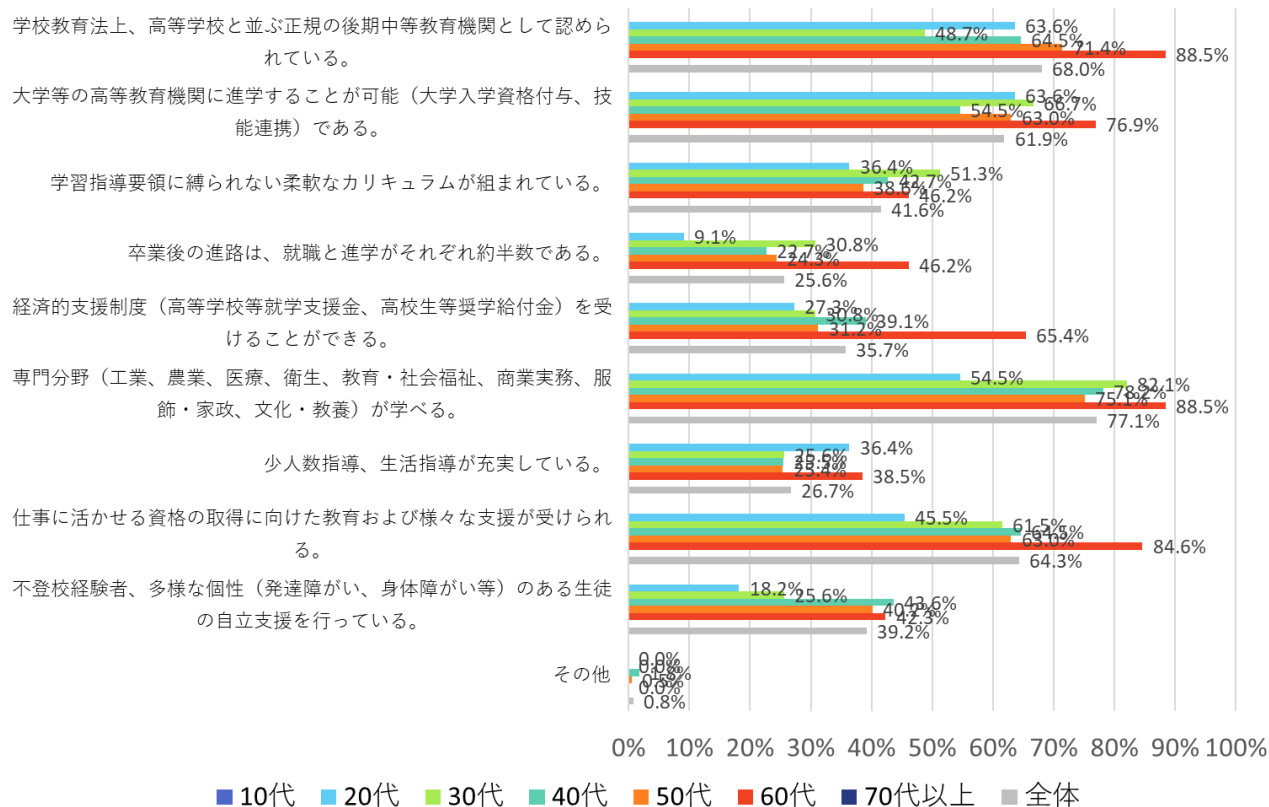
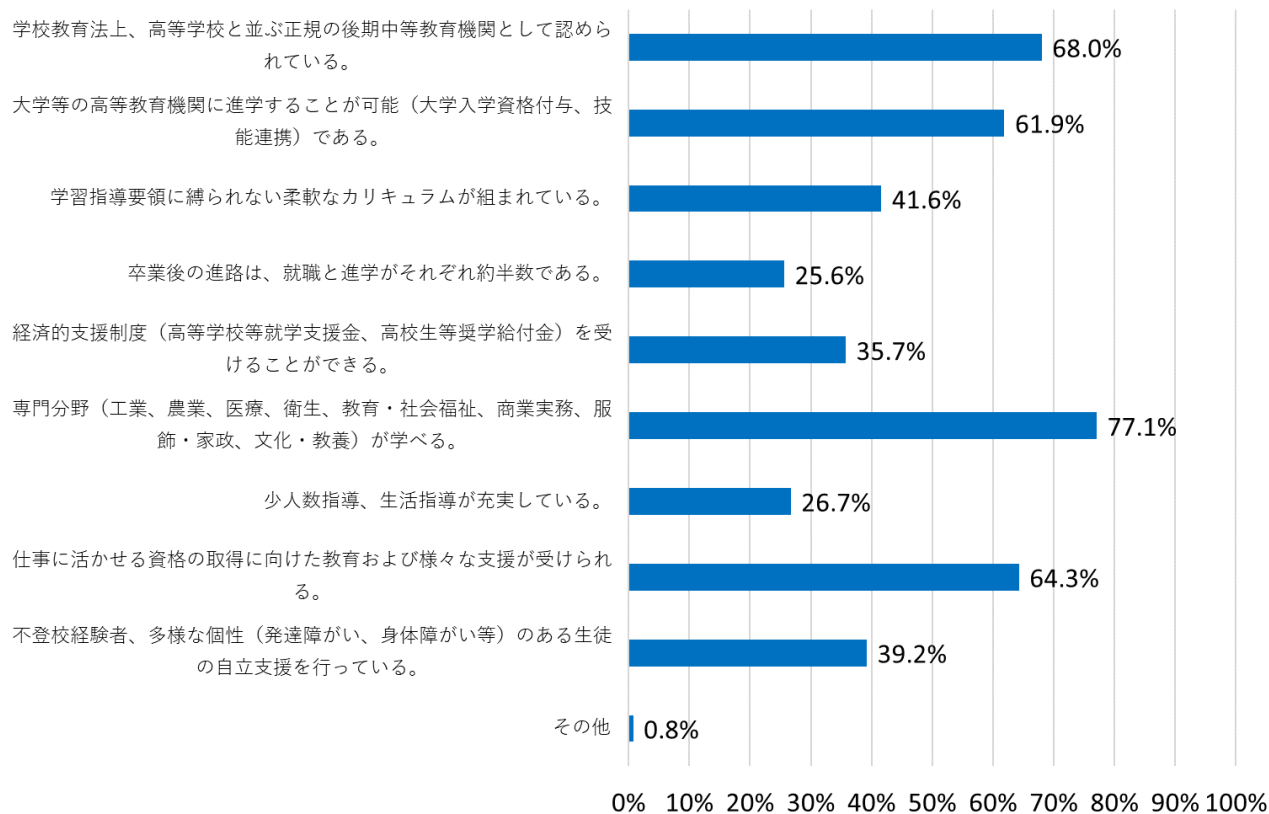
- ☐ 学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
☐ 大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。
☐ 学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
☐ 卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
☐ 経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。
☐ 専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
☐ 少人数指導、生活指導が充実している。
☐ 仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
☐ 不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
☐ その他【自由記述】（ ）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。		7	19	71	135	23	0	255
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。		7	26	60	119	20	0	232
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。		4	20	47	73	12	0	156
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。		1	12	25	46	12	0	96
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。		3	12	43	59	17	0	134
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。		6	32	86	142	23	0	289
少人数指導、生活指導が充実している。		4	10	28	48	10	0	100
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。		5	24	71	119	22	0	241
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。		2	10	48	76	11	0	147
その他		0	0	2	1	0	0	3

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。		63.6%	48.7%	64.5%	71.4%	88.5%		68.0%
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。		63.6%	66.7%	54.5%	63.0%	76.9%		61.9%
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。		36.4%	51.3%	42.7%	38.6%	46.2%		41.6%
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。		9.1%	30.8%	22.7%	24.3%	46.2%		25.6%
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。		27.3%	30.8%	39.1%	31.2%	65.4%		35.7%
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。		54.5%	82.1%	78.2%	75.1%	88.5%		77.1%
少人数指導、生活指導が充実している。		36.4%	25.6%	25.5%	25.4%	38.5%		26.7%
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。		45.5%	61.5%	64.5%	63.0%	84.6%		64.3%
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。		18.2%	25.6%	43.6%	40.2%	42.3%		39.2%
その他		0.0%	0.0%	1.8%	0.5%	0.0%		0.8%

その他（自由記述）

・名前程度しか知らない。



【中学校教員】Q8. 高等専修学校のイメージについて教えてください。

☐ 【自由記述】（ ）

肯定的な回答

高校の卒業資格が得られる、就職のために多様な技能を学べる、進路選択の幅が広がる、専門的な学び、専門性が高い、専門分野の授業が多い、興味関心を活かした学習、多様な学び、やりたいことが明確になり頑張っている生徒がいる学校、目的を持った生徒が多い、第一希望で受験する生徒が多くなってきた、目的意識を持った生徒が進学する、学習に躓きがあった生徒にも手厚く指導してくれる、職業教育に特化した学校、社会に出て自立するために大きな役割を担っている、技能を身につける、個別支援が厚い、面倒をよく見てくれる、きめ細かい、丁寧な指導、高卒の資格を取りながら手に職をつけられる、高等学校と専門学校の間、資格が取れる、就職に強い、自分の長所を活かせる、柔軟な学びが可能、生徒が自分の未来を掴める学校、生徒を大切にしてくれる、多くの人が知らないだけでとても充実した進路先、多様な生徒の対応をしてくれる、中学校で控えめに過ごしていた生徒が輝く場所、必要な制度、不登校生徒への支援

否定的な回答

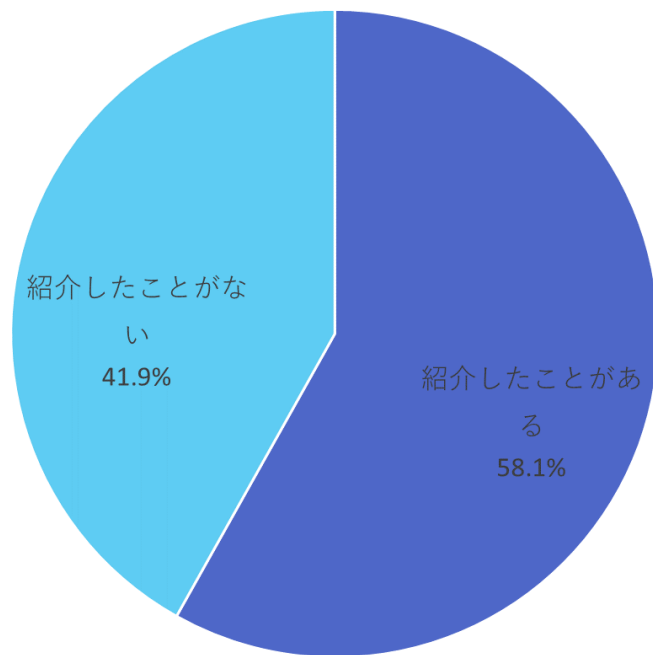
知識がない、イメージがわからない、馴染みがない、高等学校に進学できない生徒が考える進路選択というイメージなので積極的に生徒に薦めたことはない、認知度が低い、保護者などの認知度が低い、具体的な学校名が出てこない、進路指導の前面に出てこない、教え子が進学したことがない、高等学校に進学できない生徒が考える進路選択、不登校生徒が通う、学校数が少ない、専門学校というイメージ、専門学校と勘違いしやすい、普通科に行くことができない生徒のための学校、ダブルスクールで学費が高い、自分の県には無い、数が少ない、マイナスイメージが強い、学力に自信のない子が行く、高等専門学校と理解がごちゃごちゃ、特別支援学級の生徒の進学先の一つ、中学校からはほとんど進学がない、近くに選択肢が少ない、カリキュラムがあいまい

【中学校教員】Q9-1. 生徒に高等専修学校を進学先として紹介したことがありますか。

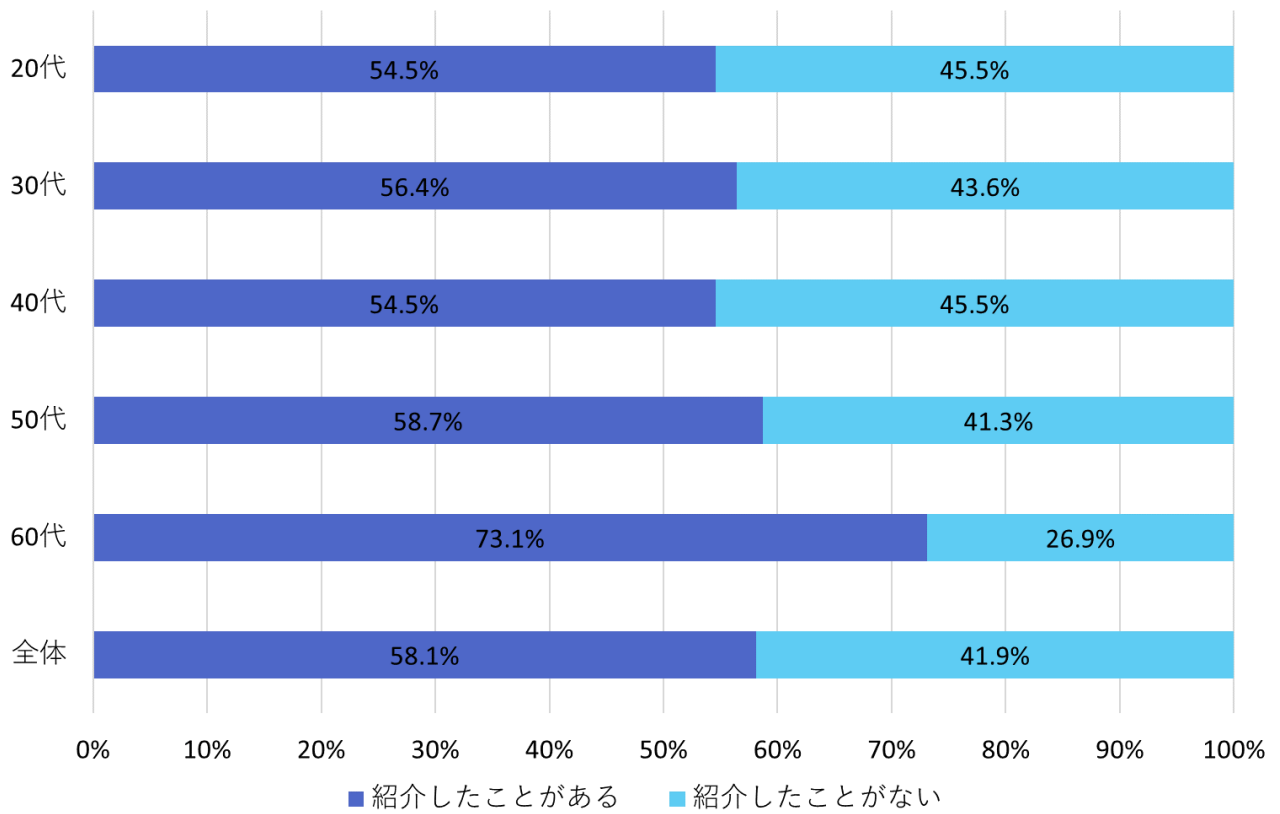
- ☐ 紹介したことがある
☐ 紹介したことがない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
紹介したことがある		6	22	60	111	19	0	218
紹介したことがない		5	17	50	78	7	0	157
全体		11	39	110	189	26	0	375

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
紹介したことがある		54.5%	56.4%	54.5%	58.7%	73.1%		58.1%
紹介したことがない		45.5%	43.6%	45.5%	41.3%	26.9%		41.9%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%



■ 紹介したことがある ■ 紹介したことがない



【中学校教員】Q9-2. 進学先として「紹介したことがある／紹介したことがない」理由について教えてください。

☐ 【自由記述】 ()

紹介したことがある理由

高等学校への進学が難しかった、生徒や保護者が希望した、学びたいことが高等学校になかった、登校に不安があった、進路の選択肢の一つとして伝えたかった、生徒の目標が明確であった、合っていると思った、徒歩で通えそうと考えた、学び直しをしたいと言ってきた、必要な進路だった、学校の校風が合っていると思った、その生徒の希望に合っている、その生徒の進路希望に適していた、その生徒の特性に合っている、やりたいことがはっきりしている、個別の学びが充実、手に職が就く、先生方の面倒見が良い、多くの資格取得が可能、進路が豊富、学びの方向や個性に合った環境だった、生徒の将来像に合っていると思う、生徒自身の将来のビジョンが明確だった、専門性が魅力的、発達に特性がある生徒だったが調理師になる夢があった、不登校生徒の対応

高等学校に進学できない学力の生徒に薦めたことがある、公立・私立の高等学校を志望する生徒がほとんどなのでなかなか機会はない、内申点が低く進学する学校がなかった

紹介したことがない理由

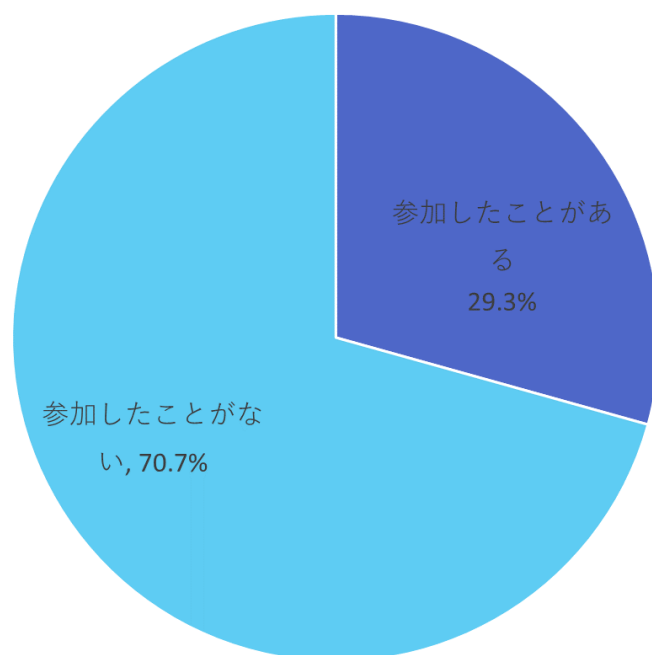
これまで希望した生徒がいなかった、あまり身近ではない、ニーズが無い、学校全体として情報を持っていない、よくわからない、詳しく知らない、遠い、近隣にない、地元でない、希望しない、高等学校への進学を希望する、特定の学校を紹介することはない、志望者がいなかった、情報がない、世間的に認知度が一般的ではない、学校から率先して紹介するものではない、通信制または単位制の高校へ進学する生徒がほとんど

【中学校教員】Q10. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等に参加したことがありますか。

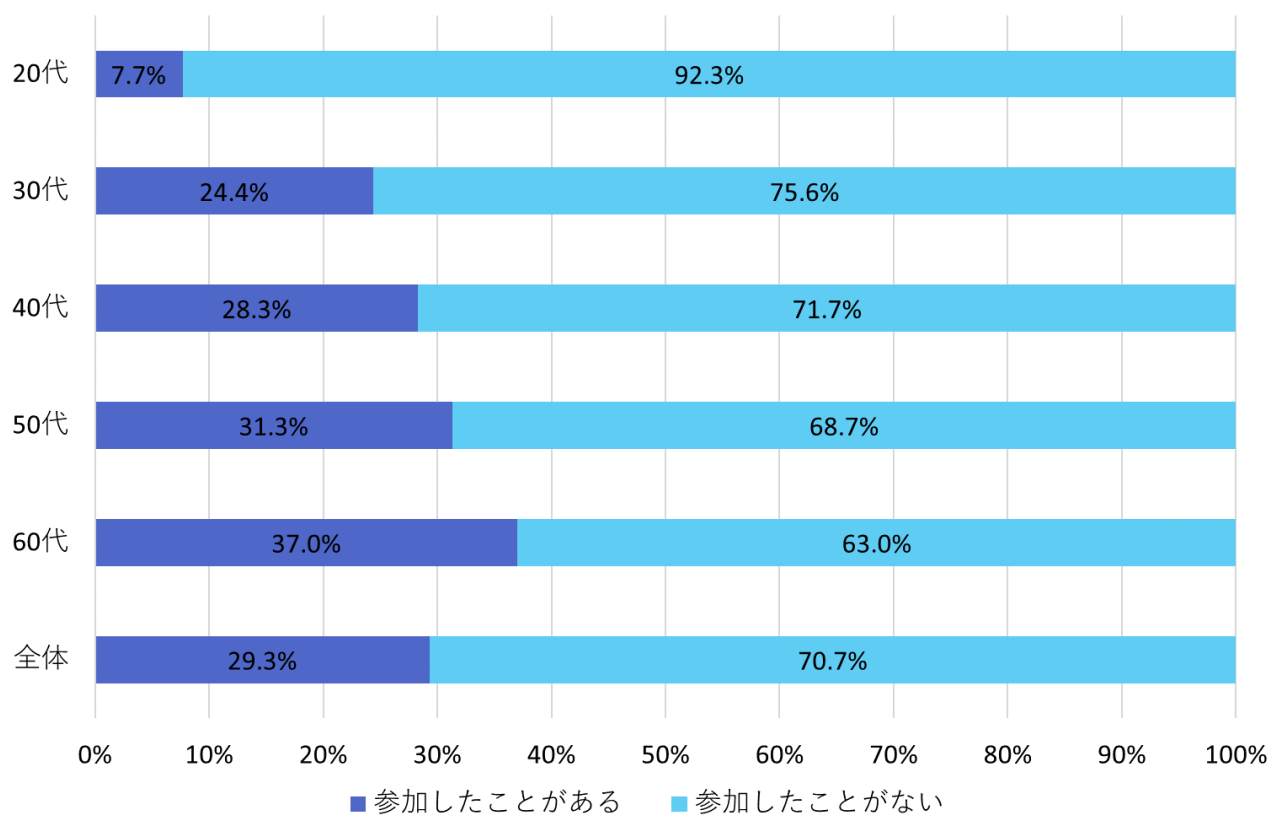
- ☐ 参加したことがある
☐ 参加したことがない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
参加したことがある		1	10	34	62	10	0	117
参加したことがない		12	31	86	136	17	0	282
全体		13	41	120	198	27	0	399

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
参加したことがある		7.7%	24.4%	28.3%	31.3%	37.0%		29.3%
参加したことがない		92.3%	75.6%	71.7%	68.7%	63.0%		70.7%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%



■ 参加したことがある ■ 参加したことがない



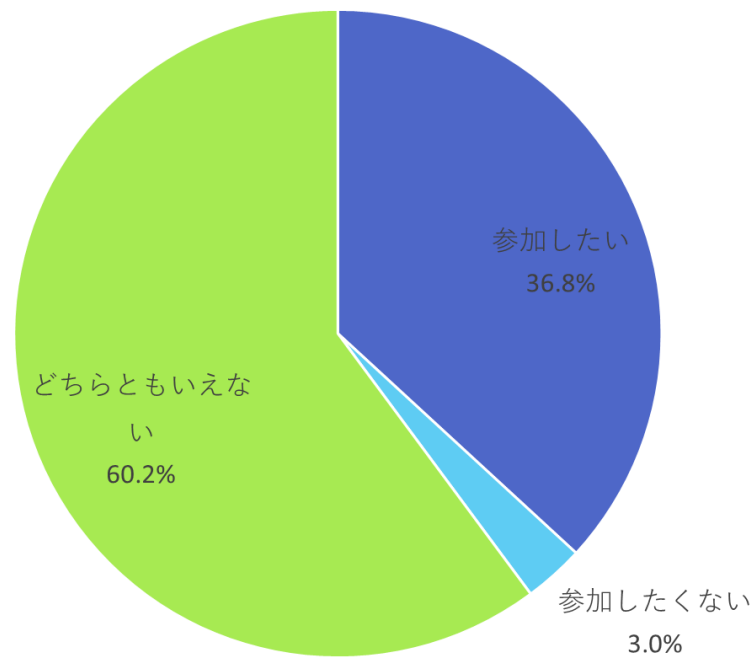
■ 参加したことがある ■ 参加したことがない

【中学校教員】Q11. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等の機会があれば参加したいですか。

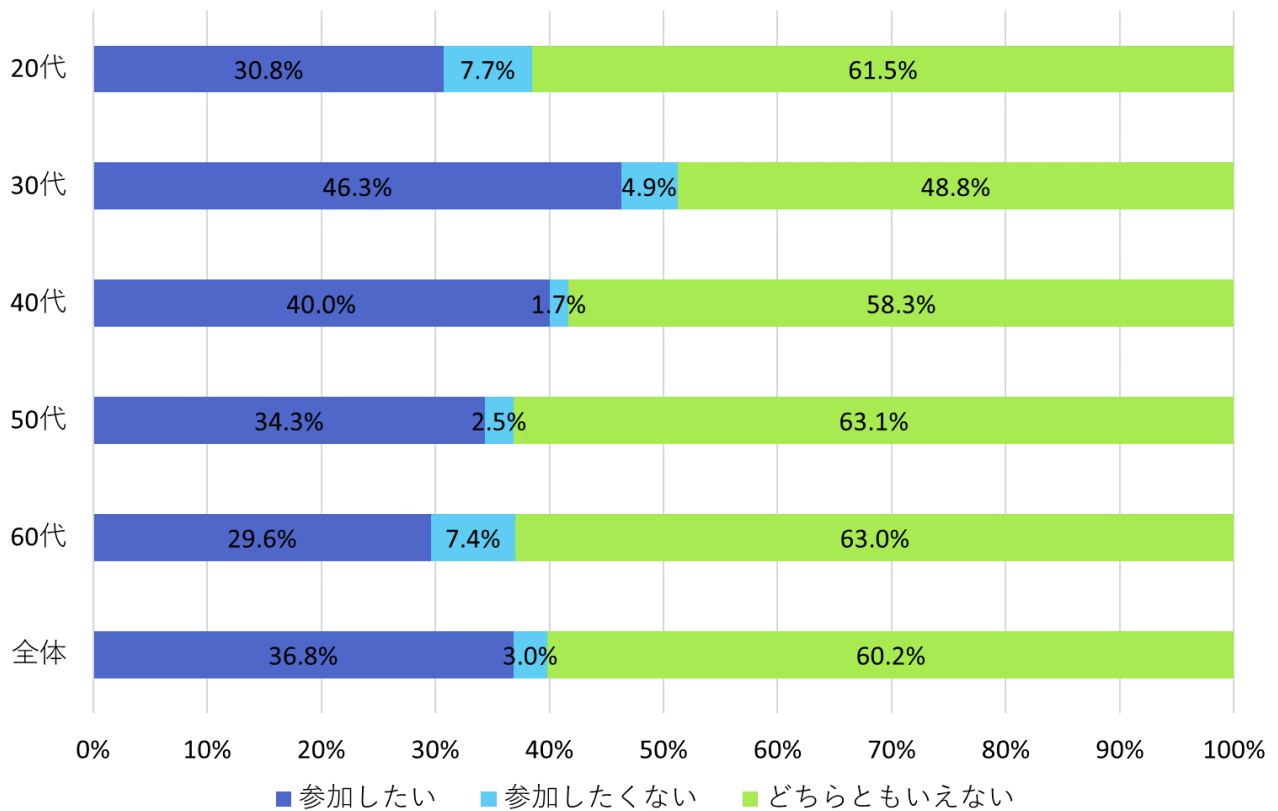
- ☐ 参加したい
☐ 参加したくない
☐ どちらともいえない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
参加したい		4	19	48	68	8	0	147
参加したくない		1	2	2	5	2	0	12
どちらともいえない		8	20	70	125	17	0	240
全体		13	41	120	198	27	0	399

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
参加したい		30.8%	46.3%	40.0%	34.3%	29.6%		36.8%
参加したくない		7.7%	4.9%	1.7%	2.5%	7.4%		3.0%
どちらともいえない		61.5%	48.8%	58.3%	63.1%	63.0%		60.2%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%



■ 参加したい ■ 参加したくない ■ どちらともいえない



■ 参加したい ■ 参加したくない ■ どちらともいえない

【中学校教員】Q12. 高等専修学校に今後期待する取り組みがあれば教えてください。

<複数回答可>

①認知度の向上

- ☐ 広報活動（ウェブサイト、SNS、メルマガ、報道機関、進学説明会、オープンキャンパス、高等専修学校展、仕事の学び場 Jr、母校訪問等）
- ☐ 情報交換会（主に中学校関係者）
- ☐ 教育連携の推進（中学校、企業、大学・専門学校等、地域、その他）

②教育の質向上

- ☐ 教職員対象の研修
- ☐ メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減
- ☐ 特色ある授業の好事例の収集、普及
- ☐ 文部科学省モデル事業への積極的な参加
- ☐ 進学、就職等の進路指導の充実
- ☐ 資格、検定試験の取得奨励
- ☐ 成績優秀者、部活動等の表彰
- ☐ ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援
- ☐ 不登校、中退防止の対策
- ☐ 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保
- ☐ 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開

③経済的支援

- ☐ 高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金制度の充実
- ☐ 授業料減免措置の充実
- ☐ 経常費助成制度の充実

④その他

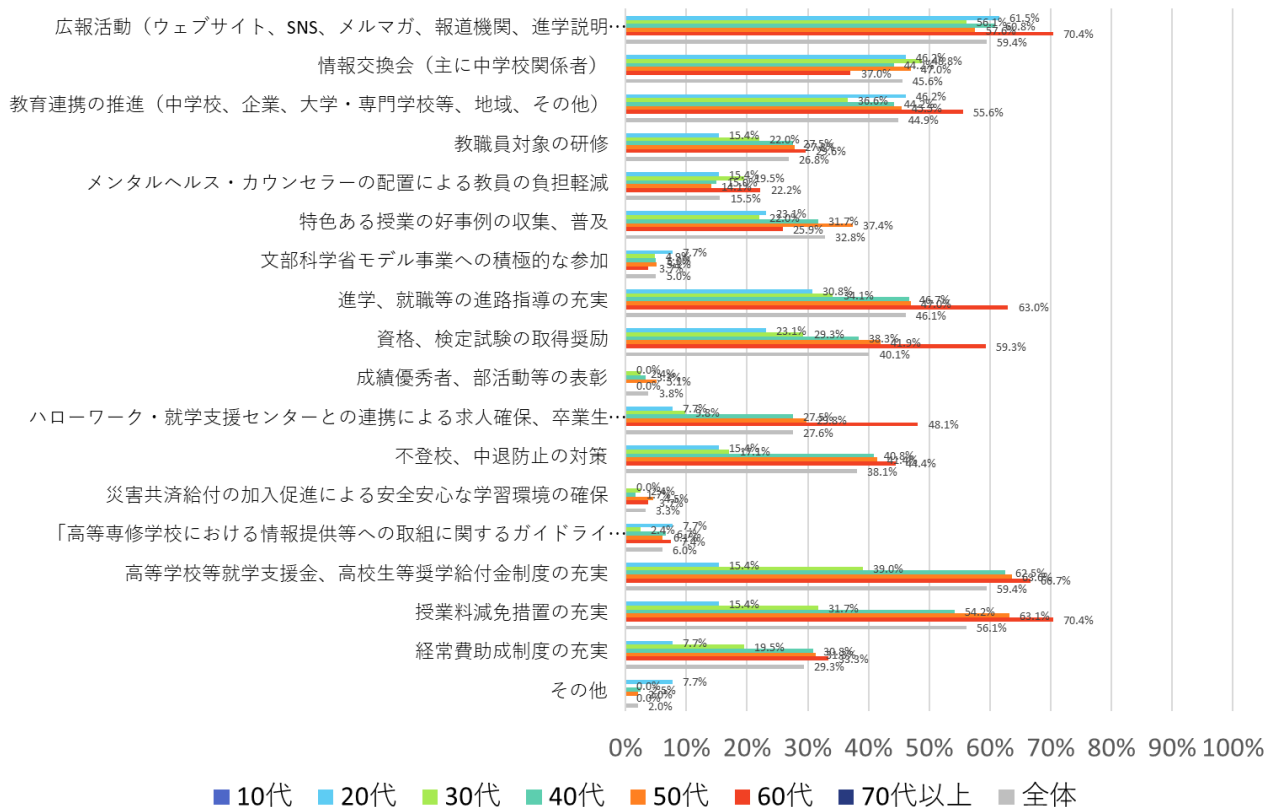
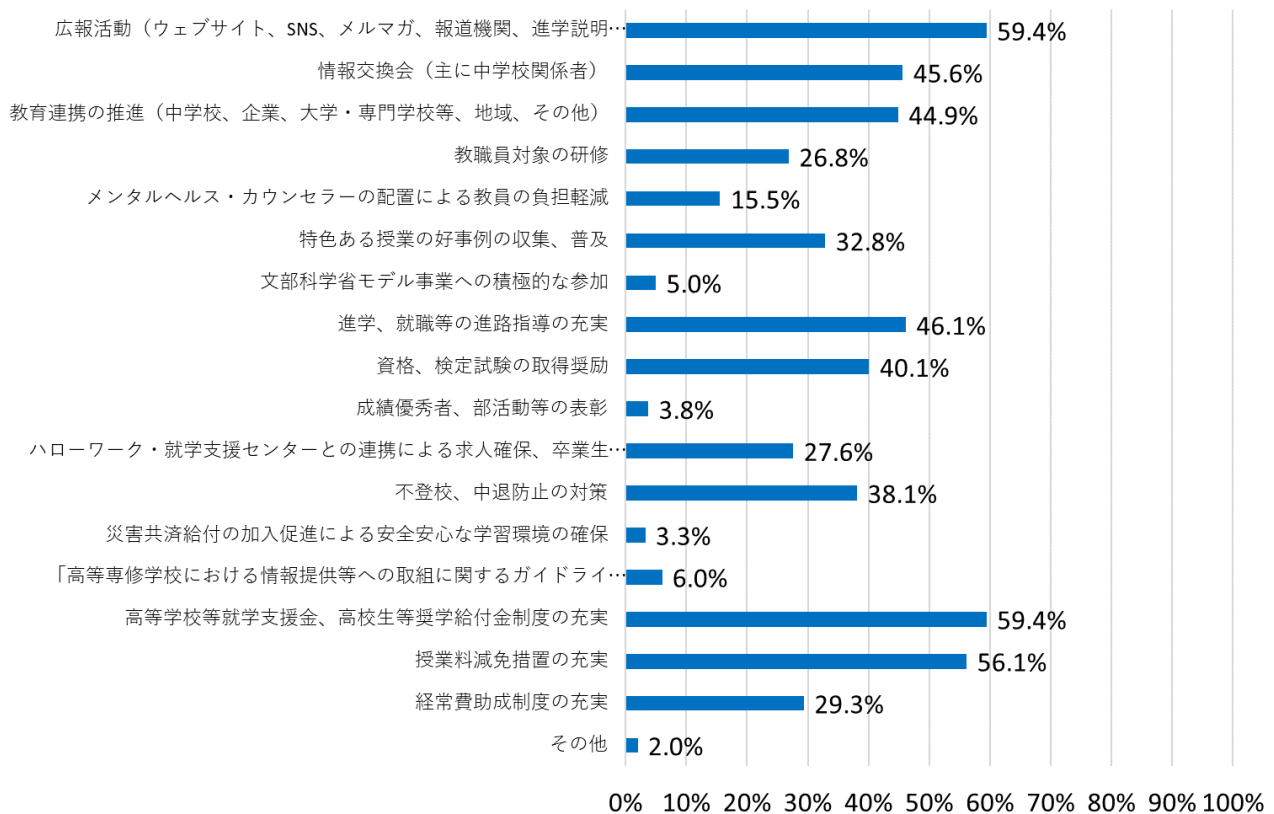
- ☐ 【自由記述】（）

その他（自由記述）

- ・一つの学校で、受けられる資格が限られている。どの学校でも、幅広い専門的分野が学べるようになるのもっと受験者が増えるのではないかな。
- ・特待生制度。
- ・特別支援教育の推進。
- ・障害者対応。

		20代	30代	40代	50代	60代	全体
①認知度の向上	広報活動（ウェブサイト、SNS、メルマガ、報道機関、進学説明会、オープンキャンパス、高等専修学校展、仕事の学び場Jr、母校訪問等）	8	23	73	114	19	237
	情報交換会（主に中学校関係者）	6	20	53	93	10	182
	教育連携の推進（中学校、企業、大学・専門学校等、地域、その他）	6	15	53	90	15	179
②教育の質向上	教職員対象の研修	2	9	33	55	8	107
	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	2	8	18	28	6	62
	特色ある授業の好事例の収集、普及	3	9	38	74	7	131
	文部科学省モデル事業への積極的な参加	1	2	6	10	1	20
	進学、就職等の進路指導の充実	4	14	56	93	17	184
	資格、検定試験の取得奨励	3	12	46	83	16	160
	成績優秀者、部活動等の表彰	0	1	4	10	0	15
	ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	1	4	33	59	13	110
	不登校、中退防止の対策	2	7	49	82	12	152
	災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	0	1	2	9	1	13
	「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	1	1	8	12	2	24
③経済的支援	高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金制度の充実	2	16	75	126	18	237
	授業料減免措置の充実	2	13	65	125	19	224
	経常費助成制度の充実	1	8	37	62	9	117
④その他	その他	1	0	3	4	0	8

		20代	30代	40代	50代	60代	全体
①認知度の向上	広報活動（ウェブサイト、SNS、メルマガ、報道機関、進学説明会、オープンキャンパス、高等専修学校展、仕事の学び場Jr、母校訪問等）	61.5%	56.1%	60.8%	57.6%	70.4%	59.4%
	情報交換会（主に中学校関係者）	46.2%	48.8%	44.2%	47.0%	37.0%	45.6%
	教育連携の推進（中学校、企業、大学・専門学校等、地域、その他）	46.2%	36.6%	44.2%	45.5%	55.6%	44.9%
②教育の質向上	教職員対象の研修	15.4%	22.0%	27.5%	27.8%	29.6%	26.8%
	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	15.4%	19.5%	15.0%	14.1%	22.2%	15.5%
	特色ある授業の好事例の収集、普及	23.1%	22.0%	31.7%	37.4%	25.9%	32.8%
	文部科学省モデル事業への積極的な参加	7.7%	4.9%	5.0%	5.1%	3.7%	5.0%
	進学、就職等の進路指導の充実	30.8%	34.1%	46.7%	47.0%	63.0%	46.1%
	資格、検定試験の取得奨励	23.1%	29.3%	38.3%	41.9%	59.3%	40.1%
	成績優秀者、部活動等の表彰	0.0%	2.4%	3.3%	5.1%	0.0%	3.8%
	ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	7.7%	9.8%	27.5%	29.8%	48.1%	27.6%
	不登校、中退防止の対策	15.4%	17.1%	40.8%	41.4%	44.4%	38.1%
	災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	0.0%	2.4%	1.7%	4.5%	3.7%	3.3%
	「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	7.7%	2.4%	6.7%	6.1%	7.4%	6.0%
③経済的支援	高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金制度の充実	15.4%	39.0%	62.5%	63.6%	66.7%	59.4%
	授業料減免措置の充実	15.4%	31.7%	54.2%	63.1%	70.4%	56.1%
	経常費助成制度の充実	7.7%	19.5%	30.8%	31.3%	33.3%	29.3%
④その他	その他	7.7%	0.0%	2.5%	2.0%	0.0%	2.0%

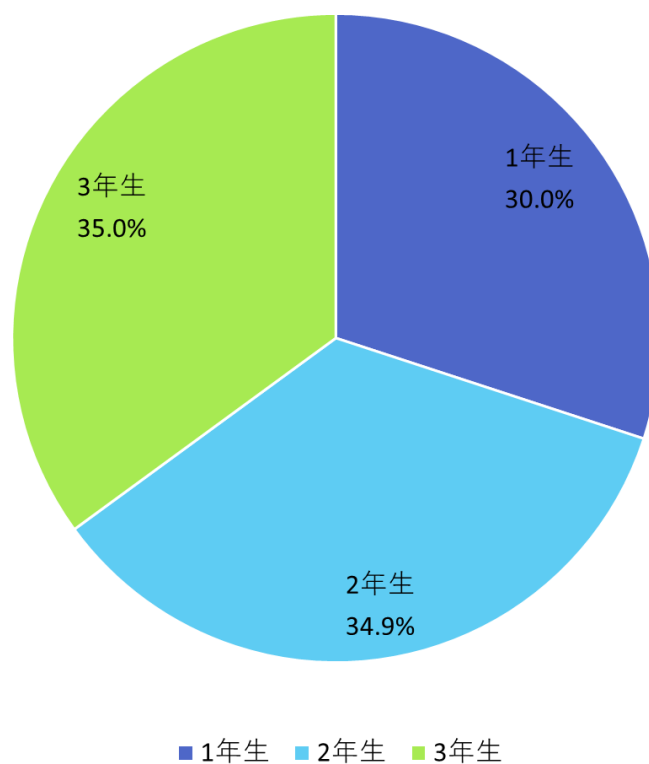


3.4. 中学生のアンケート調査結果

【中学生】Q1. 学年について教えてください。

- ☐ 中学 1 年生
- ☐ 中学 2 年生
- ☐ 中学 3 年生

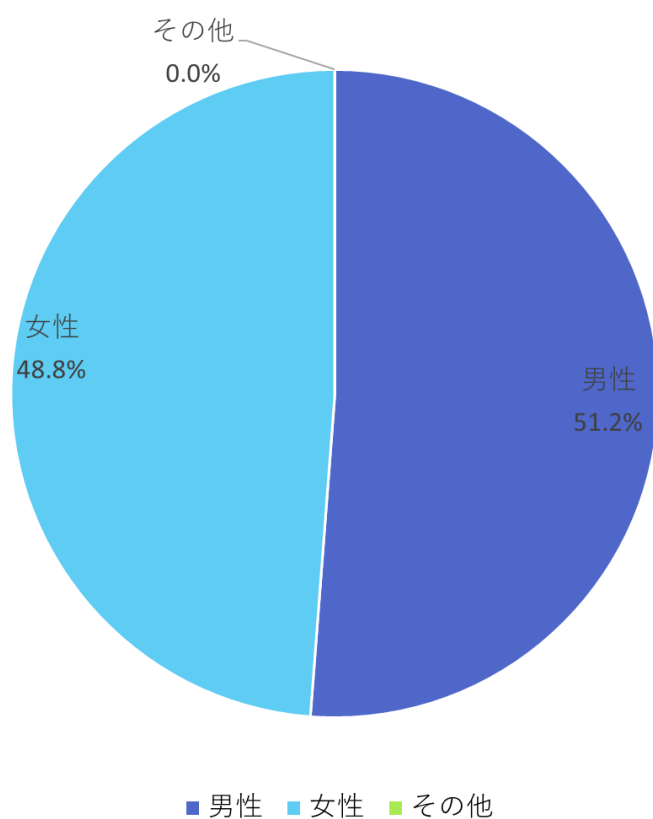
年代	実数	割合
1年生	323	30.0%
2年生	376	34.9%
3年生	377	35.0%
全体	1076	100.0%



【中学生】 Q2. 性別について教えてください。

- ☐ 男性
☐ 女性
☐ その他

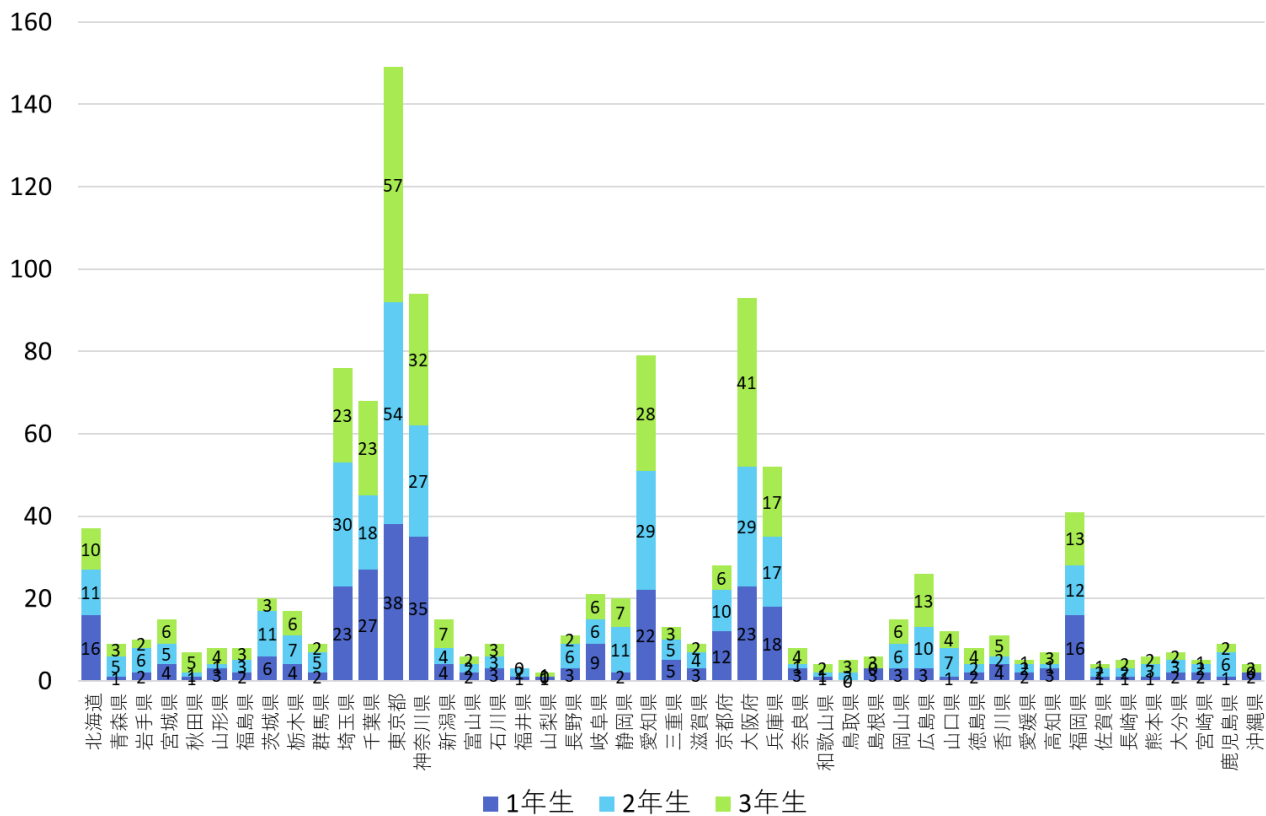
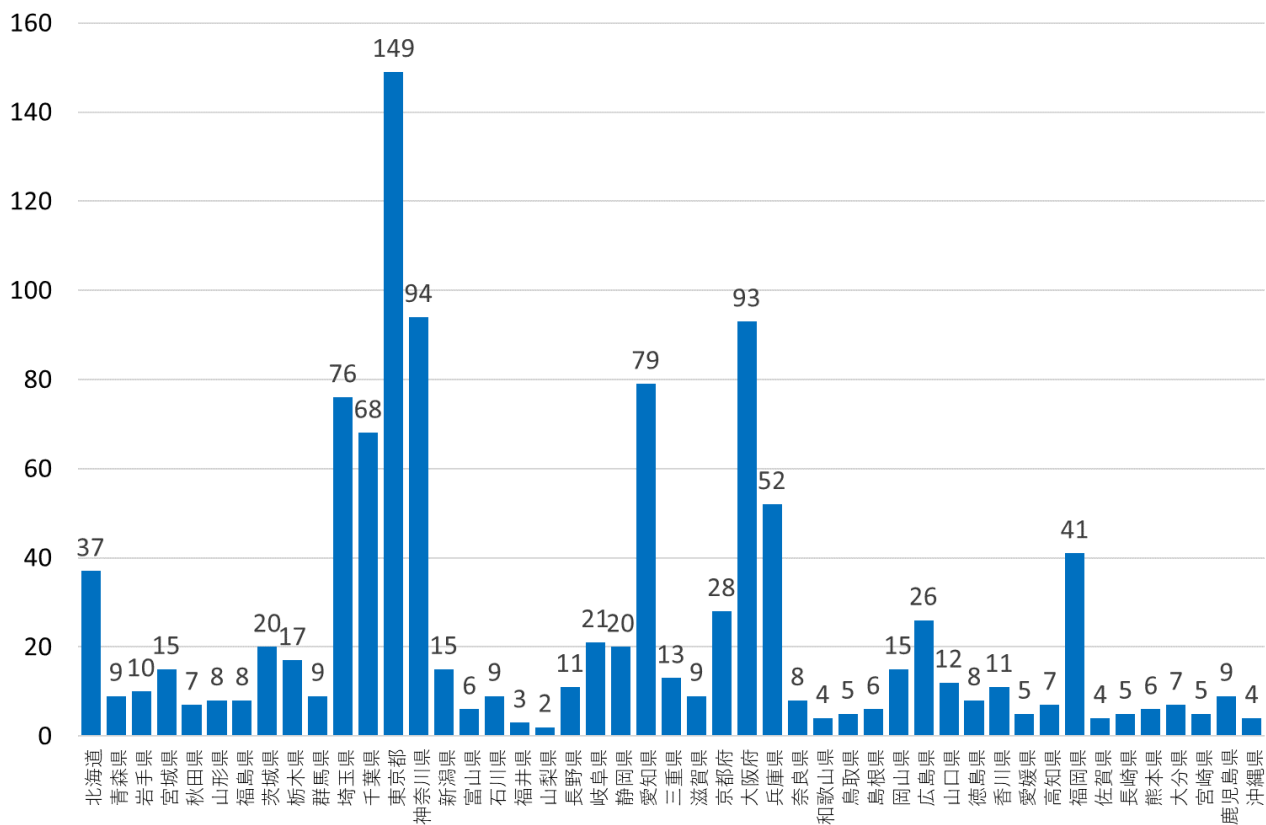
性別	実数	割合
男性	551	51.2%
女性	525	48.8%
その他	0	0.0%
全体	1076	100.0%



【中学生】Q3. お住まいの都道府県について教えてください。

☐北海道、☐青森県、☐岩手県、☐宮城県、☐秋田県、☐山形県、☐福島県、☐茨城県、☐栃木県、
☐群馬県、☐埼玉県、☐千葉県、☐東京都、☐神奈川県、☐新潟県、☐富山県、☐石川県、☐福井県、
☐山梨県、☐長野県、☐岐阜県、☐静岡県、☐愛知県、☐三重県、☐滋賀県、☐京都府、☐大阪府、
☐兵庫県、☐奈良県、☐和歌山県、☐鳥取県、☐島根県、☐岡山県、☐広島県、☐山口県、☐徳島県、
☐香川県、☐愛媛県、☐高知県、☐福岡県、☐佐賀県、☐長崎県、☐熊本県、☐大分県、☐宮崎県、
☐鹿児島県、☐沖縄県

No.	都道府県	1年生	2年生	3年生	全体	割合
1	北海道	16	11	10	37	3.4%
2	青森県	1	5	3	9	0.8%
3	岩手県	2	6	2	10	0.9%
4	宮城県	4	5	6	15	1.4%
5	秋田県	1	1	5	7	0.7%
6	山形県	3	1	4	8	0.7%
7	福島県	2	3	3	8	0.7%
8	茨城県	6	11	3	20	1.9%
9	栃木県	4	7	6	17	1.6%
10	群馬県	2	5	2	9	0.8%
11	埼玉県	23	30	23	76	7.1%
12	千葉県	27	18	23	68	6.3%
13	東京都	38	54	57	149	13.8%
14	神奈川県	35	27	32	94	8.7%
15	新潟県	4	4	7	15	1.4%
16	富山県	2	2	2	6	0.6%
17	石川県	3	3	3	9	0.8%
18	福井県	1	2	0	3	0.3%
19	山梨県	1	0	1	2	0.2%
20	長野県	3	6	2	11	1.0%
21	岐阜県	9	6	6	21	2.0%
22	静岡県	2	11	7	20	1.9%
23	愛知県	22	29	28	79	7.3%
24	三重県	5	5	3	13	1.2%
25	滋賀県	3	4	2	9	0.8%
26	京都府	12	10	6	28	2.6%
27	大阪府	23	29	41	93	8.6%
28	兵庫県	18	17	17	52	4.8%
29	奈良県	3	1	4	8	0.7%
30	和歌山県	1	1	2	4	0.4%
31	鳥取県	0	2	3	5	0.5%
32	島根県	3	0	3	6	0.6%
33	岡山県	3	6	6	15	1.4%
34	広島県	3	10	13	26	2.4%
35	山口県	1	7	4	12	1.1%
36	徳島県	2	2	4	8	0.7%
37	香川県	4	2	5	11	1.0%
38	愛媛県	2	2	1	5	0.5%
39	高知県	3	1	3	7	0.7%
40	福岡県	16	12	13	41	3.8%
41	佐賀県	1	2	1	4	0.4%
42	長崎県	1	2	2	5	0.5%
43	熊本県	1	3	2	6	0.6%
44	大分県	2	3	2	7	0.7%
45	宮崎県	2	2	1	5	0.5%
46	鹿児島県	1	6	2	9	0.8%
47	沖縄県	2	0	2	4	0.4%
	全体	323	376	377	1076	0.0%



【中学生】Q4. 進路について検討する際に、どのような方法で情報収集をしていますか。

＜複数回答可＞

- ☐ 学校のホームページ
☐ 学校案内、パンフレット
☐ 進学説明会、オープンキャンパス
☐ 進学情報サイト
☐ 進学情報誌
☐ 家族、親族、知人に相談する
☐ 学校の先生に相談する
☐ その他【自由記述】（

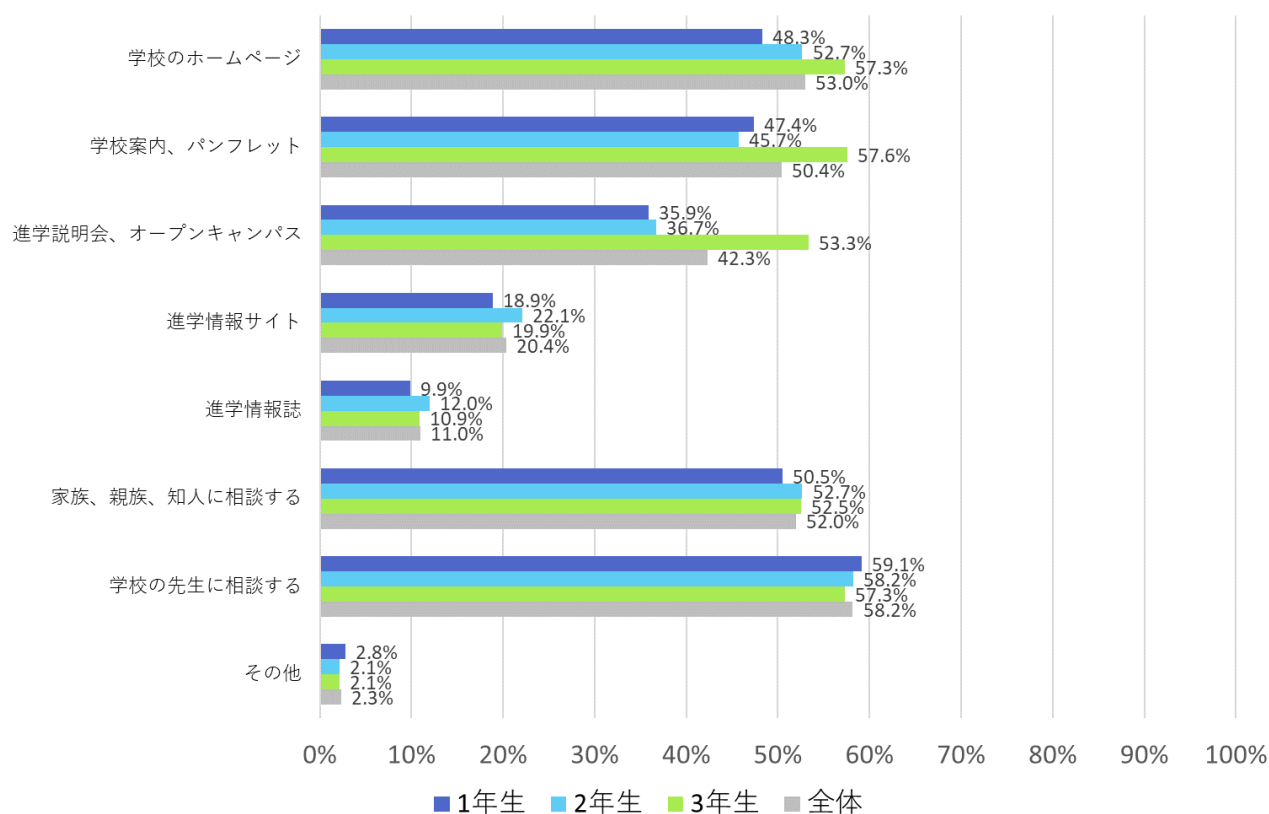
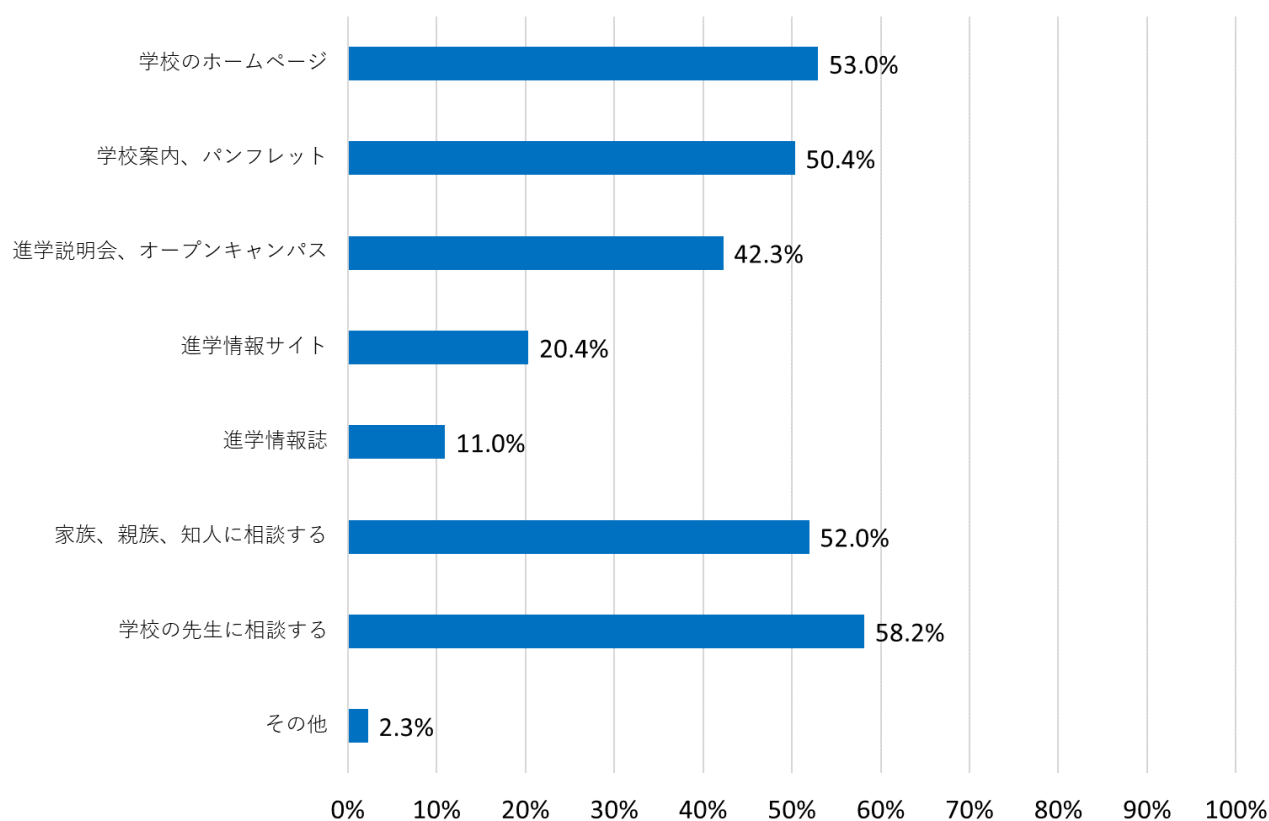
）

	1年生	2年生	3年生	全体
学校のホームページ	156	198	216	570
学校案内、パンフレット	153	172	217	542
進学説明会、オープンキャンパス	116	138	201	455
進学情報サイト	61	83	75	219
進学情報誌	32	45	41	118
家族、親族、知人に相談する	163	198	198	559
学校の先生に相談する	191	219	216	626
その他	9	8	8	25

	1年生	2年生	3年生	全体
学校のホームページ	48.3%	52.7%	57.3%	53.0%
学校案内、パンフレット	47.4%	45.7%	57.6%	50.4%
進学説明会、オープンキャンパス	35.9%	36.7%	53.3%	42.3%
進学情報サイト	18.9%	22.1%	19.9%	20.4%
進学情報誌	9.9%	12.0%	10.9%	11.0%
家族、親族、知人に相談する	50.5%	52.7%	52.5%	52.0%
学校の先生に相談する	59.1%	58.2%	57.3%	58.2%
その他	2.8%	2.1%	2.1%	2.3%

その他（自由記述）

・塾の先生に相談する。

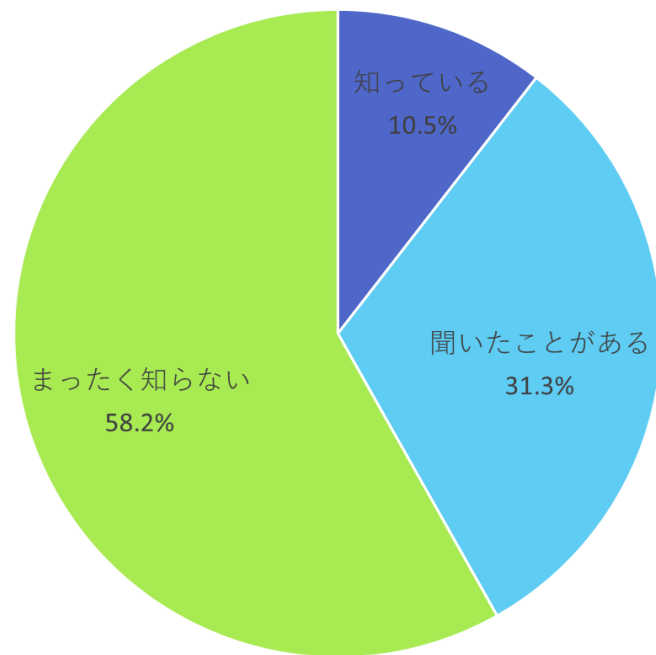


【中学生】Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

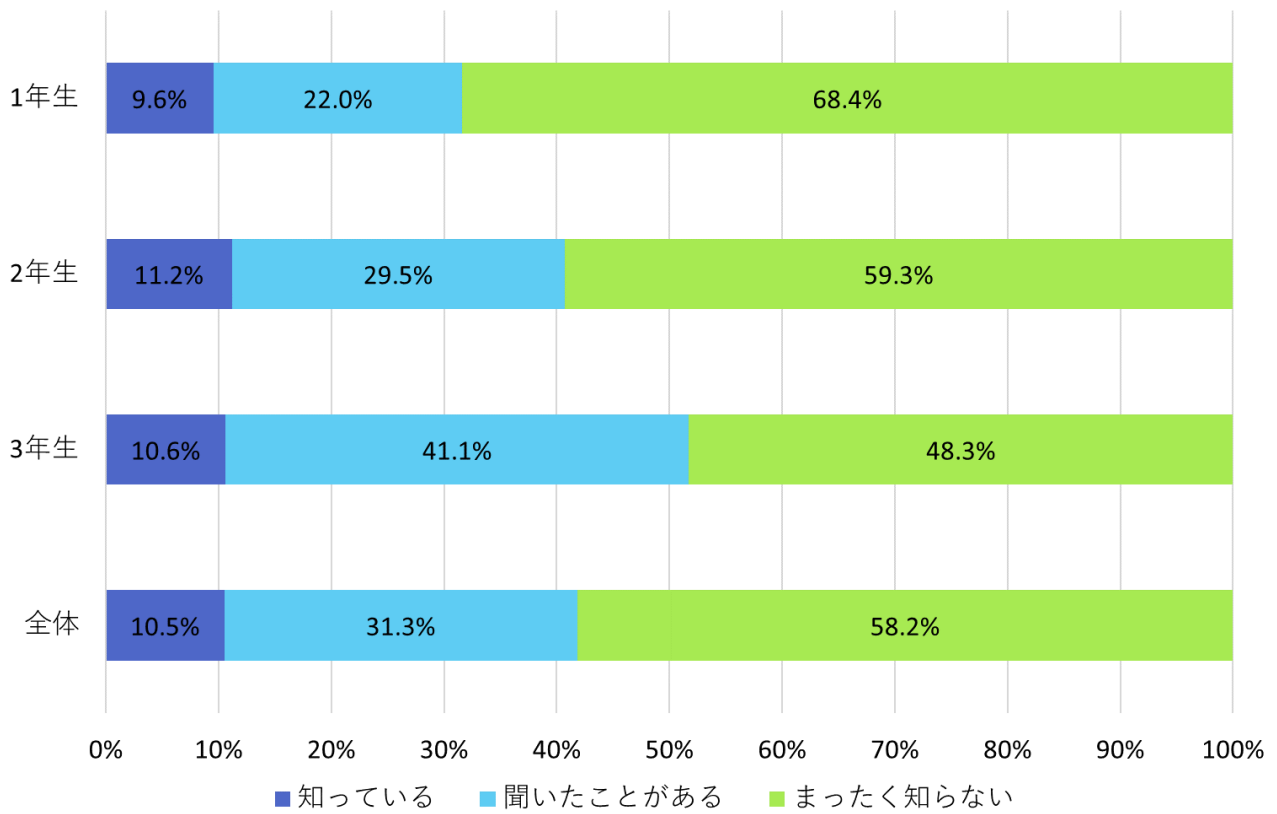
- ☐知っている
☐聞いたことがある
☐まったく知らない

	1年生	2年生	3年生	全体
知っている	 31	 42	 40	113
聞いたことがある	 71	 111	 155	337
まったく知らない	 221	 223	 182	626
全体	323	376	377	1076

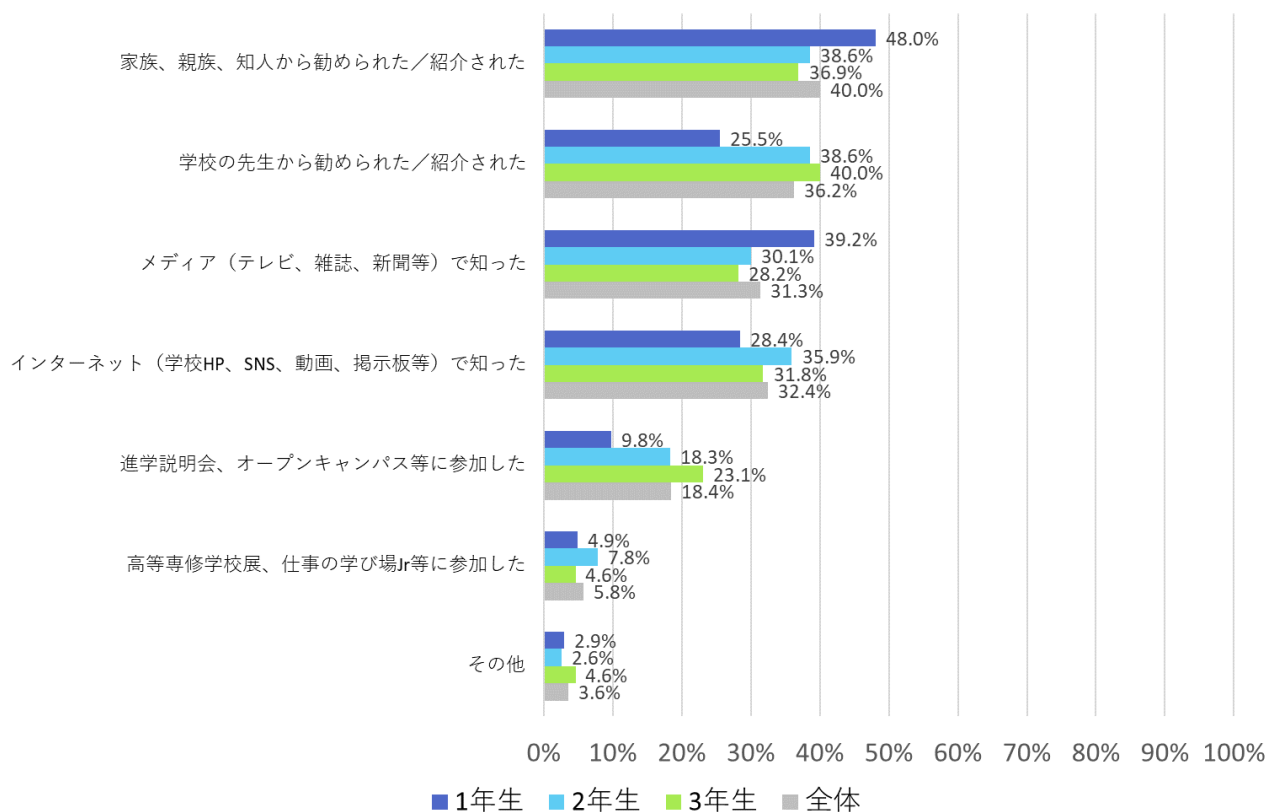
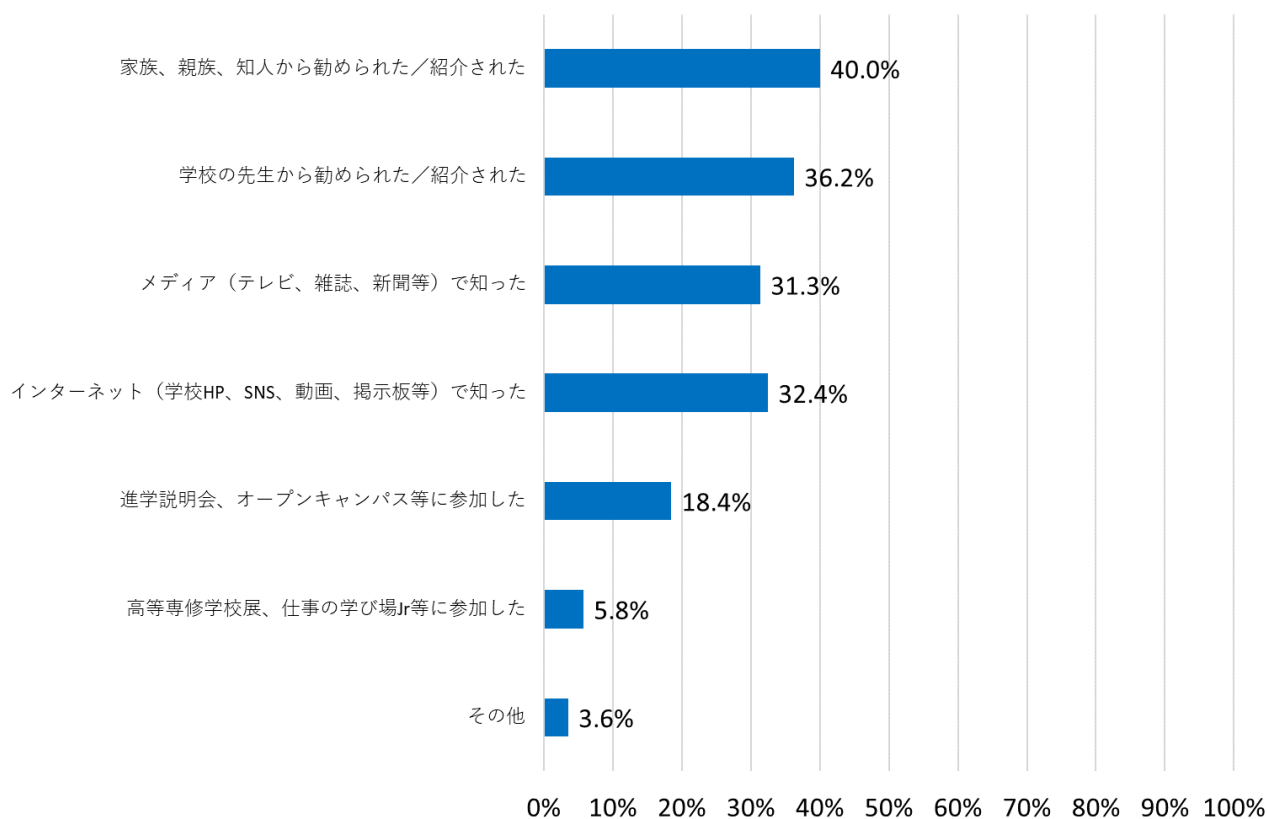
	1年生	2年生	3年生	全体
知っている	 9.6%	 11.2%	 10.6%	10.5%
聞いたことがある	 22.0%	 29.5%	 41.1%	31.3%
まったく知らない	 68.4%	 59.3%	 48.3%	58.2%
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ まったく知らない



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ まったく知らない



【中学生】Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。

<複数回答可>

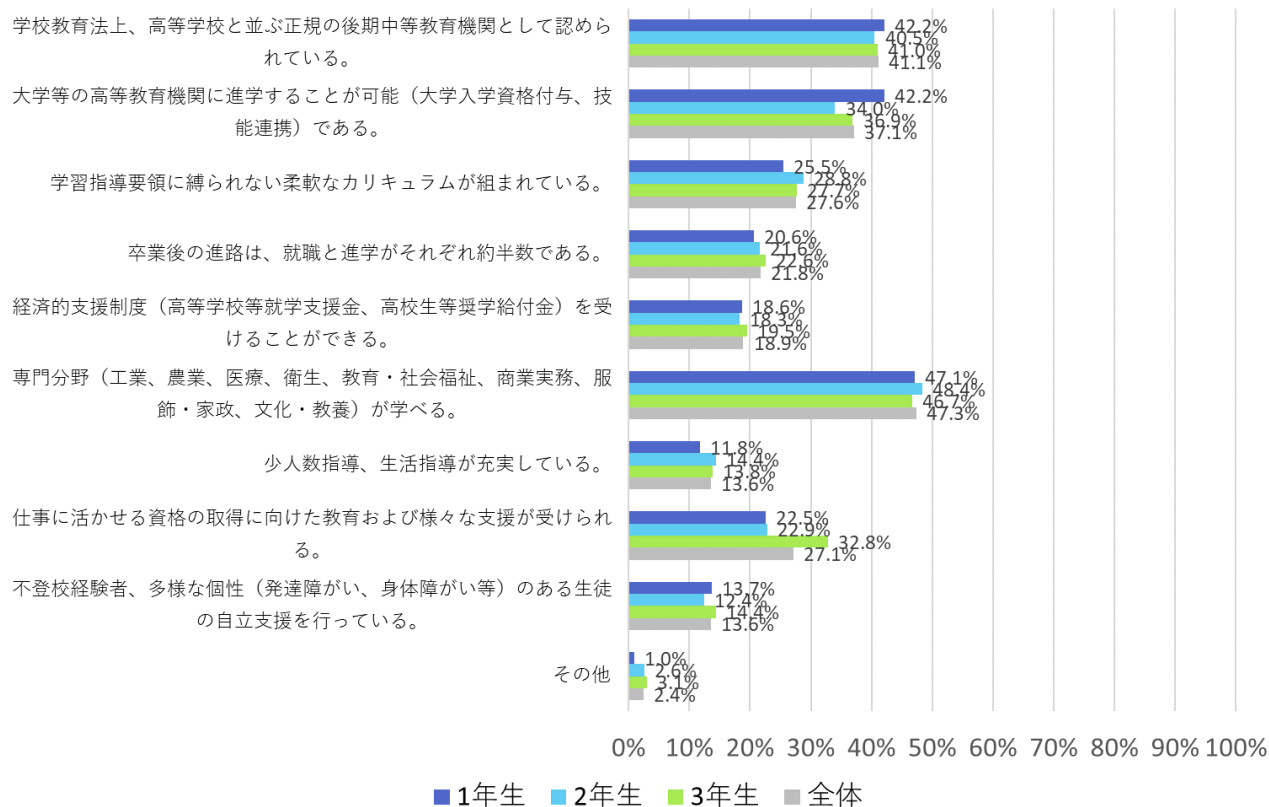
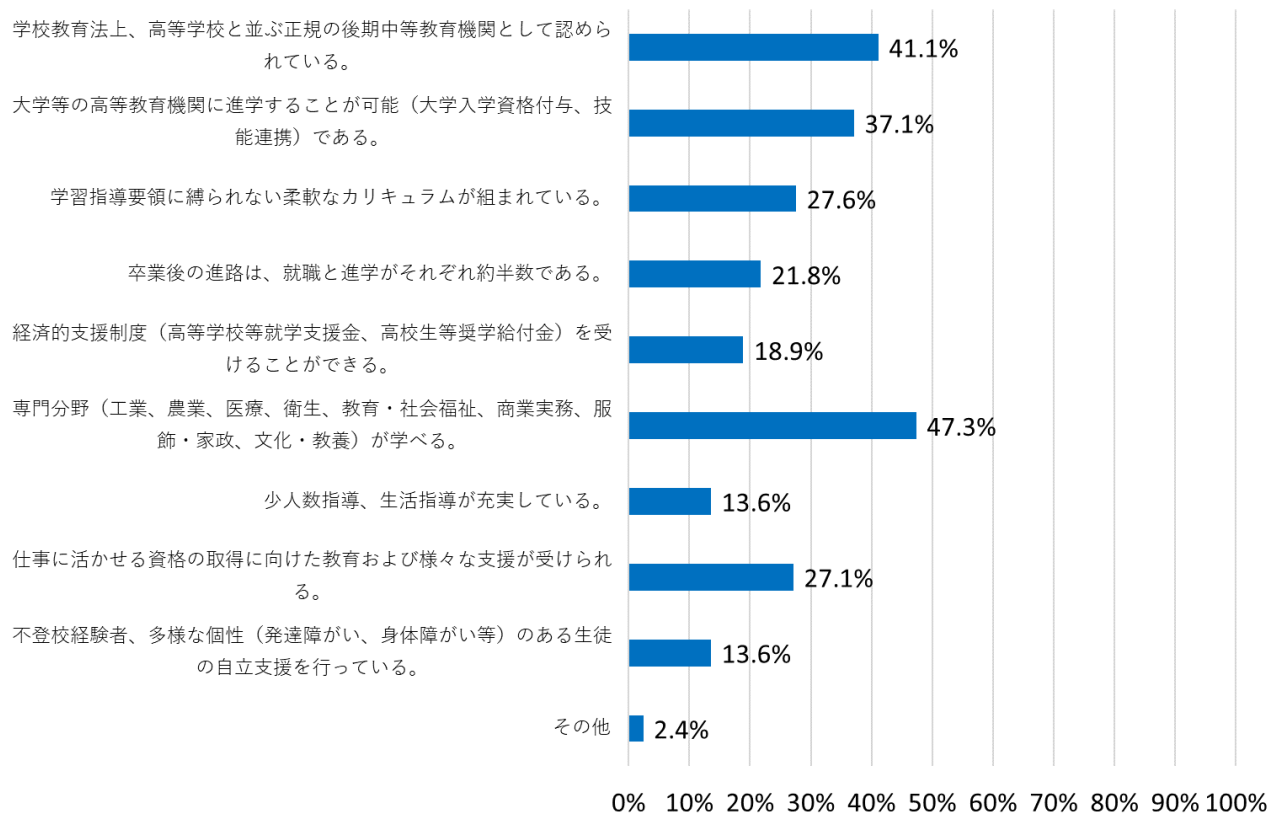
- ☐ 学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
☐ 大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。
☐ 学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
☐ 卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
☐ 経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。
☐ 専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
☐ 少人数指導、生活指導が充実している。
☐ 仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
☐ 不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
☐ その他【自由記述】（ ）

	1年生	2年生	3年生	全体
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。	43	62	80	185
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。	43	52	72	167
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。	26	44	54	124
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。	21	33	44	98
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。	19	28	38	85
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。	48	74	91	213
少人数指導、生活指導が充実している。	12	22	27	61
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。	23	35	64	122
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。	14	19	28	61
その他	1	4	6	11

	1年生	2年生	3年生	全体
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。	42.2%	40.5%	41.0%	41.1%
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。	42.2%	34.0%	36.9%	37.1%
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。	25.5%	28.8%	27.7%	27.6%
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。	20.6%	21.6%	22.6%	21.8%
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。	18.6%	18.3%	19.5%	18.9%
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。	47.1%	48.4%	46.7%	47.3%
少人数指導、生活指導が充実している。	11.8%	14.4%	13.8%	13.6%
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。	22.5%	22.9%	32.8%	27.1%
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。	13.7%	12.4%	14.4%	13.6%
その他	1.0%	2.6%	3.1%	2.4%

その他（自由記述）

- ・わからない。
- ・よく知らない。



【中学生】Q8. 高等専修学校のイメージについて教えてください。

□【自由記述】（ ）

肯定的な回答

- ・高卒認定資格を取得できる。高校と変わらない。
- ・専門性が高い。高校の専門学校版。資格が取れる。
- ・仕事に就きたい人が通う。仕事につながる。就職に有利。プロへの近道。即戦力。
- ・将来の選択肢が増える。
- ・やりたいことがある人が行く。目標がある人が行く
- ・目的をもって学べる。楽しく学べる。勉強以外にも学べることがある。いろいろ学べる。
- ・興味があることだけ学べる。好きなことができる。自由。個人を尊重。多様性がある。面白そう。

否定的な回答

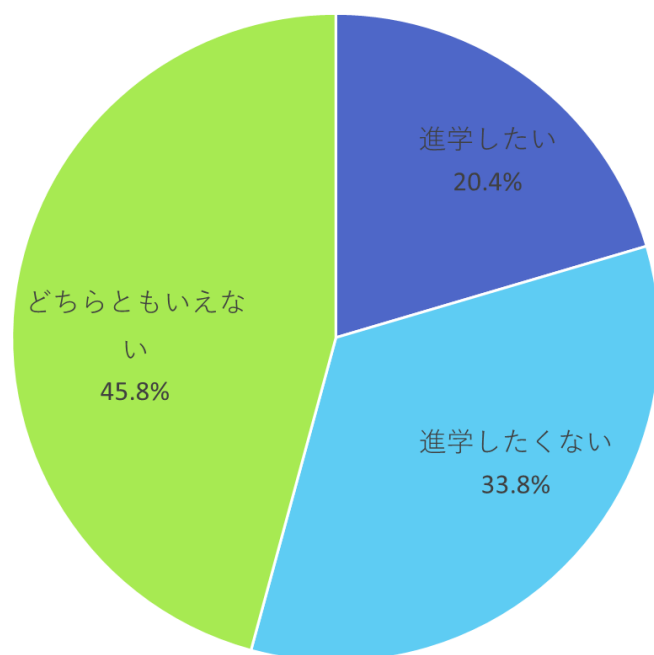
- ・学力が低い。高校に入れない生徒が通う。
- ・不登校、コミュ障の生徒が行く。
- ・中途半端。偏っている。特殊。地味。
- ・職業訓練校。就職率が悪そう。
- ・高専（高等専門学校）と間違いやすい。
- ・通信制高校の方がより存在感がある。

【中学生】Q9-1. 高等専修学校に進学したいですか。

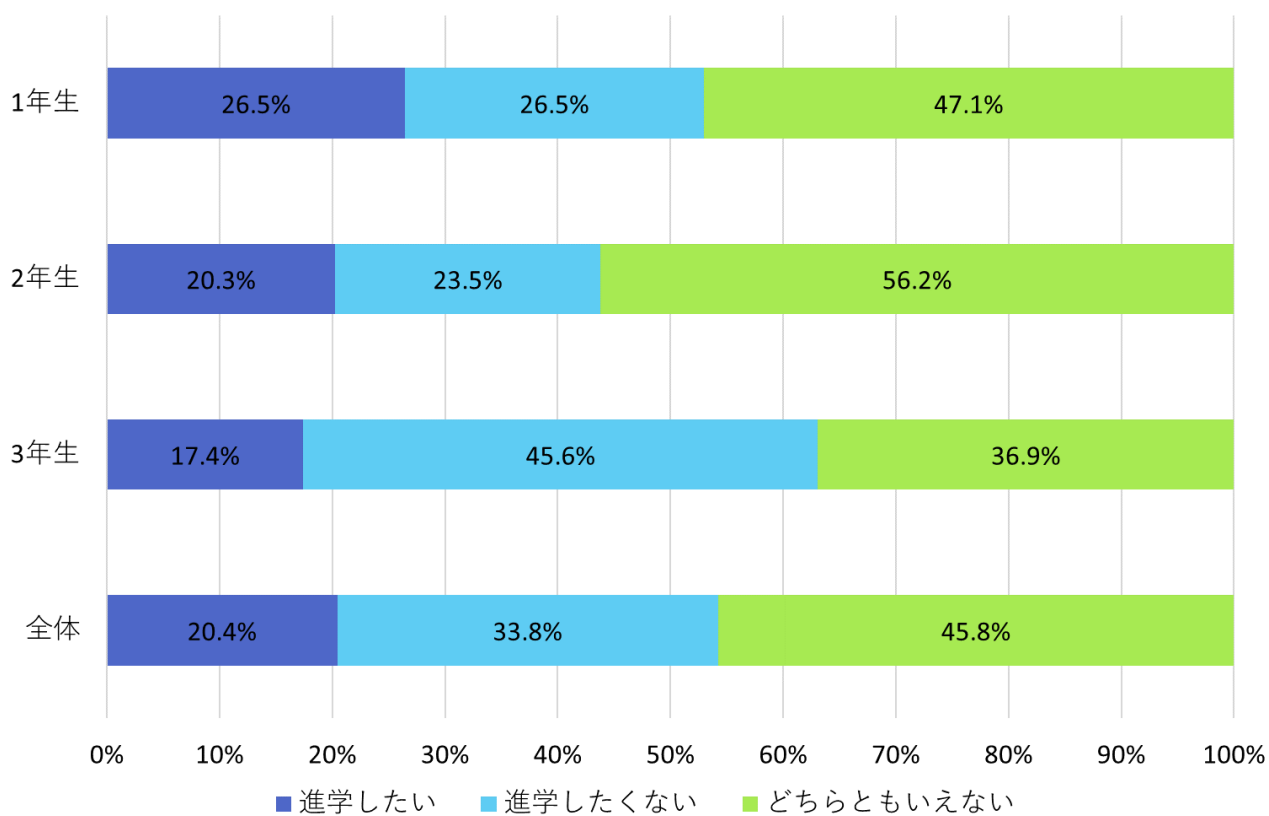
- ☐進学したい
☐進学したくない
☐どちらともいえない

	1年生	2年生	3年生	全体
進学したい	 27	 31	 34	92
進学したくない	 27	 36	 89	152
どちらともいえない	 48	 86	 72	206
全体	102	153	195	450

	1年生	2年生	3年生	全体
進学したい	 26.5%	 20.3%	 17.4%	 20.4%
進学したくない	 26.5%	 23.5%	 45.6%	 33.8%
どちらともいえない	 47.1%	 56.2%	 36.9%	 45.8%
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 進学したい ■ 進学したくない ■ どちらともいえない



【中学生】Q9-2. 高等専修学校に「進学したい／進学したくない／どちらともいえない」理由について教えてください。

☐ 【自由記述】 ()

進学したい理由

- ・専門性に特化している。早い段階で専門知識を学べる。専門的なことを学びたい。
- ・なりたい職業のことが学べる。就職につながる。目的に合致している。
- ・いろいろ学べそう。視野を広げたい。
- ・楽しそう。面白そう。やりがいがある。信頼感がある。
- ・注意欠陥・多動性障害（ADHD）を持っているので。
- ・勉強が苦手だけどやりたいことを学んで夢をかなえたい。勉強が苦手メイクに興味がある。

進学したくない理由

- ・高校の普通科、全日制に進学したい。
- ・大学進学を目指している。学歴として不安。
- ・希望の分野がない。やりたいことがない。
- ・大変そう。学ぶ内容が専門的すぎる
- ・親の理解がない。
- ・通学するのに遠い。
- ・学費が高そう。

どちらともいえない理由

- ・高等専修学校に関するいろいろな情報が欲しい。もっと知りたい
- ・高等専修学校についていろいろと体験したい。
- ・高校の全日制に通えるか不安。まわりに進学する人がいない。
- ・イメージがわからない

【中学生】Q10. 高等専修学校では、自分の興味のある専門分野を学ぶことができるとともに、仕事に活かすことができるさまざまな資格を取得することができます。

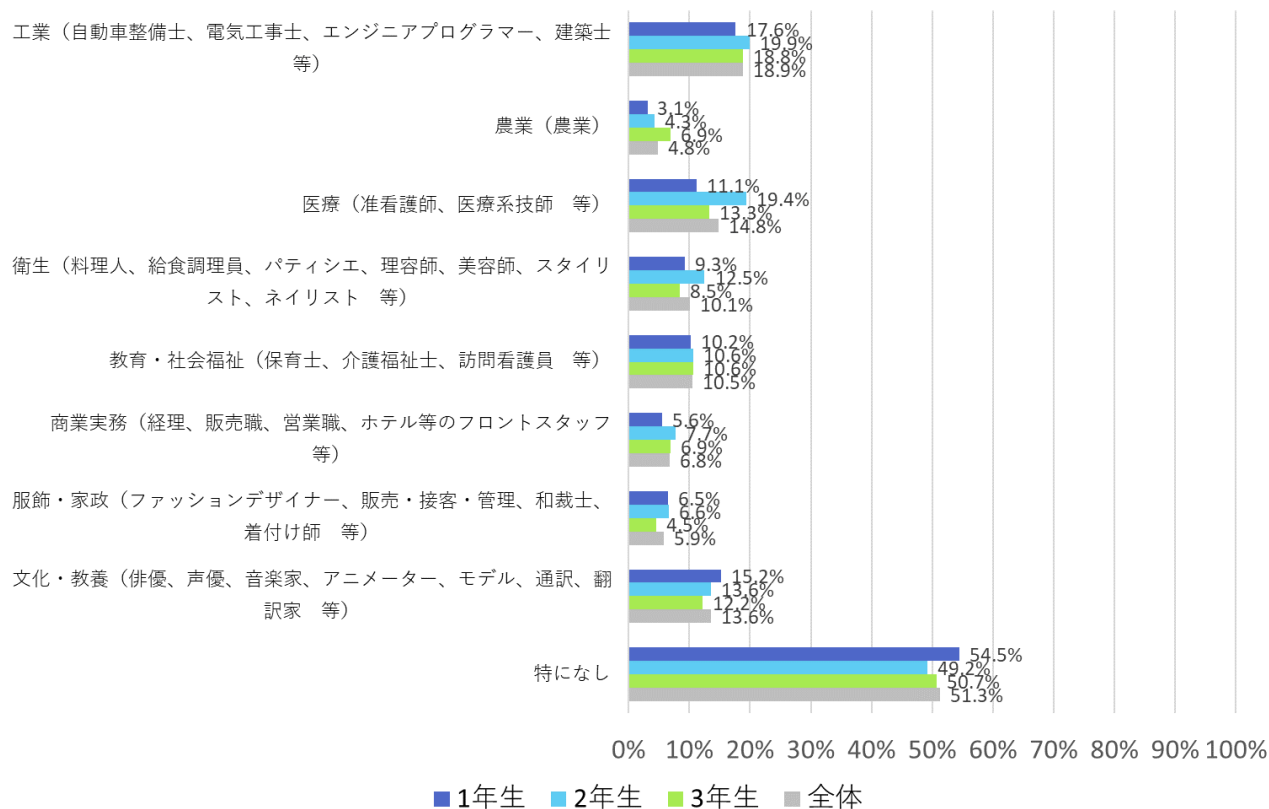
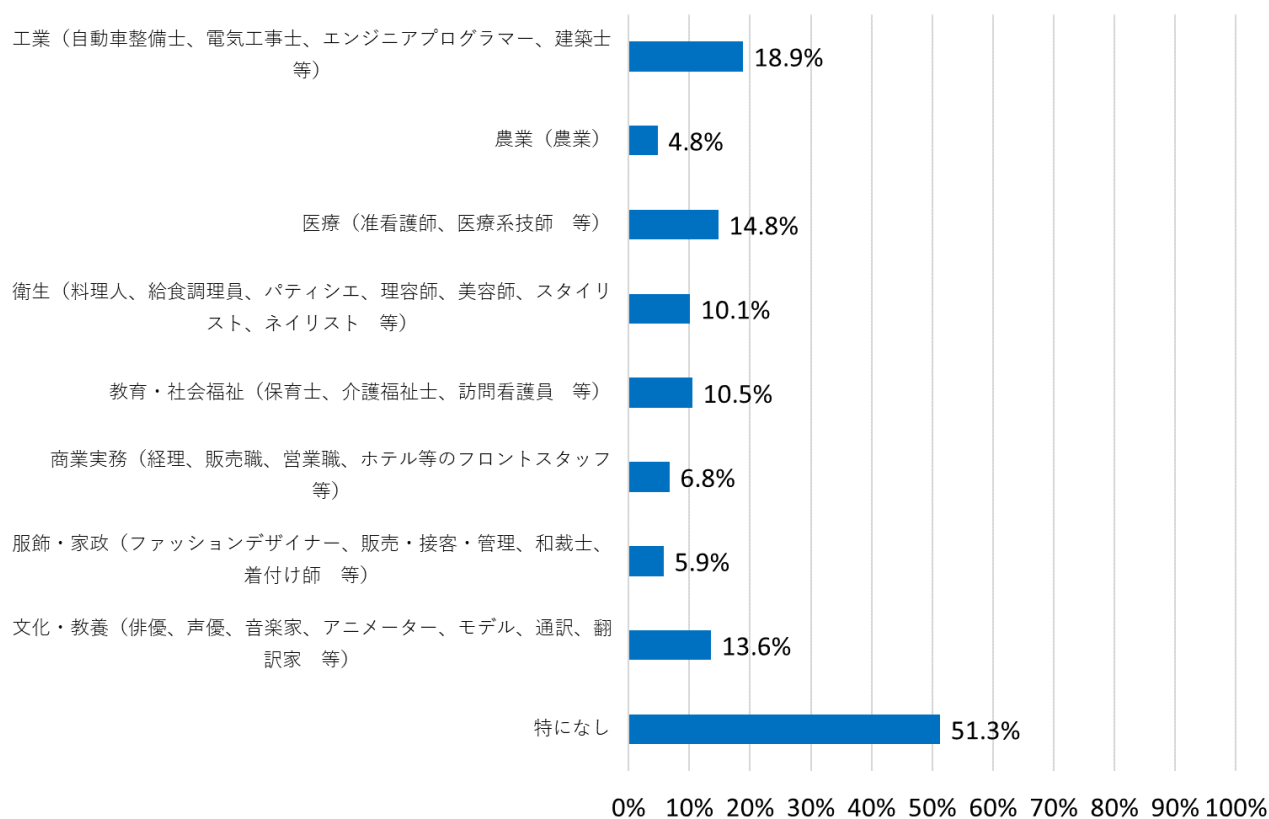
以下の中で、関心がある分野があれば教えてください。（ ）内は、主な職種の例を示します。

<複数回答可>

- ☐ 工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）
- ☐ 農業（農業）
- ☐ 医療（准看護師、医療系技師 等）
- ☐ 衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）
- ☐ 教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）
- ☐ 商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）
- ☐ 服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）
- ☐ 文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）
- ☐ 特になし

	1年生	2年生	3年生	全体
工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）	57	75	71	203
農業（農業）	10	16	26	52
医療（准看護師、医療系技師 等）	36	73	50	159
衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）	30	47	32	109
教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）	33	40	40	113
商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）	18	29	26	73
服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）	21	25	17	63
文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）	49	51	46	146
特になし	176	185	191	552

	1年生	2年生	3年生	全体
工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）	17.6%	19.9%	18.8%	18.9%
農業（農業）	3.1%	4.3%	6.9%	4.8%
医療（准看護師、医療系技師 等）	11.1%	19.4%	13.3%	14.8%
衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）	9.3%	12.5%	8.5%	10.1%
教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）	10.2%	10.6%	10.6%	10.5%
商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）	5.6%	7.7%	6.9%	6.8%
服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）	6.5%	6.6%	4.5%	5.9%
文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）	15.2%	13.6%	12.2%	13.6%
特になし	54.5%	49.2%	50.7%	51.3%

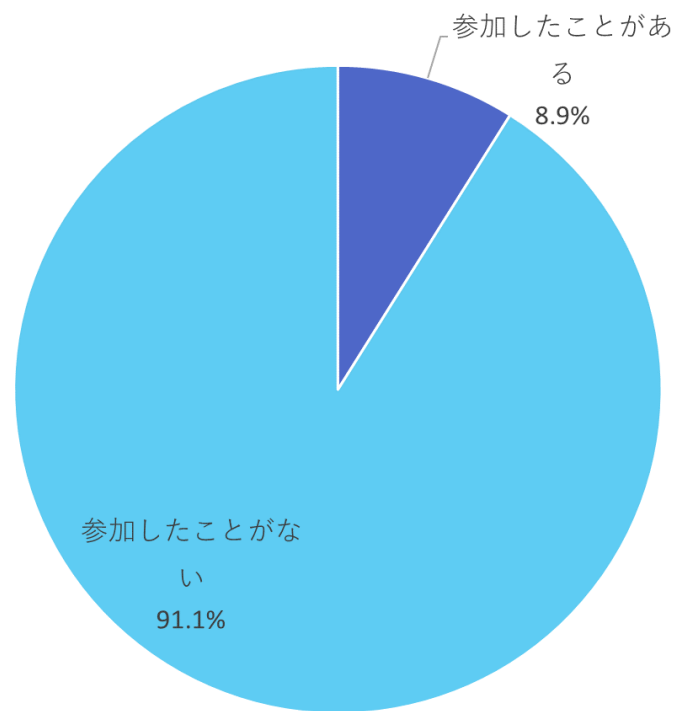


【中学生】Q11. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等に参加したことがありますか。

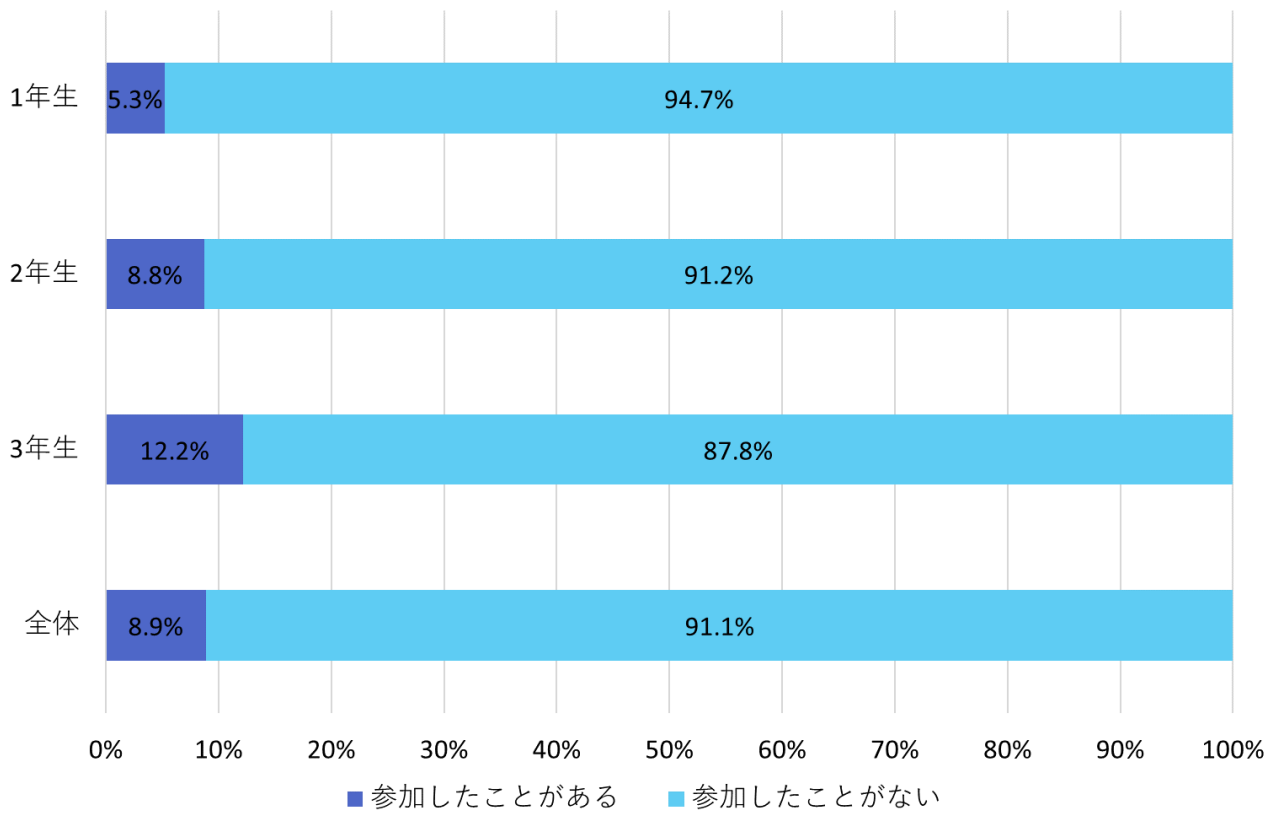
- ☐ 参加したことがある
☐ 参加したことがない

	1年生	2年生	3年生	全体
参加したことがある	17	33	46	96
参加したことがない	306	343	331	980
全体	323	376	377	1076

	1年生	2年生	3年生	全体
参加したことがある	5.3%	8.8%	12.2%	8.9%
参加したことがない	94.7%	91.2%	87.8%	91.1%
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 参加したことがある ■ 参加したことがない



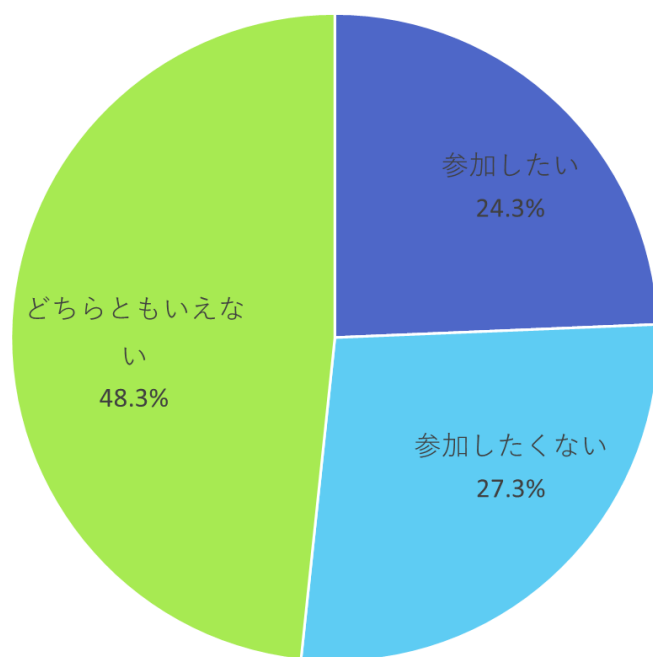
■ 参加したことがある ■ 参加したことがない

【中学生】Q12. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等の機会があれば参加したいですか。

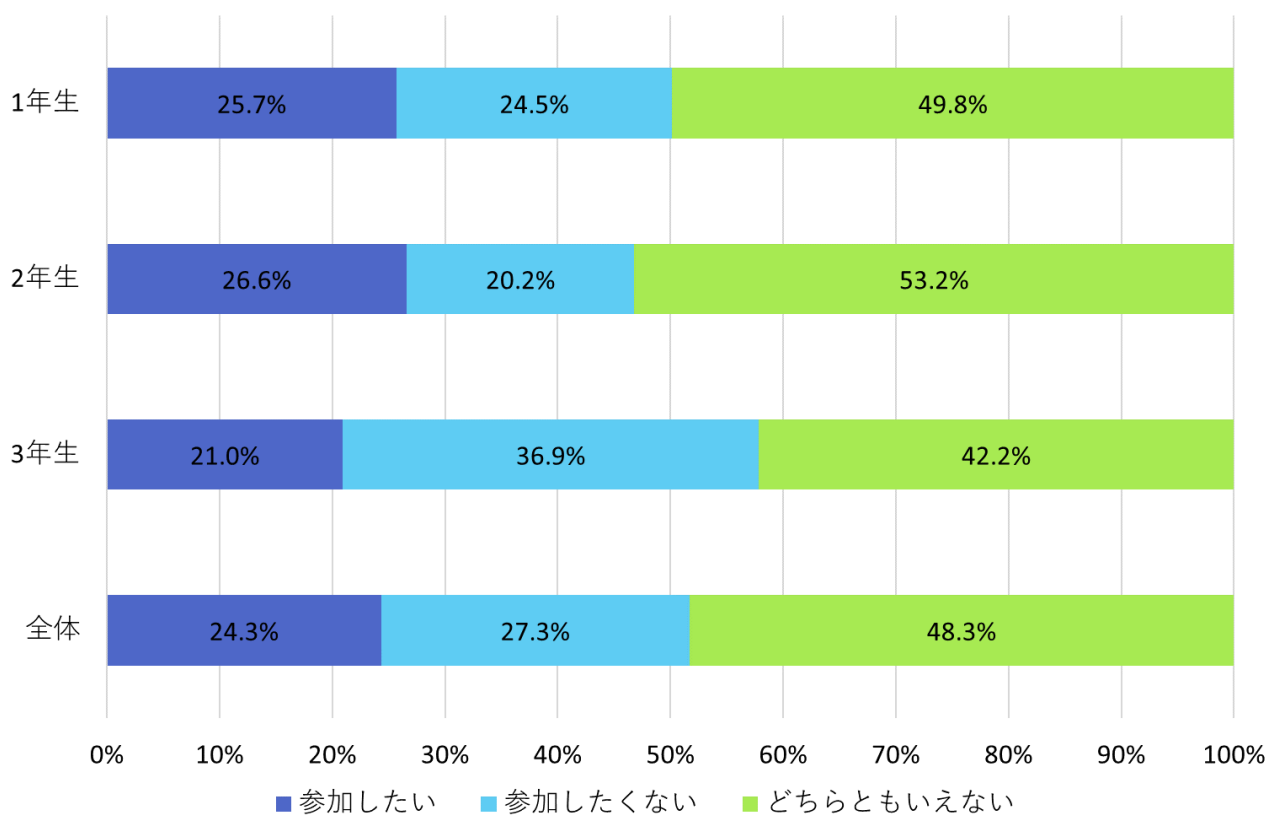
- ☐ 参加したい
☐ 参加したくない
☐ どちらともいえない

	1年生	2年生	3年生	全体
参加したい	 83	 100	 79	262
参加したくない	 79	 76	 139	294
どちらともいえない	 161	 200	 159	520
全体	323	376	377	1076

	1年生	2年生	3年生	全体
参加したい	 25.7%	 26.6%	 21.0%	24.3%
参加したくない	 24.5%	 20.2%	 36.9%	27.3%
どちらともいえない	 49.8%	 53.2%	 42.2%	48.3%
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 参加したい ■ 参加したくない ■ どちらともいえない



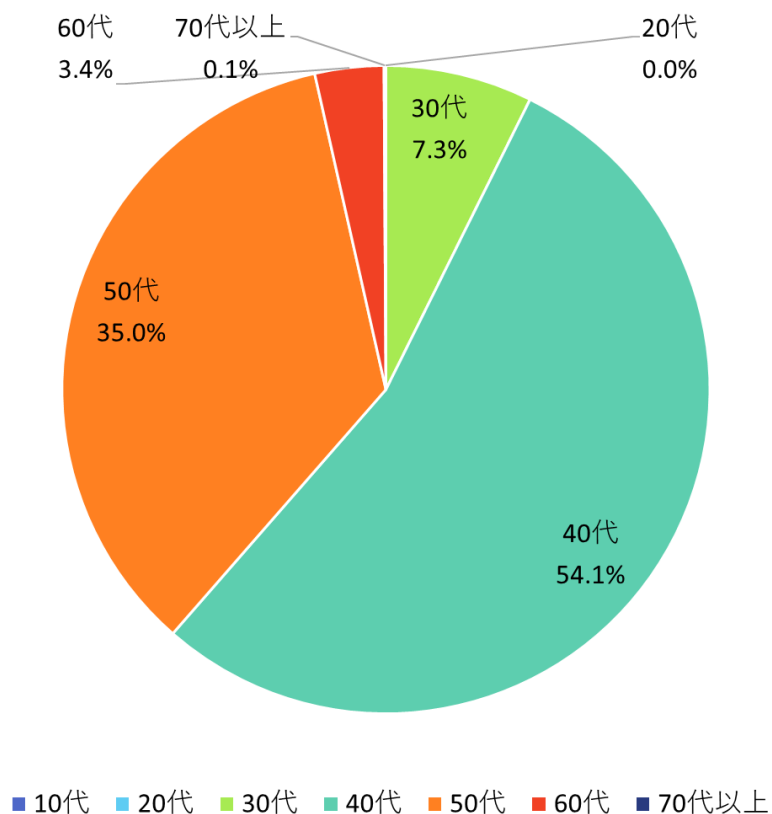
■ 参加したい ■ 参加したくない ■ どちらともいえない

3.5. 中学生保護者のアンケート調査結果

【保護者】Q1. 年代について教えてください。

- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 代以上

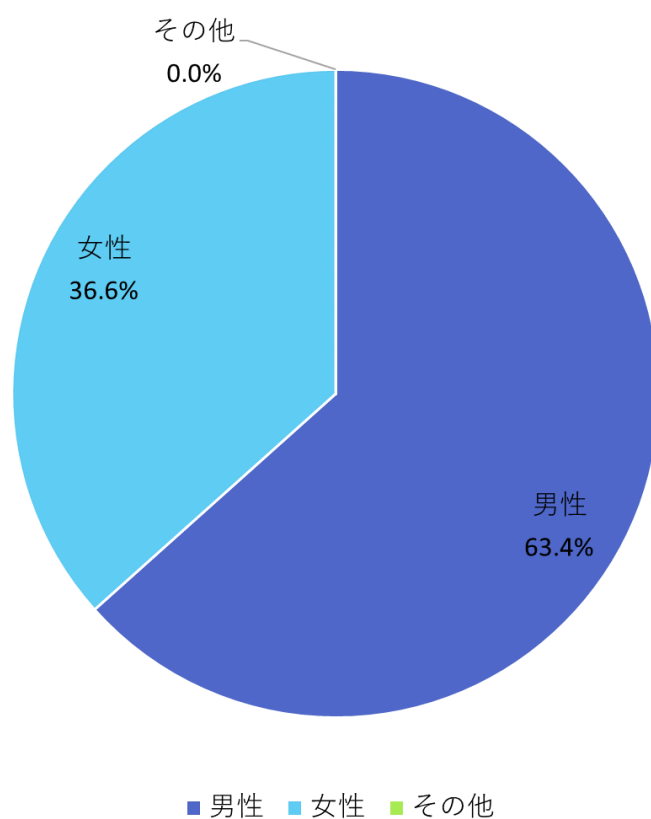
年代	実数	割合
10代		
20代	0	0.0%
30代	79	7.3%
40代	582	54.1%
50代	377	35.0%
60代	37	3.4%
70代以上	1	0.1%
全体	1076	100.0%



【保護者】 Q2. 性別について教えてください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他

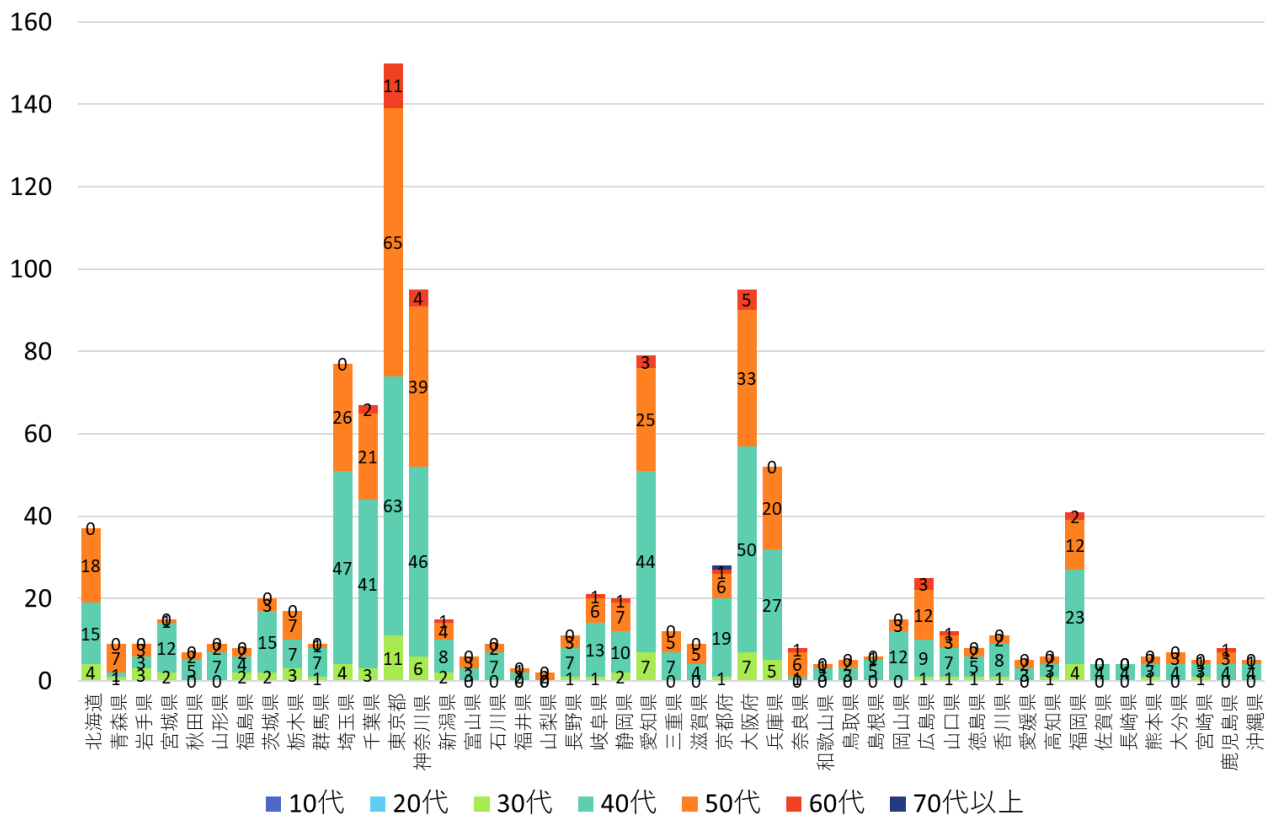
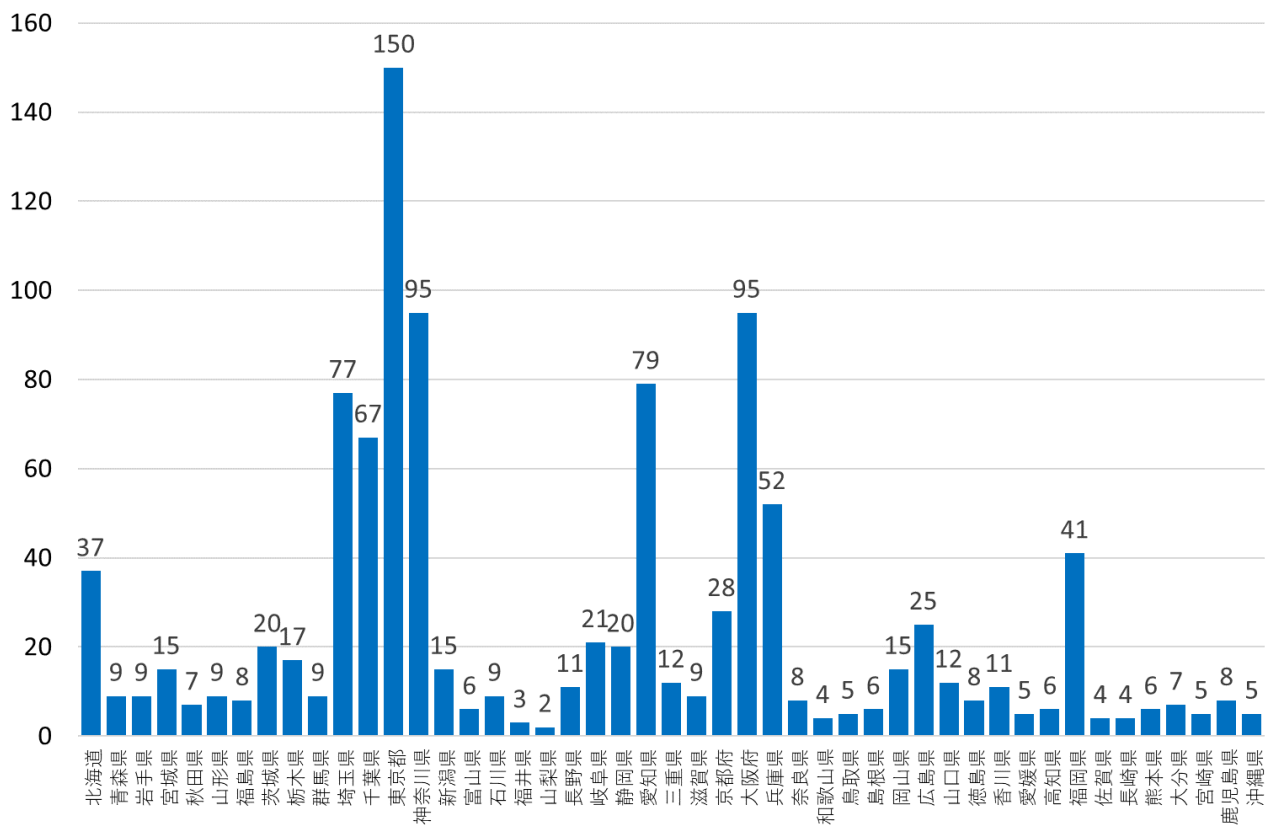
年代	実数	割合
男性	682	63.4%
女性	394	36.6%
その他	0	0.0%
全体	1076	100.0%



【保護者】Q3. お住まいの都道府県について教えてください。

☐北海道、☐青森県、☐岩手県、☐宮城県、☐秋田県、☐山形県、☐福島県、☐茨城県、☐栃木県、
☐群馬県、☐埼玉県、☐千葉県、☐東京都、☐神奈川県、☐新潟県、☐富山県、☐石川県、☐福井県、
☐山梨県、☐長野県、☐岐阜県、☐静岡県、☐愛知県、☐三重県、☐滋賀県、☐京都府、☐大阪府、
☐兵庫県、☐奈良県、☐和歌山県、☐鳥取県、☐島根県、☐岡山県、☐広島県、☐山口県、☐徳島県、
☐香川県、☐愛媛県、☐高知県、☐福岡県、☐佐賀県、☐長崎県、☐熊本県、☐大分県、☐宮崎県、
☐鹿児島県、☐沖縄県

No.	都道府県	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体	割合
1	北海道		0	4	15	18	0	0	37	3.4%
2	青森県		0	1	1	7	0	0	9	0.8%
3	岩手県		0	3	3	3	0	0	9	0.8%
4	宮城県		0	2	12	1	0	0	15	1.4%
5	秋田県		0	0	5	2	0	0	7	0.7%
6	山形県		0	0	7	2	0	0	9	0.8%
7	福島県		0	2	4	2	0	0	8	0.7%
8	茨城県		0	2	15	3	0	0	20	1.9%
9	栃木県		0	3	7	7	0	0	17	1.6%
10	群馬県		0	1	7	1	0	0	9	0.8%
11	埼玉県		0	4	47	26	0	0	77	7.2%
12	千葉県		0	3	41	21	2	0	67	6.2%
13	東京都		0	11	63	65	11	0	150	13.9%
14	神奈川県		0	6	46	39	4	0	95	8.8%
15	新潟県		0	2	8	4	1	0	15	1.4%
16	富山県		0	0	3	3	0	0	6	0.6%
17	石川県		0	0	7	2	0	0	9	0.8%
18	福井県		0	0	2	1	0	0	3	0.3%
19	山梨県		0	0	0	2	0	0	2	0.2%
20	長野県		0	1	7	3	0	0	11	1.0%
21	岐阜県		0	1	13	6	1	0	21	2.0%
22	静岡県		0	2	10	7	1	0	20	1.9%
23	愛知県		0	7	44	25	3	0	79	7.3%
24	三重県		0	0	7	5	0	0	12	1.1%
25	滋賀県		0	0	4	5	0	0	9	0.8%
26	京都府		0	1	19	6	1	1	28	2.6%
27	大阪府		0	7	50	33	5	0	95	8.8%
28	兵庫県		0	5	27	20	0	0	52	4.8%
29	奈良県		0	0	1	6	1	0	8	0.7%
30	和歌山県		0	0	3	1	0	0	4	0.4%
31	鳥取県		0	0	3	2	0	0	5	0.5%
32	島根県		0	0	5	1	0	0	6	0.6%
33	岡山県		0	0	12	3	0	0	15	1.4%
34	広島県		0	1	9	12	3	0	25	2.3%
35	山口県		0	1	7	3	1	0	12	1.1%
36	徳島県		0	1	5	2	0	0	8	0.7%
37	香川県		0	1	8	2	0	0	11	1.0%
38	愛媛県		0	0	3	2	0	0	5	0.5%
39	高知県		0	1	3	2	0	0	6	0.6%
40	福岡県		0	4	23	12	2	0	41	3.8%
41	佐賀県		0	0	4	0	0	0	4	0.4%
42	長崎県		0	0	4	0	0	0	4	0.4%
43	熊本県		0	1	3	2	0	0	6	0.6%
44	大分県		0	0	4	3	0	0	7	0.7%
45	宮崎県		0	1	3	1	0	0	5	0.5%
46	鹿児島県		0	0	4	3	1	0	8	0.7%
47	沖縄県		0	0	4	1	0	0	5	0.5%
	全体		0	79	582	377	37	1	1076	100.0%



【保護者】Q4. お子さんの進路について検討する際に、どのような方法で情報収集をしていますか。
＜複数回答可＞

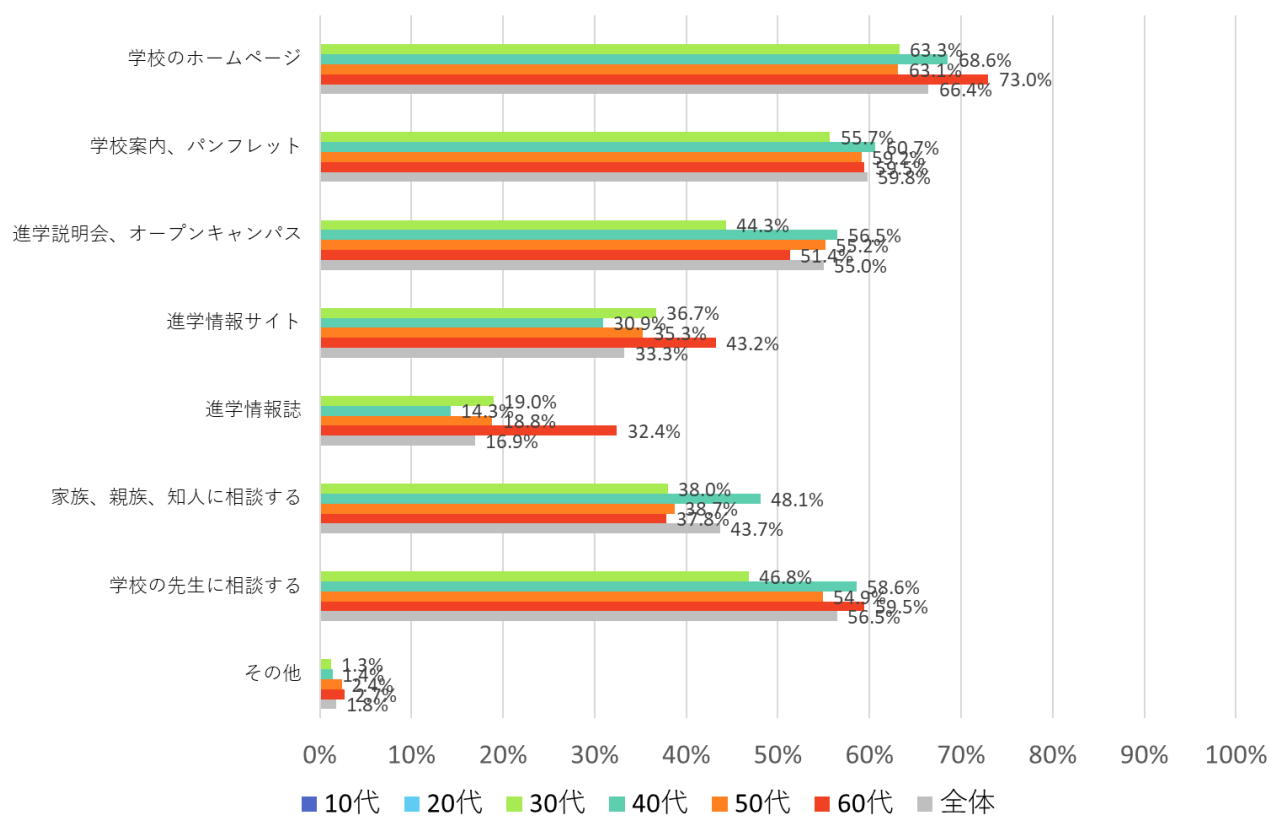
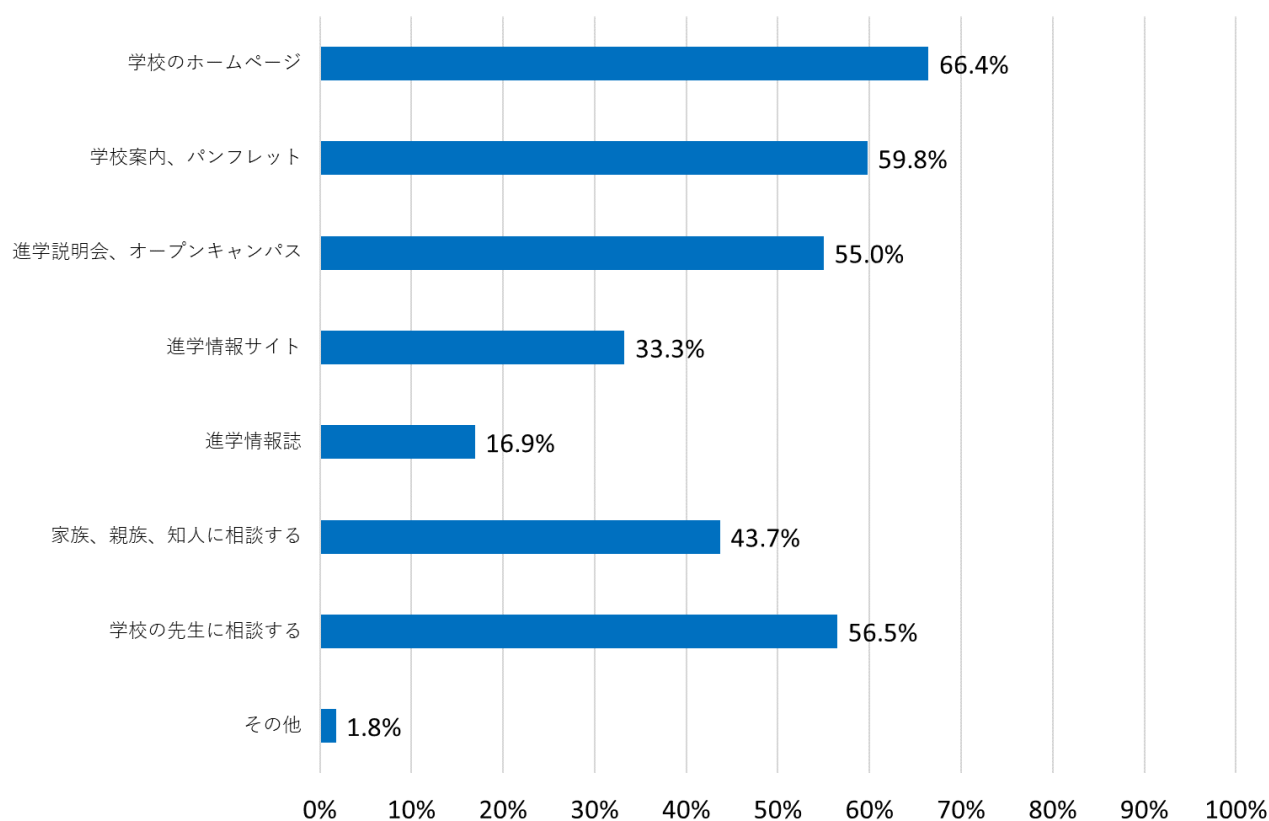
- ☐学校のホームページ
☐学校案内、パンフレット
☐進学説明会、オープンキャンパス
☐進学情報サイト
☐進学情報誌
☐家族、親族、知人に相談する
☐学校の先生に相談する
☐その他【自由記述】（

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校のホームページ		0	50	399	238	27	1	715
学校案内、パンフレット		0	44	353	223	22	1	643
進学説明会、オープンキャンパス		0	35	329	208	19	1	592
進学情報サイト		0	29	180	133	16	0	358
進学情報誌		0	15	83	71	12	1	182
家族、親族、知人に相談する		0	30	280	146	14	0	470
学校の先生に相談する		0	37	341	207	22	1	608
その他		0	1	8	9	1	0	19

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校のホームページ		0.0%	63.3%	68.6%	63.1%	73.0%	100.0%	66.4%
学校案内、パンフレット		0.0%	55.7%	60.7%	59.2%	59.5%	100.0%	59.8%
進学説明会、オープンキャンパス		0.0%	44.3%	56.5%	55.2%	51.4%	100.0%	55.0%
進学情報サイト		0.0%	36.7%	30.9%	35.3%	43.2%	0.0%	33.3%
進学情報誌		0.0%	19.0%	14.3%	18.8%	32.4%	100.0%	16.9%
家族、親族、知人に相談する		0.0%	38.0%	48.1%	38.7%	37.8%	0.0%	43.7%
学校の先生に相談する		0.0%	46.8%	58.6%	54.9%	59.5%	100.0%	56.5%
その他		0.0%	1.3%	1.4%	2.4%	2.7%	0.0%	1.8%

その他（自由記述）

- ・塾から情報を得る。

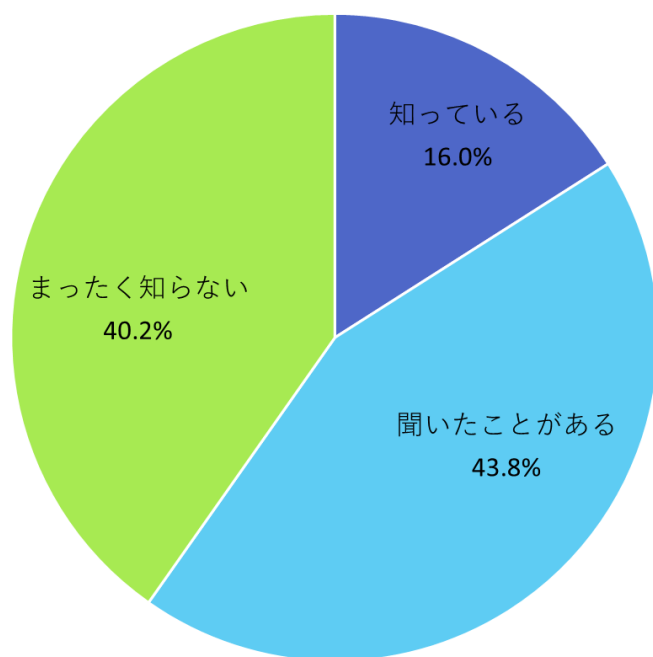


【保護者】Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

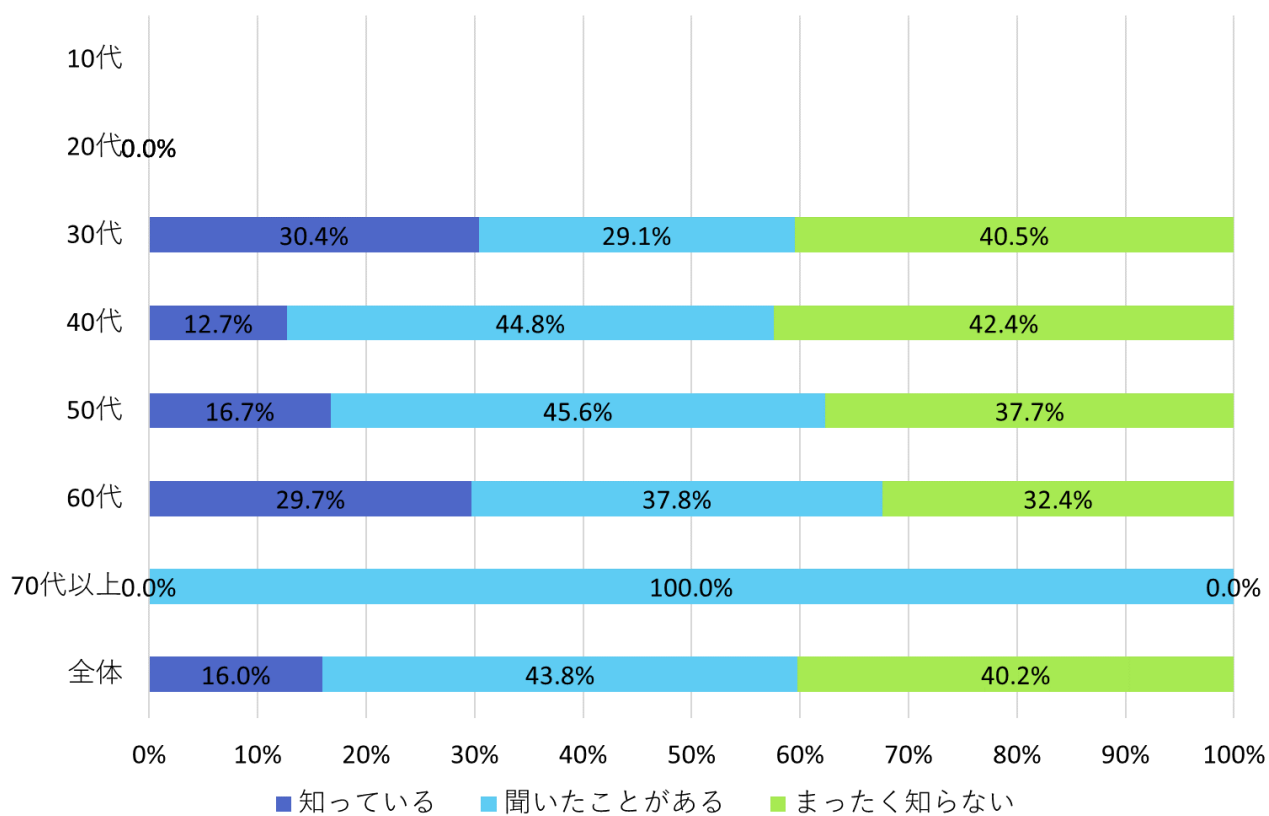
- ☐知っている
☐聞いたことがある
☐まったく知らない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
知っている		0	24	74	63	11	0	172
聞いたことがある		0	23	261	172	14	1	471
まったく知らない		0	32	247	142	12	0	433
全体		0	79	582	377	37	1	1076

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
知っている		0.0%	30.4%	12.7%	16.7%	29.7%	0.0%	16.0%
聞いたことがある		0.0%	29.1%	44.8%	45.6%	37.8%	100.0%	43.8%
まったく知らない		0.0%	40.5%	42.4%	37.7%	32.4%	0.0%	40.2%
全体		0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ まったく知らない



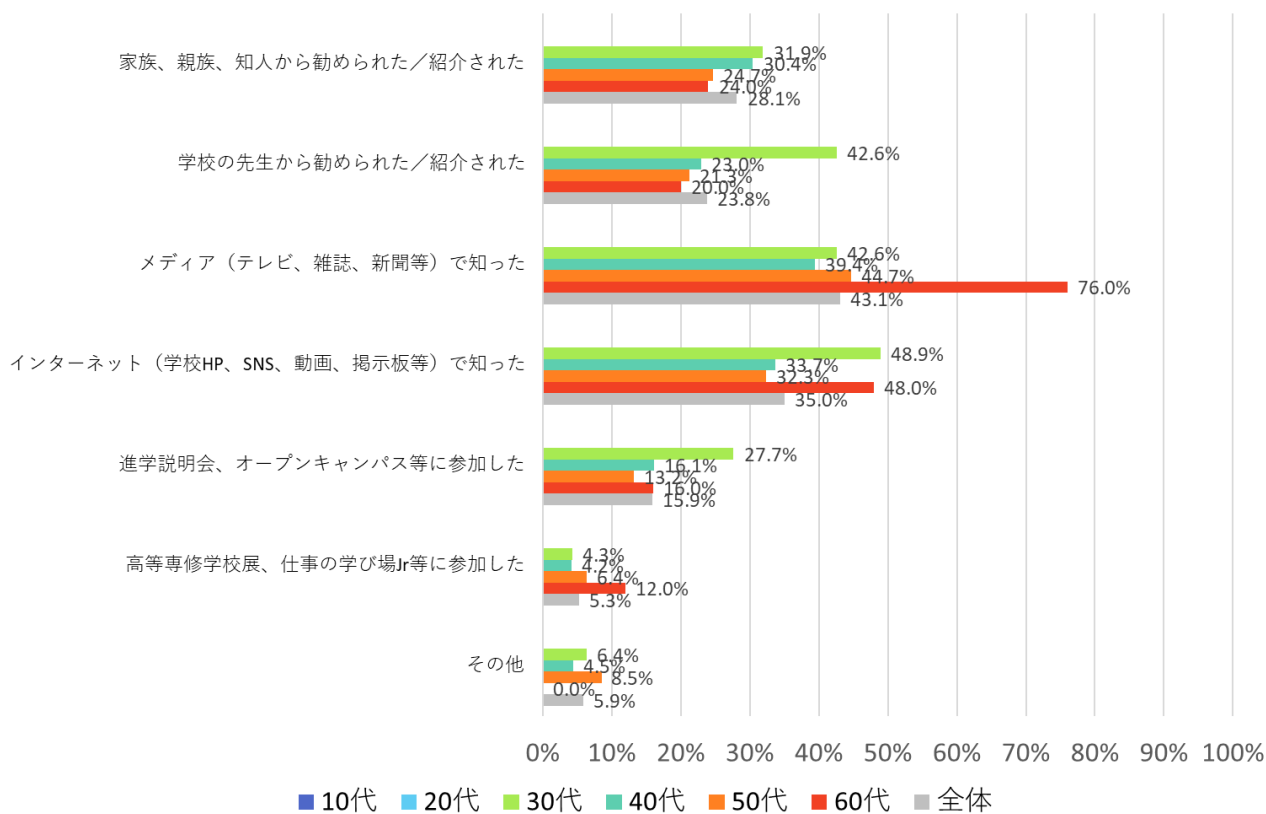
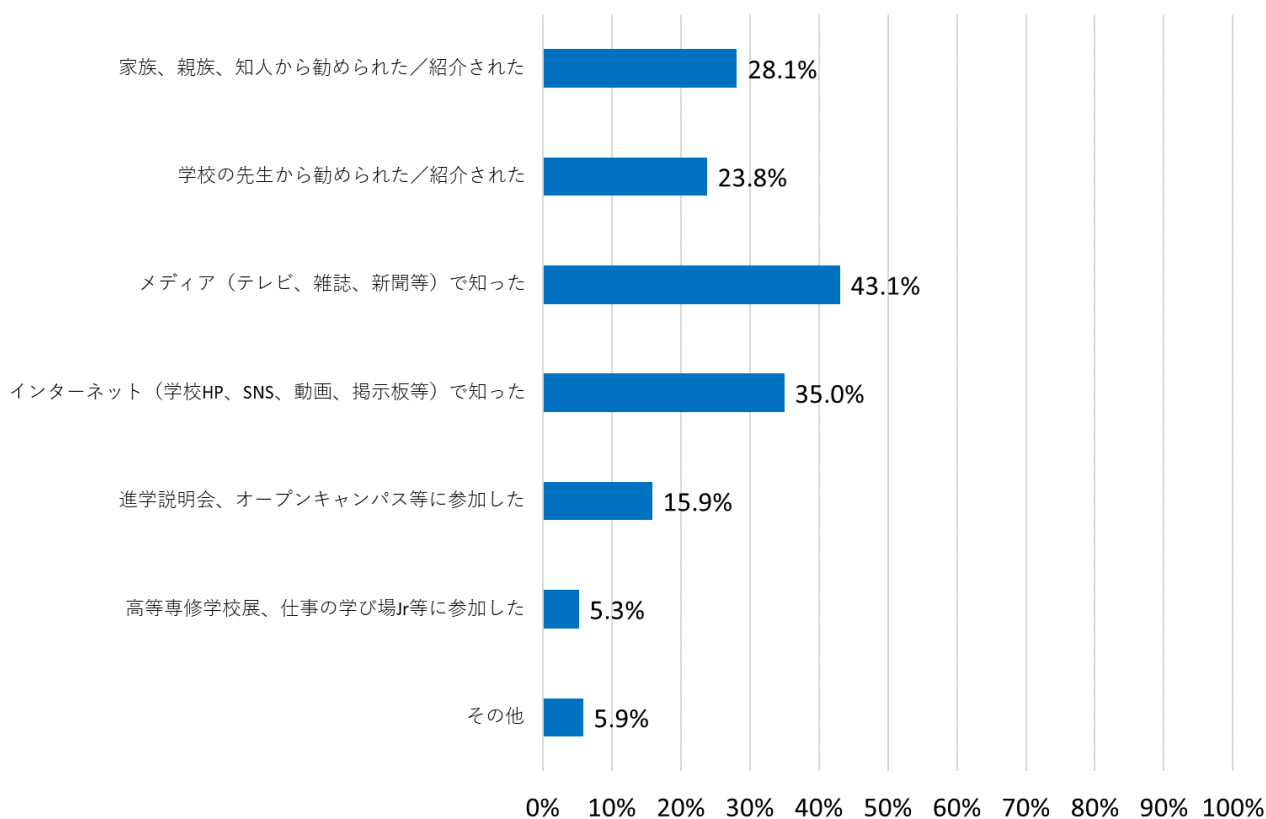
■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ まったく知らない

＜複数回答可＞

- ☐ 家族、親族、知人から勧められた／紹介された
- ☐ 学校の先生から勧められた／紹介された
- ☐ メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った
- ☐ インターネット（学校 HP、SNS、動画、掲示板等）で知った
- ☐ 進学説明会、オープンキャンパス等に参加した
- ☐ 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr 等に参加した
- ☐ その他【自由記述】（

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
家族、親族、知人から勧められた／紹介された		0.0%	31.9%	30.4%	24.7%	24.0%	0.0%	28.1%
学校の先生から勧められた／紹介された		0.0%	42.6%	23.0%	21.3%	20.0%	100.0%	23.8%
メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った		0.0%	42.6%	39.4%	44.7%	76.0%	100.0%	43.1%
インターネット（学校HP、SNS、動画、掲示板等）で知った		0.0%	48.9%	33.7%	32.3%	48.0%	100.0%	35.0%
進学説明会、オープンキャンパス等に参加した		0.0%	27.7%	16.1%	13.2%	16.0%	0.0%	15.9%
高等専修学校展、仕事の学び場Jr等に参加した		0.0%	4.3%	4.2%	6.4%	12.0%	0.0%	5.3%
その他		0.0%	6.4%	4.5%	8.5%	0.0%	0.0%	5.9%

- ・自分で調べた。
- ・塾から情報を得た。
- ・近所にある。
- ・以前に勤めていたことがある。
- ・自分が高等専修学校の卒業生である。



【保護者】Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。

<複数回答可>

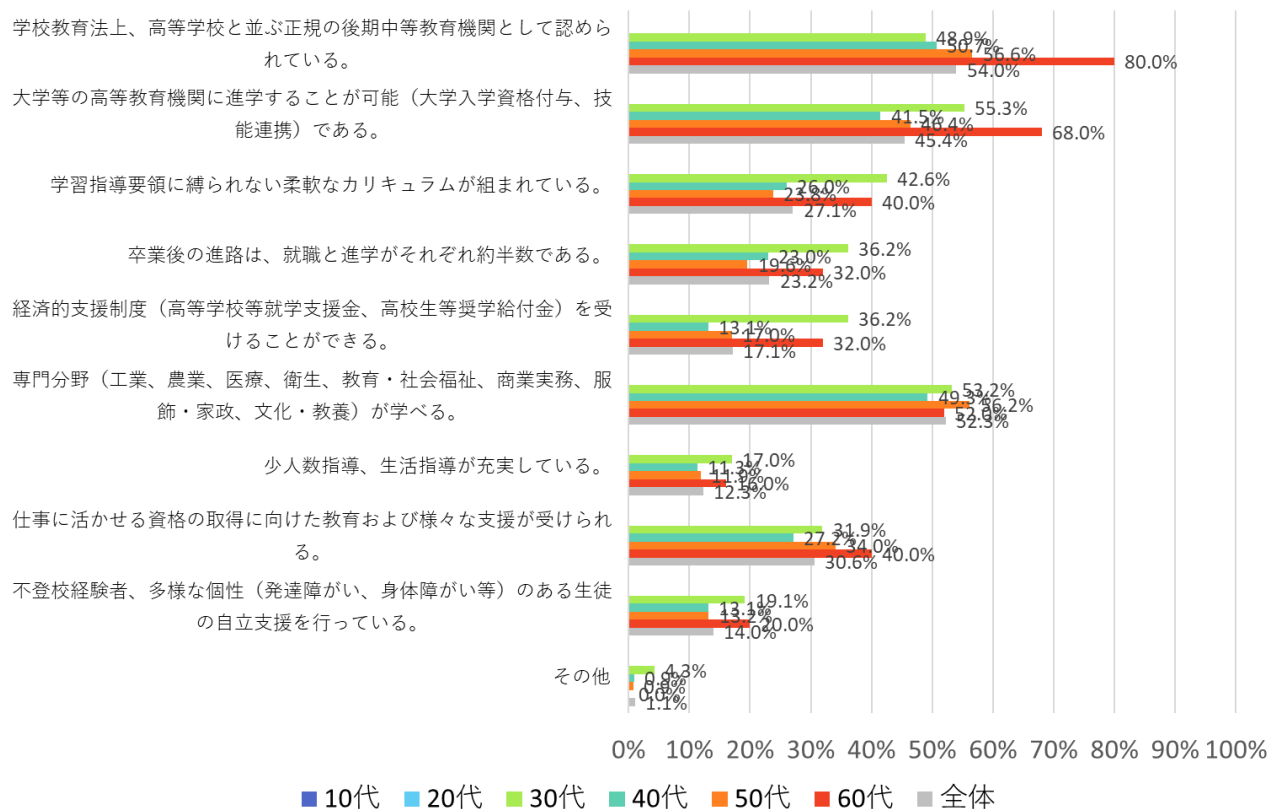
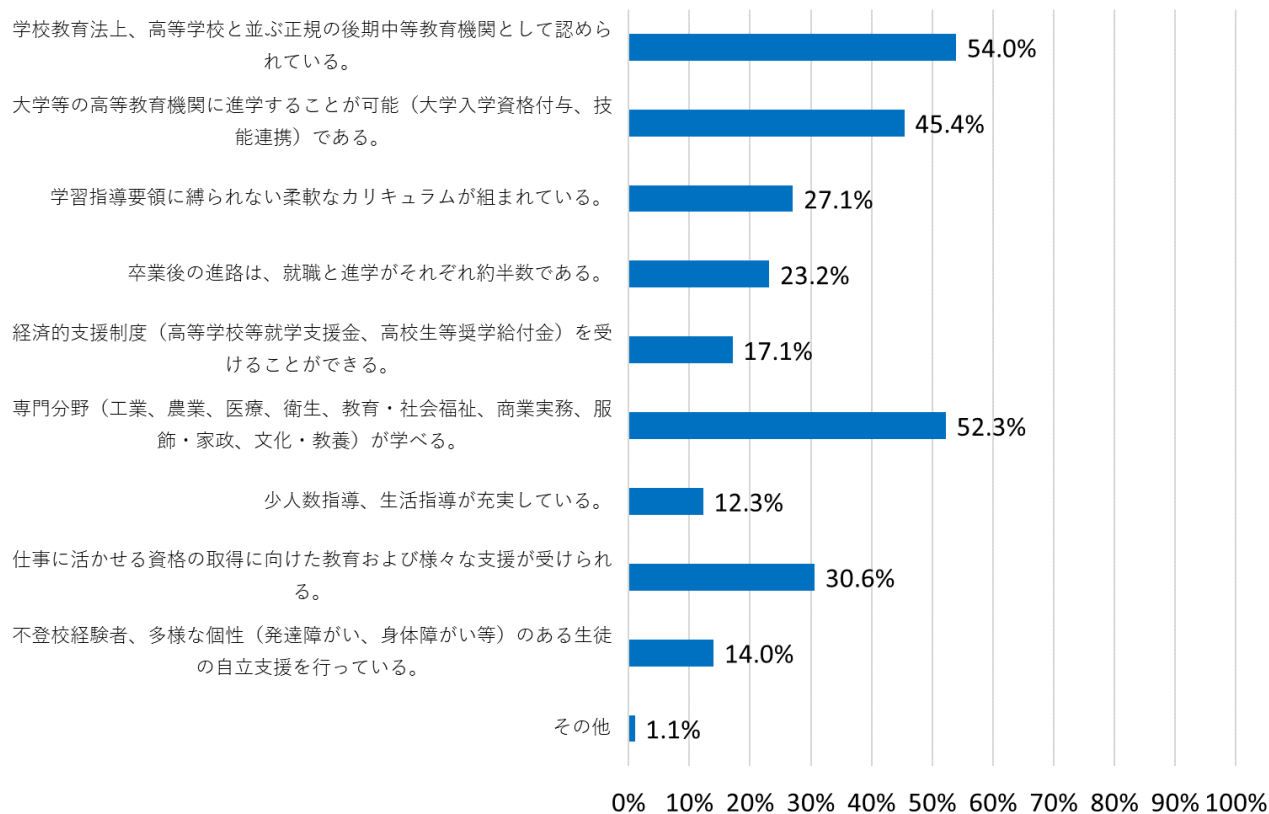
- ☐学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
- ☐大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。
- ☐学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
- ☐卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
- ☐経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。
- ☐専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
- ☐少人数指導、生活指導が充実している。
- ☐仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
- ☐不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
- ☐その他【自由記述】（ ）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。		0	23	170	133	20	1	347
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。		0	26	139	109	17	1	292
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。		0	20	87	56	10	1	174
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。		0	17	77	46	8	1	149
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。		0	17	44	40	8	1	110
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。		0	25	165	132	13	1	336
少人数指導、生活指導が充実している。		0	8	38	28	4	1	79
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。		0	15	91	80	10	1	197
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。		0	9	44	31	5	1	90
その他		0	2	3	2	0	0	7

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。		0.0%	48.9%	50.7%	56.6%	80.0%	100.0%	54.0%
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。		0.0%	55.3%	41.5%	46.4%	68.0%	100.0%	45.4%
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。		0.0%	42.6%	26.0%	23.8%	40.0%	100.0%	27.1%
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。		0.0%	36.2%	23.0%	19.6%	32.0%	100.0%	23.2%
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。		0.0%	36.2%	13.1%	17.0%	32.0%	100.0%	17.1%
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。		0.0%	53.2%	49.3%	56.2%	52.0%	100.0%	52.3%
少人数指導、生活指導が充実している。		0.0%	17.0%	11.3%	11.9%	16.0%	100.0%	12.3%
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。		0.0%	31.9%	27.2%	34.0%	40.0%	100.0%	30.6%
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。		0.0%	19.1%	13.1%	13.2%	20.0%	100.0%	14.0%
その他		0.0%	4.3%	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	1.1%

その他（自由記述）

- ・カリキュラムが充実している。
- ・選択肢が広い。
- ・学費が高そう。



【保護者】Q8. 高等専修学校のイメージについて教えてください。

☐ 【自由記述】 ()

肯定的な回答

- ・ 専門知識を習得できる。技能が身につく。就職に有利。実践的。資格取得。即戦力。仕事に直結。
- ・ 目的をもって学べる。進路がはっきりしている人が通う。やりたいことがある人が行く。
- ・ 将来の夢への近道。勉強が苦手だけど興味があることを学べる。
- ・ 目的がなく普通科に行くより良い。
- ・ 進学もできる。
- ・ 不登校支援。普通高校に行けない・発達障害の人の受け皿。
- ・ 楽しく学べる。新しい学びの形。サポートが良い。
- ・ 柔軟。自由。きちんとしている。個性を伸ばす。まっとうな人間形成ができそう。
- ・ 信頼感がある。

否定的な回答

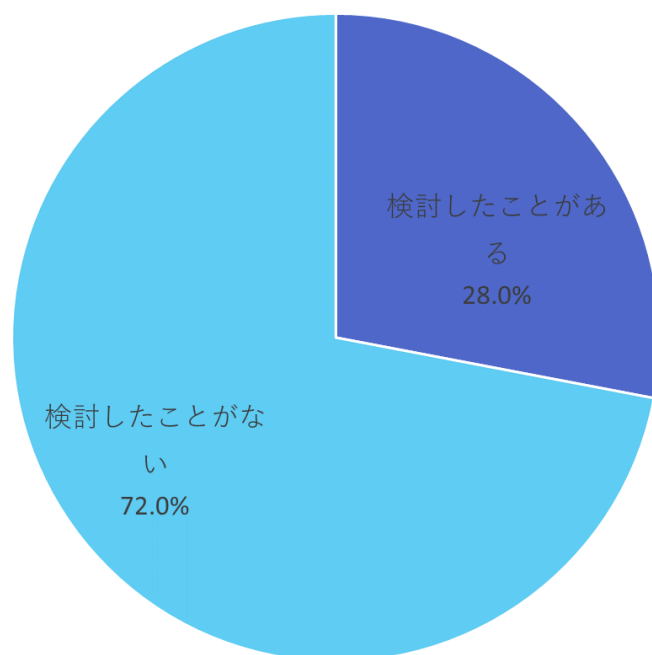
- ・ 学力が低い。勉強ができない人、不登校の生徒が行く。進学しない人向け。
- ・ 高専との違いがわからない。
- ・ 情報が少ない。なじみがない。一般的でない。中途半端。
- ・ 通信教育。
- ・ 希望する学生が減っている。

【保護者】Q9-1. 高等専修学校をお子さんの進学先として検討したことがありますか。

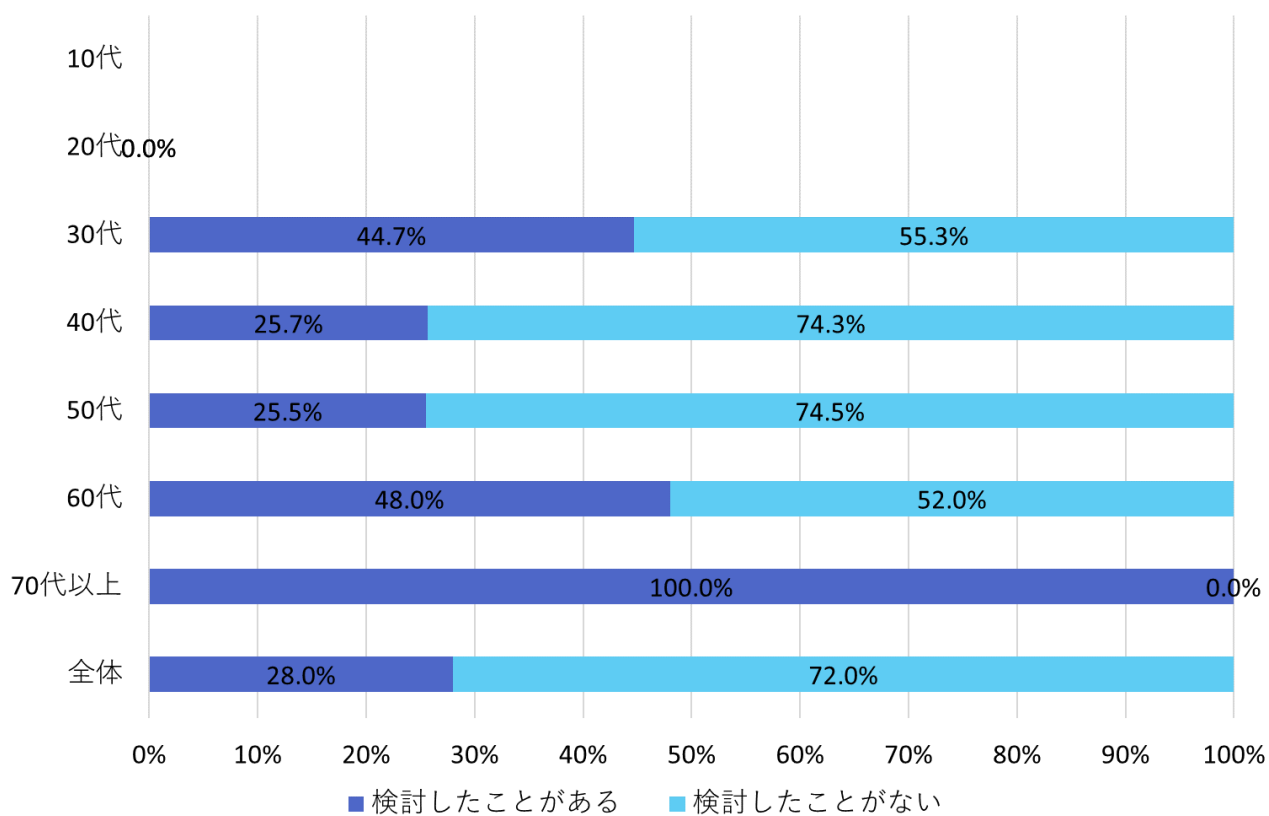
- ☐検討したことがある
☐検討したことがない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
検討したことがある		0	21	86	60	12	1	180
検討したことがない		0	26	249	175	13	0	463
全体		0	47	335	235	25	1	643

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
検討したことがある		0.0%	44.7%	25.7%	25.5%	48.0%	100.0%	28.0%
検討したことがない		0.0%	55.3%	74.3%	74.5%	52.0%	0.0%	72.0%
全体		0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 検討したことがある ■ 検討したことがない



■ 検討したことがある ■ 検討したことがない

【保護者】Q9-2. 進学先として「検討したことがある／検討したことがない」理由について教えてください。

☐ 【自由記述】 ()

検討したことがある理由

- ・全日制の滑り止め。子どもが勉強が苦手なので。
- ・実践的。専門性を活かせる。就職に有利。選択肢を増やす。即戦力。子どもの将来によさそう。
- ・学びたいことが学べる。夢への近道。身に着けられることが多い。
- ・普通の高校に行くより良い。
- ・子どもが発達障害（ADHD）、知的障害なので。不登校。
- ・子どもには好きなことをしてほしい。子どもが興味を持った。子どもにマッチしている
- ・信頼できる。自由。サポートしてくれそう。
- ・口コミ。
- ・近くにある。
- ・来年から子どもが通う。

検討したことがない理由

- ・進路選択の幅が狭くなる。
- ・やりたい専門分野がない。就職を考えていない。
- ・卒業後の事例が少ない。
- ・普通の高校に通わせたい。やりたいことがはっきりしないので普通科に行かせたい。
- ・大学を目指している。大学進学に不要。
- ・学費が高そう。
- ・近くにない。
- ・閉鎖的。馴染みがない。知名度がない。知識が乏しい。きっかけがない。特殊な学校なので。
- ・子どもの希望と合わない。
- ・通信制高校に行かせるので。

【保護者】Q10. 高等専修学校では、自分の興味のある専門分野を学ぶことができるとともに、仕事に活かすことができるさまざまな資格を取得することができます。

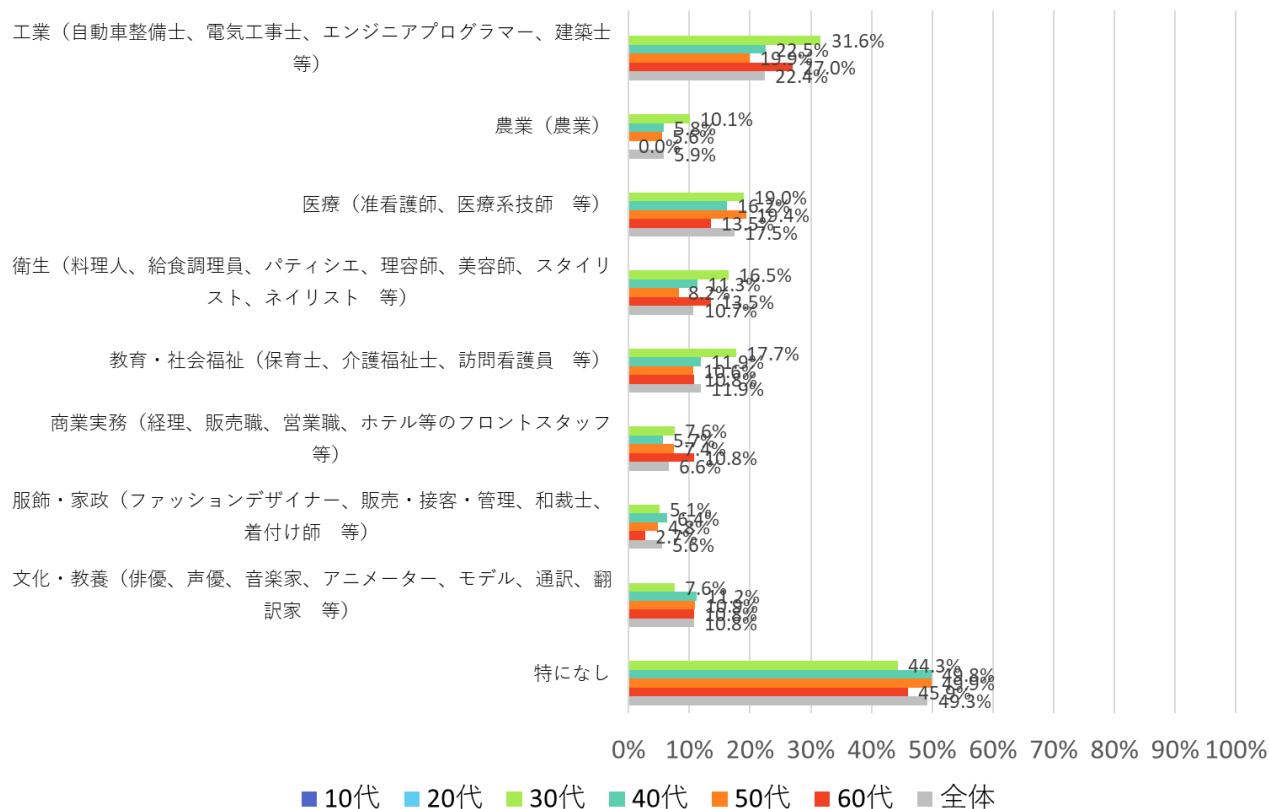
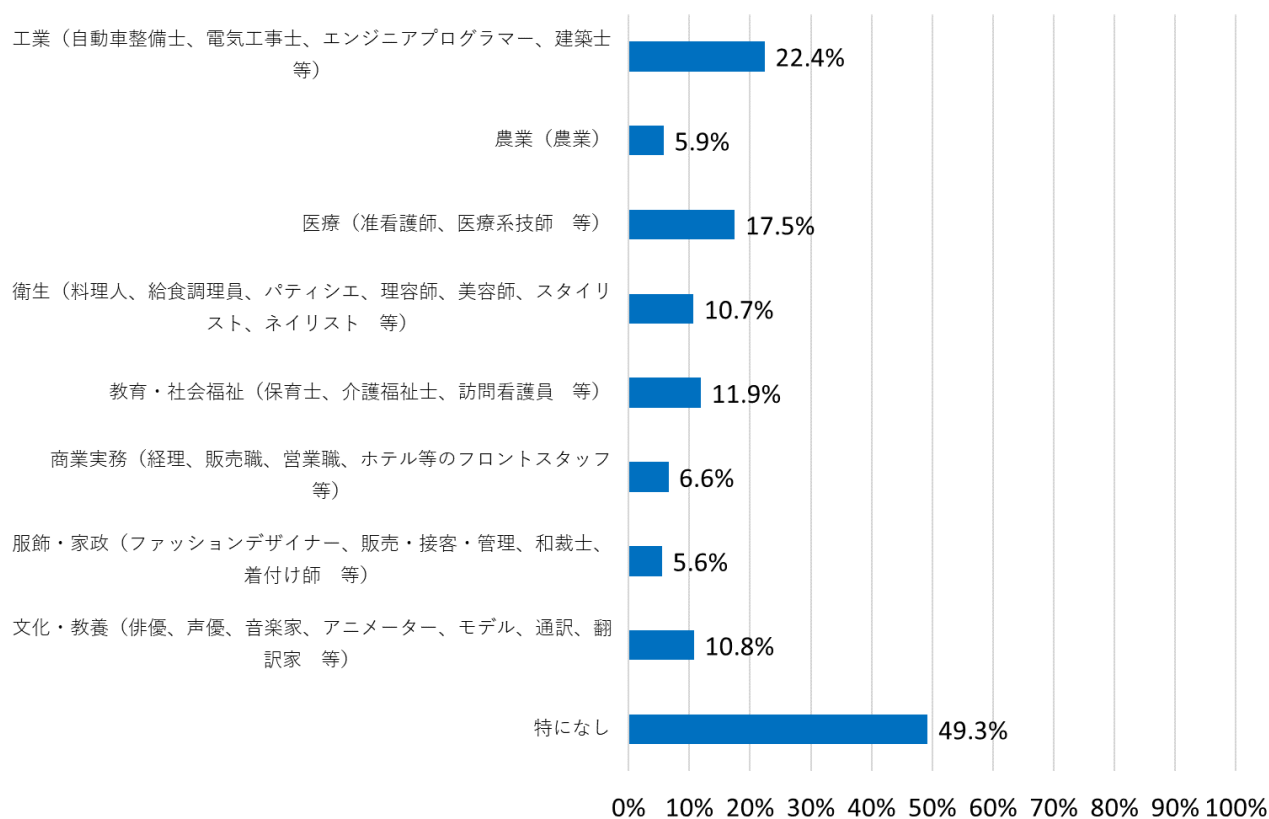
以下の中で、関心がある分野があれば教えてください。（ ）内は、主な職種の例を示します。

<複数回答可>

- ☐ 工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）
- ☐ 農業（農業）
- ☐ 医療（准看護師、医療系技師 等）
- ☐ 衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）
- ☐ 教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）
- ☐ 商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）
- ☐ 服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）
- ☐ 文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）
- ☐ 特になし

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）		0	25	131	75	10	0	241
農業（農業）		0	8	34	21	0	0	63
医療（准看護師、医療系技師 等）		0	15	94	73	5	1	188
衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）		0	13	66	31	5	0	115
教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）		0	14	69	40	4	1	128
商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）		0	6	33	28	4	0	71
服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）		0	4	37	18	1	0	60
文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）		0	6	65	41	4	0	116
特になし		0	35	290	188	17	0	530

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）		0.0%	31.6%	22.5%	19.9%	27.0%	0.0%	22.4%
農業（農業）		0.0%	10.1%	5.8%	5.6%	0.0%	0.0%	5.9%
医療（准看護師、医療系技師 等）		0.0%	19.0%	16.2%	19.4%	13.5%	100.0%	17.5%
衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）		0.0%	16.5%	11.3%	8.2%	13.5%	0.0%	10.7%
教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）		0.0%	17.7%	11.9%	10.6%	10.8%	100.0%	11.9%
商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）		0.0%	7.6%	5.7%	7.4%	10.8%	0.0%	6.6%
服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）		0.0%	5.1%	6.4%	4.8%	2.7%	0.0%	5.6%
文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）		0.0%	7.6%	11.2%	10.9%	10.8%	0.0%	10.8%
特になし		0.0%	44.3%	49.8%	49.9%	45.9%	0.0%	49.3%

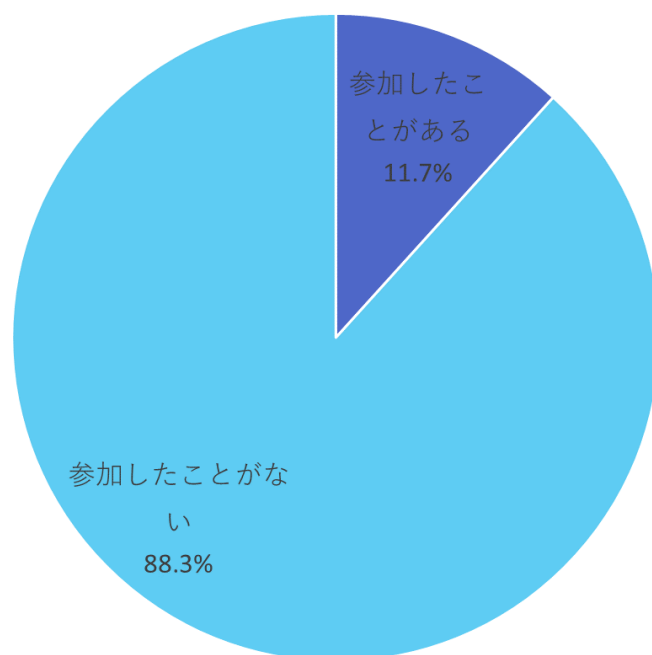


【保護者】Q11. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等に参加したことがありますか。

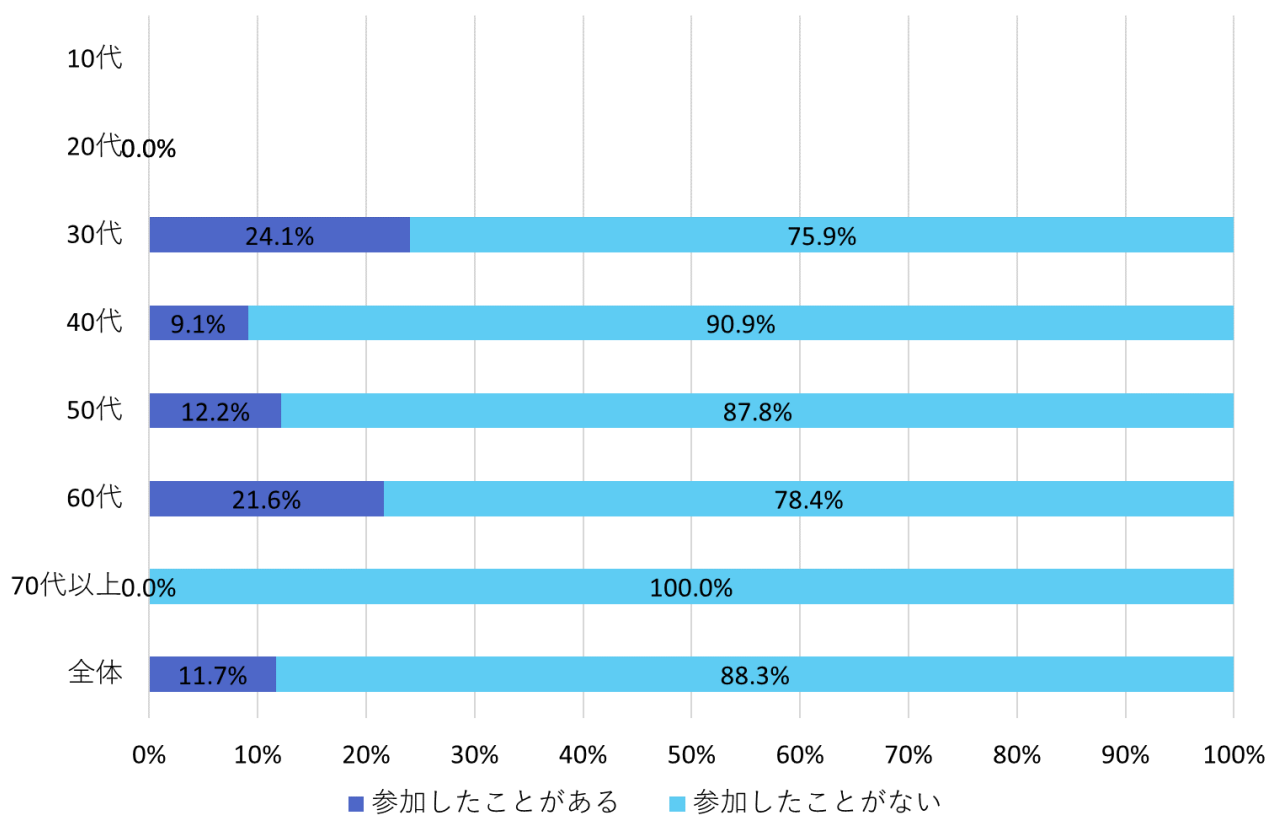
- ☐ 参加したことがある
☐ 参加したことがない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
参加したことがある		0	19	53	46	8	0	126
参加したことがない		0	60	529	331	29	1	950
全体		0	79	582	377	37	1	1076

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
参加したことがある		0.0%	24.1%	9.1%	12.2%	21.6%	0.0%	11.7%
参加したことがない		0.0%	75.9%	90.9%	87.8%	78.4%	100.0%	88.3%
全体		0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 参加したことがある ■ 参加したことがない

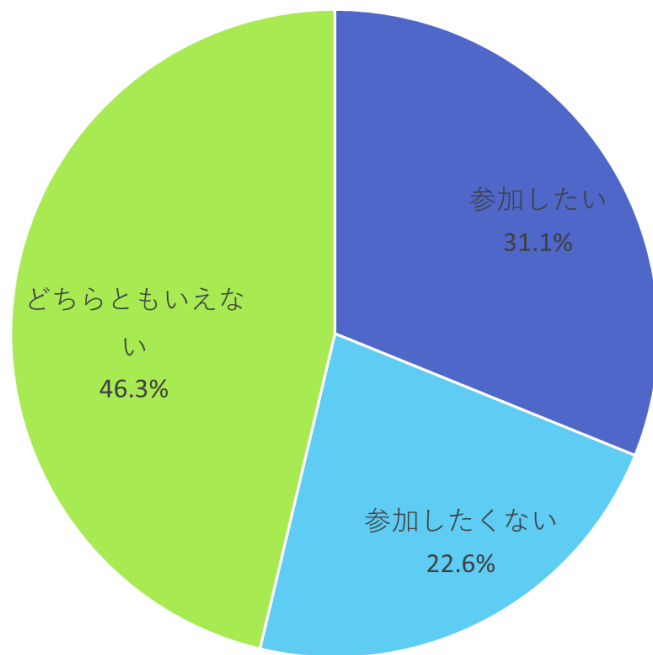


【保護者】Q12. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等の機会があれば参加したいですか。

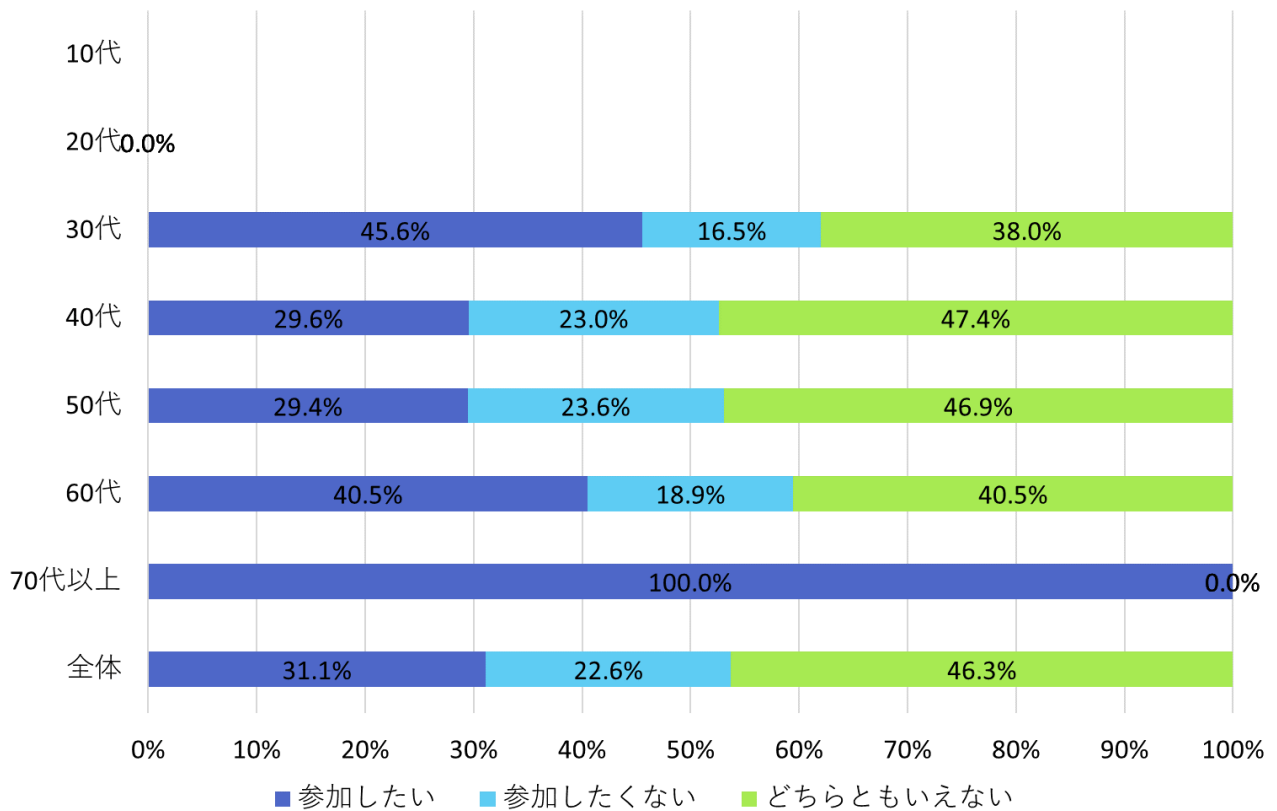
- ☐ 参加したい
☐ 参加したくない
☐ どちらともいえない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
参加したい		0	36	172	111	15	1	335
参加したくない		0	13	134	89	7	0	243
どちらともいえない		0	30	276	177	15	0	498
全体		0	79	582	377	37	1	1076

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
参加したい		0.0%	45.6%	29.6%	29.4%	40.5%	100.0%	31.1%
参加したくない		0.0%	16.5%	23.0%	23.6%	18.9%	0.0%	22.6%
どちらともいえない		0.0%	38.0%	47.4%	46.9%	40.5%	0.0%	46.3%
全体		0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 参加したい ■ 参加したくない ■ どちらともいえない

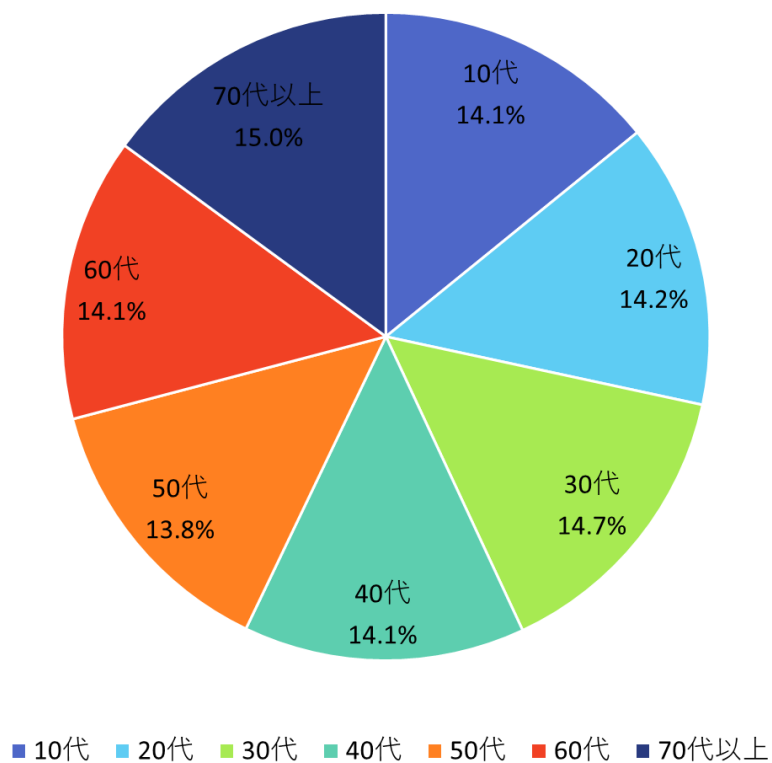


3.6. 一般のアンケート調査結果

【一般】 Q1. 年代について教えてください。

- ☐ 10 代
- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 代以上

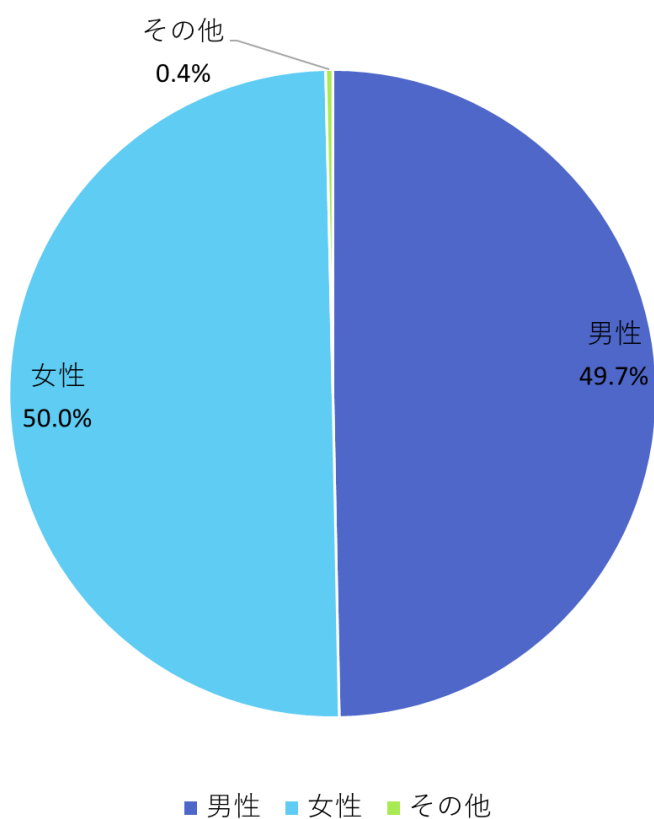
年代	実数	割合
10代	158	14%
20代	159	14%
30代	164	15%
40代	157	14%
50代	154	14%
60代	158	14%
70代以上	167	15%
全体	1117	100%



【一般】 Q2. 性別について教えてください。

- ☐男性
☐女性
☐その他

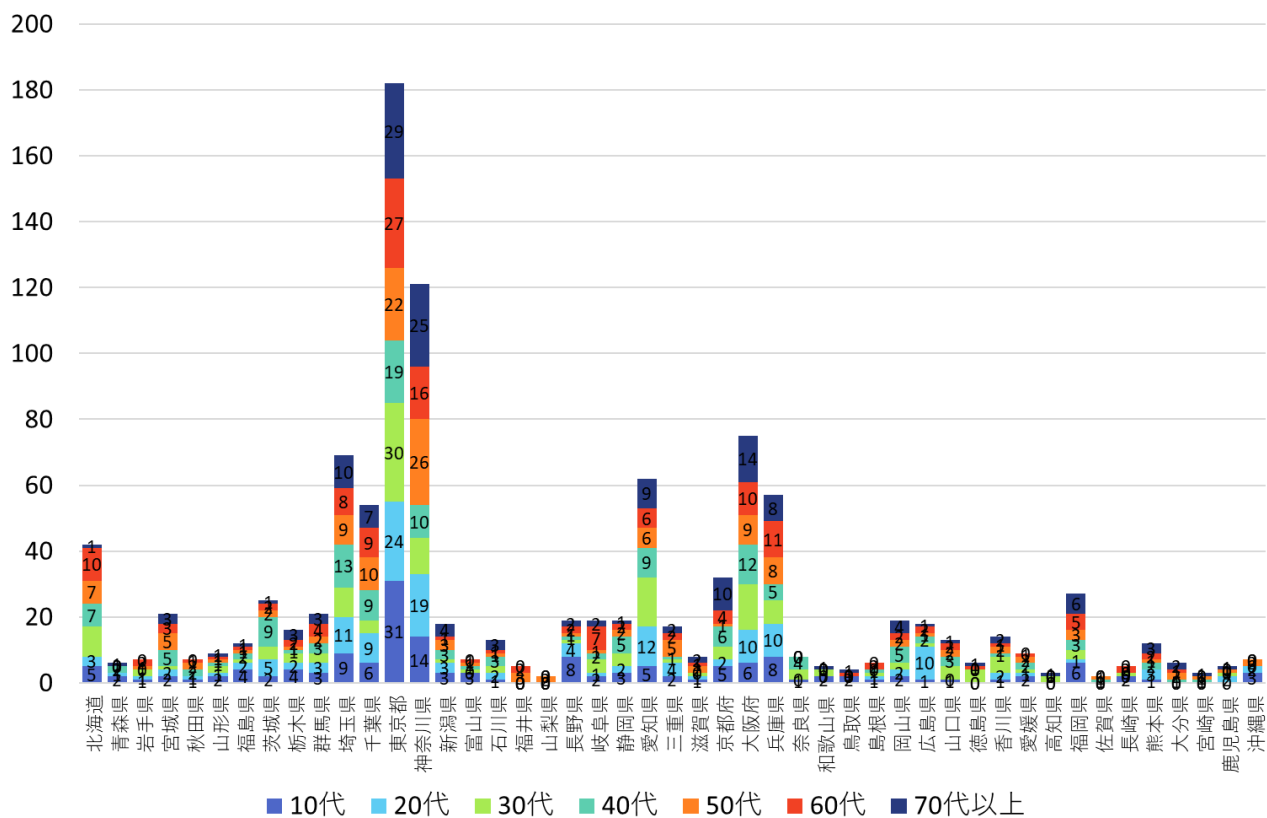
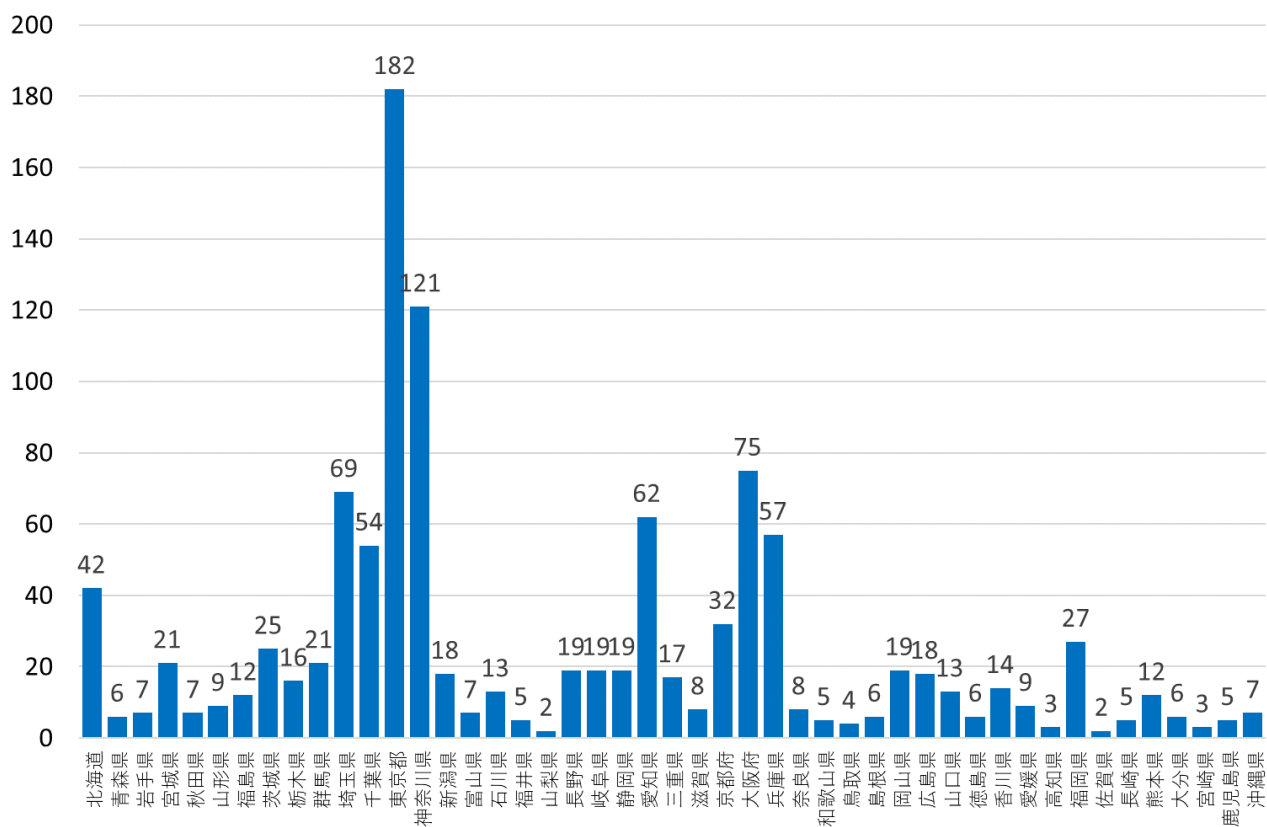
性別	実数	割合
男性	555	49.7%
女性	558	50.0%
その他	4	0.4%
全体	1117	100.0%



【一般】Q3. お住まいの都道府県について教えてください。

☐北海道、☐青森県、☐岩手県、☐宮城県、☐秋田県、☐山形県、☐福島県、☐茨城県、☐栃木県、
☐群馬県、☐埼玉県、☐千葉県、☐東京都、☐神奈川県、☐新潟県、☐富山県、☐石川県、☐福井県、
☐山梨県、☐長野県、☐岐阜県、☐静岡県、☐愛知県、☐三重県、☐滋賀県、☐京都府、☐大阪府、
☐兵庫県、☐奈良県、☐和歌山県、☐鳥取県、☐島根県、☐岡山県、☐広島県、☐山口県、☐徳島県、
☐香川県、☐愛媛県、☐高知県、☐福岡県、☐佐賀県、☐長崎県、☐熊本県、☐大分県、☐宮崎県、
☐鹿児島県、☐沖縄県

No.	都道府県	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体	割合
1	北海道	5	3	9	7	7	10	1	42	3.8%
2	青森県	2	1	0	2	0	0	1	6	0.5%
3	岩手県	1	1	2	0	1	2	0	7	0.6%
4	宮城県	2	2	1	5	5	3	3	21	1.9%
5	秋田県	1	1	0	2	2	1	0	7	0.6%
6	山形県	2	1	2	1	1	1	1	9	0.8%
7	福島県	4	2	1	2	1	1	1	12	1.1%
8	茨城県	2	5	4	9	2	2	1	25	2.2%
9	栃木県	4	2	3	1	1	2	3	16	1.4%
10	群馬県	3	3	3	3	2	4	3	21	1.9%
11	埼玉県	9	11	9	13	9	8	10	69	6.2%
12	千葉県	6	9	4	9	10	9	7	54	4.8%
13	東京都	31	24	30	19	22	27	29	182	16.3%
14	神奈川県	14	19	11	10	26	16	25	121	10.8%
15	新潟県	3	3	1	3	3	1	4	18	1.6%
16	富山県	3	0	1	1	1	1	0	7	0.6%
17	石川県	1	2	2	3	1	1	3	13	1.2%
18	福井県	0	0	0	0	3	2	0	5	0.4%
19	山梨県	0	0	0	0	2	0	0	2	0.2%
20	長野県	8	4	1	1	1	2	2	19	1.7%
21	岐阜県	2	1	4	2	1	7	2	19	1.7%
22	静岡県	3	2	4	5	2	2	1	19	1.7%
23	愛知県	5	12	15	9	6	6	9	62	5.6%
24	三重県	2	4	1	1	5	2	2	17	1.5%
25	滋賀県	1	1	1	0	2	1	2	8	0.7%
26	京都府	5	2	4	6	1	4	10	32	2.9%
27	大阪府	6	10	14	12	9	10	14	75	6.7%
28	兵庫県	8	10	7	5	8	11	8	57	5.1%
29	奈良県	1	0	3	4	0	0	0	8	0.7%
30	和歌山県	2	0	2	0	0	0	1	5	0.4%
31	鳥取県	2	0	0	0	0	1	1	4	0.4%
32	島根県	1	1	1	1	0	2	0	6	0.5%
33	岡山県	2	2	2	5	2	2	4	19	1.7%
34	広島県	1	10	1	2	1	2	1	18	1.6%
35	山口県	1	0	4	3	2	2	1	13	1.2%
36	徳島県	0	0	4	0	0	1	1	6	0.5%
37	香川県	1	2	5	1	2	1	2	14	1.3%
38	愛媛県	2	1	1	2	2	1	0	9	0.8%
39	高知県	0	0	2	0	0	0	1	3	0.3%
40	福岡県	6	1	3	3	3	5	6	27	2.4%
41	佐賀県	0	0	0	1	1	0	0	2	0.2%
42	長崎県	2	0	1	0	0	2	0	5	0.4%
43	熊本県	1	3	0	2	1	2	3	12	1.1%
44	大分県	0	0	0	1	2	1	2	6	0.5%
45	宮崎県	0	0	0	1	1	0	1	3	0.3%
46	鹿児島県	0	2	1	0	1	0	1	5	0.4%
47	沖縄県	3	2	0	0	2	0	0	7	0.6%
	全体	158	159	164	157	154	158	167	1117	100.0%



【一般】Q4. 進路について検討する際に、どのような方法で情報収集をしていましたか。

<複数回答可>

- ☐ 学校のホームページ
☐ 学校案内、パンフレット
☐ 進学説明会、オープンキャンパス
☐ 進学情報サイト
☐ 進学情報誌
☐ 家族、親族、知人に相談する
☐ 学校の先生に相談する
☐ その他【自由記述】（

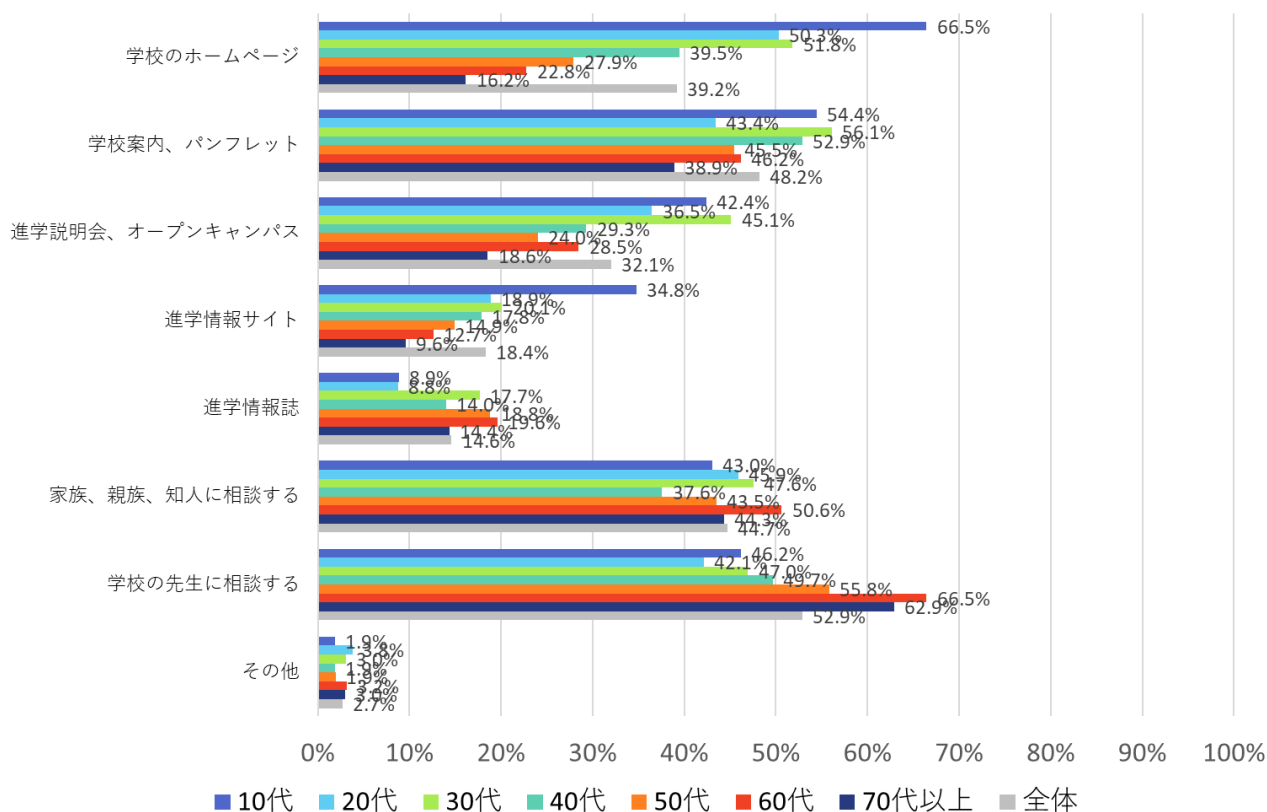
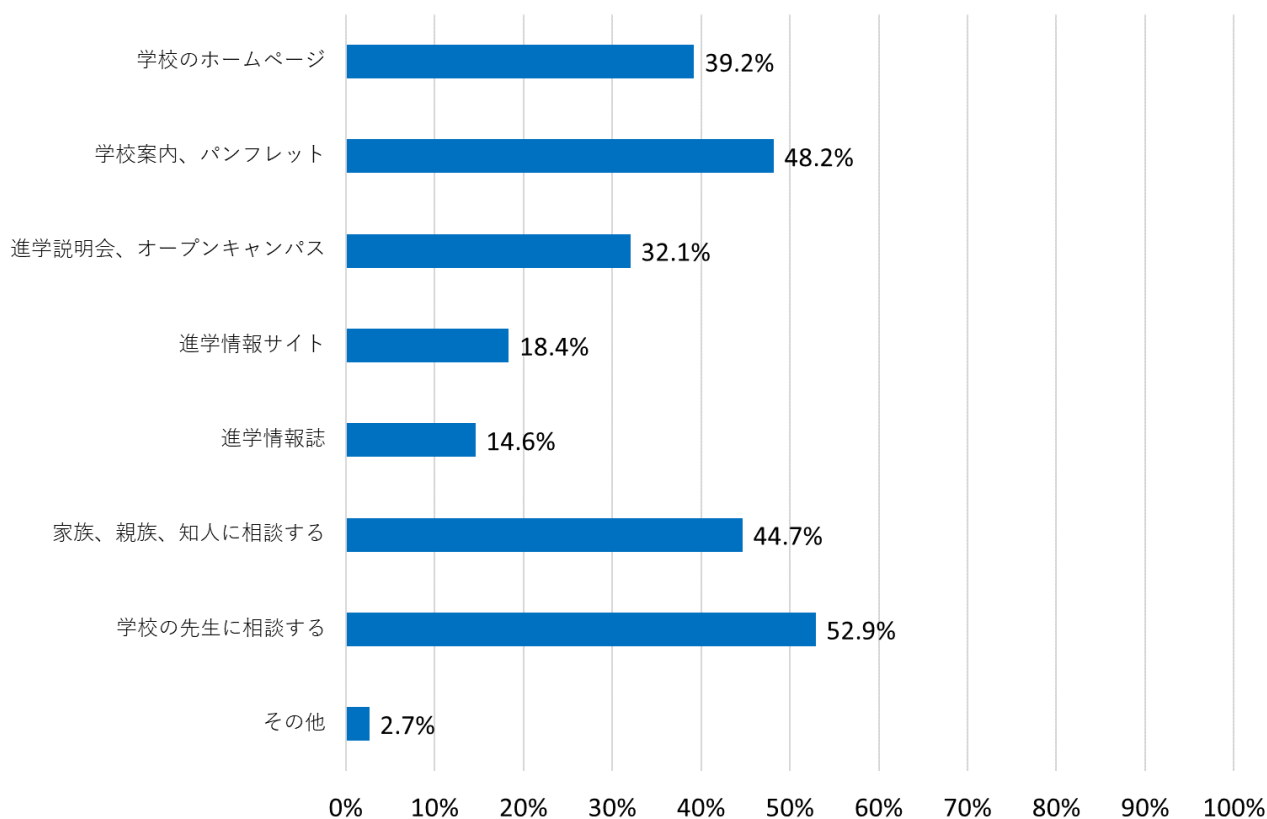
)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校のホームページ	105	80	85	62	43	36	27	438
学校案内、パンフレット	86	69	92	83	70	73	65	538
進学説明会、オープンキャンパス	67	58	74	46	37	45	31	358
進学情報サイト	55	30	33	28	23	20	16	205
進学情報誌	14	14	29	22	29	31	24	163
家族、親族、知人に相談する	68	73	78	59	67	80	74	499
学校の先生に相談する	73	67	77	78	86	105	105	591
その他	3	6	5	3	3	5	5	30

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校のホームページ	66.5%	50.3%	51.8%	39.5%	27.9%	22.8%	16.2%	39.2%
学校案内、パンフレット	54.4%	43.4%	56.1%	52.9%	45.5%	46.2%	38.9%	48.2%
進学説明会、オープンキャンパス	42.4%	36.5%	45.1%	29.3%	24.0%	28.5%	18.6%	32.1%
進学情報サイト	34.8%	18.9%	20.1%	17.8%	14.9%	12.7%	9.6%	18.4%
進学情報誌	8.9%	8.8%	17.7%	14.0%	18.8%	19.6%	14.4%	14.6%
家族、親族、知人に相談する	43.0%	45.9%	47.6%	37.6%	43.5%	50.6%	44.3%	44.7%
学校の先生に相談する	46.2%	42.1%	47.0%	49.7%	55.8%	66.5%	62.9%	52.9%
その他	1.9%	3.8%	3.0%	1.9%	1.9%	3.2%	3.0%	2.7%

その他（自由記述）

- ・塾の先生に相談する。
- ・学校の夏冬講習に参加する。
- ・区の相談サービスを利用する。

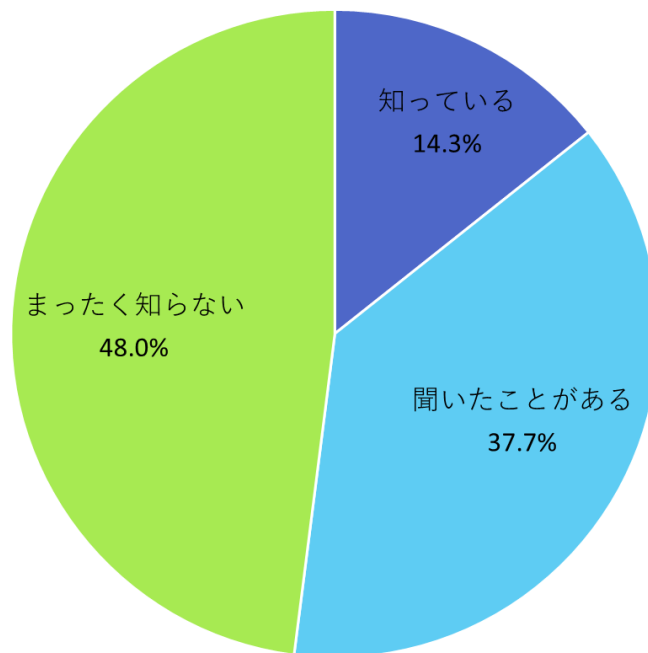


【一般】Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

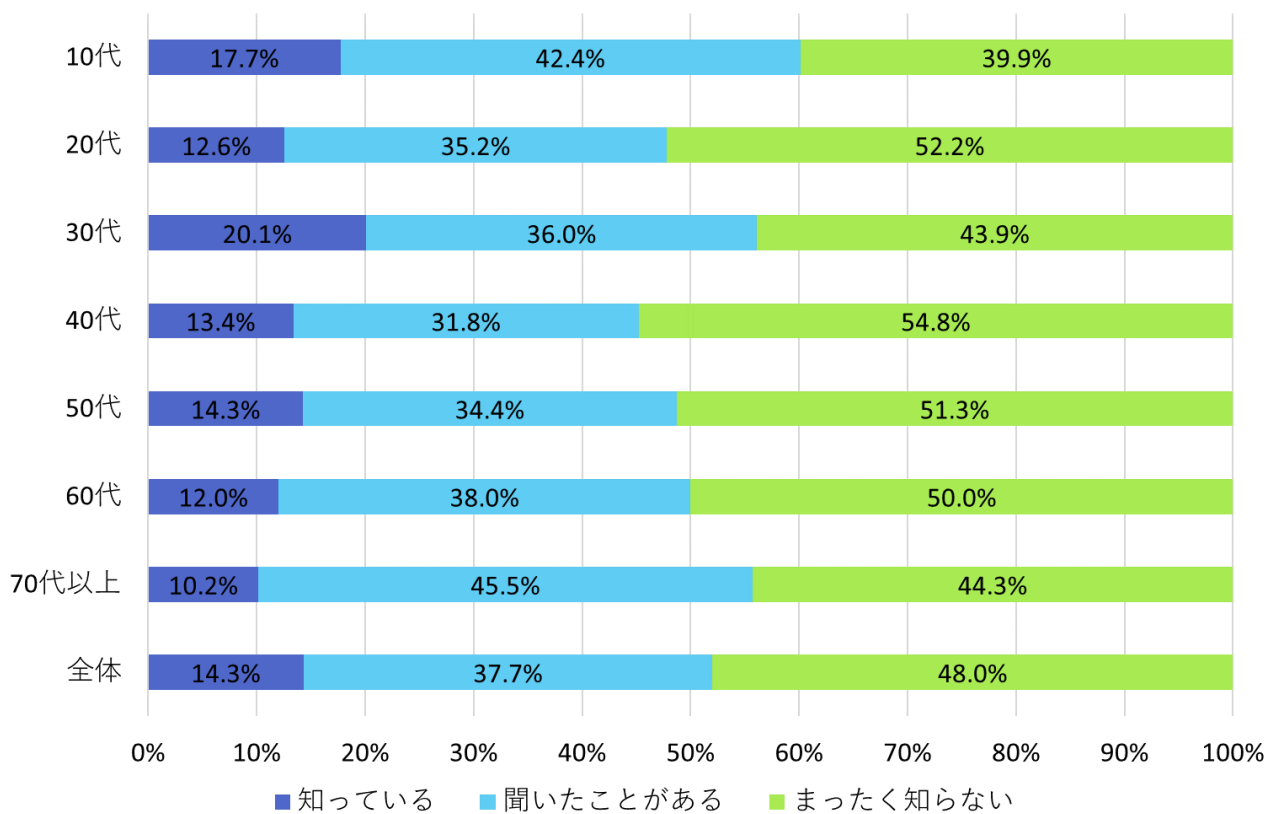
- ☐知っている
☐聞いたことがある
☐まったく知らない

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
知っている	28	20	33	21	22	19	17	160
聞いたことがある	67	56	59	50	53	60	76	421
まったく知らない	63	83	72	86	79	79	74	536
全体	158	159	164	157	154	158	167	1117

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
知っている	17.7%	12.6%	20.1%	13.4%	14.3%	12.0%	10.2%	14.3%
聞いたことがある	42.4%	35.2%	36.0%	31.8%	34.4%	38.0%	45.5%	37.7%
まったく知らない	39.9%	52.2%	43.9%	54.8%	51.3%	50.0%	44.3%	48.0%
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ まったく知らない



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ まったく知らない

＜複数回答可＞

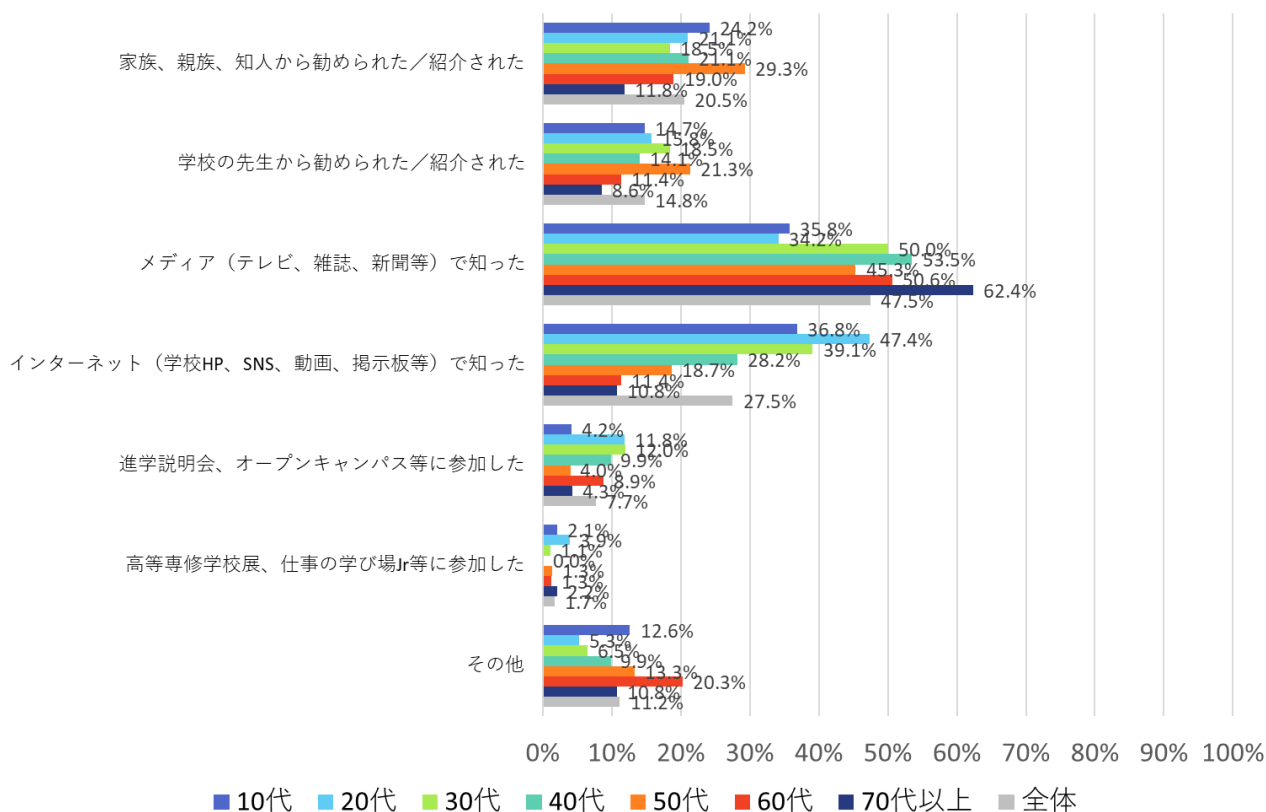
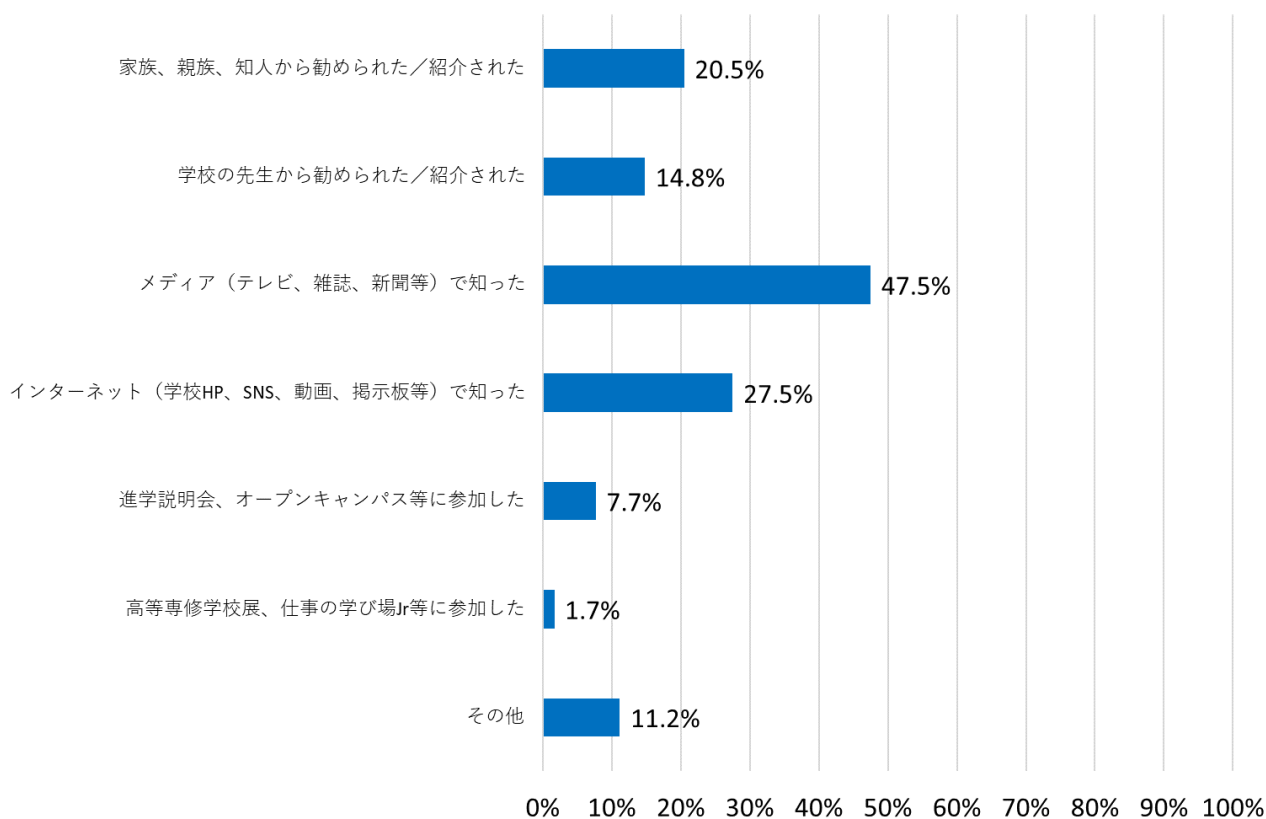
- ☐ 家族、親族、知人から勧められた／紹介された
- ☐ 学校の先生から勧められた／紹介された
- ☐ メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った
- ☐ インターネット（学校 HP、SNS、動画、掲示板等）で知った
- ☐ 進学説明会、オープンキャンパス等に参加した
- ☐ 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr 等に参加した
- ☐ その他【自由記述】（

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
家族、親族、知人から勧められた／紹介された	23	16	17	15	22	15	11	119
学校の先生から勧められた／紹介された	14	12	17	10	16	9	8	86
メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った	34	26	46	38	34	40	58	276
インターネット（学校HP、SNS、動画、掲示板等）で知った	35	36	36	20	14	9	10	160
進学説明会、オープンキャンパス等に参加した	4	9	11	7	3	7	4	45
高等専修学校展、仕事の学び場Jr等に参加した	2	3	1	0	1	1	2	10
その他	12	4	6	7	10	16	10	65

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
家族、親族、知人から勧められた／紹介された	24.2%	21.1%	18.5%	21.1%	29.3%	19.0%	11.8%	20.5%
学校の先生から勧められた／紹介された	14.7%	15.8%	18.5%	14.1%	21.3%	11.4%	8.6%	14.8%
メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った	35.8%	34.2%	50.0%	53.5%	45.3%	50.6%	62.4%	47.5%
インターネット（学校HP、SNS、動画、掲示板等）で知った	36.8%	47.4%	39.1%	28.2%	18.7%	11.4%	10.8%	27.5%
進学説明会、オープンキャンパス等に参加した	4.2%	11.8%	12.0%	9.9%	4.0%	8.9%	4.3%	7.7%
高等専修学校展、仕事の学び場Jr等に参加した	2.1%	3.9%	1.1%	0.0%	1.3%	1.3%	2.2%	1.7%
その他	12.6%	5.3%	6.5%	9.9%	13.3%	20.3%	10.8%	11.2%

その他（自由記述）

- ・ 県内、近所に高等専修学校がある。
- ・ 子どもが高等専修学校を希望した。
- ・ 高等専修学校の講師をしていたことがある。
- ・ 仕事で知った。
- ・ ゲームの中で知った。



【一般】Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。

<複数回答可>

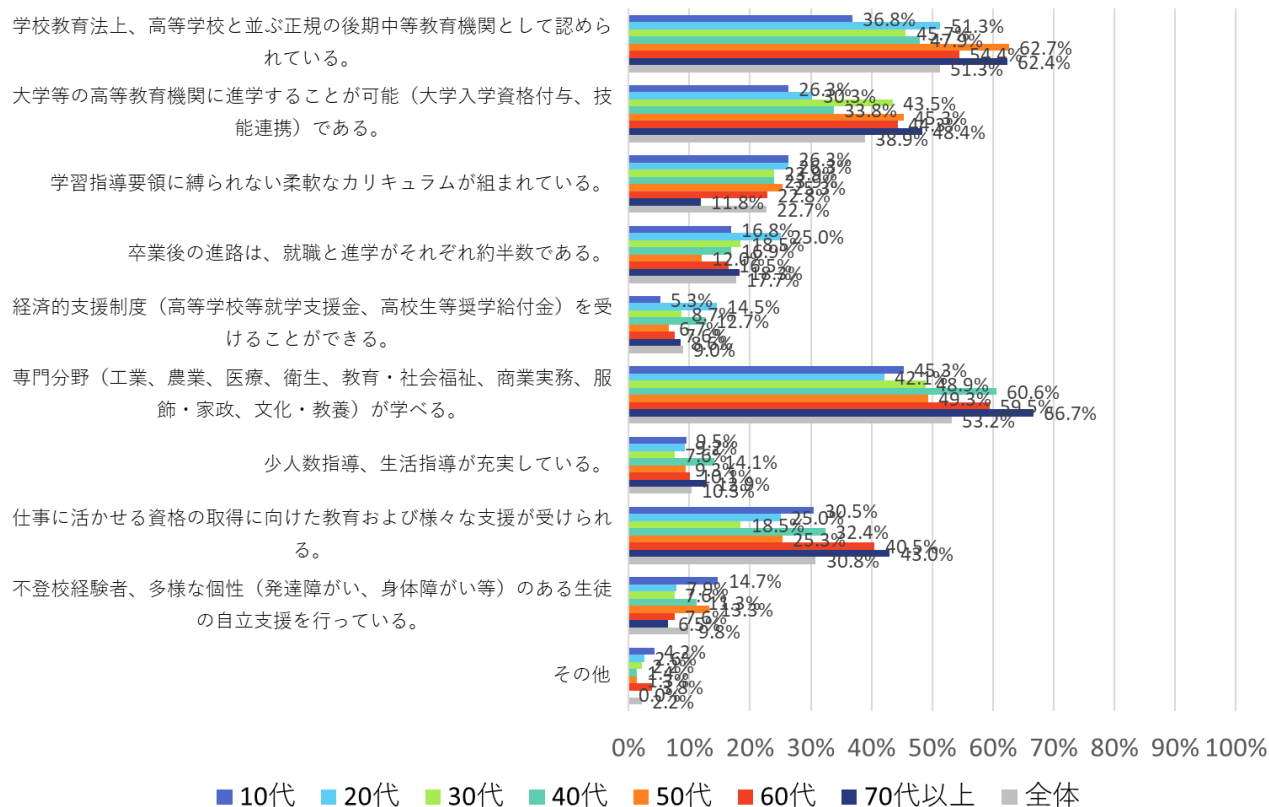
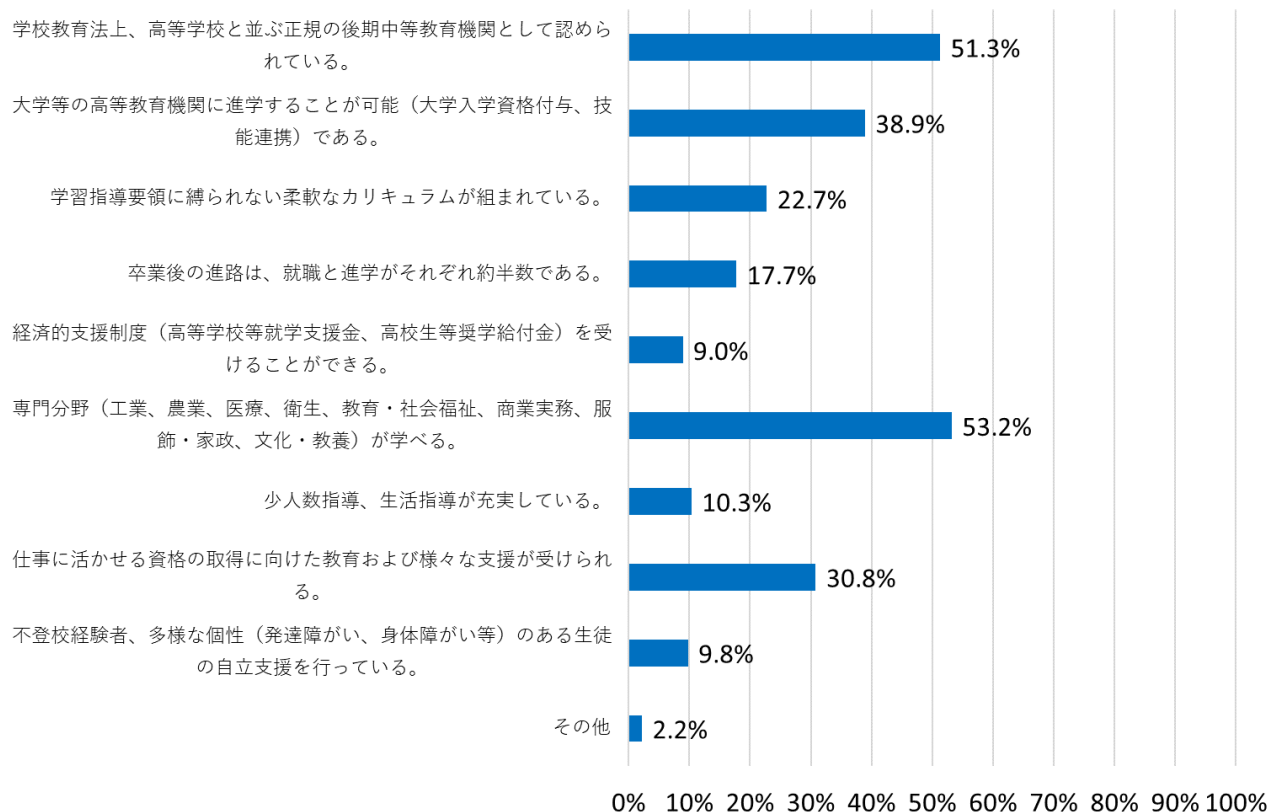
- ☐ 学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
- ☐ 大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。
- ☐ 学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
- ☐ 卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
- ☐ 経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。
- ☐ 専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
- ☐ 少人数指導、生活指導が充実している。
- ☐ 仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
- ☐ 不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
- ☐ その他【自由記述】（ ）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。	35	39	42	34	47	43	58	298
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。	25	23	40	24	34	35	45	226
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。	25	20	22	17	19	18	11	132
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。	16	19	17	12	9	13	17	103
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。	5	11	8	9	5	6	8	52
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。	43	32	45	43	37	47	62	309
少人数指導、生活指導が充実している。	9	7	7	10	7	8	12	60
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。	29	19	17	23	19	32	40	179
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。	14	6	7	8	10	6	6	57
その他	4	2	2	1	1	3	0	13

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	全体
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。	36.8%	51.3%	45.7%	47.9%	62.7%	54.4%	62.4%	51.3%
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。	26.3%	30.3%	43.5%	33.8%	45.3%	44.3%	48.4%	38.9%
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。	26.3%	26.3%	23.9%	23.9%	25.3%	22.8%	11.8%	22.7%
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。	16.8%	25.0%	18.5%	16.9%	12.0%	16.5%	18.3%	17.7%
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。	5.3%	14.5%	8.7%	12.7%	6.7%	7.6%	8.6%	9.0%
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。	45.3%	42.1%	48.9%	60.6%	49.3%	59.5%	66.7%	53.2%
少人数指導、生活指導が充実している。	9.5%	9.2%	7.6%	14.1%	9.3%	10.1%	12.9%	10.3%
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。	30.5%	25.0%	18.5%	32.4%	25.3%	40.5%	43.0%	30.8%
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。	14.7%	7.9%	7.6%	11.3%	13.3%	7.6%	6.5%	9.8%
その他	4.2%	2.6%	2.2%	1.4%	1.3%	3.8%	0.0%	2.2%

その他（自由記述）

- ・中学校卒業で進学できる。
- ・生徒も教員も玉石混交が著しい。



【一般】Q8. 高等専修学校のイメージについて教えてください。

☐ 【自由記述】 ()

肯定的な回答

- ・ 専門学校や大学に進学できる。
- ・ 就職に強い。将来役に立つ。専門性が高い。仕事に直結している。実践的。
- ・ 中卒の専門学校。技術を早く学べる。国家試験に役立つ。
- ・ なりたい職が明確な人が進学する。やりたいことがある人が行く。選択肢がある。
- ・ 障害を持っていても学べる。
- ・ 学校に行けない・いきたくない人の受け皿。不登校の生徒が進学する。
- ・ 楽しい。自由。手厚い。柔軟。個性を伸ばせる。子どもが入学して実際楽しかった様子。
- ・ 自立している。

否定的な回答

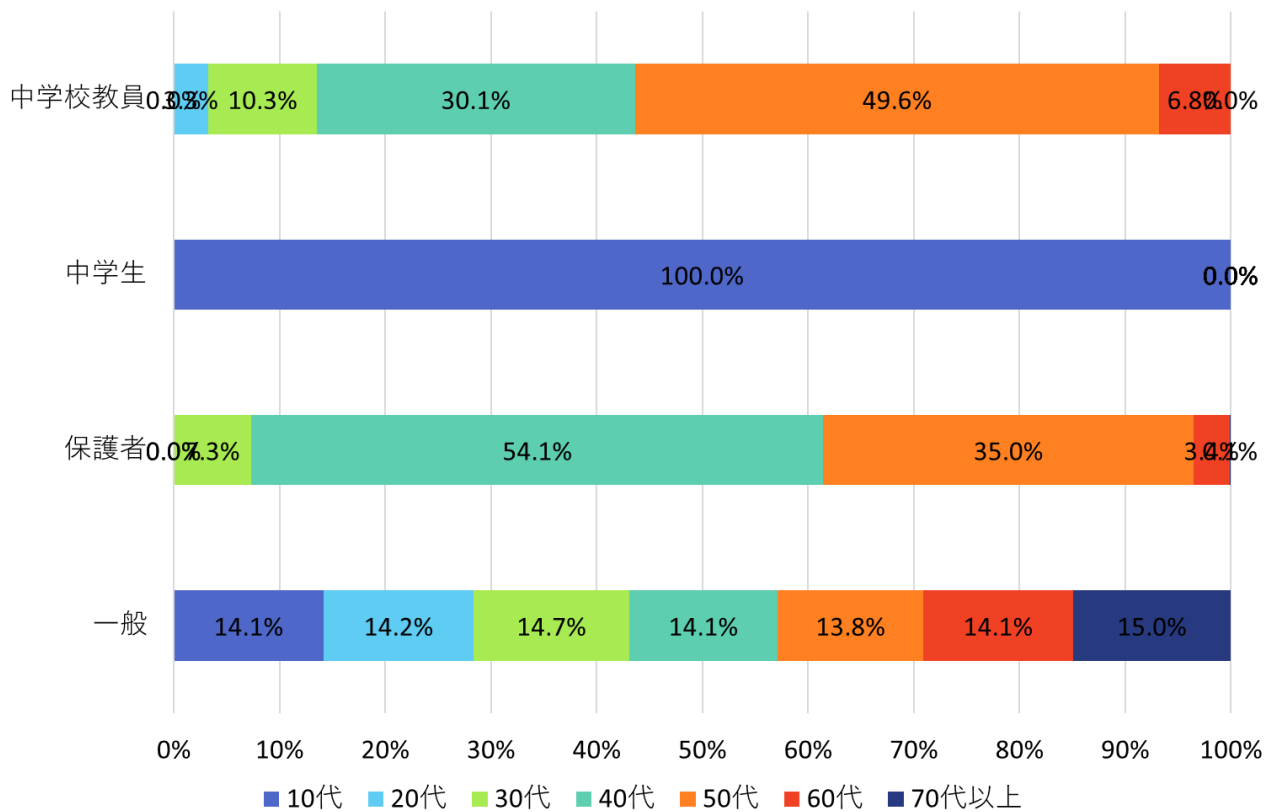
- ・ 職業訓練校。就職に直結しているが進路が狭まる。
- ・ 高校との違いがわからない。高専との違いがわからない。専門学校との違いがわからない。
- ・ どんな教育をしているかわからない。
- ・ あまり馴染みがない。マイナー。存在感がない。中途半端。
- ・ 学費が高そう。
- ・ きつそう。大変そう。
- ・ 社会に対して弱い。
- ・ 進学希望者が減少している。

3.7. アンケート調査結果のまとめ

Q1. 年代について教えてください。

- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 代以上

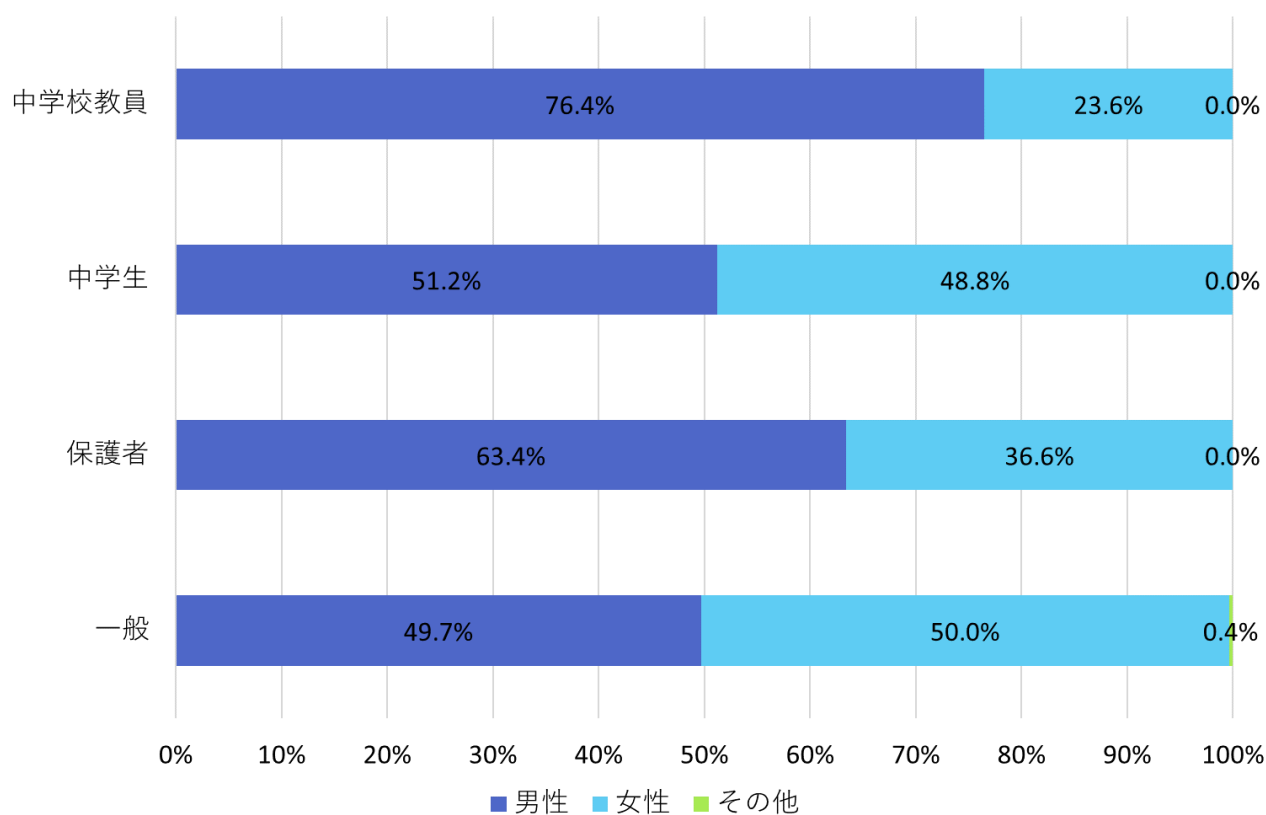
	中学校教員	中学生	保護者	一般
10代	0	1076	0	158
20代	13	0	0	159
30代	41	0	79	164
40代	120	0	582	157
50代	198	0	377	154
60代	27	0	37	158
70代以上	0	0	1	167
全体	399	1076	1076	1117



Q2. 性別について教えてください。

- ☐ 男性
☐ 女性
☐ その他

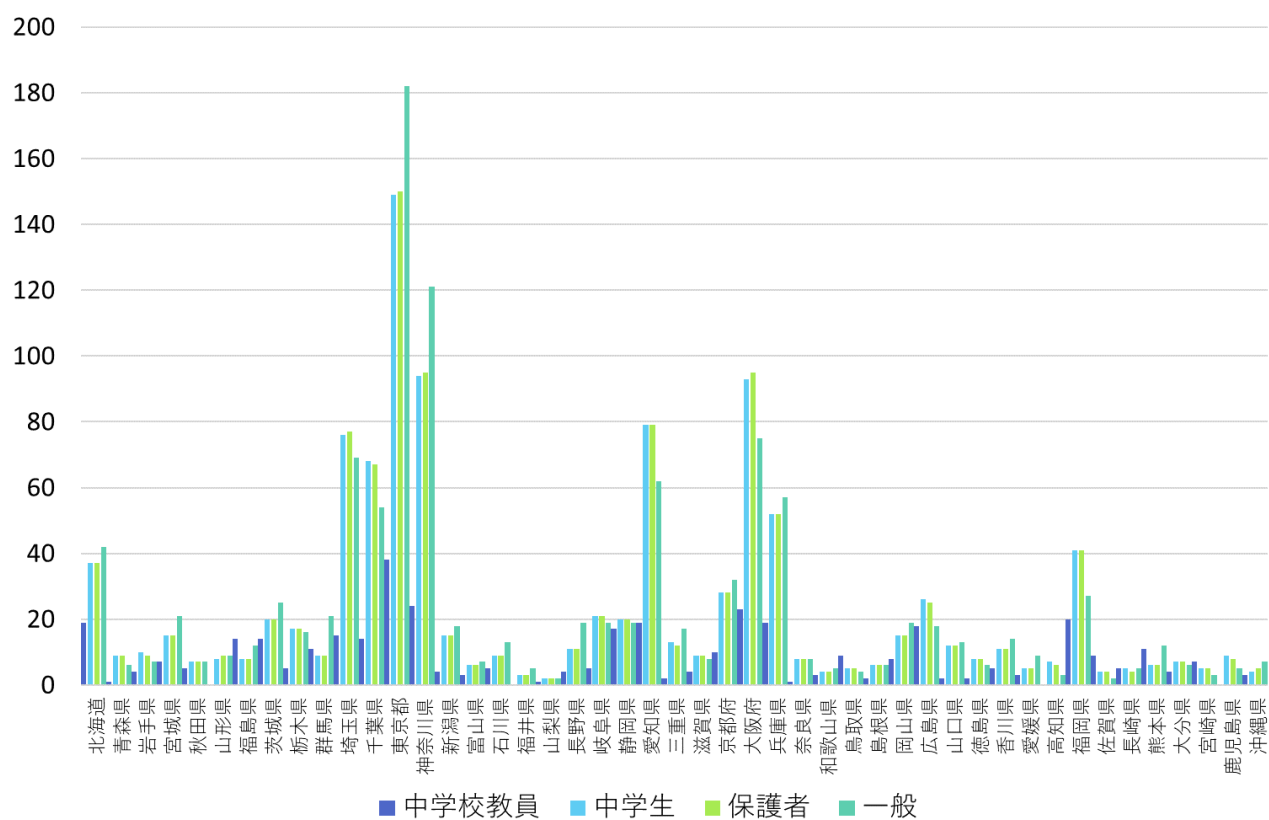
	中学校教員	中学生	保護者	一般
男性	305	551	682	555
女性	94	525	394	558
その他	0	0	0	4
全体	399	1076	1076	1117



Q3. お住まいの都道府県について教えてください。

☐北海道、☐青森県、☐岩手県、☐宮城県、☐秋田県、☐山形県、☐福島県、☐茨城県、☐栃木県、
☐群馬県、☐埼玉県、☐千葉県、☐東京都、☐神奈川県、☐新潟県、☐富山県、☐石川県、☐福井県、
☐山梨県、☐長野県、☐岐阜県、☐静岡県、☐愛知県、☐三重県、☐滋賀県、☐京都府、☐大阪府、
☐兵庫県、☐奈良県、☐和歌山県、☐鳥取県、☐島根県、☐岡山県、☐広島県、☐山口県、☐徳島県、
☐香川県、☐愛媛県、☐高知県、☐福岡県、☐佐賀県、☐長崎県、☐熊本県、☐大分県、☐宮崎県、
☐鹿児島県、☐沖縄県

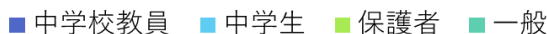
	中学校教員	中学生	保護者	一般
北海道	19	37	37	42
青森県	1	9	9	6
岩手県	4	10	9	7
宮城県	7	15	15	21
秋田県	5	7	7	7
山形県	0	8	9	9
福島県	14	8	8	12
茨城県	14	20	20	25
栃木県	5	17	17	16
群馬県	11	9	9	21
埼玉県	15	76	77	69
千葉県	14	68	67	54
東京都	38	149	150	182
神奈川県	24	94	95	121
新潟県	4	15	15	18
富山県	3	6	6	7
石川県	5	9	9	13
福井県	0	3	3	5
山梨県	1	2	2	2
長野県	4	11	11	19
岐阜県	5	21	21	19
静岡県	17	20	20	19
愛知県	19	79	79	62
三重県	2	13	12	17
滋賀県	4	9	9	8
京都府	10	28	28	32
大阪府	23	93	95	75
兵庫県	19	52	52	57
奈良県	1	8	8	8
和歌山県	3	4	4	5
鳥取県	9	5	5	4
島根県	2	6	6	6
岡山県	8	15	15	19
広島県	18	26	25	18
山口県	2	12	12	13
徳島県	2	8	8	6
香川県	5	11	11	14
愛媛県	3	5	5	9
高知県	0	7	6	3
福岡県	20	41	41	27
佐賀県	9	4	4	2
長崎県	5	5	4	5
熊本県	11	6	6	12
大分県	4	7	7	6
宮崎県	7	5	5	3
鹿児島県	0	9	8	5
沖縄県	3	4	5	7
全体	399	1076	1076	1117



＜複数回答可＞

- 4

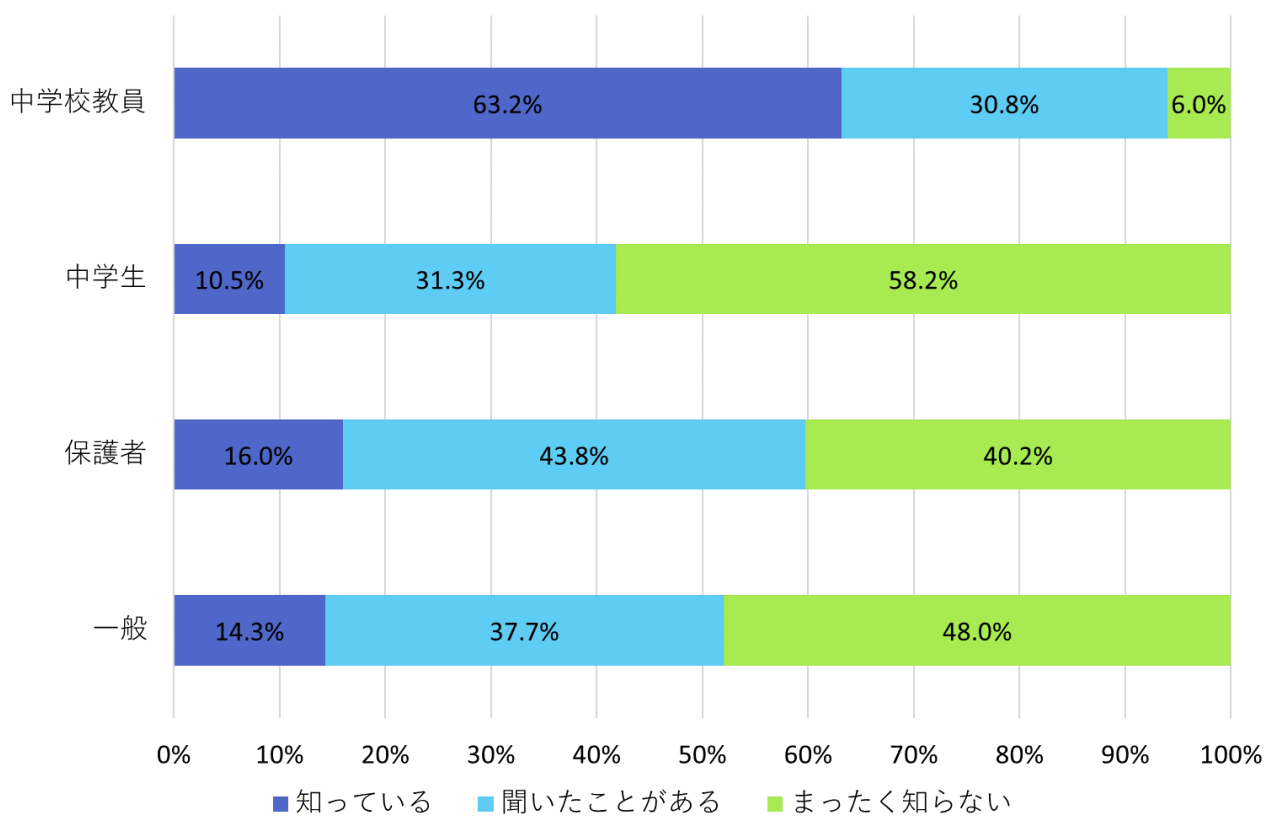
	中学校教員	中学生	保護者	一般
学校のホームページ	87.5%	53.0%	66.4%	39.2%
学校案内、パンフレット	93.5%	50.4%	59.8%	48.2%
進学説明会、オープンキャンパス	79.4%	42.3%	55.0%	32.1%
進学情報サイト	34.1%	20.4%	33.3%	18.4%
進学情報誌	36.6%	11.0%	16.9%	14.6%
家族、親族、知人に相談する	9.5%	52.0%	43.7%	44.7%
学校の先生に相談する	61.2%	58.2%	56.5%	52.9%
その他	5.3%	2.3%	1.8%	2.7%



Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

- ☐ 知っている
- ☐ 聞いたことがある
- ☐ まったく知らない

	中学校教員	中学生	保護者	一般
知っている	63.2%	10.5%	16.0%	14.3%
聞いたことがある	30.8%	31.3%	43.8%	37.7%
まったく知らない	6.0%	58.2%	40.2%	48.0%



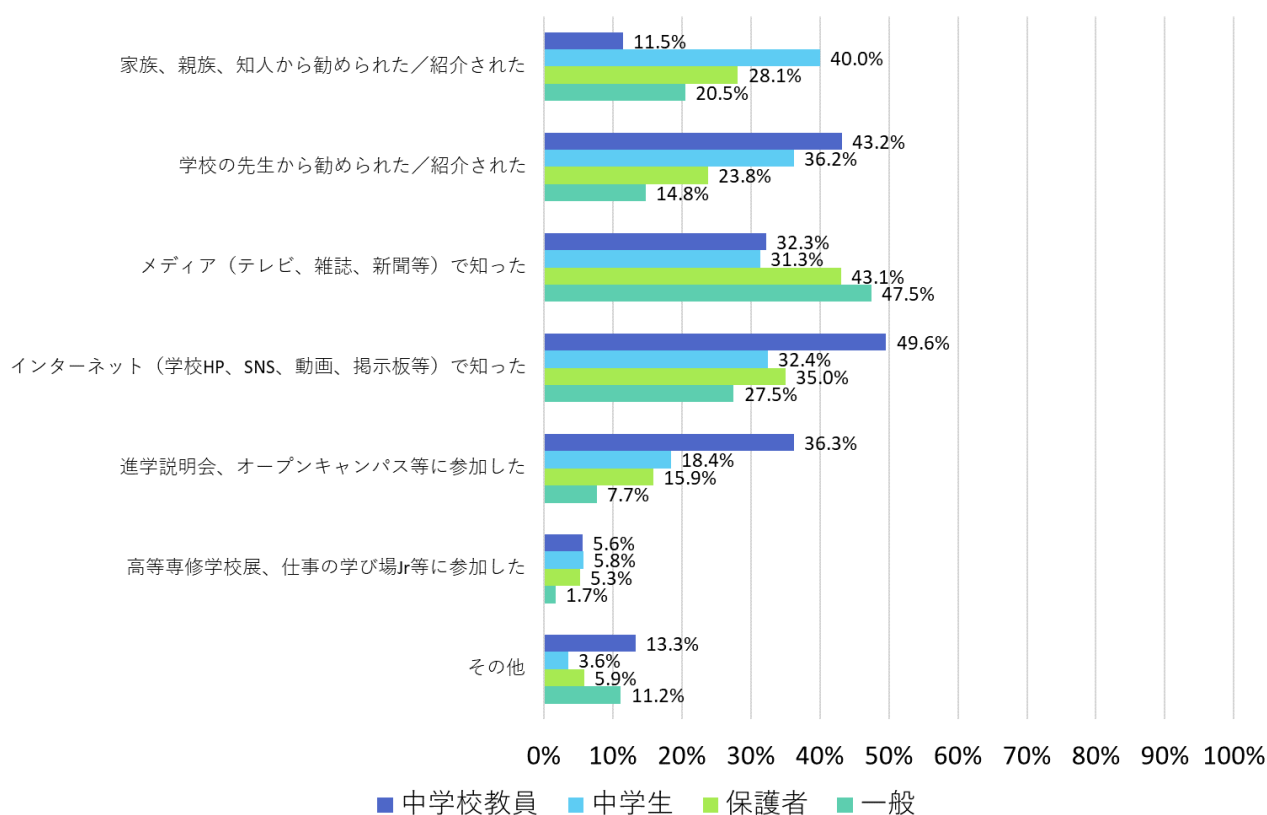
<Q5で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方のみ> (Q6～Q7)

Q6. 高等専修学校を知ったきっかけについて教えてください。

<複数回答可>

- ☐ 家族、親族、知人から勧められた／紹介された
☐ 学校の先生から勧められた／紹介された
☐ メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った
☐ インターネット（学校HP、SNS、動画、掲示板等）で知った
☐ 進学説明会、オープンキャンパス等に参加した
☐ 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr 等に参加した
☐ その他【自由記述】（ ）

	中学校教員	中学生	保護者	一般
家族、親族、知人から勧められた／紹介された	11.5%	40.0%	28.1%	20.5%
学校の先生から勧められた／紹介された	43.2%	36.2%	23.8%	14.8%
メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った	32.3%	31.3%	43.1%	47.5%
インターネット（学校HP、SNS、動画、掲示板等）で知った	49.6%	32.4%	35.0%	27.5%
進学説明会、オープンキャンパス等に参加した	36.3%	18.4%	15.9%	7.7%
高等専修学校展、仕事の学び場Jr等に参加した	5.6%	5.8%	5.3%	1.7%
その他	13.3%	3.6%	5.9%	11.2%

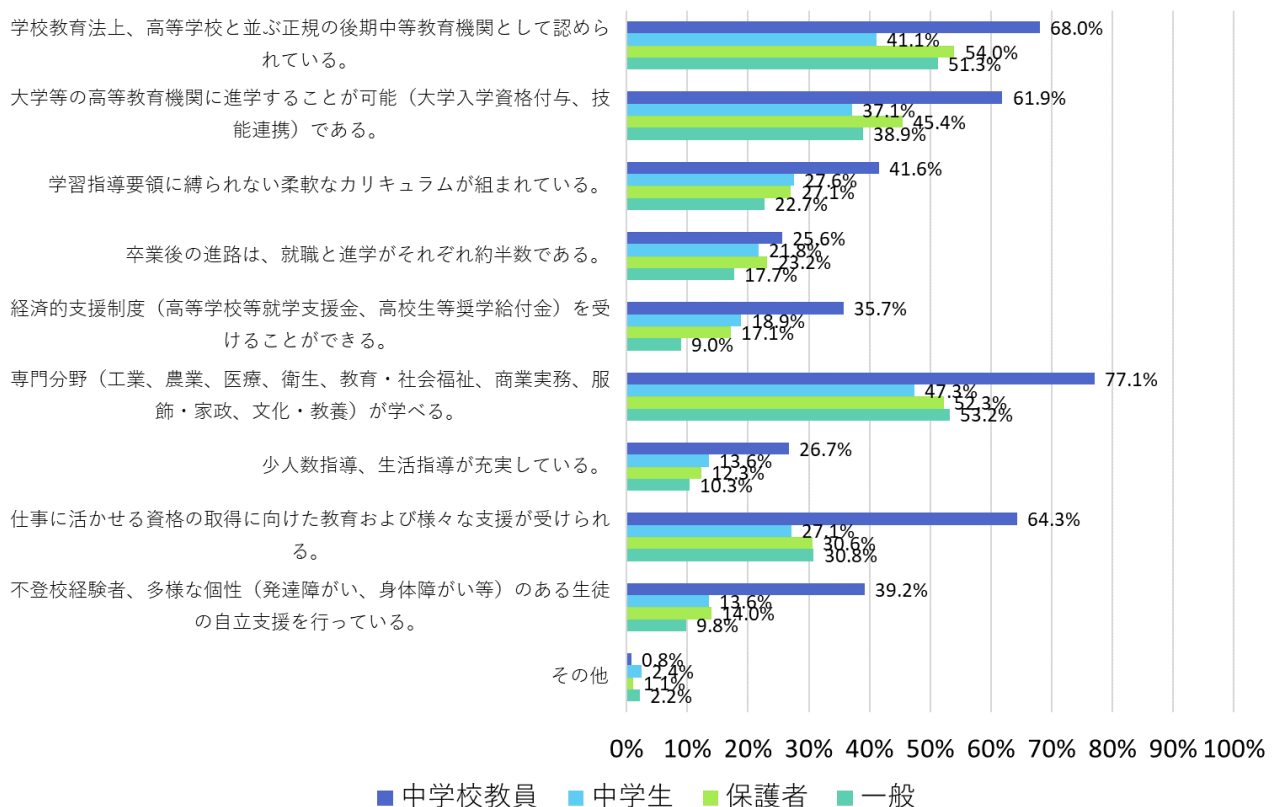


Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。

<複数回答可>

- ☐ 学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
- ☐ 大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。
- ☐ 学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
- ☐ 卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
- ☐ 経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。
- ☐ 専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
- ☐ 少人数指導、生活指導が充実している。
- ☐ 仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
- ☐ 不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
- ☐ その他【自由記述】（ ）

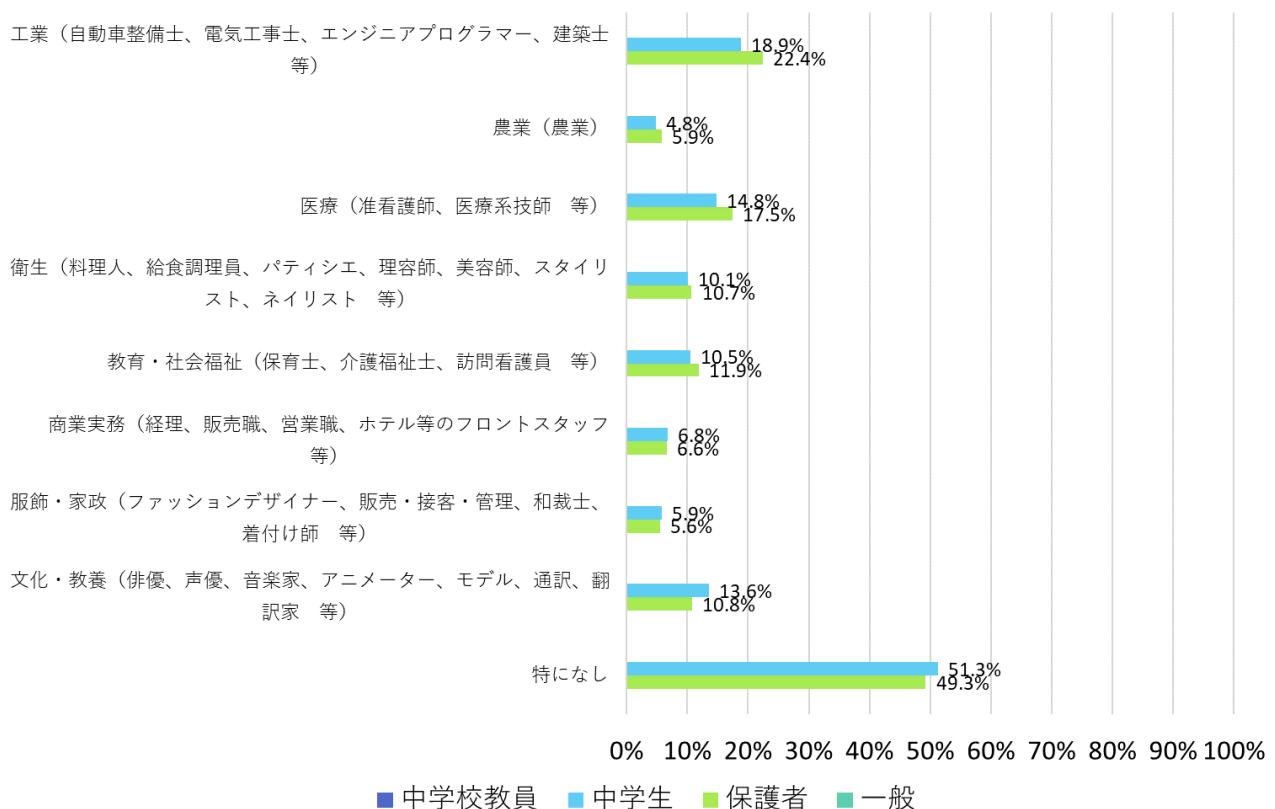
	中学校教員	中学生	保護者	一般
学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。	68.0%	41.1%	54.0%	51.3%
大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携）である。	61.9%	37.1%	45.4%	38.9%
学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。	41.6%	27.6%	27.1%	22.7%
卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。	25.6%	21.8%	23.2%	17.7%
経済的支援制度（高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金）を受けることができる。	35.7%	18.9%	17.1%	9.0%
専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。	77.1%	47.3%	52.3%	53.2%
少人数指導、生活指導が充実している。	26.7%	13.6%	12.3%	10.3%
仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。	64.3%	27.1%	30.6%	30.8%
不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。	39.2%	13.6%	14.0%	9.8%
その他	0.8%	2.4%	1.1%	2.2%



Q10. 高等専修学校では、自分の興味のある専門分野を学ぶことができるとともに、仕事に活かすことができるさまざまな資格を取得することができます。
 以下の中で、関心がある分野があれば教えてください。（ ）内は、主な職種の例を示します。
 <複数回答可>

- ☐ 工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）
- ☐ 農業（農業）
- ☐ 医療（准看護師、医療系技師 等）
- ☐ 衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）
- ☐ 教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）
- ☐ 商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）
- ☐ 服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）
- ☐ 文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）
- ☐ 特になし

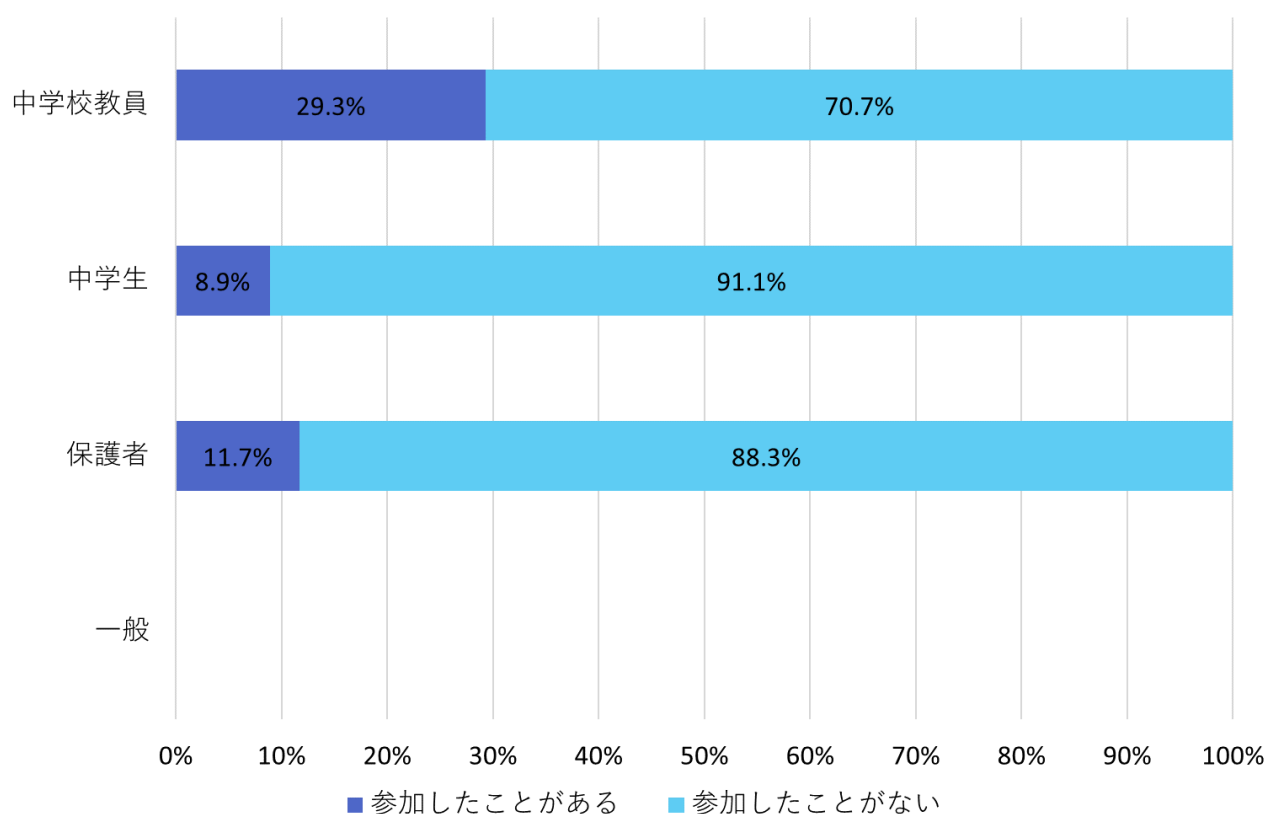
	中学校教員	中学生	保護者	一般
工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）		18.9%	22.4%	
農業（農業）		4.8%	5.9%	
医療（准看護師、医療系技師 等）		14.8%	17.5%	
衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）		10.1%	10.7%	
教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）		10.5%	11.9%	
商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）		6.8%	6.6%	
服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）		5.9%	5.6%	
文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）		13.6%	10.8%	
特になし		51.3%	49.3%	



Q11. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等に参加したことがありますか。

- ☐ 参加したことがある
☐ 参加したことがない

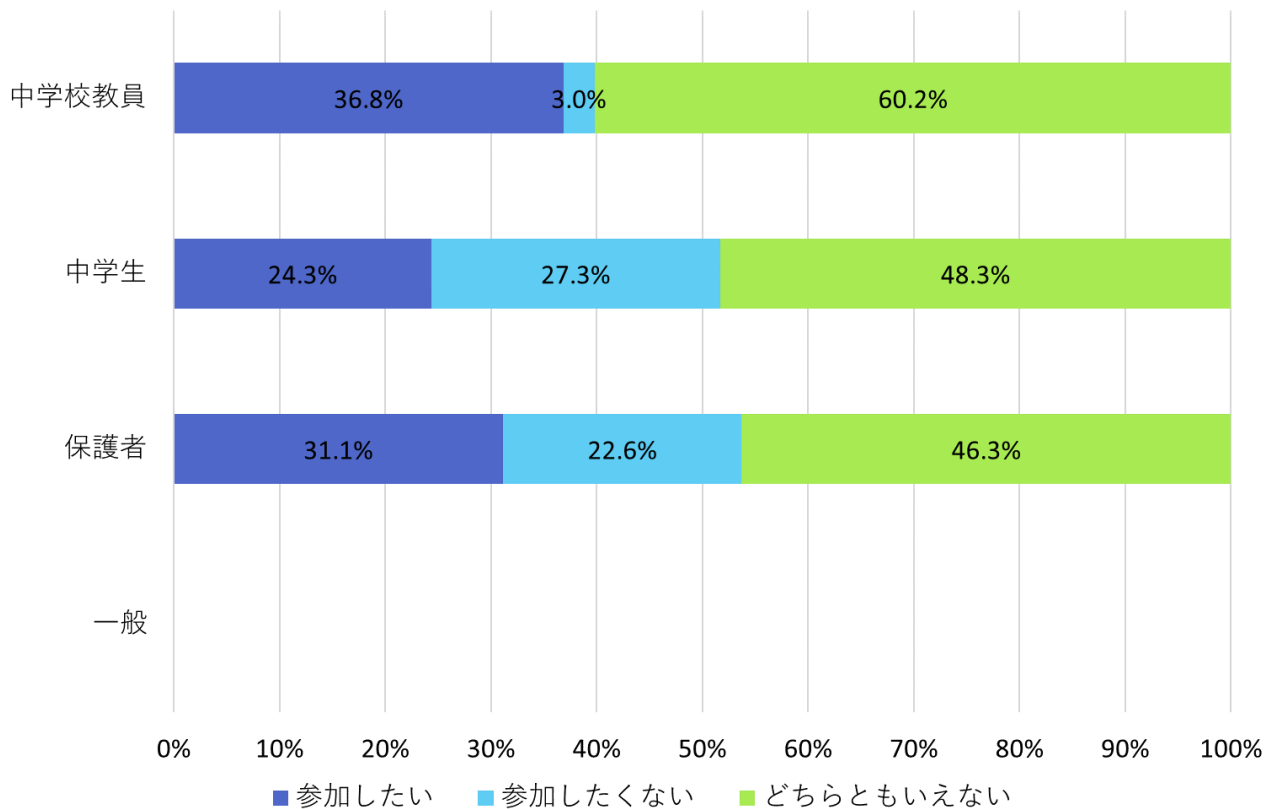
	中学校教員	中学生	保護者	一般
参加したことがある	29.3%	8.9%	11.7%	
参加したことがない	70.7%	91.1%	88.3%	



Q12. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等の機会があれば参加したいですか。

- ☐ 参加したい
- ☐ 参加したくない
- ☐ どちらともいえない

	中学校教員	中学生	保護者	一般
参加したい	36.8%	24.3%	31.1%	
参加したくない	3.0%	27.3%	22.6%	
どちらともいえない	60.2%	48.3%	46.3%	



高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度に関するアンケート調査結果の概要

	中学校教員	中学生	保護者	一般	備考
(1)進路の情報収集	①学校案内、パンフレット 94% ②学校のホームページ 88% ③進学説明会、オープンキャンパス 79% ・学校が発信する情報を積極的に収集 ・20代は同僚の先生に相談する割合が高い	①学校の先生に相談する 58% ②学校のホームページ 53% ③家族、親族、知人に相談 52% ・学校が発信する情報に加えて、身近な人（先生、家族、知人等）に相談する割合が高い	①学校のホームページ 66% ②学校案内、パンフレット 60% ③学校の先生に相談する 57% ・学校が発信する情報に加えて、学校の先生に相談する割合が高い	①学校の先生に相談する 53% ②学校案内、パンフレット 48% ③家族、親族、知人に相談 45% ・学校が発信する情報に加えて、身近な人（先生、家族、知人等）に相談する割合が高い	・中学生、保護者、一般はほぼ同様の傾向を示す
(2)認知度	☐ 知っている 63% ☐ 聞いたことがある 31% ☐ まったく知らない 6% ・教員の認知度は高い ・年代が高いほど認知度は高くなる（20代 31%→50代 67%→60代 82%）	☐ 知っている 11% ☐ 聞いたことがある 31% ☐ まったく知らない 58% ・中学生の認知度は学年によらず全体的に低い	☐ 知っている 16% ☐ 聞いたことがある 44% ☐ まったく知らない 40% ・保護者の認知度は低い ・多数を占める 40代 13%、50代 17%が知っていると回答	☐ 知っている 14% ☐ 聞いたことがある 38% ☐ まったく知らない 48% ・一般の認知度は低い ・30代を除く全ての年代で10数%程度が知っていると回答、30代は20%とやや高い	・中学校教員は、中学生・保護者・一般に比べて認知度が非常に高い（知っている 63%、聞いたことがある 31%）（※）
(3)認知のきっかけ	①インターネット 50% ②同僚の先生の紹介 43% ③進学説明会、オープンキャンパス 36%	①家族、親族、知人の紹介 40% ②学校の先生の紹介 36% ③インターネット 32% ・身近な人（先生、家族、知人等）からの紹介が多い	①メディア 43% ②インターネット 35% ③家族、親族、知人の紹介 28% ・メディア、インターネットの割合が高い	①メディア 48% ②インターネット 28% ③家族、親族、知人の紹介 21% ・メディア、インターネットの割合が高い	・保護者、一般で同じ傾向を示す
(4)認知の具体的内容	①専門分野を学べる 77% ②正規の後期中等教育機関 68% ③資格の取得に向けた教育、支援 64%	①専門分野を学べる 47% ②正規の後期中等教育機関 41% ③大学等に進学が可能 37%	①正規の後期中等教育機関 54% ②専門分野を学べる 52% ③大学等に進学が可能 45%	①専門分野を学べる 53% ②正規の後期中等教育機関 51% ③大学等に進学が可能 39%	・専門分野を学べる、正規の後期中等教育機関、大学等に進学が可能、はいずれの 카테고리でも認知されている
(5)進学先紹介の有無	☐ 紹介したことがある 58% ☐ 紹介したことがない 42% ・年代が高いほど紹介したことがある割合が増加（20代 55%→50代 59%→60代 73%）				・中学校教員の年代が高いほど紹介ありの割合が増加
(6)進学希望の有無		☐ 進学したい 20% ☐ 進学したくない 34% ・学年が上がるにつれて進学したい割合が減少（1年生 27% → 3年生 17%）			・中学生の学年が上がるにつれて進学したい割合が減少

	中学校教員	中学生	保護者	一般	備考
(7)進学先検討の有無			☐ 検討したことがある 28% ☐ 検討したことがない 72% ・多数を占める 40 代、50 代の検討したことがある割合はともに 26%程度		・保護者の多数を占める 40 代、50 代の検討したことがある割合はともに 26%程度
(8)関心がある分野		①特になし 51% ②工業 18% ③医療 15% ・学年によらずほぼ同じ傾向を示す	①特になし 49% ②工業 22% ③医療 18% ・中学生とほぼ同じ傾向を示す		・特になしに続いて、将来の職業に直結する工業、医療分野の割合が高い ・中学生、保護者で同じ傾向を示す
(9)説明会等の参加の有無	☐ 参加したことがある 29% ☐ 参加したことがない 71% ・中学校教員の参加したことがある割合は中学生・保護者よりも高い ・年代が高いほど参加したことがある割合は高くなる（20 代 8%→50 代 31%→60 代 37%）	☐ 参加したことがある 9% ☐ 参加したことがない 91% ・中学生の参加したことがある割合は低い ・学年が上がるにつれて参加したことがある割合は高くなる（1 年生 5%→3 年生 12%）	☐ 参加したことがある 12% ☐ 参加したことがない 88% ・多数を占める 40 代、50 代の参加したことがある割合は 9%と 12% ・保護者の参加したことがある割合は中学生よりやや高いが、中学校教員よりは低い		・中学校教員は保護者、中学生よりも参加したことがある割合が高い（29%）
(10)説明会等の参加希望の有無	☐ 参加したい 37% ☐ 参加したくない 3% ☐ どちらともいえない 60% ・中学校教員の参加したい割合は中学生・保護者よりも高い ・参加したい割合は 20 代は低いものの 30 代が最も高く、年代が高くなるにつれて参加したい割合が低くなる（20 代 31%、30 代 46%→50 代 34%）	☐ 参加したい 24% ☐ 参加したくない 27% ☐ どちらともいえない 48% ・3 年生は 1 年生、2 年生に比べて参加したい割合が低い（1 年生 26%、2 年生 27%→3 年生 21%）	☐ 参加したい 31% ☐ 参加したくない 23% ☐ どちらともいえない 46% ・多数を占める 40 代、50 代の参加したい割合は 30%程度（30%と 29%） ・保護者の参加したい割合は中学生より高いが、中学校教員よりは低い		・中学校教員は保護者、中学生よりも参加したい割合が高い（37%） ・保護者は 31%、中学生は 24%が参加したいと回答 ・中学校教員 60%、保護者 46%、中学生 48%がどちらともいえないと回答
(11)期待する取り組み	①広報活動 59% ②就学支援金、奨学給付金制度 59% ③授業料減免措置 56%				・広報活動、進路指導の充実、情報交換会の他、家庭への経済的支援の充実を求める割合が高い

※「高等専修学校」と「高等専門学校」（いわゆる「高専」）を明らかに混同して認知していると思われる回答が少なからず見受けられた。実際の認知度は、上記の割合よりさらに少ない可能性があることに留意する必要がある。

注）【 】内の数字は、「高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度に関するアンケート」調査結果の頁番号、

青字①～③は複数選択の上位 3 つの回答項目と割合、青字□は単一選択の回答項目と割合、赤字は回答項目を表す。

4. 高等専修学校の認知度向上策および振興に係る施策の調査・検討

4.1. アンケート調査

高等専修学校の認知度向上策および振興に係る施策（高等専修学校に今後期待する取り組み）について、主に全国の中学校関係者を対象にアンケート調査を行った。

アンケート調査の結果は、3.3 節「中学校教員のアンケート調査結果」Q12 に示す通りである。以下に、高等専修学校に今後期待する取り組みについて再掲する。

【中学校教員】Q12. 高等専修学校に今後期待する取り組みがあれば教えてください。

<複数回答可>

①認知度の向上

- ☐ 広報活動（ウェブサイト、SNS、メルマガ、報道機関、進学説明会、オープンキャンパス、高等専修学校展、仕事の学び場 Jr、母校訪問等）
- ☐ 情報交換会（主に中学校関係者）
- ☐ 教育連携の推進（中学校、企業、大学・専門学校等、地域、その他）

②教育の質向上

- ☐ 教職員対象の研修
- ☐ メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減
- ☐ 特色ある授業の好事例の収集、普及
- ☐ 文部科学省モデル事業への積極的な参加
- ☐ 進学、就職等の進路指導の充実
- ☐ 資格、検定試験の取得奨励
- ☐ 成績優秀者、部活動等の表彰
- ☐ ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援
- ☐ 不登校、中退防止の対策
- ☐ 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保
- ☐ 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開

③経済的支援

- ☐ 高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金制度の充実
- ☐ 授業料減免措置の充実
- ☐ 経常費助成制度の充実

④その他

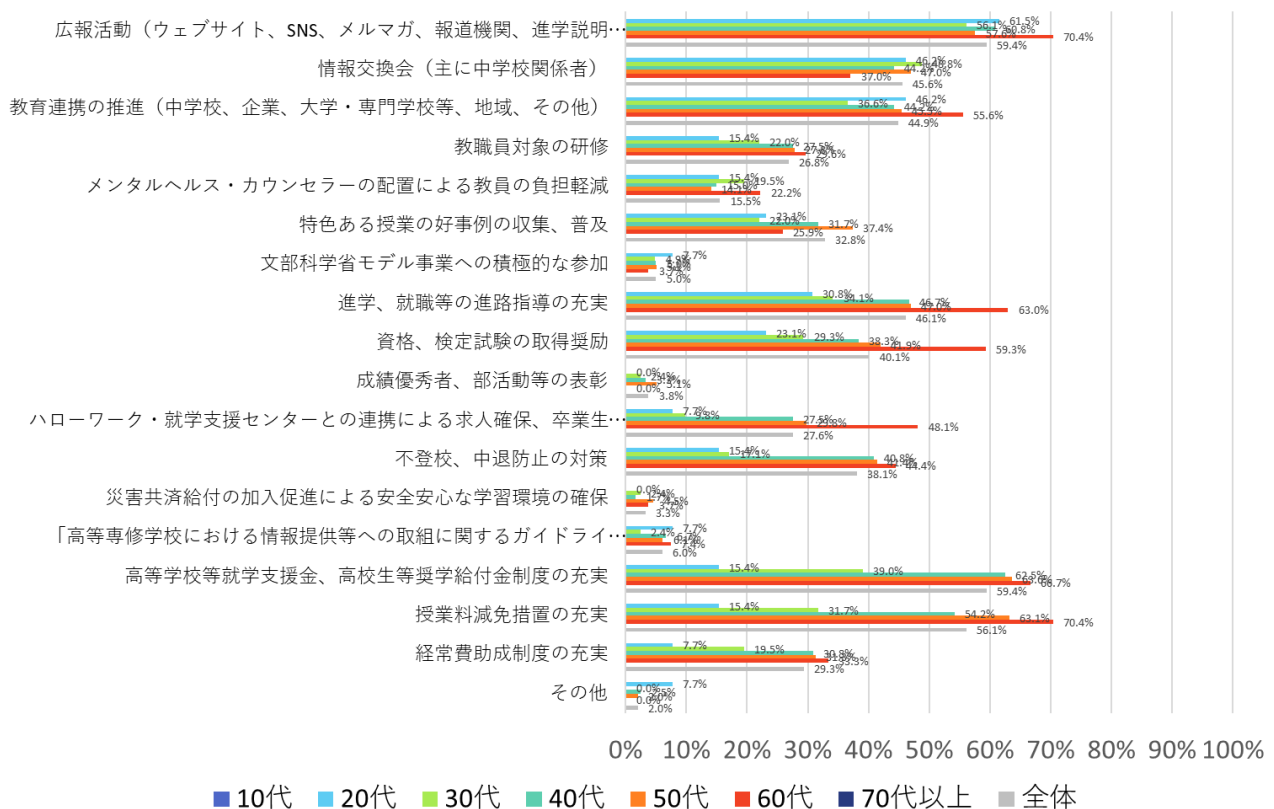
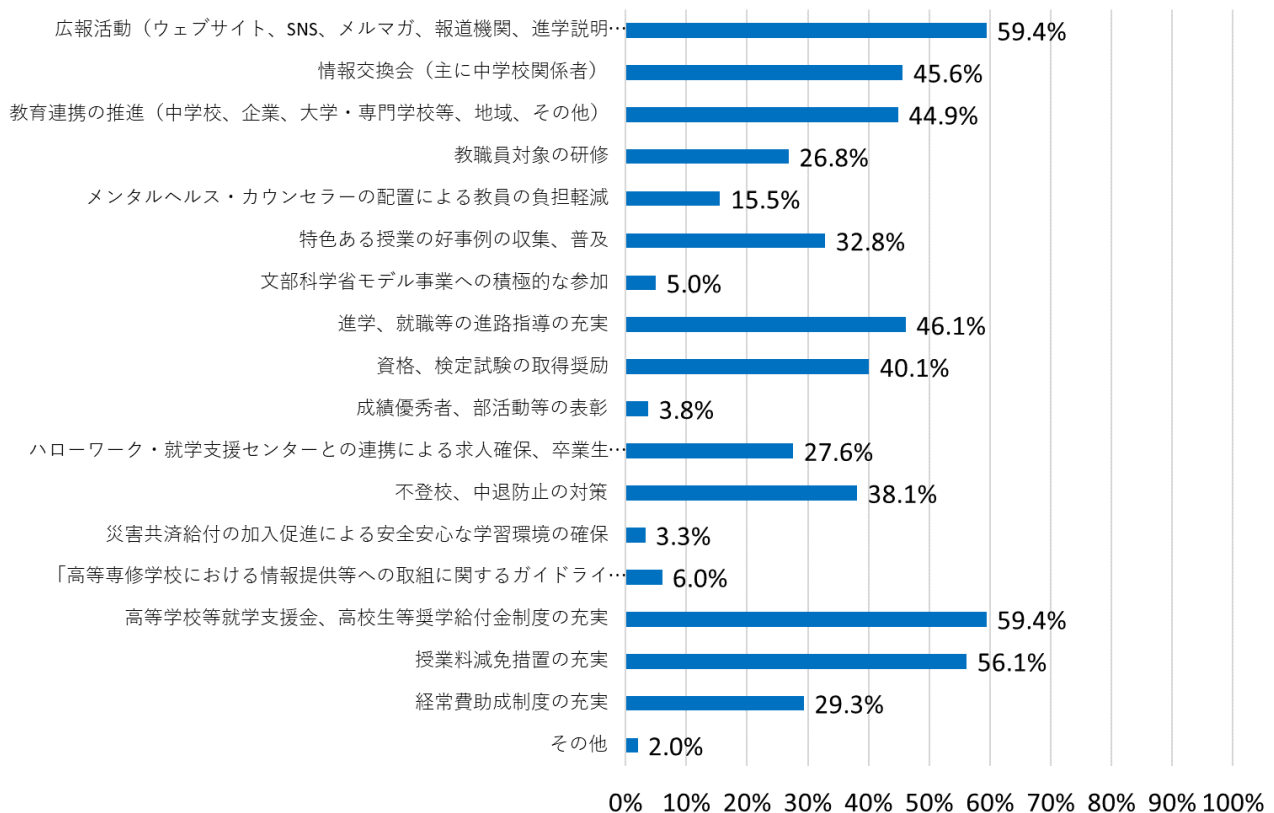
- ☐ 【自由記述】（）

その他（自由記述）

- ・一つの学校で、受けられる資格が限られている。どの学校でも、幅広い専門的分野が学べるようになるもっと受験者が増えるのではないかな。
- ・特待生制度。
- ・特別支援教育の推進。
- ・障害者対応。

		20代	30代	40代	50代	60代	全体
①認知度の向上	広報活動（ウェブサイト、SNS、メルマガ、報道機関、進学説明会、オープンキャンパス、高等専修学校展、仕事の学び場Jr、母校訪問等）	8	23	73	114	19	237
	情報交換会（主に中学校関係者）	6	20	53	93	10	182
	教育連携の推進（中学校、企業、大学・専門学校等、地域、その他）	6	15	53	90	15	179
②教育の質向上	教職員対象の研修	2	9	33	55	8	107
	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	2	8	18	28	6	62
	特色ある授業の好事例の収集、普及	3	9	38	74	7	131
	文部科学省モデル事業への積極的な参加	1	2	6	10	1	20
	進学、就職等の進路指導の充実	4	14	56	93	17	184
	資格、検定試験の取得奨励	3	12	46	83	16	160
	成績優秀者、部活動等の表彰	0	1	4	10	0	15
	ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	1	4	33	59	13	110
	不登校、中退防止の対策	2	7	49	82	12	152
	災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	0	1	2	9	1	13
	「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	1	1	8	12	2	24
	高等学校等就学支援金、高校生等奨学金給付金制度の充実	2	16	75	126	18	237
③経済的支援	授業料減免措置の充実	2	13	65	125	19	224
	経常費助成制度の充実	1	8	37	62	9	117
	④その他	1	0	3	4	0	8

		20代	30代	40代	50代	60代	全体
①認知度の向上	広報活動（ウェブサイト、SNS、メルマガ、報道機関、進学説明会、オープンキャンパス、高等専修学校展、仕事の学び場Jr、母校訪問等）	61.5%	56.1%	60.8%	57.6%	70.4%	59.4%
	情報交換会（主に中学校関係者）	46.2%	48.8%	44.2%	47.0%	37.0%	45.6%
	教育連携の推進（中学校、企業、大学・専門学校等、地域、その他）	46.2%	36.6%	44.2%	45.5%	55.6%	44.9%
②教育の質向上	教職員対象の研修	15.4%	22.0%	27.5%	27.8%	29.6%	26.8%
	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	15.4%	19.5%	15.0%	14.1%	22.2%	15.5%
	特色ある授業の好事例の収集、普及	23.1%	22.0%	31.7%	37.4%	25.9%	32.8%
	文部科学省モデル事業への積極的な参加	7.7%	4.9%	5.0%	5.1%	3.7%	5.0%
	進学、就職等の進路指導の充実	30.8%	34.1%	46.7%	47.0%	63.0%	46.1%
	資格、検定試験の取得奨励	23.1%	29.3%	38.3%	41.9%	59.3%	40.1%
	成績優秀者、部活動等の表彰	0.0%	2.4%	3.3%	5.1%	0.0%	3.8%
	ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	7.7%	9.8%	27.5%	29.8%	48.1%	27.6%
	不登校、中退防止の対策	15.4%	17.1%	40.8%	41.4%	44.4%	38.1%
	災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	0.0%	2.4%	1.7%	4.5%	3.7%	3.3%
	「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	7.7%	2.4%	6.7%	6.1%	7.4%	6.0%
	高等学校等就学支援金、高校生等奨学金給付金制度の充実	15.4%	39.0%	62.5%	63.6%	66.7%	59.4%
③経済的支援	授業料減免措置の充実	15.4%	31.7%	54.2%	63.1%	70.4%	56.1%
	経常費助成制度の充実	7.7%	19.5%	30.8%	31.3%	33.3%	29.3%
	④その他	7.7%	0.0%	2.5%	2.0%	0.0%	2.0%



4.2. インタビュー調査

専門的な見地から認知度向上策および振興に係る施策に関する有益な示唆を得るために、文献・デスクトップ調査、アンケート調査では把握しきれない詳細な情報について、主に高等専修学校の関係者、有識者を対象にインタビュー調査を行い、直接情報収集した。これにより、文献・デスクトップ調査、アンケート調査の結果をより一層精査し深掘りした。

表 4-1 に、インタビュー調査の一覧を示す。

表 4-1 インタビュー調査の一覧

日時	対象	備考
2024 年 1 月 25 日 (木) 12:30～14:30 対面形式	学校法人豊野学園 豊野高等専修学校 山岸 建文 理事長	高等専修学校 の関係者
2024 年 2 月 1 日 (木) 14:00～16:00 対面形式	学校法人日本芸術学園 日本芸術高等学園 福田 潤 校長代理	高等専修学校 の関係者
2024 年 2 月 7 日 (水) 14:30～17:00 対面形式	学校法人栗原学園 北見商科高等専修学校 中村 秀幸 校長、石黒 健嗣 教頭	高等専修学校 の関係者
2024 年 2 月 9 日 (金) 13:00～14:00 Web 形式	学校法人星生学園 佐賀星生学園 加藤 雅世子 理事長	高等専修学校 の関係者
2024 年 2 月 14 日 (水) 10:00～11:15 対面形式	東京学芸大学 教育学部 総合教育科学系 教育学講座 伊藤 秀樹 准教授	有識者
2024 年 2 月 15 日 (木) 13:00～15:00 対面形式	全国高等専修学校協会 会長 学校法人武蔵野東学園 武蔵野東高等専修学校 清水 信一 学園長	高等専修学校 の関係者
2024 年 2 月 22 日 (木) 13:00～17:00 対面形式	学校法人郡山学院 郡山学院高等専修学校 岡部 隆男 理事長	高等専修学校 の関係者
2024 年 2 月 27 日 (火) 10:30～12:00 対面形式	札幌大谷大学 短期大学部 保育科 山田 千春 教授	有識者
2024 年 3 月 4 日 (月) 11:00～12:00 Web 形式	学校法人苫小牧学園 苫小牧高等商業学校 佐藤 雄之介 教頭	高等専修学校 の関係者
2024 年 3 月 8 日 (金) 14:00～15:30 対面形式	学校法人有朋学園 有朋高等学院 高橋 正敏 校長	高等専修学校 の関係者

4.3. インタビュー調査結果

インタビュー調査結果を、以下に示す。

4.3.1. 学校法人豊野学園 豊野高等専修学校

【①認知度向上】

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
広報活動	(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○		・ ホームページは情報発信の非常に有力な手段である ので、ホームページのリニューアルをしようとしている。 ・本校の情報コースの生徒たちに、映像編集、画像編集に関わってもらっている。
	(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信	○		・ ホームページからInstagramや TikTok に繋げる仕組みが必要 。従来の紙ベースでの情報発信では不十分。 ・遠方から通学する生徒のために、送迎バスの費用をクラウドファンディングで調達しようとしているところ。
	(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	△		
	(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○		
	(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加		○	
	(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問	△		・行っている学校があるが、数は少ない。
	(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	○		
情報交換会	(1-8) 中高連絡会（中学校長会）	○		・ 年 2 回、開催している。今年度は 5 月と 10 月に実施して、50 校程度の中学校の参加があった。募集の方向性を情報発信している。 ・ 中学校教員にとっても、卒業生の姿を見られる良い機会となっている。 ・参加の中学校教員の数は増えてきている。 ・生徒たちに、任意で自分たちの今の様子を伝えてもらう機会を設けている。生徒の生の声を届ける機会は貴重であり、今後も続けていきたい。
	(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者	○		・ 中小企業家同友会との連携を行っている。
教育連携の推進	(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施	△		・実施校数が少ない。
	(1-11) 企業：インターンの依頼	○		・情報交換の範囲の拡大と内容の充実が必要。

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
	(1-12) 大学、専門学校等：AO入試、推薦入試の働きかけ	○		
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加	○		
	(1-14) 教育委員会、行政との連携	△		・須坂市とは連携協定を結んでいる。 ・連携の範囲の拡大が必要である。
その他	(1-15) その他			・長野県内を対象に、認知度調査をやってもらえるとよい。 ・本校を必要としている生徒たち（主に不登校生徒）に、十分に本校の情報が伝わっていないのではないかと危惧がある。認知度のより一層の向上が必要。

【②教育の質向上】

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修	○		・専門科目を担当している教員が個々の生徒のことをよく理解してくれている。年度初めに、生徒全員の支援会議を行って、全職員が全ての生徒を理解しているかたちで進めている。
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	○		・担任教員に加えて、専門性と長年の経験を持った教育相談体制（教育相談チーム）を作って、様々な背景を持つ生徒たちのフォローを行っている。 ・県のカウンセラー、ケースワーカー（心療内科が専門）に週2回程度来てもらって、チーム対応に最も力を入れている。
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及	○		
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加	○		
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実	○		・本校の進学・就職者率は97%（無業者は4名のみ/131名）。社会へ繋げることが課題であり、これを実現できる学校でありたい。 ・無業者をなくすことに力を入れたいと考えている。 ・4月から、ハローワークの実務経験を持つ就職指導専任の担当者を配置した。担任教員と連携を取りつつ、進路指導をより一層充実させたい。卒業生の就職先の企業とのミスマッチができるだけ起きないように、対応してもらっている。 ・高校3年が終わった段階で、自分が選んだ職業が本当に合ってい

項目	既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
			るかは分からない。職業を変えたとしても、それは否定すべきではない。その場合には、できる限り、自己理解と自己管理の場は作ってあげたい。 ・デザインコースと服飾デザインコースの教員には、外部の企業出身の人に入ってもらっている。専門的な知識の他に、企業人の視点も教育現場と違ったものを持っているので。
(2-6) 資格、検定試験の取得奨励	○		・和裁コースにも力を入れている。和裁技能試験の検定員は、本校の和裁コースの講師が務めている。このままだと、日本国内に着物を作れる職人がいなくなってしまう危機感を感じている。
(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰	○		・資格取得者の表彰を行っている。
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	○		・就職、進学後の追跡調査をできるとよいが、なかなか難しい。本校だけでなく、長野県も把握できていない。高等専修学校の立場として、離職率を把握しておくべきと考える。
(2-9) 不登校、中退防止の対策	○		・本校の不登校改善率は非常に高い。専門コース、専門教育の授業の存在が理由として考えられる。特に生徒自身がやりたいものがある、コースにハマっている生徒は不登校の改善率が高い。得意分野を伸ばすことによって自分に自信が持てるようになり、自己肯定感が高まったことに起因している。午後の時間は専門の時間に充てているので、生徒たちは自分の好きなことに没頭できる。自分らしく生活できる時間になっていることが安心感に繋がっている。 ・少人数で1クラス14名として、最大限に生徒のことを見てあげたい。1クラス20名程度までの受け入れを検討中。 ・不登校の生徒たちにはメタバースが役立つのではないかと考えて、試行錯誤で教育へのメタバースの導入を始めているところ。
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	○		
(2-11) その他			・常勤の教職員が20名、非常勤が31名在籍している。人件費が大きな負担となっている。本校の教員の離職率は非常に少ない。本人たちのやりがいによって頼ってしまっている面がある。 ・2021年にログハウスの新校舎を建設した。新しい無垢の木の中の環境で、生徒たちの気分が落ち着く効果があり癒しになっている。「学校らしくなさ」は、特に不登校生徒にとって絶対必要。 ・リモート授業での学習やNPO法人のフリースクールなどでの学習も出席扱いが認められるようになってきているが、本当に子どもたちにとって社会的自立に繋がる力をつける場になっているのか疑問。不登校対策の一つの手段としているのであれば、少し違うのではない

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
			かと感じる（10 年ほど経ってみないと、短期間では結果は評価できない）。 ・現在不登校の子どもであっても、自分も気付いていない可能性がいっぱいあるかもしれない。私たち大人は、必死になって子どもたちの可能性を探してあげないといけない。それを見つけてあげるのが、私たち教職員の仕事。本校のシステムは、その目的にちょうど合っている。子どもたちの可能性が見つけられやすい、可能性が見つかったらそれを伸ばしてやりやすい。

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○		
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）	○		
(3-3) 経常費助成制度	○		・私立高等学校との補助金格差の大きな差が課題。要望書はすでに知事宛に上げており、補助金の増額をお願いを進めている。私立高校と同額になれば、生徒に対してよりよい教育の提供を続けていけるようになる。 ・実績を結果として残しているということを評価してもらえると嬉しい。現状の中で、最大限のことをやっていきたい。 ・経常費助成のためにも、学校関係者評価委員会を設置して、教育状況、業績、財務状況等を公開している。
(3-4) その他			・不登校・発達障がい・高等学校不登校生の受け入れ

4.3.2. 学校法人日本芸術学園 日本芸術高等学園

【①認知度向上】

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
広報活動	(1-1)	ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○	
	(1-2)	SNS、メルマガ等による学校の魅力発信	○	・芸能事務所に所属して活動している生徒（在学中）の情報は、事務所との契約、肖像権、個人情報保護、ストーカー対策等の理由により発信できない。
	(1-3)	報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	○	・世間一般の認知度が低い現状では、中学校への周知をもっと図ったほうがよい。中学校の中には、本校を卒業しても中卒のままと勘違いされるケースもまだある。
	(1-4)	進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○	
	(1-5)	高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加	○	
	(1-6)	卒業生の母校（中学校）訪問	○	・10 年以上前から、毎年 6 月にカミングホームの機会を設けて、全生徒に自分の母校の中学校を訪問してもらっている。本校でどのような勉強をして、将来はどうなりたいかを中学校に行って、生徒たちの前で話している。中学校の先生方にも、卒業生の活躍している姿を見てもらえる良い機会となっている。 ・本校の卒業生は、自分の進路が決まったことを報告する手紙を、卒業した中学校の校長先生と進路指導の先生に送るようにしている。これにより、高等専修学校の卒業生も大学や専門学校に進んでいるとの理解が進み、地道な活動ではあるが認知度の向上に役立っている。
	(1-7)	「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	○	
情報交換会	(1-8)	中高連絡会（中学校長会）	○	
	(1-9)	大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者	○	
教育連携の推進	(1-10)	中学校：出前授業、職業体験学習の実施	○	・芸能関係を志望する中学生と芸能事務所の関係者を本校に集めて、認知度の向上に努める。
	(1-11)	企業：インターンの依頼	○	
	(1-12)	大学、専門学校等：AO 入試、推薦	○	・学習指導要領に沿った教科を全て満たしていない、5 教科全てを学ん

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
	入試の働きかけ			でない等の理由により、高等専修学校からの推薦を受け付けていない大学もある（以前よりは状況が改善されてきているが）。 ・本校が「入学資格付与指定校」に認定されていることを理解していない大学もある。
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加	○		
	(1-14) 教育委員会、行政との連携	○		
その他	(1-15) その他			・自分が大学の教職課程で勉強していたときに、高等専修学校のことを習わなかったので、本来であれば教職課程の中で教えて然るべきである。教職課程の中で教えられれば、中学校の先生にも理解してもらえるようになる。 ・卒業生が芸能界で活躍して、本校の卒業生だということがウィキペディアなどを通じて一般の人に周知されれば、認知度の向上に繋がる。 ・よりよい生徒をきちんと社会に送り出していく活動を地道に続けていくことが大事と考えている。 ・文部科学省の学校コードが、専修学校高等課程で一括りになっている。他校のように校名での学校コード選択は出来ない。

【②教育の質向上】

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修	○		
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	○		・カウンセリングのために臨床心理士と提携している。
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及	○		
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加		○	・本校の活動は趣旨から外れるかと思い、これまで参加していない。よいモデル事業があれば検討してみたい。
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実	○		・芸能教科（声楽、ボーカル、アクション、ジャズダンス、演劇表現、音楽理論、キーボード、声優演技、バレエ、ドラム、ダンスなど）を中心に、一般教科（主に文科系科目、国語表現、英語表現、英語コミュニケーション、歴史総合など）も併せて授業で扱っている。

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
			・卒業後もそのまま芸能活動続ける生徒が3割くらい、7割くらいは進学する。普通高校よりも一般授業科目が少ないので、大学受験を一般入試で挑戦する生徒は少なく、ほぼ総合選抜型入試で入学している。本校の生徒は、オーディションを受けて自分の良さをPRする経験と挫折の経験を何度も繰り返しているの、面接でのアピールは非常に得意である。 ・本校は大学入学資格付与指定校になっているので、技能連携は不要。 ・1年生はすべての科目を必修で受けて、2年生、3年生で選択科目を受けるようにしている。将来に、様々な授業の経験が役立つことがあるので。エンタメに特化しなくても、本校で培った技術はどんな職業であっても役立つ場面が出てくる。 ・芸能活動を実習授業の単位として認めてあげられるのが、他の一般の高等学校と大きく違うところ。高等専修学校として、学習指導要領にとられない自由なカリキュラムを編成できる点がメリットとなっている。
(2-6) 資格、検定試験の取得奨励		○	・芸能分野の資格、検定試験はほとんどない。 ・日本俳優協会によるアクション検定、殺陣の技能検定があり、関心のある生徒には勧めている。 ・資格を持っていたからといって、オーディションに受かり易いこともない。 ・資格、検定試験の取得奨励にどのように取り組んでいくかは、今後の課題。
(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰	○		
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	○		
(2-9) 不登校、中退防止の対策	○		
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	○		
(2-11) その他			・もともと入学時から芸能事務所に入っている（デビューを果たしている）生徒が多い。 ・エンタメを目指す生徒は個性が強過ぎて、中学時代に周りの生徒と上手く馴染めなかった生徒もいる。エンタメの世界を目指すことで、自己顕示欲や承認欲求が満たされて、在学中に成功体験を積み重ねることによって自信につながるケースが多い。 ・教育的には究極はマンツーマン指導が理想であるが、現実的ではない

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
			ので、夏休み・冬休み中に個別の補習でやる気のある生徒のフォローをしている。 ・芸能活動を行っている生徒にとって、芸能現場は競争の場であり社会の一員としての役割を求められる。学校に登校したときは、高校生のままでいられるという癒しの時間・空間にもなっている。

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○		
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）	○		
(3-3) 経常費助成制度		○	・本校は 15～18 歳の生徒たちに全日制で教育を行っている。法的な条文（1 条校と 124 条校）の違いだけで補助金に差があるのは不公平感がある。 ・私立高校と同等に助成が受けられれば、教育の質を上げることができる。
(3-4) その他			

4.3.3. 学校法人栗原学園 北見商科高等専修学校

【①認知度向上】

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
広報活動	(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○		・ホームページの情報を定期的に更新したり、リニューアルしたりすることがなかなかできていない。生徒たちの相手をするので教員の体力が逼迫しており、そこまで手が回らないのが実状。
	(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信		○	・中学生、保護者は SNS やインスタグラムから多くの情報を得ているので、これらのツールを使った情報発信が課題。
	(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	○		
	(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○		
	(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加			
	(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問	○		
	(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	○		
情報交換会	(1-8) 中高連絡会（中学校長会）			・中学校の先生とのコネクションは、すでにできあがっている。 ・中学校の先生に本校に来てもらって、生徒の進路について個別に相談を受けることもある（困難を抱える生徒の全員を十分に拾い上げられてはいないが）。
	(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者	○		
教育連携の推進	(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施			
	(1-11) 企業：インターンの依頼	○		・卒業生の就職先は地元企業がほとんど。卒業生が地元の企業で活躍しており、本校の生徒は地元企業から信頼されている。卒業生が働いている企業から、声をかけてもらうこともある。
	(1-12) 大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ	○		
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加	○		
	(1-14) 教育委員会、行政との連携	○		

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
その他	(1-15) その他			・北見市内では、本校は大学や専門学校に進学できることが十分に認知されている。 ・特別支援学校の受け入れ数が最近増えてきている。以前は、特別支援学校に子息を入学させたくない保護者が多かったが、最近では保護者が子供を特別支援学校に行かせてもいいという風潮に変わってきている。より一層、高等専修学校の独自の良さをしっかりとアピールしていかないといけない。

【②教育の質向上】

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修	○		・年に1～2回、専門の先生を学校に招いて、研修会を開いている。
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減		○	・教員全員で、生徒たちの日常の悩みに対応している。本校の全員の教員が、全校生徒の名前と顔が一致している。
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及	○		
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加	○		
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実	○		・北海道有朋高校（通信制高校）と技能連携しており、同校の卒業の方針で進めていかないといけない面もある。商業科目も卒業単位として認められる。高校卒業の資格が取れることに、保護者は安心する（地方の特色かもしれない）。
(2-6)	資格、検定試験の取得奨励	○		・本校は商業系であり、情報処理系、簿記の資格取得に力を入れている。検定合格を一つのきっかけにして、生徒の自信に繋げている。
(2-7)	成績優秀者、部活動等の表彰	○		
(2-8)	ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	○		
(2-9)	不登校、中退防止の対策	○		・約6割の生徒が不登校の経験を持って入学してくる。本校の教員は生徒の支援にとっても理解があり、朝から晩まで生徒たちに親身になってつきっきりで指導している。 ・本校に入学を希望する生徒は、入学試験（面接、筆記）を行っているが基本的には受け入れている。

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	○		
(2-11) その他			・生徒たちの指導のために教職員をもう少し増やしたいが、ハローワークで募集してもなかなか応募がない。 ・教員不足で負担が多く大変ではあるが、日々生徒の相手をするのが楽しくてやっている面もある。

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○		
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）			
(3-3) 経常費助成制度			
(3-4) その他			

4.3.4. 学校法人星生学園 佐賀星生学園

【①認知度向上】

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
広報活動	(1-1)	ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○	
	(1-2)	SNS、メルマガ等による学校の魅力発信	○	
	(1-3)	報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	○	
	(1-4)	進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○	
	(1-5)	高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加	○	
	(1-6)	卒業生の母校（中学校）訪問	○	
	(1-7)	「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	○	
情報交換会	(1-8)	中高連絡会（中学校長会）	○	
	(1-9)	大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者	○	
教育連携の推進	(1-10)	中学校：出前授業、職業体験学習の実施	○	・中学校から学校の説明の依頼は最近増えている。地域の中学校との連携はできているが、教職員が非常に多忙で、なかなか時間が取れていないのが実状。学校の視察も多く、受け入れるだけで精一杯の状況である。
	(1-11)	企業：インターンの依頼	○	・就職担当を 2 年前にようやく採用して、企業との関わりが持てるようになってきている。企業でのインターンを受け入れてもらえるように積極的に働きかけていく。
	(1-12)	大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ	○	
	(1-13)	地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加	○	
	(1-14)	教育委員会、行政との連携	○	
その他	(1-15)	その他	○	・以前、県内の中学校教員を対象に本校の認知度調査を行ったところ

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
				ろ、認知度は 98.8%の非常に高い結果となった。本校は、地域の中学校教員には十分に認知されている。 ・不登校生徒を受け入れている高等専修学校は、佐賀県内には 3 校ある。看護系の高等専修学校を含めると、もっと多くの学校がある。看護系の高等専修学校は不登校生徒を受け入れていないので、不登校生徒を受け入れている高等専修学校と看護系の高等専修学校は、切り分けて検討する必要がある。

【②教育の質向上】

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修	○		・年度初めに、学校の在り方、学校の理念をきちんと教職員に伝えるようにしている（常勤の教職員は 14 名）。 ・対応が困難な生徒への対応の仕方（解決志向アプローチ、劣等感を持って入学してくる生徒たちが本来持っている能力を上手く利用して元気にさせるアプローチ）について、年に 2～3 回程度、研修を実施している。 ・教職員の時間がなかなか取れない、時間が合わない
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減		○	・カウンセラーは特に配置していない。担任教員が実質的なカウンセラーになっている。いろいろな情報が担任教員に入ってくるので、情報を集約・整理して生徒、保護者と面談している。すぐに対応すること、俊敏性が重要であり、空白の時間はあってはいけない。
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及		○	・本校ではチャレンジワークという授業があり、1 年生から 3 年生の縦割りで、生徒自身が興味のあるテーマ（歌、ダンス、クラフト、創作、デザイン、手話、演劇、ハンドベルなど）を選んで 1 年間かけて取り組み、チャレンジワーク発表会で成果を発表している。 ・実社会に出るための必須能力とされるコミュニケーションスキル（対人関係を円滑にする力）を、身近な日常体験をテーマに学び、修得している。生徒たちの状況を見ながら、豊富なテーマ（リラックス・ヨガ・研修合宿での集団行動、ストレスマネジメント、エンカウンター、など）を取り入れている。
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加	○		
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実	○		

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(2-6) 資格、検定試験の取得奨励	○		
(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰	○		
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	○		
(2-9) 不登校、中退防止の対策		○	・数としては多くはないが、毎年1～2名が友達関係などをきっかけにして、辞めてしまうケースが見られる。クラス運営をより一層強化していきたい。
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	○		
(2-11) その他			・教職員の補充のため求人を出しているが、全国的に教員の人材不足のため学校間での常勤・非常勤の教員の奪い合いが生じており採用が困難である。生徒の入学者数が増えているので、2年前に1クラスから2クラスに増やした。対応が困難な生徒が多いので、1クラスに担任と副担任の2名を配置しているが、教員の数に足りていない。 ・若い先生において特に、「先生」と呼ばれて勘違いしてしまう人がいる。教員である前に、一人の人間として成長してほしい。我々教員は、子どもたちから学ぶことの方が多い。教員と子どもたちが一緒に学び合いながら並走していこうという気持ちで学校を設立した。

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○		
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）	○		
(3-3) 経常費助成制度	○		
(3-4) その他			

4.3.5. 東京学芸大学 伊藤 秀樹 准教授

【①認知度向上】

項目		特に重要と 考えられる 内容	コメント等
広報活動	(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○3	・学校のホームページでの情報発信、文部科学省のコンテンツ（「知る専」等）も活用されるとよい。
	(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信	○3	・いろいろなメディアを通して、学校の魅力を情報発信していくことが必要。
	(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	○1	・テレビ、新聞、ラジオ等のメディア、報道機関への積極的な情報発信が一番重要である。メディアに取り上げられた場合の影響力は非常に大きい。
	(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○2	・中学校の先生、生徒との顔が見える関係がとても重要。
	(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加		
	(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問		
	(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開		
情報交換会	(1-8) 中高連絡会（中学校長会）		
	(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者		
教育連携の推進	(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施		・地元の中学校に、教員が足を運ぶことも重要。教員の人材が不足しており、なかなかリソースが割けない状況ではあるが（新規に多くの教員を採用することは学校経営的には現実的でない）、やれる範囲でやることが将来的には効いてくるはず。
	(1-11) 企業：インターンの依頼		
	(1-12) 大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ		
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加		
	(1-14) 教育委員会、行政との連携		
その他	(1-15) その他		・高等専修学校は、通信制高校とは違って学校に通学することが基本となる。教員と対面で周りの友達とも関係を持ちながら学べる高等専修学校の良さに

項目	特に重要と 考えられる 内容	コメント等
		対する世の中からのニーズはある。

【②教育の質向上】

項目	特に重要と考 えられる内容	コメント等
(2-1) 教職員対象の研修	○1	・教職員の研修は、人手不足もあり足りていない。昨年度に参加した、障害のある生徒の進路指導に関する研修（東京）ではオンラインも含めて数十名の参加があり、教員のニーズは高いものの、なかなか機会は少ない。
(2-2) メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減		
(2-3) 特色ある授業の好事例の収集、普及	○1	・特色ある授業の好事例を、教職員向けの研修で学校から紹介してもらえるとよい。 ・生徒指導、進路指導、生徒支援等をテーマに好事例を研修の機会を通じて、関係者間で共有できるとよい。 ・他の学校でどんなことをやっているのか、もっと知りたいと思っている教員は潜在的に多いのではないかと。
(2-4) 文部科学省モデル事業への積極的な参加		
(2-5) 進学、就職等の進路指導の充実		
(2-6) 資格、検定試験の取得奨励		
(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰		
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援		
(2-9) 不登校、中退防止の対策	○2	・不登校、中退防止の対策は、地道ではあるがとても大事。
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	○2	・災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保は、とても大事。
(2-11) その他	○3	・最近では定年間近の教員の大量退職があり、高等専修学校も含めて全国の学校で教員不足が生じている。全国の高等専修学校でも、教員の確保に苦戦している状況を耳にする。大学で教員免許を取得しても、教員を志望しない学生が増えている。 ・多様な個性のある生徒への支援・対策について、やり方を関係者間で共有す

項目	特に重要と考えられる内容	コメント等
		ることも大事。

【③経済的支援】

項目	特に重要と考えられる内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○2	
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）	○2	
(3-3) 経常費助成制度	○1	・私立学校間で、高等学校と高等専修学校とで条件が平等であること、1 条校との格差が是正されることがとても重要。 ・経常費の格差が解消しないと、教員不足の状況はなかなか解決できない。経常費格差の解消により、私立高等学校と同様に生徒を安定して集めることができる、教員の安定的な採用、生徒への手厚い指導が可能となる。学校の機材、設備を充実させることができる。生徒の保護者も、子供を通学させることの経済的な心配をしなくて済む。学校が閉校になるリスクも減らせるので、生徒にとってもメリットは大きい。
(3-4) その他		

4.3.6. 全国高等専修学校協会／学校法人武蔵野東学園 武蔵野東高等専修学校

【①認知度向上】

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
広報活動	(1-1)	ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作		
	(1-2)	SNS、メルマガ等による学校の魅力発信		
	(1-3)	報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信		
	(1-4)	進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施		
	(1-5)	高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加		
	(1-6)	卒業生の母校（中学校）訪問		
	(1-7)	「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開		
情報交換会	(1-8)	中高連絡会（中学校長会）		・東京都専修学校各種学校協会では、地区ごとに担当を分担してローラー作戦で中学校を訪問してパンフレットを配布する活動を行っている。
	(1-9)	大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者		
教育連携の推進	(1-10)	中学校：出前授業、職業体験学習の実施		
	(1-11)	企業：インターンの依頼		・最近では、売り手市場・人手不足の時代背景もあって高等専修学校の就職が好調である。民間企業では、特に大手企業を中心に法定雇用率の縛りがあり、障がい者雇用が活発に進められている。
	(1-12)	大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ		
	(1-13)	地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加		
	(1-14)	教育委員会、行政との連携		
その他	(1-15)	その他		・東京都の高等専修学校は、美容系、調理系、芸能系の学校が多い。 ・東京都専修学校各種学校協会が主催する学校説明会・相談会は、最

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
				近では中学校の先生の参加者が非常に少ない（1会場で数名程度）。15歳人口がピークの時代には、200名程度が参加したときもあった。 ・令和5年6月16日に閣議決定された新たな教育振興基本計画の中で、高等専修学校の取り組み事例が紹介され、推進の方向性が明記された。 ・高等専修学校の認知度は、保護者、生徒、先輩後輩、卒業生の間での口コミによるところが大きい。中学校の先生が、高等専修学校の教育のファンになってくれるような学校は、生徒が自然と集まってくる。 ・全国の高専学校は地域の中学校との結びつきが強く、地元では十分に認知されているケースが非常に多い。全国一律で認知度を調査すると、10数%程度の結果となってしまう。 ・現状の中学校卒業後の進路に関する学校制度（全日制高等学校、通信制高等学校、高等専修学校、サポート校・フリースクール等）と名称が複雑すぎて分かりづらい。学校名を「〇〇高等専修学校」に統一できると、中学生、保護者、先生にとって分かり易くなる。 ・15歳人口がピークの時代から教員をやっていたベテラン世代の教員は高等専修学校のことをよく知っているが、若い世代は高等専修学校のことをよく知らない。 ・大学の教職課程で高等専修学校に関する授業がなく、学生が習う機会がない。「教育法規」の授業の中で、高等専修学校について扱ってもらえると、より認知・理解してもらえるようになる。

【②教育の質向上】

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修			
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減			
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及			
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加			
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実			・通信制高校の卒業後の進路未決定率は30%程度（文部科学省 学校基本調査）。高等専修学校では生徒の面倒見の良さが特長であり、進

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
			路決定率は非常に高い。高等専修学校のよさをもっとアピールできるとよい。
(2-6) 資格、検定試験の取得奨励			
(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰			
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援			
(2-9) 不登校、中退防止の対策			
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保			
(2-11) その他			・全国的に教員が不足しており、高等専修学校の教員を募集しても採用できないケースが多くなっている。 ・高等専修学校では、卒業生が母校に戻って教員を務めているケースが多い。不登校や様々な困難を自身が経験しており、生徒指導において強みとなっている。 ・奨学金の返済免除制度は、日本育英会時代の 1998 年に教員職で廃止された（以前は、1 条校と 124 条校で格差が存在していた）。 ・全国の高等専修学校は、全国高等専修学校協会の会員校を中心に横の繋がり・ネットワークが強く、教員間で密に情報共有ができているのが強みである。

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実			
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）			
(3-3) 経常費助成制度			・経常費補助には、1 条校と 124 条校で格差があるとともに、都道府県ごとにも格差が存在している。1 条校並みに経常費助成が受けられると、高等専修学校の経営が安定して、教育の質をより高めることができ、良好な生徒募集に結びつくといった好循環につながる。

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-4) その他			・令和5年7月26日に、全国知事会が令和6年度国の施策並びに予算に関する提案・要望において、「高等専修学校が果たしている役割の重要性に鑑み、高等専修学校が安定的な教育活動を行えるよう、その運営に必要な経費に対して、国の責任において補助制度の創設や、特別交付税など地方財政措置の創設など、十分な財政支援措置を講ずること。」を要望事項に明記した。これが実現されると、高等専修学校の安定的な運営に繋がる。

4.3.7. 学校法人郡山学院 郡山学院高等専修学校

【①認知度向上】

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
広報活動	(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○		・ ホームページ・パンフレット等で学校紹介に関する情報発信を積極的に行っている。
	(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信	○		・ フェイスブックも活用して、学校の魅力発信を行っている。
	(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	○		・ 地元メディアである福島民報、福島民友、KFB 福島放送、さらに朝日新聞にも積極的に情報発信（献血に協力した等）を働きかけている。 ・ 幅広く福島県民に知ってもらうことを目的に新聞広告を出した。
	(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○		
	(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加		○	
	(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問	○		・ 年に 3～4 回、生徒が自分の母校を訪問して、勉強していることなどを後輩に説明する機会を設けている。
	(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	○		・ 文部科学省策定の「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、『学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善』『生徒・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくり推進』を目的とした自己点検情報を公開している。
情報交換会	(1-8) 中高連絡会（中学校長会）		○	
	(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者		○	
教育連携の推進	(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施		○	
	(1-11) 企業：インターンの依頼	○		・ 2 年生がインターンシップを経験する。
	(1-12) 大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ	○		
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加	○		・ 地域の清掃ボランティア、第九の会に生徒が積極的に参加している。
	(1-14) 教育委員会、行政との連携		○	
その他	(1-15) その他			・ 教員養成大学の教職課程において、高等専修学校の存在について学

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
				生に学んでもらう必要がある。若い世代の先生は、教職課程で習っていないのが実状。 ・「高等専修学校」は略すと「高専」となり、「高等専門学校（高専）」と混同されてしまう。 ・専修学校制度は、中学校の先生にとって非常に分かりづらい。専修学校には、高等課程（中卒対象）、専門課程（高卒対象）、一般課程（対象の限定なし）の 3 つの課程がある。高等専修学校は高等課程（中卒対象）に該当する。中学校の先生は、これらを混同してしまう。保護者も、子どもにはまずは（通信制であっても）高校に行かせたい、ということになる。 ・高等学校と同等であることを強調するために、「高等」と「専修」を前後で入れ替えて「専修高等学校」としてはどうか。 ・文部科学省では、大学受験できることの周知を図っているが、その情報が末端までは伝わっていない。 ・交通の便がよい場所（郡山市は福島県の経済の中心地）に立地していることは、生徒の募集に効果的。

【②教育の質向上】

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修	○		
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	○		
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及		○	
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加	○		・文部科学省委託事業（平成 26 年度、平成 27 年度）の成果報告書を学校ホームページに掲載している（「高等専修学校における IT・ビジネス人材育成のための高等教育機関との接続による実践的職業教育プログラムの構築」）。
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実	○		
(2-6)	資格、検定試験の取得奨励	○		・本校の生徒は多くが不登校を経験している。自分に自信を取り戻すため、検定資格の取得を奨励している。入学してから卒業までに、簿記や電卓を中心に 1 人平均で約 7 個の資格取得の実績がある。

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
			・全国経理教育協会が辞ししている簿記能力検定に合格すると、会長（元内閣総理大臣）名で賞状がもらえるので、生徒と保護者にとって大変励みになる。
(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰	○		
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	○		
(2-9) 不登校、中退防止の対策	○		
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	○		
(2-11) その他			・少子化が叫ばれている中で、不登校生徒の数は10年連続増加して30万人に迫る勢い（令和5年度299,048人）であり、高等専修学校の一定の役割、世の中からのニーズはますます高まっている。

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○		
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）	○		
(3-3) 経常費助成制度	○		・他の私立高校、通信制高校並みに経常費を助成してもらえるように働きかける。経常費の格差は、現状では非常に大きい。経常費の格差解消により、教員の手当てを増やすことができる。現状では、教員のやりがいによって、来ている状況。
(3-4) その他	○		・中小企業庁「事業継続力強化計画」・「事業継続計画（BCP）」のグループ補助金を活用して、地域社会との連携、安全・安心な教育環境といった「新しい学びに対応した学校施設」の新校舎を建設した（令和4年度）。4階建ての新校舎は完全バリアフリーを実現するとともに、オストメイト対応トイレや、非接触式のエレベーターを備えた。身体的ハンディキャップを抱える方にも優しい造りとなり、より幅広い生徒を受け入れることができる。体育館施設を近隣住民に貸し出したり、非常時には近隣地域の住民にとっての避難所としての役割も期待されている。

4.3.8. 札幌大谷大学 山田 千春 教授

【①認知度向上】

項目		特に重要と 考えられる 内容	コメント等
広報活動	(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○	・情報収集の際に、学校のホームページはよく見られており、ホームページや動画、パンフレットは学校を知ってもらう主要なツールである。
	(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信		
	(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	○	・地域の人々に教育活動をアピールする手段として重要である。
	(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○	・高等専修学校に興味関心を示す中学生は一定数いるので、まずは中学生に知ってもらうことが重要。
	(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加		
	(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問	○	・卒業生の訪問だけではなく、高等専修学校の教員による訪問も必要。
	(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	○	・高等専修学校が民間のサポート校とは異なる点を明確にするためにも必要である。
情報交換会	(1-8) 中高連絡会（中学校長会）	○	・中学校校長との交流とともに、地域の高校の校長との交流も欠かせない。
	(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者		
教育連携の推進	(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施	○	・中学生に認知していくためにも必要。
	(1-11) 企業：インターンの依頼	○	・職業に関する専門的な知識や技能を身につけるのが専修学校の特徴だと思うので、インターンの依頼は積極的に取り組むべき。
	(1-12) 大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ		
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加	○	・地域の人々と交流し、高等専修学校を知ってもらうためにも必要。
	(1-14) 教育委員会、行政との連携		
その他	(1-15) その他	○	・学校名の統一ができるとよい。必ずしも「〇〇高等専修学校」という校名の学校ばかりではない。この点を統一すると、世間一般の認知が広まるのではないかと思う。「高等専門学校」とも勘違いされるので、「高等専修学校」という名前でない方がよいかもしれない。

項目		特に重要と 考えられる 内容	コメント等
			・ヨーロッパの学校のように、国として職業資格をもっと重視するような教育制度になれば、高等専修学校の良さがもっと広まっていくのではないかな。 ・通信制高校、定時制高校では卒業生の進路（就職、進学）が決まらない割合が高等専修学校よりも高い。これに対して、高等専修学校では進路未決定率が非常に低い。これらの特長をもっと中学校にアピールできるとよい。

【②教育の質向上】

項目		特に重要と考 えられる内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修	○	・必須。
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	○	・カウンセラーというよりも、厳しい家庭の子どもが比較的多いので、できればスクールソーシャルワーカーの方がよい。学校の専任というパターンは現実的に難しいかもしれないが、複数の学校で掛け持ちであれば可能ではないか。自身が高等専修学校の教員のときには、スクールソーシャルワーカーが来てもらえると助かると感じることもあった。
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及		
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加		
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実	○	・高等専修学校が高校と同じく後期中等教育を担っている以上、進路指導は非常に重要だと考える。
(2-6)	資格、検定試験の取得奨励	○	・これらの取得も高等専修学校の特徴で、取得すれば生徒の自己肯定感へと結びつくので重視したい。就職や進学に有利となる資格もあるが、それとは別に生徒自身の学ぶ意欲を掻き立てるという意味で、とても大事である。
(2-7)	成績優秀者、部活動等の表彰		
(2-8)	ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援		
(2-9)	不登校、中退防止の対策	○	・中学時代の不登校経験者が高い割合で存在しているので、この点は十分に対応していきたいところである。中退の防止も大事だが、全日制高校と同じく、進路変更（学校を辞める）をする生徒のセーフティーネットとなっているのが、技能連携先の通信制高校や他の通信制高校であり、そちらへ転学を希望する生徒も勤務していた高等専修学校では一定数存在していた。将来的に生徒個々のことを考えれば、通信制高校への転学が好ましい場合もある。

項目	特に重要と考えられる内容	コメント等
		・高等専修学校では、集団の中で学べる、生徒と教員の関係が密といった良さがあり、通信制高校にもそれぞれの良さはある。 ・転学は高等専修学校から通信制高校へのケースがほとんどで、通信制高校から高等専修学校への転学はほぼないのが実態である。 ・転学先の通信制高校を辞めてしまうケースも中にはあるが、実態はなかなか把握できていない。
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保		
(2-11) その他		・広域通信制高校のサテライト施設（分校、技能教育施設、サポート施設）など、高等専修学校と類似している教育施設が増えている。（広域通信制高校と技能連携を行っている高等専修学校は技能教育施設となるが、高等専修学校でない技能教育施設も多数存在している）それらの教育施設の実態を今後、把握していくことによって、高等専修学校の長所が客観的に明らかになるのではないかと思う。 ・全国高等専修学校協会に加盟していない高等専修学校もある。例えば、広域通信制高校と同系列の学校法人が経営している高等専修学校は、協会に加盟していないので同じ高等専修学校でありながら交流がない。高等専修学校の認知向上や振興を目指すのであれば、協会に加盟していない高等専修学校とも情報交換を行っていく必要があるのではないかと考える。

【④経済的支援】

項目	特に重要と考えられる内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○	・現在、私立高校と同じく扱われているが、学校や学科（美容系・芸能系）によっては専門学校と同額のところもあり、私立高校へ通学するよりも保護者の費用負担がある。学費の負担が大きく、進学をあきらめてしまうことを解消したい。
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）	○	・同上。
(3-3) 経常費助成制度	○	・高等専修学校が高等学校と同じく1条校（「学校教育法」第一条に規定されている学校）にならなくても、個々の学校の実態や教育内容を踏まえて、ある一定レベルの基準に達していれば、私立高校と同じ助成金額を支給してほしい。そうすることによって、教職員の数も増やすことができ、より手厚い指導が可能となる。 ・個々の学校の状態を見て、生徒の指導などに頑張っている学校、地域の人材育成に貢献がある学校などにより一層の助成を増やすべきである。 ・経常費助成制度が充実すれば、教員の手当てに反映させることができる。人

項目	特に重要と考えられる内容	コメント等
		材不足の教員採用、人員の増強にも効果が期待できる。学校の設備を充実させるなどにも効果がある。
(3-4) その他		

4.3.9. 学校法人苫小牧学園 苫小牧高等商業学校

【①認知度向上】

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
広報活動	(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○		・ウェブサイト等の情報発信は、既に取り組んでいる。
	(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信	○		・今年度から、Instagram、YouTube で学校紹介を始めている。
	(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	○		・苫小牧民報には情報提供するとともに、記事掲載をやってもらっている。前嶋理事長、高橋顧問は以前からしばしば記事に掲載されており、本校は、地域（苫小牧）では認知度は高い。
	(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○		・進学説明会、オープンキャンパスは実施している。出前授業まではやっていないが、中学校の進路説明会には出向いて説明を行っている。
	(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加	—		・情報提供の場がない。今後やる予定もない。
	(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問		○	・教職員からやってみようとの声が上がっている。生徒（中学校の卒業生）を母校に連れていくと、先生方は不登校だった生徒の成長した元気な姿を見て喜んでくれるので、中学校の先生方への励みにもなる。
	(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開			・情報として持っていない。
情報交換会	(1-8) 中高連絡会（中学校長会）	○		・コロナ禍の影響により数年間は行っていないが、コロナ禍前は連絡会に出席し情報交換を行っていた。
	(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者	○		・進路指導担当の方で、大学、専門学校との情報交換を行っている。
教育連携の推進	(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施			・特にやっていない。
	(1-11) 企業：インターンの依頼	○		・苫小牧市役所のインターンシップに参加した。就職率は卒業する生徒の 8～9 割程度と比較的多い。地元企業に就職するパターンが多く、生徒は地元志向がとても強い。
	(1-12) 大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ	○		・大学、専門学校と AO 等の働きかけは、進学希望者には行っている。
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加	○		・生徒のボランティア活動は、可能な限り取り組んでいる。生徒会の活動がとても活発であり、生徒会総務局を中心に、イベントの依頼があれば積極的に参加している。

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
	(1-14) 教育委員会、行政との連携	△		・税務署、年金事務所等からの講演依頼は受ける。できるだけ協力してはいるが、その程度。
その他	(1-15) その他		○	・他の高等専修学校、私立高校と組んで情報発信できるとよい。認知度のより一層の向上が、今後の課題である。

【②教育の質向上】

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修	○	○	・現状は年に1～2回程度の頻度で研修を行っているが、もっと研修すべき、研修したいという教職員からの声は大きいものの、教員の時間的・体力的な余裕がないのが実状である。発達障害・学習障害傾向の生徒も多くいるので、そういった生徒たちへのアプローチはどうあるべきか、生徒に対する接し方、受入れ体制の充実、就職・進路指導等の研修テーマが考えられる。
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	○		・週1回ボランティアでカウンセラー協会のスタッフに学校に来てもらって対応している。教員は臨床的専門家ではないが、普段から生徒の悩みを聞く機会が多い。
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及	○		・本校では、「苦商ゼミ」で教員が生徒に対して自身の趣味・特技を教えている。生徒は、自分の興味のある講座を選んで受講するような行事を設けている。年に1回、3時間連続で実施しており、ピアノ調律、電気工作（回路基板を作る）、妄想修学旅行、キャンプのやり方等がテーマとなっている。
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加			・今のところ、声はかからない。高等専修学校のため、未知数なところもある。
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実	○		・卒業生のおよそ9割が就職する。3年間の在学中に資格取得、社会人になること、生活習慣、服装をきっちりと指導している。就職内定率は4年連続100%を達成している。
(2-6)	資格、検定試験の取得奨励	○		・簿記、情報系の資格取得を生徒には大いに奨励している。資格を取らないと、進級できないことになっている。意識付けをしっかりとさせて、年度末補習でフォローしている。これにより、生徒と先生の密な繋がり、生徒自身の自己肯定感に繋がっている。
(2-7)	成績優秀者、部活動等の表彰	○		・入学金全額と授業料半額免除となる特待生制度（入学時成績優秀、在校中の成績維持が条件）を設けている。今年からは、難易度の高い資格を取得した生徒や部活動などで活躍したり顕著な功績を残した

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
			生徒などを表彰する特別顕彰制度を設けて運用を始めた。
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	○		・ハローワーク、支援センターとの連携はやっている。卒業生離職者の支援がなかなか難しい。卒業してしまうと、連絡が途切れてしまう。気にはなっているが、なかなかアプローチできていない。
(2-9) 不登校、中退防止の対策	○		・本校は、不登校経験者を多く抱え、道半ばで中退する生徒も多く最優先課題である。研修では、どうすれば不登校・中退の生徒を少なくできるか、教職員間で話し合いの場を設けている。
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保	○		・北海道有朋高校との技能連携の恩恵を受けている。定時制高校の立場で災害共済給付を受けている。
(2-11) その他	○		・不登校であったりグレーゾーンの生徒は、普通の学校生活を送りたいという希望を持って本校を志願している。小学校・中学校で上手くいかず、進学をきっかけに普通の学校生活を取り戻すための役割を本校は担っているのではないだろうか。ただし、本校は特別支援の学校ではなく、高等学校と変わらないことを敢えて目指しており、マイペースに個別の学習環境で勉強したい生徒が志願する学校ではないことを謳いながら、生徒募集を行っている。

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○		・複雑な家庭事情、経済的に厳しい家庭も多い。
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）	○		・特待生制度など、法人独自の制度を設けている。
(3-3) 経常費助成制度		○	・北海道はない。経常費助成を目的に、1 条校を目指す動きもある。
(3-4) その他			

4.3.10. 学校法人有朋学園 有朋高等学院

【①認知度向上】

項目		既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等	
広報活動	(1-1)	ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作	○	○	・入試・学校生活等 Q&A 集を学校説明会への参加者、資料請求した方に手渡ししている。今後は、学校ホームページに載せることを検討している。
	(1-2)	SNS、メルマガ等による学校の魅力発信		○	
	(1-3)	報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信	○		・「リビング中学生新聞 てとて」、「リビング福島」（福島リビング新聞社）で、学校紹介の内容を情報発信している。
	(1-4)	進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施	○		
	(1-5)	高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加		○	・不明、特になし。
	(1-6)	卒業生の母校（中学校）訪問	○		・毎年、地域の中学校に校長が訪問している。
	(1-7)	「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開	○	○	・学校説明会で説明している内容もある。
情報交換会	(1-8)	中高連絡会（中学校長会）		○	・中学校の先生を対象とした「私立学校説明会」に参加している。 ・毎年 6 月～7 月頃に、入学した生徒の近況報告も兼ねて中学校の校長先生を訪問しており、地域の中学校からは十分に認知、理解されている。年に数件くらい、中学校の先生から問い合わせがある。 ・福島県内では、高校からの転校、編入学のケースが増えている。高校とのパイプ作りも重要と考えているが、積極的に本校を PR して受験を勧めることは現実的には難しく、高校とのパイプ作りが今後の課題である。
	(1-9)	大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者	○		・中小企業同友会主催の就職懇談会に参加している。
教育連携の推進	(1-10)	中学校：出前授業、職業体験学習の実施		○	・技能連携での職業教育は行っておらず、就職希望の生徒も少数のため、本校では今のところ取り組んでいない。
	(1-11)	企業：インターンの依頼		○	・就職希望の生徒は少数（毎年 5%程度）。地元企業への就職希望が多い。
	(1-12)	大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ		○	・出願時には、提携先の NHK 学園高校（通信制普通科）からの出願としているので、特に働きかけの必要はないと考えている。また、NHK 学園高校の指定校推薦枠も利用することができる。

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加	○		・生徒会を中心にボランティア活動に参加している。
	(1-14) 教育委員会、行政との連携	○		
その他	(1-15) その他			・最近では、中学校のときに抱いた負の感情を克服して本校で新しくスタートを切りたいとして、本校に理解を示して第1志望で入学してくる生徒が増えてきている。推薦、専願での入学が多い。 ・生徒自身が本校のことを知らなくても、中学校の先生から生徒に紹介して勧めるケースが多い。

【②教育の質向上】

項目		既に取り 組んでいる 内容	これから 取り組む べき内容	コメント等
(2-1)	教職員対象の研修	○		・職員会議等の際に「勉強会」を実施している。
(2-2)	メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減	○		
(2-3)	特色ある授業の好事例の収集、普及	○		・教員には、全国模擬授業大会（栃木県開倫塾の主催）への参加、聴講を奨励している。
(2-4)	文部科学省モデル事業への積極的な参加		○	
(2-5)	進学、就職等の進路指導の充実	○		・保護者を含めた生徒との面談を定期的に行っている。進学率は90%程度（大学と専門学校で半々程度）。
(2-6)	資格、検定試験の取得奨励	○		・進学を念頭に置いて、英検、漢検の取得を生徒たちに奨励している。
(2-7)	成績優秀者、部活動等の表彰	○		・全校集会で表彰している。
(2-8)	ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援	○		
(2-9)	不登校、中退防止の対策	○		
(2-10)	災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保			
(2-11)	その他	○		・本校は、NHK 学園高校（通信制普通科）と提携している。実習・

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
			実技による職業教育には特に実施していないので、技能連携は行っていない。 ・少人数教育のメリットを活かして、課外授業で個々の生徒たちに合わせた個別の学習内容を提供している。教員は、普通高校と異なり部活の指導等の負担は軽くて済むので、個別の学習指導が可能となっている。 ・校舎、設備、教員数、教室の広さ等のハード面が限られているので、定員を増やすことは考えていない。定員の 8 割～9 割程度の生徒数で、学校を運営している。 ・高校教員免許状、特別支援教諭の免許状の他にも、公認心理士、社会福祉士の国家資格を有する教員が多数いる。教員は採用時には高校教員免許状を取得しているが、在職中に生徒指導で必要に迫られて、自己啓発により様々な資格を取得している。 ・年間 6 回、子どもの心理、親子関係のあり方等をテーマに、保護者のための勉強会を実施している。

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実	○		
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）	○		
(3-3) 経常費助成制度		○	・ 1 条校と 124 条校で、学校の運営にかかる費用は平等にすべき。保護者にもより多くの負担を強いることになってしまう。 ・経常費が増えれば、困難を抱える生徒の家庭の経済的な負担が減り、生徒本人にとって進路の選択肢が広がる。
(3-4) その他	○		・ 県や日本学生支援機構の奨学金制度（貸与）を利用している。 ・本校は NHK 学園高校と提携しているため（ダブルスクール）、通信制高校よりは学費の負担が大きいものの、私立高校と同程度である。

4.4. 認知度向上策および振興に係る施策の検討

アンケート調査およびインタビュー調査の結果に基づいて、高等専修学校の認知度向上策および振興に係る施策について、認知度向上、教育の質向上、経済的支援の3つの観点から検討した。

以下に、有識者および高等専修学校の関係者を対象としたインタビュー調査の結果から得られた主な認知度向上策および振興策を、認知度向上、教育の質向上、経済的支援の3つの観点から項目別に整理する。

4.4.1. 認知度向上

(1) 広報活動

(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作

- ・ 学校のホームページでの情報発信、文部科学省のコンテンツ（「知る専」等）も活用されるとよい。
- ・ 情報収集の際に、学校のホームページはよく見られており、ホームページや動画、パンフレットは学校を知ってもらう主要なツールである。
- ・ 入試・学校生活等 Q&A 集を学校説明会への参加者、資料請求した方に手渡ししている。

(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信

- ・ いろいろなメディアを通して、学校の魅力を情報発信していくことが必要。
- ・ ホームページからInstagramやTikTokに繋げる仕組みが必要。従来の紙ベースでの情報発信では不十分。
- ・ 中学生、保護者はSNSやInstagramから多くの情報を得ているので、これらのツールを使った情報発信が課題。
- ・ フェイスブックも活用して、学校の魅力発信を行っている。

(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信

- ・ テレビ、新聞、ラジオ等のメディア、報道機関への積極的な情報発信が一番重要である。メディアに取り上げられた場合の影響力は非常に大きい。
- ・ 地域の人々に教育活動をアピールする手段として重要である。

(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施

- ・ 中学校の先生、生徒との顔が見える関係がとても重要。
- ・ 高等専修学校に興味関心を示す中学生は一定数いるので、まずは中学生に知ってもらうことが重要。

(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加

- ・ 特になし。

(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問

- ・ 卒業生の訪問だけではなく、高等専修学校の教員による訪問も必要。
- ・ 毎年カミングホームの機会を設けて、全生徒に自分の母校の中学校を訪問してもらっている。本校でどのような勉強をして、将来はどうなりたいかを中学校に行って、生徒たちの前で話している。中学校の先生方にも、卒業生の活躍している姿を見てもらえる良い機会となっている。
- ・ 本校の卒業生は、自分の進路が決まったことを報告する手紙を、卒業した中学校の校長先生と進路指導の先生に送るようにしている。これにより、高等専修学校の卒業生も大学や専門学校に進んでいるとの理解が進み、地道な活動ではあるが認知度の向上に役立っている。
- ・ 生徒（中学校の卒業生）を母校に連れていくと、先生方は不登校だった生徒の成長した元気な姿を見て喜んでくれるので、中学校の先生方への励みにもなる。

(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った情報公開

- ・ 高等専修学校が民間のサポート校とは異なる点を明確にするためにも必要である。
- ・ 文部科学省ガイドラインに基づき、自己点検情報を公開している。

(2) 情報交換会

(1-8) 中高連絡会（中学校長会）

- ・ 中学校校長との交流とともに、地域の高校の校長との交流も欠かせない。
- ・ 年2回、開催している。募集の方向性を情報発信している。中学校教員にとっても、卒業生の姿を見られる良い機会となっている。
- ・ 中学校の先生に本校に来てもらって、生徒の進路について個別に相談を受けることもある。
- ・ 中学校の先生を対象とした「私立学校説明会」に参加している。
- ・ 毎年6月～7月頃に、入学した生徒の近況報告も兼ねて中学校の校長先生を訪問しており、地域の中学校からは十分に認知、理解されている。年に数件くらい、中学校の先生から問い合わせがある。
- ・ 県内では、高校からの転校、編入学のケースが増えている。高校とのパイプ作りも重要と考えているが、積極的に本校をPRして受験を勧めることは現実的には難しく、高校とのパイプ作りが今後の課題である。

(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者

- ・ 進路指導担当の方で、大学、専門学校との情報交換を行っている。
- ・ 中小企業同友会主催の就職懇談会に参加している。

(3) 教育連携の推進

(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施

- ・ 地元の中学校に、教員が足を運ぶことも重要。教員の人材が不足しており、なかなかリソースが割けない状況ではあるが（新規に多くの教員を採用することは学校経営的には現実的でない）、やれる範囲でやることが将来的には効いてくるはず。
- ・ 中学校から学校の説明の依頼は最近増えている。地域の中学校との連携はできているが、教職員が非常に多忙で、なかなか時間が取れていないのが実状。学校の視察も多く、受け入れるだけで精一杯の状況である。

(1-11) 企業：インターンの依頼

- ・ 職業に関する専門的な知識や技能を身につけるのが専修学校の特徴だと思うので、インターンの依頼は積極的に取り組むべき。
- ・ 卒業生の就職先は地元企業がほとんど。卒業生が地元の企業で活躍しており、本校の生徒は地元企業から信頼されている。卒業生が働いている企業から、声をかけてもらうこともある。
- ・ 就職担当を採用して、企業との関わりが持てるようになってきている。企業でのインターンを受け入れてもらえるように積極的に働きかけていく。
- ・ 地元の市役所のインターンシップに参加した。地元企業に就職するパターンが多く、生徒は地元志向がとても強い。

(1-12) 大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ

- ・ 大学、専門学校と AO 等の働きかけは、進学希望者には行っている。

(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加

- ・ 地域の人々と交流し、高等専修学校を知ってもらうためにも必要。
- ・ 生徒のボランティア活動は、可能な限り取り組んでいる。生徒会の活動がとても活発であり、生徒会総務局を中心に、イベントの依頼があれば積極的に参加している。
- ・ 地域の清掃ボランティア、第九の会に生徒が積極的に参加している。

(1-14) 教育委員会、行政との連携

- ・ 税務署、年金事務所等からの講演依頼は、できるだけ協力している。

(3) その他

(1-15) その他

- ・ ヨーロッパの学校のように、国として職業資格をもっと重視するような教育制度になれば、高等専修学校の良さがもっと広まっていくのではないか。
- ・ 高等専修学校の認知度は、保護者、生徒、先輩後輩、卒業生の間での口コミによるところが大きい。中学校の先生が、高等専修学校の教育のファンになってくれるような学校は、生徒が自然と集まってくる。
- ・ 全国の高等専修学校は地域の中学校との結びつきが強く、地元では十分に認知されているケースが非常に多い。全国一律で認知度を調査すると、10 数%程度の結果になってしまう。
- ・ 特別支援学校の受け入れ数が最近増えてきている。以前は、特別支援学校に子息を入学させたくない保護者が多かったが、最近では保護者が子供を特別支援学校に行かせてもいいという風潮に変わってきている。より一層、高等専修学校の独自の良さをしっかりとアピールしていかないといけない。
- ・ 他の高等専修学校、私立高校と組んで情報発信できるとよい。認知度のより一層の向上が、今後の課題である。
- ・ 最近では、中学校のときに抱いた負の感情を克服して本校で新しくスタートを切りたいとして、本校に理解を示して第 1 志望で入学してくる生徒が増えてきている。
- ・ 生徒自身が本校のことを知らなくても、中学校の先生から生徒に紹介して勧めるケースが多い。

<通信制高校との差別化>

- ・ 高等専修学校は、通信制高校とは違って学校に通学することが基本となる。教員と対面で周りの友達とも関係を持ちながら学べる高等専修学校の良さに対する世の中からのニーズはある。
- ・ 通信制高校、定時制高校では卒業生の進路（就職、進学）が決まらない割合が高等専修学校よりも高い。これに対して、高等専修学校では進路未決定率が非常に低い。これらの特長をもっと中学校にアピールできるとよい。

<名称・学校制度>

- ・ 「高等専修学校」は略すと「高専」となり、「高等専門学校（高専）」と混同されてしまう。
- ・ 学校名の統一ができるとよい。必ずしも「〇〇高等専修学校」という校名の学校ばかりではない。この点を統一すると、世間一般の認知が広まるのではないかと思う。「高等専門学校」とも勘違いされるので、「高等専修学校」という名前でない方がよいかもしれない。

- ・ 現状の中学校卒業後の進路に関する学校制度（全日制高等学校、通信制高等学校、高等専修学校、サポート校・フリースクール等）と名称が複雑すぎて分かりづらい。学校名を「〇〇高等専修学校」に統一できると、中学生、保護者、先生にとって分かり易くなる。
- ・ 専修学校制度は、中学校の先生にとって非常に分かりづらい。専修学校には、高等課程（中卒対象）、専門課程（高卒対象）、一般課程（対象の限定なし）の 3 つの課程がある。高等専修学校は高等課程（中卒対象）に該当する。中学校の先生は、これらを混同してしまう。保護者も、子どもにはまずは（通信制であっても）高校に行かせたい、ということになる。
- ・ 高等学校と同等であることを強調するために、「高等」と「専修」を前後で入れ替えて「専修高等学校」としてはどうか。

<大学教職課程での認知>

- ・ 大学の教職課程で高等専修学校に関する授業がなく、学生が習う機会がない。「教育法規」の授業の中で、高等専修学校について扱ってもらえると、より認知・理解してもらえるようになる。
- ・ 大学の教職課程で勉強していたときに、高等専修学校のことを習わなかったので、本来であれば教職課程の中で教えて然るべきである。教職課程の中で教えられれば、中学校の先生にも理解してもらえるようになる。
- ・ 教員養成大学の教職課程において、高等専修学校の存在について学生に学んでもらう必要がある。若い世代の先生は、教職課程で習っていないのが実状。

<文部科学省の学校コード>

- ・ 文部科学省の学校コードが、専修学校高等課程で一括りになっている。他校のように校名での学校コード選択は出来ない。

4.4.2. 教育の質向上

(2-1) 教職員対象の研修

- ・ 教職員の研修は、人手不足もあり足りていない。教員のニーズは高いものの、なかなか機会は少ない。
- ・ 専門科目を担当している教員が個々の生徒のことをよく理解してくれている。年度初めに、生徒全員の支援会議を行って、全職員が全ての生徒を理解しているかたちで進めている。
- ・ 年に 1～2 回、専門の先生を学校に招いて、研修会を開いている。
- ・ 年度初めに、学校の在り方、学校の理念をきちんと教職員に伝えるようにしている。
- ・ 対応が困難な生徒への対応の仕方について、年に 2～3 回程度、研修を実施している。

- ・ 現状は年に 1～2 回程度の頻度で研修を行っているが、もっと研修すべき、研修したいという教職員からの声は大きいものの、教員の時間的・体力的な余裕がないのが実状である。発達障害・学習障害傾向の生徒も多くいるので、そういった生徒たちへのアプローチはどうあるべきか、生徒に対する接し方、受入れ体制の充実、就職・進路指導等の研修テーマが考えられる。
- ・ 職員会議等の際に「勉強会」を実施している。

(2-2) メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減

- ・ カウンセラーというよりも、厳しい家庭の子どもが比較的多いので、できればスクールソーシャルワーカーの方がよい。学校の専任というパターンは現実的に難しいかもしれないが、複数の学校で掛け持ちであれば可能ではないか。
- ・ 担任教員に加えて、専門性と長年の経験を持った教育相談体制（教育相談チーム）を作って、様々な背景を持つ生徒たちのフォローを行っている。
- ・ 県のカウンセラー、ケースワーカー（心療内科が専門）に週 2 回程度来てもらって、チーム対応に最も力を入れている。
- ・ カウンセリングのために臨床心理士と提携している。
- ・ 週 1 回ボランティアでカウンセラー協会のスタッフに学校に来てもらって対応している。教員は臨床的専門家ではないが、普段から生徒の悩みを聞く機会が多い。
- ・ 教員全員で、生徒たちの日常の悩みに対応している。
- ・ カウンセラーは特に配置していない。担任教員が実質的なカウンセラーになっている。いろいろな情報が担任教員に入ってくるので、情報を集約・整理して生徒、保護者と面談している。

(2-3) 特色ある授業の好事例の収集、普及

- ・ 特色ある授業の好事例を、教職員向けの研修で学校から紹介してもらえるとよい。
- ・ 生徒指導、進路指導、生徒支援等をテーマに好事例を研修の機会を通じて、関係者間で共有できるとよい。
- ・ 実社会に出るための必須能力とされるコミュニケーションスキル（対人関係を円滑にする力）を、身近な日常体験をテーマに学び、修得している。
- ・ 教員には、全国模擬授業大会への参加、聴講を奨励している。

(2-4) 文部科学省モデル事業への積極的な参加

- ・ よいモデル事業があれば検討してみたい。

(2-5) 進学、就職等の進路指導の充実

- ・ 高等専修学校が高校と同じく後期中等教育を担っている以上、進路指導は非常に重要

だと考える。

- ・ 通信制高校の卒業後の進路未決定率は 30%程度（文部科学省 学校基本調査）。高等専修学校では生徒の面倒見の良さが特長であり、進路決定率は非常に高い。高等専修学校のよさをもっとアピールできるとよい。
- ・ ハローワークの実務経験を持つ就職指導専任の担当者を配置した。担任教員と連携を取りつつ、進路指導をより一層充実させたい。卒業生の就職先の企業とのミスマッチができるだけ起きないように、対応してもらっている。
- ・ 高校 3 年が終わった段階で、自分が選んだ職業が本当に合っているかは分からない。職業を変えたとしても、それは否定すべきではない。その場合には、できる限り、自己理解と自己管理の場は作ってあげたい。
- ・ 3 年間の在学中に資格取得、社会人になること、生活習慣、服装をきっちりと指導している。
- ・ 保護者を含めた生徒との面談を定期的に行っている。

(2-6) 資格、検定試験の取得奨励

- ・ これらの取得も高等専修学校の特徴で、取得すれば生徒の自己肯定感へと結びつくので重視したい。就職や進学に有利となる資格もあるが、それとは別に生徒自身の学ぶ意欲を掻き立てるという意味で、とても大事である。
- ・ 進学を念頭に置いて、英検、漢検の取得を生徒たちに奨励している。
- ・ 情報処理系、簿記の資格取得に力を入れている。検定合格を一つのきっかけにして、生徒の自信に繋げている。
- ・ 本校の生徒は多くが不登校を経験している。自分に自信を取り戻すため、検定資格の取得を奨励している。
- ・ 簿記、情報系の資格取得を生徒には大いに奨励している。資格を取らないと、進級できないことになっている。意識付けをしっかりとさせて、年度末補習でフォローしている。これにより、生徒と先生の密な繋がり、生徒自身の自己肯定感に繋がっている。

(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰

- ・ 入学金全額と授業料半額免除となる特待生制度（入学時成績優秀、在校中の成績維持が条件）を設けている。難易度の高い資格を取得した生徒や部活動などで活躍したり顕著な功績を残した生徒などを表彰する特別顕彰制度を設けて運用を始めた。

(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援

<追跡調査の必要性>

- ・ 就職、進学後の追跡調査をできるとよいが、なかなか難しい。県も把握できていない。

高等専修学校の立場として、離職率を把握しておくべきと考える。

- ・ ハローワーク、支援センターとの連携はやっている。卒業生離職者の支援がなかなか難しい。卒業してしまうと、連絡が途切れてしまう。気にはなっているが、なかなかアプローチできていない。

(2-9) 不登校、中退防止の対策

- ・ 不登校、中退防止の対策は、地道ではあるがとても大事。
- ・ 中学時代の不登校経験者が高い割合で存在しているので、この点は十分に対応していきたいところである。中退の防止も大事だが、全日制高校と同じく、進路変更（学校を辞める）をする生徒のセーフティーネットとなっているのが、技能連携先の通信制高校や他の通信制高校であり、そちらへ転学を希望する生徒も勤務していた高等専修学校では一定数存在していた。将来的に生徒個々のことを考えれば、通信制高校への転学が好ましい場合もある。
- ・ 約 6 割の生徒が不登校の経験を持って入学してくる。本校の教員は生徒の支援にとっても理解があり、朝から晩まで生徒たちに親身になってつきっきりで指導している。
- ・ 毎年 1～2 名が友達関係などをきっかけにして、辞めてしまうケースが見られる。クラス運営をより一層強化していきたい。
- ・ 本校は、不登校経験者を多く抱え、道半ばで中退する生徒も多く最優先課題である。研修では、どうすれば不登校・中退の生徒を少なくできるか、教職員間で話し合いの場を設けている。
- ・ 不登校であったりグレーゾーンの生徒は、普通の学校生活を送りたいという希望を持って本校を志願している。小学校・中学校で上手くいかず、進学をきっかけに普通の学校生活を取り戻すための役割を本校は担っている

(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保

- ・ 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保は、とても大事。

(2-11) その他

- ・ 多様な個性のある生徒への支援・対策について、やり方を関係者間で共有することも大事。
- ・ 広域通信制高校のサテライト施設（分校、技能教育施設、サポート施設）など、高等専修学校と類似している教育施設が増えている。（広域通信制高校と技能連携を行っている高等専修学校は技能教育施設となるが、高等専修学校でない技能教育施設も多数存在している）それらの教育施設の実態を今後、把握していくことによって、高等専修学校の長所が客観的に明らかになるのではないかと思う。
- ・ 高等専修学校では、卒業生が母校に戻って教員を務めているケースが多い。不登校や

様々な困難を自身が経験しており、生徒指導において強みとなっている。

- ・ 現在不登校の子どもであっても、自分も気付いていない可能性がいっぱいあるかもしれない。私たち大人は、必死になって子どもたちの可能性を探してあげないといけない。それを見つけてあげるのが、私たち教職員の仕事。
- ・ 高校教員免許状、特別支援教諭の免許状の他にも、公認心理士、社会福祉士の国家資格を有する教員が多数いる。教員は採用時には高校教員免許状を取得しているが、在職中に生徒指導で必要に迫られて、自己啓発により様々な資格を取得している。
- ・ 年間 6 回、子どもの心理、親子関係のあり方等をテーマに、保護者のための勉強会を実施している。
- ・ 少子化が叫ばれている中で、不登校生徒の数は 10 年連続増加して 30 万人に迫る勢い（令和 5 年度 299,048 人）であり、高等専修学校の一定の役割、世の中からのニーズはますます高まっている。

<少人数教育のメリット>

- ・ 教育的には究極はマンツーマン指導が理想であるが、現実的ではないので、夏休み・冬休み中に個別の補習でやる気のある生徒のフォローをしている。
- ・ 少人数教育のメリットを活かして、課外授業で個々の生徒たちに合わせた個別の学習内容を提供している。教員は、普通高校と異なり部活の指導等の負担は軽くて済むので、個別の学習指導が可能となっている。

<他校との連携>

- ・ 全国高等専修学校協会に加盟していない高等専修学校もある。例えば、広域通信制高校と同系列の学校法人が経営している高等専修学校は、協会に加盟していないので同じ高等専修学校でありながら交流がない。高等専修学校の認知向上や振興を目指すのであれば、協会に加盟していない高等専修学校とも情報交換を行っていく必要がある。
- ・ 全国の高等専修学校は、全国高等専修学校協会の会員校を中心に横の繋がり・ネットワークが強く、教員間で密に情報共有ができているのが強みである。

4.4.3. 経済的支援

(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実

- ・ 現在、私立高校と同じく扱われているが、学校や学科（美容系・芸能系）によっては専門学校と同額のところもあり、私立高校へ通学するよりも保護者の費用負担がある。学費の負担が大きく、進学をあきらめてしまうことを解消したい。

(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）

- ・ 特待生制度など、法人独自の制度を設けている。

(3-3) 経常費助成制度

<1 条校との格差是正>

- ・ 私立学校間で、高等学校と高等専修学校とで条件が平等であること、124 条校と 1 条校との格差が是正されることがとても重要。
- ・ 経常費の格差が解消しないと、教員不足の状況はなかなか解決できない。経常費格差の解消により、私立高等学校と同様に生徒を安定して集めることができる、教員の安定的な採用、生徒への手厚い指導が可能となる。学校の機材、設備を充実させることができる。生徒の保護者も、子供を通学させることの経済的な心配をしなくて済む。学校が閉校になるリスクも減らせるので、生徒にとってもメリットは大きい。
- ・ 経常費補助には、1 条校と 124 条校で格差があるとともに、都道府県ごとにも格差が存在している。1 条校並みに経常費助成が受けられると、高等専修学校の経営が安定して、教育の質をより高めることができ、良好な生徒募集に結びつくといった好循環につながる。
- ・ 私立高等学校との補助金格差の大きな差が課題。要望書はすでに知事宛に上げており、補助金の増額をお願いを進めている。私立高校と同額になれば、生徒に対してよりよい教育の提供を続けていけるようになる。
- ・ 本校は 15～18 歳の生徒たちに全日制で教育を行っている。法的な条文（1 条校と 124 条校）の違いだけで補助金に差があるのは不公平感がある。
- ・ 他の私立高校、通信制高校並みに経常費を助成してもらえるように働きかける。経常費の格差は、現状では非常に大きい。経常費の格差解消により、教員の手当てを増やすことができる。
- ・ 経常費が増えれば、困難を抱える生徒の家庭の経済的な負担が減り、生徒本人にとって進路の選択肢が広がる。
- ・ 経常費助成制度が充実すれば、教員の手当てに反映させることができる。人材不足の教員採用、人員の増強にも効果が期待できる。学校の設備を充実させるなどにも効果がある。
- ・ 経常費助成のためにも、学校関係者評価委員会を設置して、教育状況、業績、財務状況等を公開している。

(3-4) その他

- ・ 高等専修学校が高等学校と同じく 1 条校（「学校教育法」第一条に規定されている学校）にならなくても、個々の学校の実態や教育内容を踏まえて、ある一定レベルの基準に達していれば、私立高校と同じ助成金額を支給してほしい。そうすることによって、教職員の数も増やすことができ、より手厚い指導が可能となる。
- ・ 個々の学校の状態を見て、生徒の指導などに頑張っている学校、地域の人材育成に貢献

がある学校などにより一層の助成を増やすべきである。

- ・ 県や日本学生支援機構の奨学金制度（貸与）を利用している。

参考文献

- [1] 山田千春、「高等専修学校の研究－地域の教育ニーズに着目して－」、六花出版、2022年、[ISBN 9784866171630](#)
- [2] 山田千春、「後期中等教育における高等専修学校の研究－高校教育に対する「補完」の実態－」、北海道大学、博士（教育学）学位論文、2020年
[https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/82035/1/Chiharu_Yamada_\(2020.11.17\)_-1.pdf](https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/82035/1/Chiharu_Yamada_(2020.11.17)_-1.pdf)
- [3] 山田千春、「高等専修学校の1条校化をめぐる論点－管理職への聞き取り調査を中心に－」、北海道大学大学院教育学研究院紀要、第120号、p.179-198、2014年
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/56432/1/AA12219452_120_179-198.pdf
- [4] 山田千春、「教育の目的による高等専修学校の分類」、教育福祉研究 第19号、p.9-18、2013年
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/54005/1/AN10264662_19_3.pdf
- [5] 山田千春、「専修学校研究の検討」、北海道大学大学院教育学研究院紀要、第118号、p.207-223、2013年 <https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/52901>
- [6] 山田千春、「高等専修学校の役割と課題－検討のための研究ノート－」、教育福祉研究 第18号、p.65-74、2012年
<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/51130/1/Yamada.pdf>
- [7] 伊藤秀樹、「高等専修学校における進路形成と新型コロナウイルス－就職・一般就労希望者への局所的な影響と卒業後のリスク」、東京学芸大学紀要 第74巻、p.14-25、2023年 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1050858751945887232>
- [8] 伊藤秀樹、「高等専修学校における適応と進路－後期中等教育のセーフティネット」、東信堂、2017年、[ISBN 9784798913933](#)
- [9] 伊藤秀樹、「非主流の後期中等教育機関における学校適応・進路形成のメカニズム－高等専修学校の事例研究を軸とした検討－」、東京大学、博士（教育学）学位論文、2015年 <https://irdb.nii.ac.jp/00926/0001754580>
- [10] 伊藤秀樹、「“非主流”の後期中等教育機関を概観する－生徒層・カリキュラム・進路－」、東京大学大学院教育学研究科紀要 第54巻、p.551-563、2015年
<https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/31040>
- [11] 伊藤秀樹、「後期中等教育のセーフティネットにおける不平等－高等専修学校に着目して－」、東京大学大学院教育学研究科紀要 第52巻、p.117-126、2012年
https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/edu_52_08
- [12] 伊藤秀樹、「高等専修学校における密着型教師・生徒関係－生徒の登校継続と社会的自立に向けたストラテジー」、東京大学大学院教育学研究科紀要 第50巻、p.13-21、2011年 https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/edu_50_02
- [13] 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、「高等専修学校のさらなる振興に向けて専修学校振興構想懇談会 高等専修学校検討部会 報告書」、2023年6月
<https://tsk.or.jp/documents/reports.php>
- [14] 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、令和4年度版「専修学校教育白書」、2022年 https://tsk.or.jp/documents/white_paper.php
- [15] 学校法人大岡学園、令和4年度文部科学省委託「専修学校による地域産業中核的人材

養成事業 学びのセーフティネット機能の充実強化（調査研究）」、令和 4 年度「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」報告書

<https://oooka.ac.jp/publics/index/260/>

- [16] 全国高等専修学校協会、令和 3 年度「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」報告書 https://www.zenkokukoutousenshugakkoukyoukai.gr.jp/hokoku_r03.pdf
- [17] 全国高等専修学校協会、全国高等専修学校協会パネルディスカッション「これからの高等専修学校教育のあり方について」、専修教育 2018, No.39
https://www.sgec.or.jp/scz/book/18_senshukyoiku039_05.pdf
- [18] 全国高等専修学校協会 発行の報告書、レポート等
<https://www.zenkokukoutousenshugakkoukyoukai.gr.jp/download.html>
- [19] 文部科学省、「未来をひらく高等専修学校」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm

付録

付録 1 アンケート調査票（中学校教員向け）

【中学校教員向け】

高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度に関するアンケート調査票

Q1. 年代について教えてください。

- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 代以上

Q2. 性別について教えてください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他

Q3. 勤務校の都道府県について教えてください。

- ☐ 北海道、☐ 青森県、☐ 岩手県、☐ 宮城県、☐ 秋田県、☐ 山形県、☐ 福島県、☐ 茨城県、☐ 栃木県、☐ 群馬県、☐ 埼玉県、☐ 千葉県、☐ 東京都、☐ 神奈川県、☐ 新潟県、☐ 富山県、☐ 石川県、☐ 福井県、☐ 山梨県、☐ 長野県、☐ 岐阜県、☐ 静岡県、☐ 愛知県、☐ 三重県、☐ 滋賀県、☐ 京都府、☐ 大阪府、☐ 兵庫県、☐ 奈良県、☐ 和歌山県、☐ 鳥取県、☐ 島根県、☐ 岡山県、☐ 広島県、☐ 山口県、☐ 徳島県、☐ 香川県、☐ 愛媛県、☐ 高知県、☐ 福岡県、☐ 佐賀県、☐ 長崎県、☐ 熊本県、☐ 大分県、☐ 宮崎県、☐ 鹿児島県、☐ 沖縄県

Q4. 進路について検討する際に、どのような方法で情報収集をしていますか。

【複数回答可】

- ☐ 学校のホームページ
- ☐ 学校案内、パンフレット
- ☐ 進学説明会、オープンキャンパス
- ☐ 進学情報サイト
- ☐ 進学情報誌
- ☐ 家族、親族、知人に相談する
- ☐ 同僚の先生に相談する
- ☐ その他【自由記述】（）

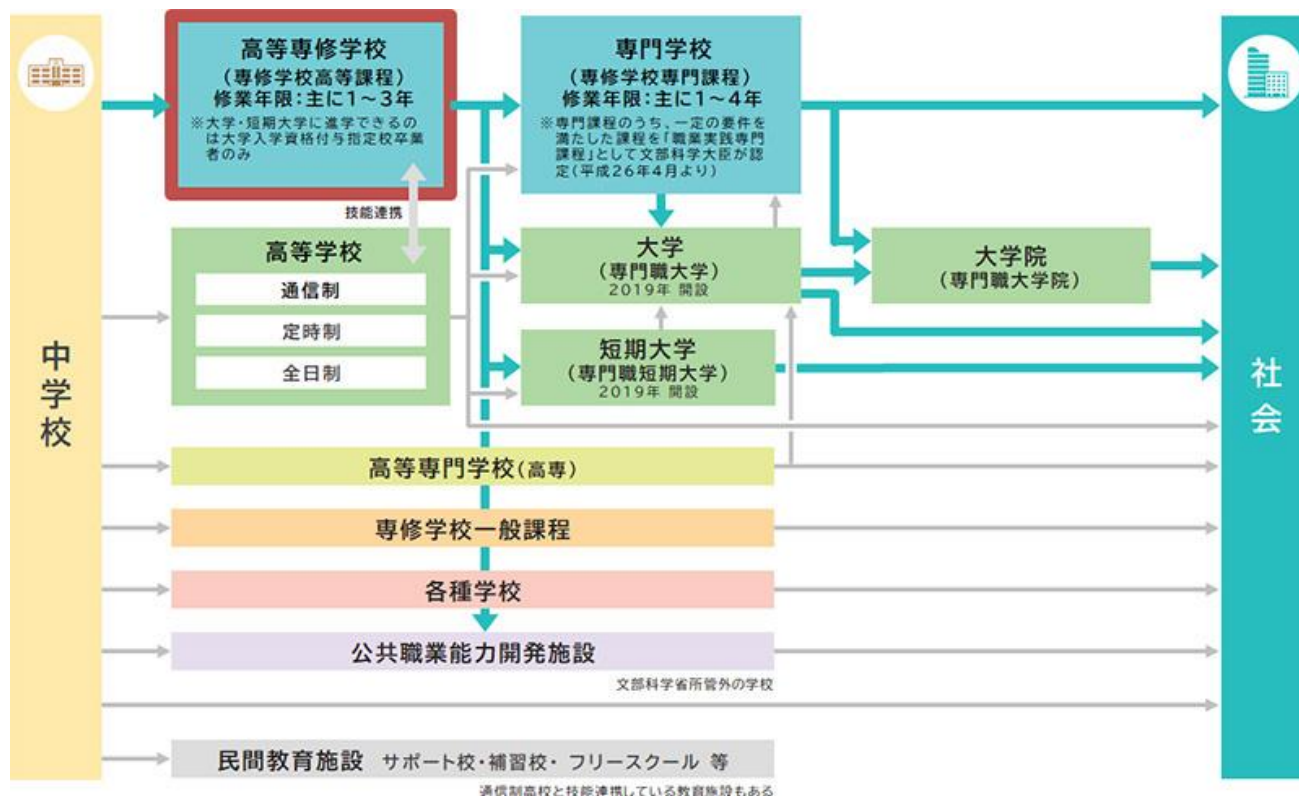
＜高等専修学校とは＞

高等専修学校は、昭和 51 年に新しい学校制度としてつくられた専修学校のうち、中学卒業者を対象とした課程です。社会に出てすぐに役立つ実践的な職業教育(*)を行い、いろいろな分野でスペシャリストを養成しています。

高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として、高等学校の枠に収まらない多様な教育を行っています。

高等専修学校の詳細は「未来をひらく高等専修学校」^[1]（文部科学省）を参照ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm



(*) 高等専修学校で取得できる仕事に活かせる資格一覧

1

取得できる資格一覧

高等専修学校では多様な分野の資格が取得可能です。

どんな仕事したい?	学科例	取得可能な資格例	職場・職種の例
 ものづくりに関わる 仕事したい 工業分野	自動車整備科 電気・電子学科 電気工事士科 情報処理科 土木・建築科 等	自動車整備士3級 危険物取扱者 第二種電気工事士 建築士 CAD利用技術者試験 ウェブデザイン技能検定 基本情報技術者試験 初級システムアドミニストレータ試験 ガス溶接技能者 アーク溶接作業員 等	職種 自動車整備士 電気工事士 エンジニアプログラマー 建築士 等
 人を助ける仕事したい 医療分野 & 教育・社会福祉分野	介護福祉科 准看護科 等	介護福祉士 介護職員初任者研修 准看護師 等	職場 病院、学校、 介護施設 等 職種 保育士 介護福祉士 訪問介護員(ホームヘルパー) 准看護師 医療系技師 等
 食に関わる仕事したい 衛生分野／ 調理・製菓・製パン	調理師科 製菓・製パン学科 等	調理師 製菓衛生師 等	職場 飲食店、病院、学校 等 職種 料理人 給食調理員 パティシエ・パティシエール 等
 「きれいになれる」を 応援したい 衛生分野／ 理容・美容	理容科 美容科 モードビジネス科 等	理容師 美容師 OTSネイル認定 JNECネイリスト技能検定試験 色彩検定 等	職場 理容室、ヘアサロン、 ブライダル企業 等 職種 理容師 美容師 スタイリスト ヘアデザイナー ネイリスト 美容部員(メイク関係) ヘアメイクスタイリスト 等
 ビジネスのプロになりたい 商業実務分野	商業学科 情報科 国際ビジネス科 経理・簿記学科 等	簿記検定 情報処理検定 文書デザイン検定試験 ビジネス能力検定 IT活用能力検定 実用英語技能検定 秘書技能検定 等	職種 経理 販売職 営業職 ホテル等のフロントスタッフ 等
 自分のセンスや 才能を活かしたい 服飾・家政分野	ファッション デザイン科 和洋裁科 等	洋裁技術認定試験 パターンメイキング技術検定 ファッション販売能力検定 ファッションビジネス能力検定 等	職種 ファッションデザイナー テキスタイルデザイナー パタンナー ソーイングスタッフ 販売・接客・管理 和裁士 着付け師 等

※上記はあくまでも一例です。また各資格は、卒業時に取得できるもの、卒業後さらに専門学校等で学ぶことで取得できるもの、卒業後に実務経験等を積むことで取得できるもの(受験資格取得のみ)があります。 ※色文字は、国家資格・検定・試験名です。

Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

- ☐ 知っている
- ☐ 聞いたことがある
- ☐ まったく知らない

Q5 で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方は、Q6 にお進みください。

Q5 で「まったく知らない」と答えた方は、Q10 にお進みください。

<Q5 で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方のみ> (Q6～Q9-2)

Q6. 高等専修学校を知ったきっかけについて教えてください。

【複数回答可】

- ☐ 家族、親族、知人から勧められた／紹介された
- ☐ 同僚の先生から勧められた／紹介された
- ☐ メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った
- ☐ インターネット（学校 HP、SNS、動画、掲示板等）で知った
- ☐ 進学説明会、オープンキャンパス等に参加した
- ☐ 高等専修学校展^[2]、仕事の学び場 Jr^[3]等に参加した
- ☐ その他【自由記述】（)

Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。

【複数回答可】

- ☐ 学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
- ☐ 大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携^[1]）である。
- ☐ 学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
- ☐ 卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
- ☐ 経済的支援制度（高等学校等就学支援金^[4]、高校生等奨学給付金^[5]）を受けることができる。
- ☐ 専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
- ☐ 少人数指導、生活指導が充実している。
- ☐ 仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
- ☐ 不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
- ☐ その他【自由記述】（)

Q8. 高等専修学校のイメージについて教えてください。

- ☐ 【自由記述】（)

Q9-1. 生徒に高等専修学校を進学先として紹介したことがありますか。

- ☐ 紹介したことがある
- ☐ 紹介したことがない

Q9-2. 進学先として「紹介したことがある／紹介したことがない」理由について教えてください。

- ☐ 【自由記述】 ()

Q10. 高等専修学校では、自分の興味のある専門分野を学ぶことができるとともに、
仕事に活かすことができるさまざまな資格を取得することができます。
以下の中で、関心がある分野があれば教えてください。（ ）内は、主な職種の例を示します。

【複数回答可】

- ☐ 工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）
- ☐ 農業（農業）
- ☐ 医療（准看護師、医療系技師 等）
- ☐ 衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）
- ☐ 教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）
- ☐ 商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）
- ☐ 服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）
- ☐ 文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）
- ☐ 特になし

Q11. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等に参加したことがありますか。

- ☐ 参加したことがある
- ☐ 参加したことがない

Q12. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等の機会があれば参加したいですか。

- ☐ 参加したい
- ☐ 参加したくない
- ☐ どちらともいえない

Q13. 高等専修学校に今後期待する取り組みがあれば教えてください。

【複数回答可】

①認知度の向上

- ☐ 広報活動（ウェブサイト、SNS、メルマガ、報道機関、進学説明会、オープンキャンパス、高等専修学校展^[2]、仕事の学び場 Jr^[3]、母校訪問等）
- ☐ 情報交換会（主に中学校関係者）
- ☐ 教育連携の推進（中学校、企業、大学・専門学校等、地域、その他）

②教育の質向上

- ☐ 教職員対象の研修
- ☐ メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減
- ☐ 特色ある授業の好事例の収集、普及
- ☐ 文部科学省モデル事業^[6]への積極的な参加
- ☐ 進学、就職等の進路指導の充実
- ☐ 資格、検定試験の取得奨励
- ☐ 成績優秀者、部活動等の表彰
- ☐ ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援
- ☐ 不登校、中退防止の対策
- ☐ 災害共済給付^[7]の加入促進による安全安心な学習環境の確保
- ☐ 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」^[8]に沿った情報公開

③経済的支援

- ☐ 高等学校等就学支援金^[4]、高校生等奨学給付金^[5]制度の充実
- ☐ 授業料減免措置^[9]の充実
- ☐ 経常費助成制度^[10]の充実

④その他

- ☐ 【自由記述】（）

Q14. 弊社担当者から、アンケート回答内容について照会させていただく場合があります。

ご協力いただける方は、貴校名、お名前、電話番号、メールアドレスを教えてください。

- ☐ 貴校名：
- ☐ お名前：
- ☐ 電話番号：
- ☐ メールアドレス：

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

参考資料

- [1] 「未来をひらく高等専修学校」(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm
- [2] 高等専修学校展 (例えば、一般社団法人 愛知県専修学校各種学校連合会)
<https://www.askr.or.jp/news/koutousenten/>
- [3] 仕事の学び場 Jr (例えば、藤沢市教育委員会)
<https://www1.fujisawa-kng.ed.jp/jchog/index.cfm/1,2885,11,398,html>
- [4] 高等学校等就学支援金 (文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1342674.htm
- [5] 高校生等奨学給付金 (文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1344089.htm
- [6] 文部科学省モデル事業
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1280784.htm
- [7] 災害共済給付 (独立行政法人日本スポーツ振興センター)
<https://www.jpnsport.go.jp/anzen/saigai/tabid/56/default.aspx>
- [8] 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/20220613-mxt_ope01-1.pdf
- [9] 授業料減免措置 (文部科学省)
<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>
- [10] 経常費助成制度 (文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/002/002/012_00001.htm

以上

付録2 アンケート調査票（中学生向け）

【中学生向け】

高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度に関するアンケート調査票

Q1. 学年について教えてください。

- ☐ 中学1年生
- ☐ 中学2年生
- ☐ 中学3年生

Q2. 性別について教えてください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他

Q3. お住まいの都道府県について教えてください。

- ☐ 北海道、☐ 青森県、☐ 岩手県、☐ 宮城県、☐ 秋田県、☐ 山形県、☐ 福島県、☐ 茨城県、☐ 栃木県、
☐ 群馬県、☐ 埼玉県、☐ 千葉県、☐ 東京都、☐ 神奈川県、☐ 新潟県、☐ 富山県、☐ 石川県、☐ 福井県、
☐ 山梨県、☐ 長野県、☐ 岐阜県、☐ 静岡県、☐ 愛知県、☐ 三重県、☐ 滋賀県、☐ 京都府、☐ 大阪府、
☐ 兵庫県、☐ 奈良県、☐ 和歌山県、☐ 鳥取県、☐ 島根県、☐ 岡山県、☐ 広島県、☐ 山口県、☐ 徳島県、
☐ 香川県、☐ 愛媛県、☐ 高知県、☐ 福岡県、☐ 佐賀県、☐ 長崎県、☐ 熊本県、☐ 大分県、☐ 宮崎県、
☐ 鹿児島県、☐ 沖縄県

Q4. 進路について検討する際に、どのような方法で情報収集をしていますか。

【複数回答可】

- ☐ 学校のホームページ
- ☐ 学校案内、パンフレット
- ☐ 進学説明会、オープンキャンパス
- ☐ 進学情報サイト
- ☐ 進学情報誌
- ☐ 家族、親族、知人に相談する
- ☐ 学校の先生に相談する
- ☐ その他【自由記述】（）

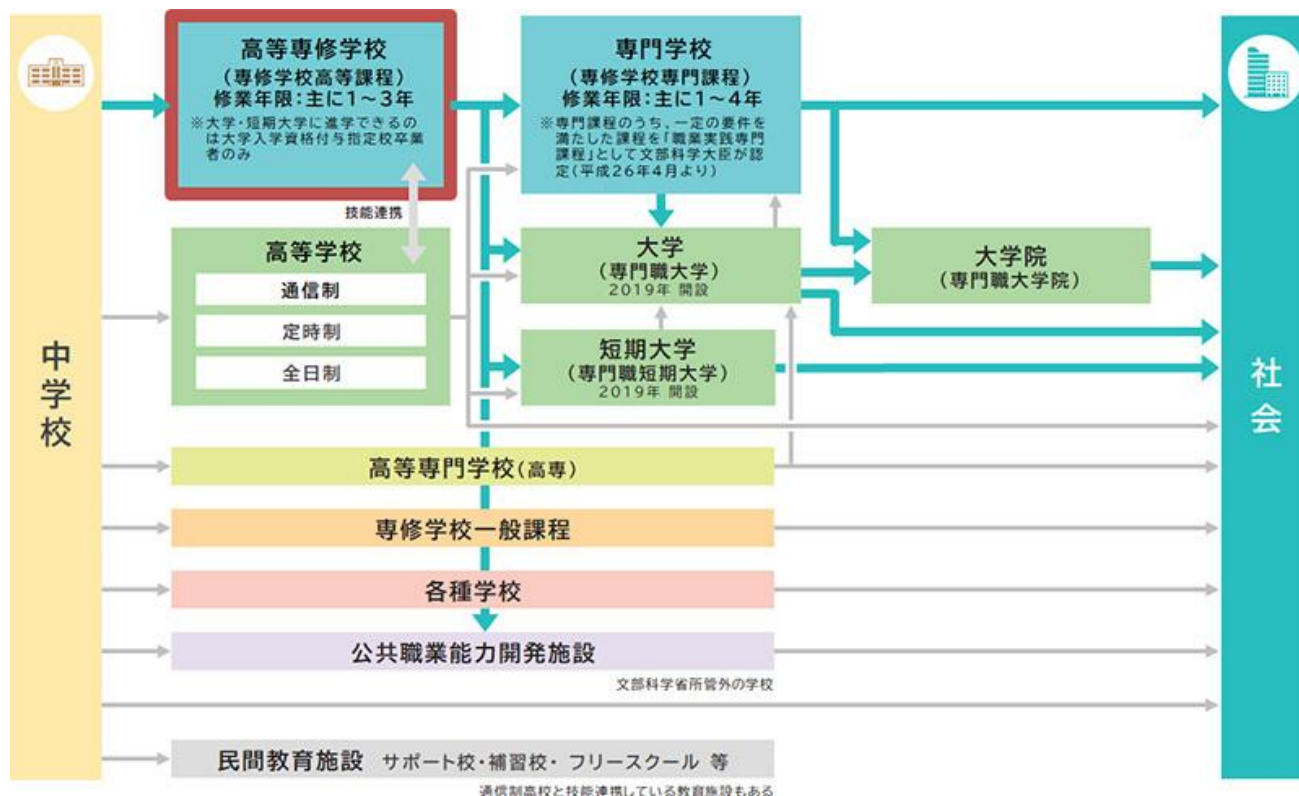
＜高等専修学校とは＞

高等専修学校は、昭和 51 年に新しい学校制度としてつくられた専修学校のうち、中学卒業者を対象とした課程です。社会に出てすぐに役立つ実践的な職業教育(*)を行い、いろいろな分野でスペシャリストを養成しています。

高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として、高等学校の枠に収まらない多様な教育を行っています。

高等専修学校の詳細は「未来をひらく高等専修学校」^[1]（文部科学省）を参照ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm



(*) 高等専修学校で取得できる仕事に活かせる資格一覧

1

取得できる資格一覧

高等専修学校では多様な分野の資格が取得可能です。

どんな仕事したい?	学科例	取得可能な資格例	職場・職種の例
 ものづくりに関わる 仕事したい 工業分野	自動車整備科 電気・電子学科 電気工事士科 情報処理科 土木・建築科 等	自動車整備士3級 危険物取扱者 第二種電気工事士 建築士 CAD利用技術者試験 ウェブデザイン技能検定 基本情報技術者試験 初級システムアドミニストレータ試験 ガス溶接技能者 アーク溶接作業員 等	職種 自動車整備士 電気工事士 エンジニアプログラマー 建築士 等
 人を助ける仕事したい 医療分野 & 教育・社会福祉分野	介護福祉科 准看護科 等	介護福祉士 介護職員初任者研修 准看護師 等	職場 病院、学校、 介護施設 等 職種 保育士 介護福祉士 訪問介護員(ホームヘルパー) 准看護師 医療系技師 等
 食に関わる仕事したい 衛生分野／ 調理・製菓・製パン	調理師科 製菓・製パン学科 等	調理師 製菓衛生師 等	職場 飲食店、病院、学校 等 職種 料理人 給食調理員 パティシエ・パティシエール 等
 「きれいになれる」を 応援したい 衛生分野／ 理容・美容	理容科 美容科 モードビジネス科 等	理容師 美容師 OTSネイル認定 JNECネイリスト技能検定試験 色彩検定 等	職場 理容室、ヘアサロン、 ブライダル企業 等 職種 理容師 美容師 スタイリスト ヘアデザイナー ネイリスト 美容部員(メイク関係) ヘアメイクスタイリスト 等
 ビジネスのプロになりたい 商業実務分野	商業学科 情報科 国際ビジネス科 経理・簿記学科 等	簿記検定 情報処理検定 文書デザイン検定試験 ビジネス能力検定 IT活用能力検定 実用英語技能検定 秘書技能検定 等	職種 経理 販売職 営業職 ホテル等のフロントスタッフ 等
 自分のセンスや 才能を活かしたい 服飾・家政分野	ファッション デザイン科 和洋裁科 等	洋裁技術認定試験 パターンメイキング技術検定 ファッション販売能力検定 ファッションビジネス能力検定 等	職種 ファッションデザイナー テキスタイルデザイナー パタンナー ソーイングスタッフ 販売・接客・管理 和裁士 着付け師 等

※上記はあくまでも一例です。また各資格は、卒業時に取得できるもの、卒業後さらに専門学校等で学ぶことで取得できるもの、卒業後に実務経験等を積むことで取得できるもの(受験資格取得のみ)があります。 ※色文字は、国家資格・検定・試験名です。

Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

- ☐ 知っている
- ☐ 聞いたことがある
- ☐ まったく知らない

Q5 で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方は、Q6 にお進みください。

Q5 で「まったく知らない」と答えた方は、Q10 にお進みください。

<Q5 で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方のみ> (Q6～Q9-2)

Q6. 高等専修学校を知ったきっかけについて教えてください。

【複数回答可】

- ☐ 家族、親族、知人から勧められた／紹介された
- ☐ 学校の先生から勧められた／紹介された
- ☐ メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った
- ☐ インターネット（学校 HP、SNS、動画、掲示板等）で知った
- ☐ 進学説明会、オープンキャンパス等に参加した
- ☐ 高等専修学校展^[2]、仕事の学び場 Jr^[3]等に参加した
- ☐ その他【自由記述】（)

Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。

【複数回答可】

- ☐ 学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
- ☐ 大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携^[1]）である。
- ☐ 学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
- ☐ 卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
- ☐ 経済的支援制度（高等学校等就学支援金^[4]、高校生等奨学給付金^[5]）を受けることができる。
- ☐ 専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
- ☐ 少人数指導、生活指導が充実している。
- ☐ 仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
- ☐ 不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
- ☐ その他【自由記述】（)

Q8. 高等専修学校のイメージについて教えてください。

- ☐ 【自由記述】（)

Q9-1. 高等専修学校に進学したいですか。

- ☐ 進学したい
- ☐ 進学したくない
- ☐ どちらともいえない

Q9-2. 高等専修学校に「進学したい／進学したくない／どちらともいえない」理由について教えてください。

☐ 【自由記述】 ()

Q10. 高等専修学校では、自分の興味のある専門分野を学ぶことができるとともに、仕事に活かすことができるさまざまな資格を取得することができます。
以下の中で、関心がある分野があれば教えてください。（ ）内は、主な職種の例を示します。

【複数回答可】

- ☐ 工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）
- ☐ 農業（農業）
- ☐ 医療（准看護師、医療系技師 等）
- ☐ 衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）
- ☐ 教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）
- ☐ 商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）
- ☐ 服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）
- ☐ 文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）
- ☐ 特になし

Q11. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等に参加したことがありますか。

- ☐ 参加したことがある
- ☐ 参加したことがない

Q12. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等の機会があれば参加したいですか。

- ☐ 参加したい
- ☐ 参加したくない
- ☐ どちらともいえない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

参考資料

- [11]「未来をひらく高等専修学校」（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm
- [12]高等専修学校展（例えば、一般社団法人 愛知県専修学校各種学校連合会）
<https://www.askr.or.jp/news/koutousenten/>
- [13]仕事の学び場 Jr（例えば、藤沢市教育委員会）
<https://www1.fujisawa-kng.ed.jp/jchog/index.cfm/1,2885,11,398,html>
- [14]高等学校等就学支援金（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1342674.htm
- [15]高校生等奨学給付金（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1344089.htm

以上

【中学生保護者向け】

Q1. 年代について教えてください。

- Q2. 性別について教えてください。

- Q3. お住まいの都道府県について教えてください。

- Q4. 進路について検討する際に、どのような方法で情報収集をしていますか。

☐学校のホームページ
☐学校案内、パンフレット
☐進学説明会、オープンキャンパス
☐進学情報サイト
☐進学情報誌
☐家族、親族、知人に相談する
☐学校の先生に相談する
☐その他【自由記述】（

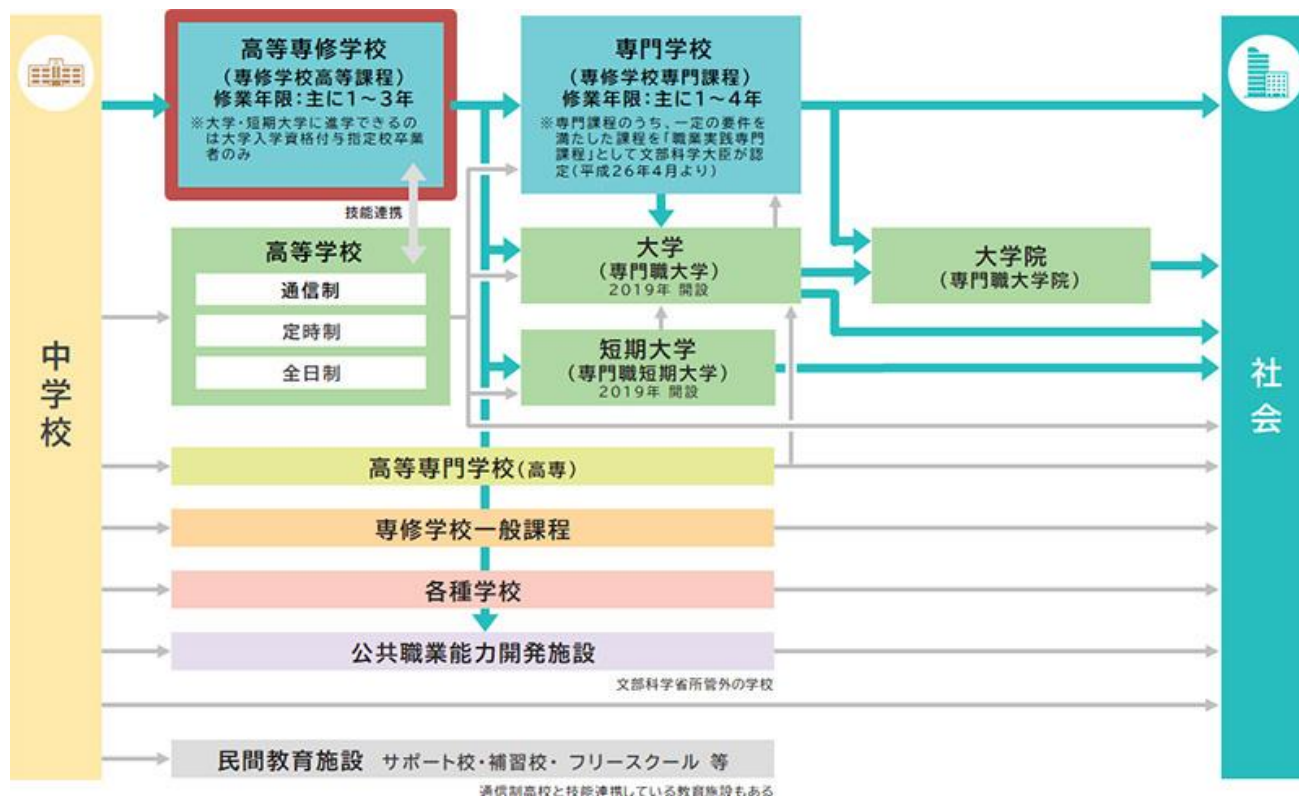
＜高等専修学校とは＞

高等専修学校は、昭和 51 年に新しい学校制度としてつくられた専修学校のうち、中学卒業者を対象とした課程です。社会に出てすぐに役立つ実践的な職業教育(*)を行い、いろいろな分野でスペシャリストを養成しています。

高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として、高等学校の枠に収まらない多様な教育を行っています。

高等専修学校の詳細は「未来をひらく高等専修学校」^[1]（文部科学省）を参照ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm



(*) 高等専修学校で取得できる仕事に活かせる資格一覧

1

取得できる資格一覧

高等専修学校では多様な分野の資格が取得可能です。

どんな仕事したい?	学科例	取得可能な資格例	職場・職種の例
 ものづくりに関わる 仕事したい 工業分野	自動車整備科 電気・電子学科 電気工事士科 情報処理科 土木・建築科 等	自動車整備士3級 危険物取扱者 第二種電気工事士 建築士 CAD利用技術者試験 ウェブデザイン技能検定 基本情報技術者試験 初級システムアドミニストレータ試験 ガス溶接技能者 アーク溶接作業員 等	職種 自動車整備士 電気工事士 エンジニアプログラマー 建築士 等
 人を助ける仕事したい 医療分野 & 教育・社会福祉分野	介護福祉科 准看護科 等	介護福祉士 介護職員初任者研修 准看護師 等	職場 病院、学校、 介護施設 等 職種 保育士 介護福祉士 訪問介護員(ホームヘルパー) 准看護師 医療系技師 等
 食に関わる仕事したい 衛生分野 調理・製菓・製パン	調理師科 製菓・製パン学科 等	調理師 製菓衛生師 等	職場 飲食店、病院、学校 等 職種 料理人 給食調理員 パティシエ・パティシエール 等
 「きれいになれる」を 応援したい 衛生分野 理容・美容	理容科 美容科 モードビジネス科 等	理容師 美容師 OTSネイル認定 JNECネイリスト技能検定試験 色彩検定 等	職場 理容室、ヘアサロン、 ブライダル企業 等 職種 理容師 美容師 スタイリスト ヘアデザイナー ネイリスト 美容部員(メイク関係) ヘアメイクスタイリスト 等
 ビジネスのプロになりたい 商業実務分野	商業学科 情報科 国際ビジネス科 経理・簿記学科 等	簿記検定 情報処理検定 文書デザイン検定試験 ビジネス能力検定 IT活用能力検定 実用英語技能検定 秘書技能検定 等	職種 経理 販売職 営業職 ホテル等のフロントスタッフ 等
 自分のセンスや 才能を活かしたい 服飾・家政分野	ファッション デザイン科 和洋裁科 等	洋裁技術認定試験 パターンメイキング技術検定 ファッション販売能力検定 ファッションビジネス能力検定 等	職種 ファッションデザイナー テキスタイルデザイナー パタンナー ソーイングスタッフ 販売・接客・管理 和裁士 着付け師 等

※上記はあくまでも一例です。また各資格は、卒業時に取得できるもの、卒業後さらに専門学校等で学ぶことで取得できるもの、卒業後に実務経験等を積むことで取得できるもの(受験資格取得のみ)があります。 ※色文字は、国家資格・検定・試験名です。

Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

- ☐ 知っている
- ☐ 聞いたことがある
- ☐ まったく知らない

Q5 で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方は、Q6 にお進みください。

Q5 で「まったく知らない」と答えた方は、Q10 にお進みください。

<Q5 で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方のみ> (Q6～Q9-2)

Q6. 高等専修学校を知ったきっかけについて教えてください。

【複数回答可】

- ☐ 家族、親族、知人から勧められた／紹介された
- ☐ 学校の先生から勧められた／紹介された
- ☐ メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った
- ☐ インターネット（学校 HP、SNS、動画、掲示板等）で知った
- ☐ 進学説明会、オープンキャンパス等に参加した
- ☐ 高等専修学校展^[2]、仕事の学び場 Jr^[3]等に参加した
- ☐ その他【自由記述】（)

Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。

【複数回答可】

- ☐ 学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
- ☐ 大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携^[1]）である。
- ☐ 学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
- ☐ 卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
- ☐ 経済的支援制度（高等学校等就学支援金^[4]、高校生等奨学給付金^[5]）を受けることができる。
- ☐ 専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
- ☐ 少人数指導、生活指導が充実している。
- ☐ 仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
- ☐ 不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
- ☐ その他【自由記述】（)

Q8. 高等専修学校のイメージについて教えてください。

- ☐ 【自由記述】（)

Q9-1. 高等専修学校をお子さんの進学先として検討したことがありますか。

- ☐ 検討したことがある
- ☐ 検討したことがない

Q9-2. 進学先として「検討したことがある／検討したことがない」理由について教えてください。

- ☐ 【自由記述】 ()

Q10. 高等専修学校では、自分の興味のある専門分野を学ぶことができるとともに、
仕事に活かすことができるさまざまな資格を取得することができます。
以下の中で、関心がある分野があれば教えてください。（ ）内は、主な職種の例を示します。

【複数回答可】

- ☐ 工業（自動車整備士、電気工事士、エンジニアプログラマー、建築士 等）
- ☐ 農業（農業）
- ☐ 医療（准看護師、医療系技師 等）
- ☐ 衛生（料理人、給食調理員、パティシエ、理容師、美容師、スタイリスト、ネイリスト 等）
- ☐ 教育・社会福祉（保育士、介護福祉士、訪問看護師 等）
- ☐ 商業実務（経理、販売職、営業職、ホテル等のフロントスタッフ 等）
- ☐ 服飾・家政（ファッションデザイナー、販売・接客・管理、和裁士、着付け師 等）
- ☐ 文化・教養（俳優、声優、音楽家、アニメーター、モデル、通訳、翻訳家 等）
- ☐ 特になし

Q11. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等に参加したことがありますか。

- ☐ 参加したことがある
- ☐ 参加したことがない

Q12. 高等専修学校が実施する進学説明会、オープンキャンパス、出前授業等の機会があれば参加したいですか。

- ☐ 参加したい
- ☐ 参加したくない
- ☐ どちらともいえない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

参考資料

- [16]「未来をひらく高等専修学校」（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm
- [17]高等専修学校展（例えば、一般社団法人 愛知県専修学校各種学校連合会）
<https://www.askr.or.jp/news/koutousenten/>
- [18]仕事の学び場 Jr（例えば、藤沢市教育委員会）
<https://www1.fujisawa-kng.ed.jp/jchog/index.cfm/1,2885,11,398,html>
- [19]高等学校等就学支援金（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1342674.htm
- [20]高校生等奨学給付金（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1344089.htm

以上

付録4 アンケート調査票（一般向け）

【一般向け】

高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度に関するアンケート調査票

Q1. 年代について教えてください。

- ☐10代
- ☐20代
- ☐30代
- ☐40代
- ☐50代
- ☐60代
- ☐70代以上

Q2. 性別について教えてください。

- ☐男性
- ☐女性
- ☐その他

Q3. お住まいの都道府県について教えてください。

- ☐北海道、☐青森県、☐岩手県、☐宮城県、☐秋田県、☐山形県、☐福島県、☐茨城県、☐栃木県、☐群馬県、☐埼玉県、☐千葉県、☐東京都、☐神奈川県、☐新潟県、☐富山県、☐石川県、☐福井県、☐山梨県、☐長野県、☐岐阜県、☐静岡県、☐愛知県、☐三重県、☐滋賀県、☐京都府、☐大阪府、☐兵庫県、☐奈良県、☐和歌山県、☐鳥取県、☐島根県、☐岡山県、☐広島県、☐山口県、☐徳島県、☐香川県、☐愛媛県、☐高知県、☐福岡県、☐佐賀県、☐長崎県、☐熊本県、☐大分県、☐宮崎県、☐鹿児島県、☐沖縄県

Q4. 進路について検討する際に、どのような方法で情報収集をしていましたか。

【複数回答可】

- ☐学校のホームページ
- ☐学校案内、パンフレット
- ☐進学説明会、オープンキャンパス
- ☐進学情報サイト
- ☐進学情報誌
- ☐家族、親族、知人に相談する
- ☐学校の先生に相談する
- ☐その他【自由記述】（ ）

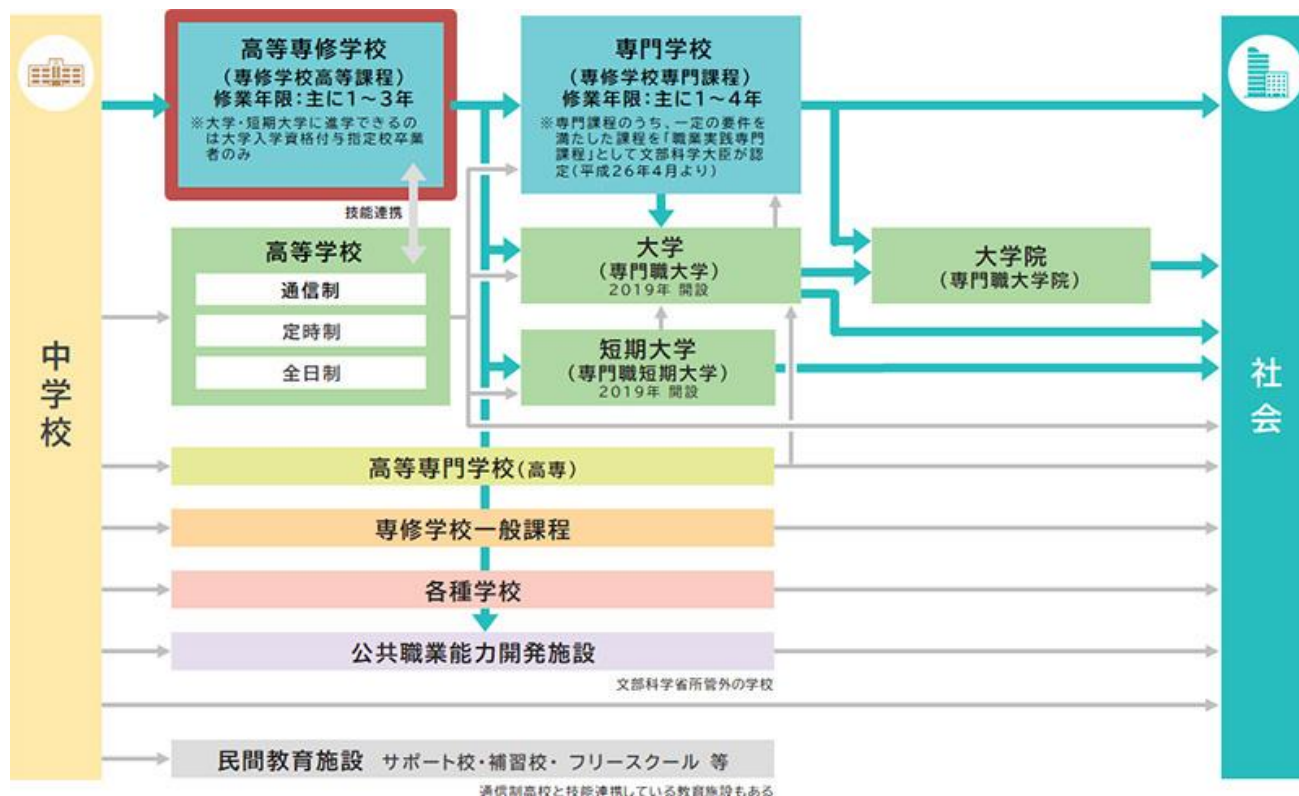
＜高等専修学校とは＞

高等専修学校は、昭和 51 年に新しい学校制度としてつくられた専修学校のうち、中学卒業者を対象とした課程です。社会に出てすぐに役立つ実践的な職業教育(*)を行い、いろいろな分野でスペシャリストを養成しています。

高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として、高等学校の枠に収まらない多様な教育を行っています。

高等専修学校の詳細は「未来をひらく高等専修学校」^[1]（文部科学省）を参照ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm



(*) 高等専修学校で取得できる仕事に活かせる資格一覧

1

取得できる資格一覧

高等専修学校では多様な分野の資格が取得可能です。

どんな仕事したい?	学科例	取得可能な資格例	職場・職種の例
 ものづくりに関わる 仕事したい 工業分野	自動車整備科 電気・電子学科 電気工事士科 情報処理科 土木・建築科 等	自動車整備士3級 危険物取扱者 第二種電気工事士 建築士 CAD利用技術者試験 ウェブデザイン技能検定 基本情報技術者試験 初級システムアドミニストレータ試験 ガス溶接技能者 アーク溶接作業者 等	職種 自動車整備士 電気工事士 エンジニアプログラマー 建築士 等
 人を助ける仕事したい 医療分野 & 教育・社会福祉分野	介護福祉科 准看護科 等	介護福祉士 介護職員初任者研修 准看護師 等	職場 病院、学校、 介護施設 等 職種 保育士 介護福祉士 訪問介護員(ホームヘルパー) 准看護師 医療系技師 等
 食に関わる仕事したい 衛生分野／ 調理・製菓・製パン	調理師科 製菓・製パン学科 等	調理師 製菓衛生師 等	職場 飲食店、病院、学校 等 職種 料理人 給食調理員 パティシエ・パティシエール 等
 「きれいになれる」を 応援したい 衛生分野／ 理容・美容	理容科 美容科 モードビジネス科 等	理容師 美容師 OTSネイル認定 JNECネイリスト技能検定試験 色彩検定 等	職場 理容室、ヘアサロン、 ブライダル企業 等 職種 理容師 美容師 スタイリスト ヘアデザイナー ネイリスト 美容部員(メイク関係) ヘアメイクスタイリスト 等
 ビジネスのプロになりたい 商業実務分野	商業学科 情報科 国際ビジネス科 経理・簿記学科 等	簿記検定 情報処理検定 文書デザイン検定試験 ビジネス能力検定 IT活用能力検定 実用英語技能検定 秘書技能検定 等	職種 経理 販売職 営業職 ホテル等のフロントスタッフ 等
 自分のセンスや 才能を活かしたい 服飾・家政分野	ファッション デザイン科 和洋裁科 等	洋裁技術認定試験 パターンメイキング技術検定 ファッション販売能力検定 ファッションビジネス能力検定 等	職種 ファッションデザイナー テキスタイルデザイナー パタンナー ソーイングスタッフ 販売・接客・管理 和裁士 着付け師 等

※上記はあくまでも一例です。また各資格は、卒業時に取得できるもの、卒業後さらに専門学校等で学ぶことで取得できるもの、卒業後に実務経験等を積むことで取得できるもの(受験資格取得のみ)があります。 ※色文字は、国家資格・検定・試験名です。

Q5. 高等専修学校についてどれくらい知っていますか。

- ☐ 知っている
- ☐ 聞いたことがある
- ☐ まったく知らない

Q5 で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方は、Q6 にお進みください。

Q5 で「まったく知らない」と答えた方は、アンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

<Q5 で「知っている」「聞いたことがある」と答えた方のみ> (Q6～Q8)

Q6. 高等専修学校を知ったきっかけについて教えてください。

【複数回答可】

- ☐ 家族、親族、知人から勧められた／紹介された
- ☐ 学校の先生から勧められた／紹介された
- ☐ メディア（テレビ、雑誌、新聞等）で知った
- ☐ インターネット（学校 HP、SNS、動画、掲示板等）で知った
- ☐ 進学説明会、オープンキャンパス等に参加した
- ☐ 高等専修学校展^[2]、仕事の学び場 Jr^[3]等に参加した
- ☐ その他【自由記述】（)

Q7. 高等専修学校について知っている具体的内容について教えてください。

【複数回答可】

- ☐ 学校教育法上、高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として認められている。
- ☐ 大学等の高等教育機関に進学することが可能（大学入学資格付与、技能連携^[1]）である。
- ☐ 学習指導要領に縛られない柔軟なカリキュラムが組まれている。
- ☐ 卒業後の進路は、就職と進学がそれぞれ約半数である。
- ☐ 経済的支援制度（高等学校等就学支援金^[4]、高校生等奨学給付金^[5]）を受けることができる。
- ☐ 専門分野（工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養）が学べる。
- ☐ 少人数指導、生活指導が充実している。
- ☐ 仕事に活かせる資格の取得に向けた教育および様々な支援が受けられる。
- ☐ 不登校経験者、多様な個性（発達障がい、身体障がい等）のある生徒の自立支援を行っている。
- ☐ その他【自由記述】（)

Q8. 高等専修学校のイメージについて教えてください。

- ☐ 【自由記述】（)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

参考資料

- [21] 「未来をひらく高等専修学校」(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1413725.htm
- [22] 高等専修学校展 (例えば、一般社団法人 愛知県専修学校各種学校連合会)
<https://www.askr.or.jp/news/koutousenten/>
- [23] 仕事の学び場 Jr (例えば、藤沢市教育委員会)
<https://www1.fujisawa-kng.ed.jp/jchog/index.cfm/1,2885,11,398,html>
- [24] 高等学校等就学支援金 (文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1342674.htm
- [25] 高校生等奨学給付金 (文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1344089.htm

以上

付録5 インタビュー調査票（高等専修学校の関係者向け）

2024 年 1 月
みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

高等専修学校の認知度向上策、振興に関する施策に係るインタビュー調査のご協力をお願い

弊社では、文部科学省より「令和5年度 専修学校による地域産業中核的人材養成事業 学びのセーフティネット機能の充実強化（高等専修学校の機能高度化に関する調査研究）」の委託を受けて、高等専修学校の認知度向上策、振興に関する施策の検討を行っております。

つきましては、高等専修学校の関係の皆さま方に是非ご意見を賜りたく、本調査の趣旨をご理解いただき、インタビュー調査にご協力頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

インタビューでお伺いしたい内容

- (1) ①認知度向上、②教育の質向上、③経済的支援の3つの観点から、下表の「既に取り組んでいる内容」「これから取り組むべき内容」につきまして、貴校に該当する項目に○をつけてください。
「その他」に取り組んでいる内容がありましたら、ご記入ください。
- (2) 各項目につきまして、コメント等ございましたらお聞かせください。

【①認知度向上】

	項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
広報活動	(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A 集の制作			
	(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信			
	(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信			
	(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施			
	(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加			
	(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問			
	(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」(*) に沿った情報公開			
情報交換会	(1-8) 中高連絡会（中学校長会）			
	(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者			
教育連携の推進	(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施			
	(1-11) 企業：インターンの依頼			
	(1-12) 大学、専門学校等：AO 入試、推薦入試の働きかけ			
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加			
	(1-14) 教育委員会、行政との連携			
その他	(1-15) その他			

【②教育の質向上】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(2-1) 教職員対象の研修			
(2-2) メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減			
(2-3) 特色ある授業の好事例の収集、普及			
(2-4) 文部科学省モデル事業への積極的な参加			
(2-5) 進学、就職等の進路指導の充実			
(2-6) 資格、検定試験の取得奨励			
(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰			
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援			
(2-9) 不登校、中退防止の対策			
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保			
(2-11) その他			

【③経済的支援】

項目	既に取り組んでいる内容	これから取り組むべき内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実			
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）			
(3-3) 経常費助成制度			
(3-4) その他			

お伺いしたい内容は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

以上

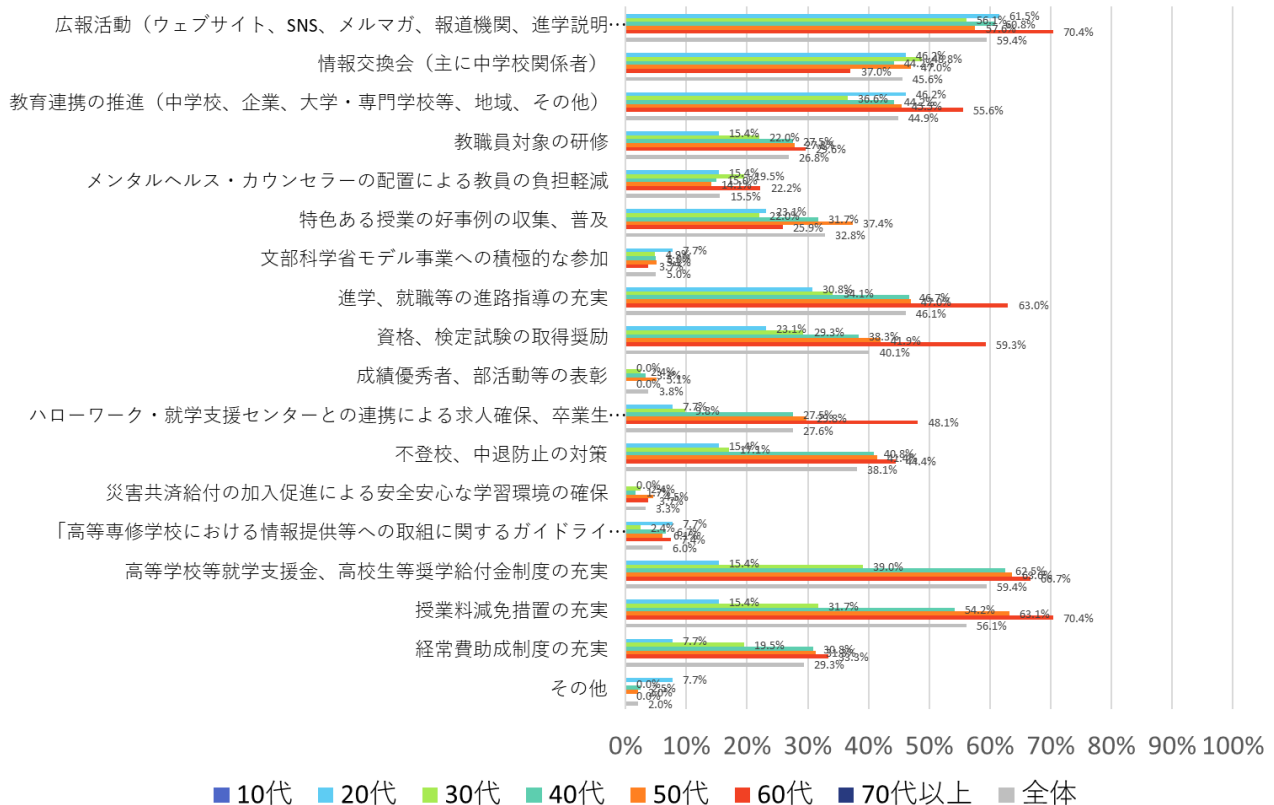
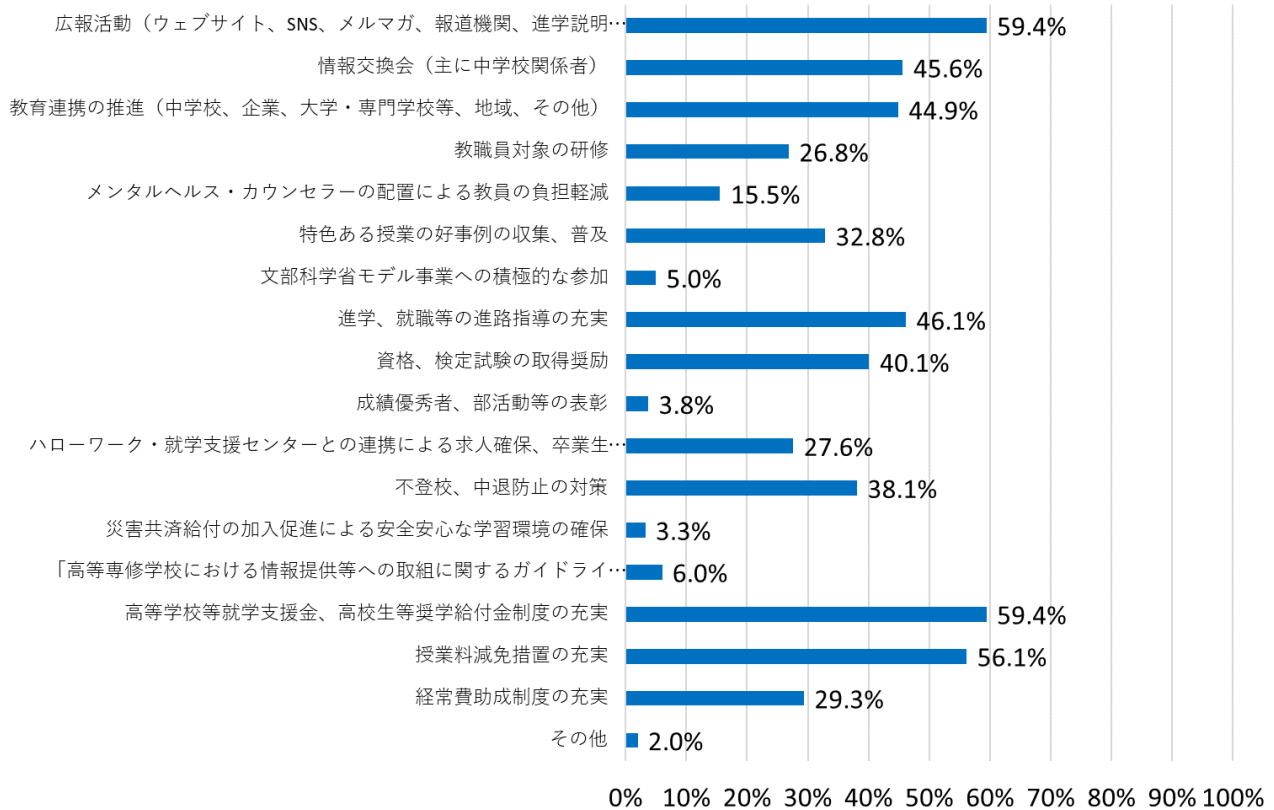
(*)「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」

＜学校の概要、目標及び計画、各学科等の教育、生徒指導・生活指導、キャリア教育等、様々な教育活動、教職員、入学者選抜、生徒納付金・就学支援、学校の財務、学校評価、その他＞

出典：文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/20220613-mxt_ope01-1.pdf

【参考】高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度に関するアンケート調査
(2023年12月～2024年1月実施)

※高等専修学校に今後期待する取り組み（中学校教員向け）の調査結果の一部抜粋になります。
詳細は別資料をご参考ください。



高等専修学校の認知度向上策、振興に関する施策に係るインタビュー調査のご協力のお願い

弊社では、文部科学省より「令和5年度 専修学校による地域産業中核的人材養成事業 学びのセーフティネット機能の充実強化（高等専修学校の機能高度化に関する調査研究）」の委託を受けて、高等専修学校の認知度向上策、振興に関する施策の検討を行っております。

つきましては、高等専修学校の関係の皆さま方に是非ご意見を賜りたく、本調査の趣旨をご理解いただき、インタビュー調査にご協力頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

■インタビューでお伺いしたい内容

- (1) ①認知度向上、②教育の質向上、③経済的支援の3つの観点から、下表の「特に重要と考えられる内容」の欄の該当する項目に○をつけてください。
- (2) ①～③「その他」に重要と考えられる内容がありましたら、ご記入ください。
- (3) 各項目につきまして、コメント等ございましたらお聞かせください。
- (4) 別紙のアンケート結果につきまして、コメント等ございましたらお聞かせください。

【①認知度向上】

項目		特に重要と 考えられる 内容	コメント等
広報活動	(1-1) ウェブサイト、動画、リーフレット、Q&A集の制作		
	(1-2) SNS、メルマガ等による学校の魅力発信		
	(1-3) 報道機関（テレビ、新聞、ラジオ）への積極的な情報発信		
	(1-4) 進学説明会、オープンキャンパス、出前授業の実施		
	(1-5) 高等専修学校展、仕事の学び場 Jr への参加		
	(1-6) 卒業生の母校（中学校）訪問		
	(1-7) 「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」(*) に沿った情報公開		
情報交換会	(1-8) 中高連絡会（中学校長会）		
	(1-9) 大学、専門学校等（進学）および企業（就職）の関係者		
教育連携の推進	(1-10) 中学校：出前授業、職業体験学習の実施		
	(1-11) 企業：インターンの依頼		
	(1-12) 大学、専門学校等：AO入試、推薦入試の働きかけ		
	(1-13) 地域：地域活性イベント、ボランティア活動への参加		
	(1-14) 教育委員会、行政との連携		
その他	(1-15) その他		

【②教育の質向上】

項目	特に重要と 考えられる 内容	コメント等
(2-1) 教職員対象の研修		
(2-2) メンタルヘルス・カウンセラーの配置による教員の負担軽減		
(2-3) 特色ある授業の好事例の収集、普及		
(2-4) 文部科学省モデル事業への積極的な参加		
(2-5) 進学、就職等の進路指導の充実		
(2-6) 資格、検定試験の取得奨励		
(2-7) 成績優秀者、部活動等の表彰		
(2-8) ハローワーク・就学支援センターとの連携による求人確保、卒業生離職者の再就職支援		
(2-9) 不登校、中退防止の対策		
(2-10) 災害共済給付の加入促進による安全安心な学習環境の確保		
(2-11) その他		

【③経済的支援】

項目	特に重要と 考えられる 内容	コメント等
(3-1) 就学支援金、奨学給付金制度のより一層の充実		
(3-2) 授業料減免措置（各都道府県）		
(3-3) 経常費助成制度		
(3-4) その他		

お伺いしたい内容は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

以上

(*)「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」

＜学校の概要、目標及び計画、各学科等の教育、生徒指導・生活指導、キャリア教育等、様々な教育活動、教職員、入学者選抜、生徒納付金・就学支援、学校の財務、学校評価、その他＞

出典：文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/20220613-mxt_ope01-1.pdf

【参考】高等専修学校が果たしている社会的役割等に対する認知度に関するアンケート調査
(2023年12月～2024年1月実施)

※高等専修学校に今後期待する取り組み（中学校教員向け）の調査結果の一部抜粋になります。
詳細は別資料をご参考ください。

